

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書(16)

—畑地帯総合整備事業(担い手育成型)手久津久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

# 崩り遺跡Ⅰ

第1分冊 縄文遺構編

2018年1月

喜界町教育委員会

喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（16）

－畑地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

# 崩り遺跡Ⅰ

第1分冊 縄文遺構編

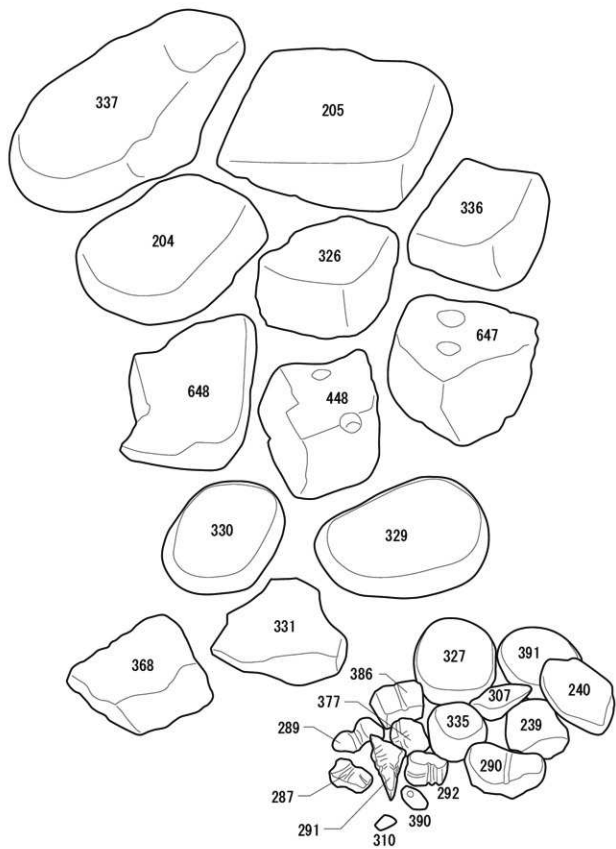
2018年1月

喜界町教育委員会









## 序 文

この報告書は、畑地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴い、平成 23～24 年度に実施した崩り遺跡の埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。

本遺跡では、縄文時代の住居跡や中世の土坑墓、製鉄関連遺構など数々の重要な発見がありました。特に製鉄関連遺構は、南西諸島では初めての発見であり、喜界島のみならず奄美や沖縄の歴史を考えるうえで重要な遺構であることから、多くの関係者の御理解のもと現地保存する運びとなりました。また、縄文時代の住居跡から見つかった数多くの石器や土器などは、当時の島と島、人と人とのつながりを示すものであり、喜界島が古くから人々の交流が盛んであった島であることがわかってきました。これら、これまで行われてきた発掘調査と合わせ、喜界島の歴史の変遷を明らかにする貴重な成果になると考えられます。今回の発掘調査報告書によって、多くの方が崩り遺跡について御理解いただくと共に、今後とも広く文化財の保護に御理解と御協力をいただくことができましたら幸いです。

最後に、発掘調査や整理作業に従事していただいた町民の皆様をはじめ、発掘調査から報告書作成にいたるまで御指導・御協力いただきました鹿児島県教育庁文化財課、県立埋蔵文化財センター、御指導並びに玉稿を賜りました先生方、調査に御配慮くださいました大島支庁喜界事務所農村整備係、その他関係機関の方々に対し、深く感謝の意を表すとともにお礼申し上げます。

平成 30 年 1 月

喜界町教育委員会

教育長 積山 泰夫

## 例 言

- 1 本報告書は、畑地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴う崩り遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成23年度～24年度に喜界町教育委員会が鹿児島県農政農地整備課（大島支庁喜界事務所農村整備係）の受託事業として、鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・支援のもと実施した。
- 3 整理作業及び報告書作成は、喜界町教育委員会が平成27～29年度事業として鹿児島県教育庁文化財課・鹿児島県立埋蔵文化財センターの指導・支援のもと実施した。
- 4 本書に用いたレベル数値は絶対海拔高による。
- 5 遺構・遺物の縮尺はそれぞれの挿図内に提示してある。遺構は40分の1もしくは80分の1、遺物は3分の1を基本とするが、一部100分の1・250分の1等で示しているものもある。
- 6 遺物番号は全て通し番号とし、本文及び挿図、図版番号とも一致する。
- 7 本報告書の遺構番号（掘立柱建物跡・土坑・溝など）は、報告書をまとめる為に付与した通し番号である。ただし、出土遺物の注記及び記録写真等は発掘調査中に付与した遺構番号（以下、旧名称）で行っている為、本報告書の遺構番号と旧名称の対応を第1表遺構名対応表にまとめることとする。
- 8 貿易陶磁器については、アジア水中考古学研究所理事田中克子氏の指導のもと分類を行った。また、次の論文等を参考にした。『大宰府条坊跡XV』（太宰府市教育委員会2000）、「神縄における貿易陶磁研究」（瀬戸ほか2007）、「14～16世紀の白磁の形式分類と編年」（森田1982）、「13～14世紀の琉球と福建」（木下編2009）。
- 9 石器の石材同定の一部は、山口大学教授今岡照喜氏のご教授による。また、貝の同定の一部は、千葉県立中央博物館黒住耐二氏のご教授による。
- 10 遺物の実測・トレースは、整理作業員の協力のもと松原信之・野崎拓司・安武憲史が行った。遺物写真撮影は、（公財）鹿児島県文化振興財団埋蔵文化財調査センター吉岡康弘氏、鹿児島県立埋蔵文化財センター今村結記氏及び松原が行った。
- 11 第IV章自然科学分析については、愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長村上恭通氏、早稲田大学講師種泉岳二氏、国立歴史民俗博物館特任助教渋谷綾子氏、奈良文化財研究所保存修復科学研究室研究員田村朋美氏、鹿児島大学国際島嶼教育研究センター教授高宮広士氏に玉稿いただいた。  
また、炭化物の年代測定及び樹種同定は（株）パレオ・ラボ、（株）加速器分析研究所、バリノ・サーヴェイ（株）に、琥珀のFT-IR（赤外分光）分析は（公財）元興寺に委託した。
- 12 発掘調査・整理作業（当時）にあたっては、次の方々にご指導・御助言をいただいた。記して感謝申し上げます。  
東京大学総合研究博物館特別研究員菅原隆史氏、千葉県立博物館黒住耐二氏、早稲田大学非常勤講師種泉岳二氏、京都国立博物館名誉館員久保康康氏、奈良大学教授坂井秀弥氏、奈良文化財研究所保存修復科学研究室研究員田村朋美氏、愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長村上恭通氏、山口大学教授今岡照喜氏、西南学院大学准教授伊藤慎二氏、熊本大学教授木下尚子氏、鹿児島大学名誉教授西中川融氏、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター助教新里貴之氏、鹿児島女子短期大学教授竹中正巳氏、ラ・サール高校教諭永山修一氏、奄美市立奄美博物館館長中山清美氏、琉球大学教授池田榮史氏、沖縄県教育庁文化財課主任専門員山本正昭氏
- 13 本書の編集は松原が担当した。また、主な執筆分担は以下のとおりである。なお、第III章4節(9)製鉄関連遺構については村上恭通氏のご厚意による。  
第I章、第III章第1・2節・第4節(1)～(8)・(9)包含層、第V章、第VI章第1・3節……………松原信之  
第II章……………安武憲史  
第III章4節(9)掘立柱建物跡～焼土跡・ビット、第VI章第2節……………野崎拓司  
第III章4節(9)製鉄関連遺構……………愛媛大学東アジア古代鉄文化研究センター長 村上恭通氏
- 14 出土した遺物は喜界町埋蔵文化財センターで保管し、展示・活用する計画である。



第1図 崩り遺跡位置図

第1表 遺構名対応表

報告書名	旧名称	区	報告書名	旧名称	区	報告書名	旧名称	区
SH01	SH10	J-2	SK01	SH20	L-3	SD01	SD17	P-Q-18
SH02	SH5	J-3	SK02	SH23	K-L-3	SD02	SD18	O-16
SH03	SH7	J-2・3	SK03	SH31	K-3	SD03	SD15	O-P-16
SH04	SH4	K-2	SK04	SH39	L-2	SD04	SD13	O-14
SH05	SH28・29	K-2	SK05	SH18	K-L-2	SD05	SD14	O-15
SH06	SH24	K-3	SK06	SH36	K-2	SD06	SD12	M-12
SH07	SH25	K-3	SK07	SH35	K-3・4	SD07	SD19	M-13
SH08	SH22	L-3	SK08	SH30	K-1	SD08	SD20	M-13
SH09	SH21	L-3	SK09	SH19	L-3	SD09	SD21	M-13
SH10	SH27	J-1・2	SK10	SK32	P-18	SD10	SD22	M-13
SH11	SH8	J-2	SK11	SK2	P-12	SD11	SD23	M-13
SH12	SH9	J・K-2	SK12	SK38	O-13	SD12	SD24	M-13
SH13	SH11	K-2	SK13	SK30	Q-13	SD13	SD25	N-13
SH14	SH12	K-2	SK14	SK34	P-17	SD14	SD26	N-12
SH15	SH34	L-1	SK15	SK33	O-15	SD15	SD27	N-12
SH16	SH40/41	K-L-2	SK16	SK35	N-12	SD16	SD3	M・N-13・14
SH17	SH15	K-2	SK17	SK17	Q-18	SD17	SD2	P-7
SH18	SH16	K-2	SK18	SK18	Q-18	敵18	SD5	O-13
SH19	SH42	L-2	SK19	SK19	Q-18	敵19-1	SD6	O-13
SH20	SH14	L-2	SK20	SK20	P-18	敵19-2	SD7	O-13
SH21	SH13	L-2	SK21	SK21	Q-18			
SH22	SH17	K-1	SK22	SK22	Q-18	焼土跡01	焼35	K-3
SH23	SH37/38	K-L-1	SK23	SK23	P-18	焼土跡02	焼36	K-3
SH24	SH32	L-2	SK24	SK24	P-18	焼土跡03	焼55	S-20
SH25	SH33	L-2	SK25	SK27	P-18	焼土跡04	焼52	V-31
SH26	SH43	K-L-1	SK26	SK31	P-14	焼土跡05	焼53	V-31
SH27	SH26	K-2	SK27	SK51	V-26	焼土跡06	焼30	M-11
			SK28	SK39	K-2	焼土跡07	焼50	Q-20
			SK29	SK40	L-3	焼土跡08	焼56	U-30
			SK30	SK37	M-13	焼土跡09	焼07	M-13
			SK31	SK41	K-3			
			SK32	SK06	P-8			

# 全体目次

## 第1分冊

巻頭カラー  
序文  
例言  
遺跡位置図

### 第I章 調査の経過

第1節 発掘調査に至るまでの経緯……………	1
第2節 調査の組織……………	1
第3節 崩り遺跡調査の経過……………	5

### 第II章 遺跡の立地と環境

第1節 地理的環境……………	7
第2節 歴史的環境……………	7

### 第III章 調査の方法と成果

第1節 調査の概要……………	11
第2節 発見された縄文時代の遺構・遺物……………	19
(1) 縄文時代の石器の分類……………	19
(2) 縄文時代の土器の分類……………	22
(3) 竪穴状遺構 (SH) ……	24
(4) 土坑 (SK) ……	52
(5) 溝状遺構 (SD) ……	66
(6) 縄文時代の遺構からの出土遺物……………	69
第3節 縄文時代の自然科学分析……………	
(1) 崩り遺跡から出土した石器の残存デン ブレン分析……………	151
(2) 崩り遺跡出土遺物の科学分析……………	157
(3) 崩り遺跡出土炭化物の放射性炭素年代 測定 (AMS 法) 及び樹種同定……………	161

## 第2分冊

第4節 発見された中世の遺構・遺物……………	1
(1) 掘立柱建物跡 (SB) ……	6
(2) 土坑墓……………	36
(3) 土坑 (SK) ……	38
(4) 焼土跡……………	42
(5) 溝状遺構 (SD) ……	44
(6) 畝状遺構……………	45
(7) 石列……………	47
(8) 製鉄関連遺構……………	48

(9) 遺構内・包含層出土遺物……………	50
----------------------	----

### 第IV章 自然科学分析

第1節 崩り遺跡の製鉄関連遺物について……………	83
第2節 崩り遺跡出土ガラス玉の調査……………	86
第3節 崩り遺跡の平成23～24年度調査で採取 された脊椎動物遺体出土の動物遺体……………	87
第4節 崩り遺跡出土の植物遺体分析……………	122
第5節 崩り遺跡出土炭化物の放射性炭素年代 測定 (AMS 法) 及び樹種同定……………	
(1) 土坑墓1号……………	133
(2) 焼土跡05号、 掘立柱建物跡6号P16 (P606) ……	137
(3) フローテーション出土炭化物の放射性 炭素年代測定……………	141

### 第V章 基礎資料

ビット内出土遺物一覧……………	147
包含層出土遺物一覧……………	152
1/200 詳細遺構配置図……………	153

### 第VI章 まとめ……………

第1節 縄文時代の遺構・遺物……………	163
第2節 中世の遺構・遺物……………	175
第3節 総括……………	181
写真図版……………	185
報告書抄録……………	221

## 挿図目次

第1図	崩り遺跡位置図		第46図	SK15 実測図	64
第2図	平成21年度確認調査位置図	6	第47図	SK16 実測図	65
第3図	南西諸島の諸島・群島・列島の名称と範囲	7	第48図	SD01 実測図	66
第4図	主な島内遺跡位置図	9	第49図	SD02・SD03 実測図	67
第5図	基本崩位略図	11	第50図	SD04 実測図	67
第6図	土層断面図	12	第51図	SD05 実測図	67
第7図	崩り遺跡調査区略図	13	第52図	SD06 実測図	68
第8図	崩り遺跡範囲	14	第53図	SD07～SD15 実測図	68
第9図	崩り遺跡調査区全体図	15	第54図	SH01 出土遺物 (1)	79
第10図	崩り遺跡北側詳細図	16	第55図	SH01 出土遺物 (2)	80
第11図	崩り遺跡中央部詳細図	17	第56図	SH02 出土遺物	80
第12図	崩り遺跡南側詳細図	18	第57図	SH03 出土遺物 (1)	80
第13図	崩り遺跡南側遺構詳細図	19	第58図	SH03 出土遺物 (2)	81
第14図	崩り遺跡中央部遺構詳細図	20	第59図	SH04 出土遺物 (1)	82
第15図	SH01 実測図	25	第60図	SH04 出土遺物 (2)	83
第16図	SH02 実測図	26	第61図	SH05 出土遺物 (1)	83
第17図	SH03 実測図	27	第62図	SH05 出土遺物 (2)	84
第18図	SH04 実測図	28	第63図	SH05 出土遺物 (3)	85
第19図	SH05 実測図	30	第64図	SH05 出土遺物 (4)	86
第20図	SH06・SH07 実測図	31	第65図	SH05 出土遺物 (5)	87
第21図	SH08・SH09 実測図	33	第66図	SH05 出土遺物 (6)	88
第22図	SH10 実測図	34	第67図	SH05 出土遺物 (7)	89
第23図	SH11・SH12 実測図	35	第68図	SH05 出土遺物 (8)	90
第24図	SH13 実測図	37	第69図	SH06 出土遺物	90
第25図	SH14 実測図	38	第70図	SH07 出土遺物	91
第26図	SH15 実測図	40	第71図	SH06・SH07 出土遺物	91
第27図	SH16～SH21 実測図	41	第72図	SH08 出土遺物	92
第28図	SH22・SH23 実測図	46	第73図	SH08・SH09 出土遺物	92
第29図	SH24・SH25 実測図	48	第74図	SH10 出土遺物 (1)	92
第30図	SH26 実測図	50	第75図	SH10 出土遺物 (2)	93
第31図	SH27 実測図	51	第76図	SH11 出土遺物 (1)	93
第32図	SK01 実測図	52	第77図	SH11 出土遺物 (2)	94
第33図	SK02 実測図	53	第78図	SH12 出土遺物 (1)	95
第34図	SK03 実測図	54	第79図	SH12 出土遺物 (2)	96
第35図	SK04 実測図	54	第80図	SH12 出土遺物 (3)	97
第36図	SK05 実測図	55	第81図	SH12 出土遺物 (4)	98
第37図	SK06 実測図	56	第82図	SH13 出土遺物 (1)	98
第38図	SK07 実測図	58	第83図	SH13 出土遺物 (2)	99
第39図	SK08 実測図	59	第84図	SH13 出土遺物 (3)	100
第40図	SK09 実測図	59	第85図	SH13 出土遺物 (4)	101
第41図	SK10 実測図	60	第86図	SH13 出土遺物 (5)	102
第42図	SK11 実測図	61	第87図	SH14 出土遺物 (1)	103
第43図	SK12 実測図	62	第88図	SH14 出土遺物 (2)	104
第44図	SK13 実測図	63	第89図	SH15 出土遺物 (1)	104
第45図	SK14 実測図	63	第90図	SH15 出土遺物 (2)	105
			第91図	SH16 出土遺物	106
			第92図	SH17 出土遺物 (1)	107

第93図	SH17 出土遺物 (2)	108
第94図	SH18 出土遺物 (1)	109
第95図	SH18 出土遺物 (2)	110
第96図	SH18 出土遺物 (3)	111
第97図	SH19 出土遺物 (1)	112
第98図	SH19 出土遺物 (2)	113
第99図	SE20 出土遺物 (1)	114
第100図	SE20 出土遺物 (2)	115
第101図	SE20 出土遺物 (3)	116
第102図	SE21 出土遺物 (1)	117
第103図	SE21 出土遺物 (2)	118
第104図	SH16~SE21 出土遺物	119
第105図	SE22 出土遺物	120
第106図	SE23 出土遺物 (1)	121
第107図	SE23 出土遺物 (2)	122
第108図	SE23 出土遺物 (3)	123
第109図	SE22・SE23 出土遺物	124
第110図	SE24 出土遺物	124
第111図	SE25 出土遺物 (1)	125
第112図	SE25 出土遺物 (2)	126
第113図	SE26 出土遺物	127
第114図	SE27 出土遺物	127
第115図	SH一括出土遺物	127
第116図	SK01 出土遺物	131
第117図	SK02 出土遺物	131
第118図	SK03 出土遺物 (1)	132
第119図	SK03 出土遺物 (2)	133
第120図	SK04 出土遺物	134
第121図	SK05 出土遺物	134
第122図	SK06 出土遺物 (1)	135
第123図	SK06 出土遺物 (2)	136
第124図	SK06 出土遺物 (3)	137
第125図	SK07 出土遺物 (1)	137
第126図	SK07 出土遺物 (2)	138
第127図	SK09 出土遺物	138
第128図	SK10 出土遺物	138
第129図	SK11 出土遺物	139
第130図	SK12 出土遺物	139
第131図	SK13 出土遺物	139
第132図	SK14 出土遺物	139
第133図	SK16 出土遺物	140
第134図	SD01 出土遺物	140
第135図	SD06 出土遺物	140
第136図	分析した崩り遺跡の石器と検出された残存 デンブン粒 (1)	155
第137図	分析した崩り遺跡の石器と検出された残存 デンブン粒 (2)	156

第138図	琥珀分析資料	157
第139図	分析対象遺物の赤外線吸収スペクトル	158
第140図	標準琥珀と分析対象遺物の赤外線吸収 スペクトル	159
第141図	喜界町出土遺物の赤外線吸収スペクトル	159
第142図	分析対象遺物の熱分析	159
第143図	標準琥珀の熱分析	159
第144図	標準琥珀と分析対象遺物の熱分析	160
第145図	喜界町内遺跡出土遺物の熱分析	160
第146図	暦年校正結果	163
第147図	崩り遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真	165

## 目次

第1表	遺構名対応表	8
第2表	主な島内遺跡地名表	13
第3表	土層説明	13
第4表	崩り遺跡出土の石器の石材一覧	21
第5表	土器分類表 (1)	22
第6表	土器分類表 (2)	23
第7表	竪穴状遺構 (SH) 一覧	24
第8表	SH01 出土土器集計表	25
第9表	SH01 出土石器・骨製品集計表	25
第10表	SH02 出土土器集計表	26
第11表	SH02 出土石器・骨製品集計表	26
第12表	SH03 出土土器集計表	27
第13表	SH03 出土石器・骨製品集計表	27
第14表	SH04 出土土器集計表	28
第15表	SH04 出土石器・骨製品集計表	28
第16表	SH05 出土土器集計表	30
第17表	SH05 出土石器・骨製品集計表	30
第18表	SH06 出土土器集計表	31
第19表	SH06 出土石器・骨製品集計表	31
第20表	SH07 出土土器集計表	32
第21表	SH07 出土石器・骨製品集計表	32
第22表	SH08 出土土器集計表	32
第23表	SH08 出土石器・骨製品集計表	32
第24表	SH09 出土土器集計表	32
第25表	SH09 出土石器・骨製品集計表	32
第26表	SH10 出土土器集計表	34
第27表	SH10 出土石器・骨製品集計表	34
第28表	SH11 出土土器集計表	36
第29表	SH11 出土石器・骨製品集計表	36
第30表	SH12 出土土器集計表	36
第31表	SH12 出土石器・骨製品集計表	36



第32表	SH13 出土石器集計表	37	第79表	SK08 出土石器・骨製品集計表	59
第33表	SH13 出土石器・骨製品集計表	37	第80表	SK09 出土石器集計表	59
第34表	SH14 出土石器集計表	38	第81表	SK09 出土石器・骨製品集計表	59
第35表	SH14 出土石器・骨製品集計表	38	第82表	SK10 出土石器集計表	60
第36表	SH15 出土石器集計表	40	第83表	SK10 出土石器・骨製品集計表	60
第37表	SH15 出土石器・骨製品集計表	40	第84表	SK11 出土石器集計表	61
第38表	SH16 出土石器集計表	43	第85表	SK11 出土石器・骨製品集計表	61
第39表	SH16 出土石器・骨製品集計表	43	第86表	SK12 出土石器集計表	62
第40表	SH17 出土石器集計表	43	第87表	SK12 出土石器・骨製品集計表	62
第41表	SH17 出土石器・骨製品集計表	43	第88表	SK13 出土石器集計表	63
第42表	SH18 出土石器集計表	43	第89表	SK13 出土石器・骨製品集計表	63
第43表	SH18 出土石器・骨製品集計表	43	第90表	SK14 出土石器集計表	63
第44表	SH19 出土石器集計表	44	第91表	SK14 出土石器・骨製品集計表	63
第45表	SH19 出土石器・骨製品集計表	44	第92表	SK15 出土石器集計表	64
第46表	SH20 出土石器集計表	44	第93表	SK15 出土石器・骨製品集計表	64
第47表	SH20 出土石器・骨製品集計表	44	第94表	SK16 出土石器集計表	65
第48表	SH21 出土石器集計表	44	第95表	SK16 出土石器・骨製品集計表	65
第49表	SH21 出土石器・骨製品集計表	44	第96表	溝状遺構 (SD) 一覽	67
第50表	SH22 出土石器集計表	47	第97表	崩り遺跡出土遺物観察表 (1)	141
第51表	SH22 出土石器・骨製品集計表	47	第98表	崩り遺跡出土遺物観察表 (2)	142
第52表	SH23 出土石器集計表	47	第99表	崩り遺跡出土遺物観察表 (3)	143
第53表	SH23 出土石器・骨製品集計表	47	第100表	崩り遺跡出土遺物観察表 (4)	144
第54表	SH24 出土石器集計表	49	第101表	崩り遺跡出土遺物観察表 (5)	145
第55表	SH24 出土石器・骨製品集計表	49	第102表	崩り遺跡出土遺物観察表 (6)	146
第56表	SH25 出土石器集計表	49	第103表	崩り遺跡出土遺物観察表 (7)	147
第57表	SH25 出土石器・骨製品集計表	49	第104表	崩り遺跡出土遺物観察表 (8)	148
第58表	SH26 出土石器集計表	50	第105表	崩り遺跡出土遺物観察表 (9)	149
第59表	SH26 出土石器・骨製品集計表	50	第106表	崩り遺跡出土遺物観察表 (10)	150
第60表	SH27 出土石器集計表	51	第107表	石器の分析資料と残存デンプン粒の 出土個数	153
第61表	SH27 出土石器・骨製品集計表	51	第108表	石器から検出した残存デンプン粒	154
第62表	土坑 (SK) 一覽	52	第109表	放射性炭素年代測定資料及び処理	161
第63表	SK01 出土石器集計表	53	第110表	放射性炭素年代測定および暦年校正の結果	162
第64表	SK01 出土石器・骨製品集計表	53	第111表	出土炭化材の樹種同定結果一覽	164
第65表	SK02 出土石器集計表	53			
第66表	SK02 出土石器・骨製品集計表	53			
第67表	SK03 出土石器集計表	54			
第68表	SK03 出土石器・骨製品集計表	54			
第69表	SK04 出土石器集計表	54			
第70表	SK04 出土石器・骨製品集計表	54			
第71表	SK05 出土石器集計表	55			
第72表	SK05 出土石器・骨製品集計表	55			
第73表	SK06 出土石器集計表	56			
第74表	SK06 出土石器・骨製品集計表	56			
第75表	SK07 出土石器集計表	58			
第76表	SK07 出土石器・骨製品集計表	58			
第77表	SK07 出土具集計表	58			
第78表	SK08 出土石器集計表	59			

## 第I章 調査の経過

### 第1節 調査に至るまでの経緯

鹿児島県農政部農地整備課（大島支庁喜界事務所農村整備係、以下県農政部）は、大島郡喜界町手久津久地内において、畑地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区を計画し、事業区域内の埋蔵文化財の有無について、喜界町教育委員会（以下、町教育委員会）に照会した。

これを受けて、鹿児島県立埋蔵文化財センター（以下、県埋蔵文化財センター）と町教育委員会が平成19・21年度に分布調査を実施したところ、事業区域内に5つの遺物散布地（崩り遺跡・中増遺跡・川尻遺跡・川寺遺跡・水洗遺跡<sup>※1</sup>）が確認された。

この分布調査の結果をもとに、県農政部、鹿児島県教育庁文化財課（以下、県文化財課）、町教育委員会は、埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るために協議を行った結果、事業着手前に埋蔵文化財確認調査（以下、確認調査）を実施することとなった。崩り遺跡の確認調査は、町教育委員会が調査主体となり、平成21年6月～11月に実施した（第2図）。調査の結果、約13,806㎡の範囲で古代・中世の時期のものと考えられる遺構・遺物を確認した。

この結果をもとに、再度県農政部、県文化財課、町教育委員会は、埋蔵文化財の保護と事業の調整を図るために協議を行い、記録保存を目的とした本調査を実施することとなった。

本調査は、町教育委員会が調査主体となり、県埋蔵文化財センターの支援を受け平成23～24年度にかけて実施した。この調査を進める中で、南西諸島では初見となる重要な製鉄関連遺構が見つかり、この遺構の取り扱いについて保存と開発との調整を図る必要が生じた。平成24年10月に町教育委員会と県農政部、県文化財課は遺構の保存について検討した結果、遺構の広がる879㎡の範囲を非農用地に変更し、町保有地として保存することとなった。

### 第2節 調査の組織

#### 平成21年度 確認調査

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課 (大島支庁喜界事務所農村整備係)
調査等主体者	喜界町教育委員会
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者	喜界町教育委員会 教育長 晴水 清道
調査等企画者	喜界町教育委員会生涯学習課長 益 一幸 " 課長補佐 岩松 利和
調査等担当者	喜界町教育委員会生涯学習課 埋蔵文化財係長 澄田 直敏 喜界町教育委員会生涯学習課主事 野崎 拓司 " 埋蔵文化財調査員 後藤 法宣
事務担当者	喜界町教育委員会生涯学習課主査 竹内 功 調査等指導者 鹿児島大学農学部名誉教授 西中川 駿 鹿児島県教育庁文化財課 文化財主事 川口 雅之

#### 平成23年度 本調査

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課 (大島支庁喜界事務所農村整備係)
調査等主体者	喜界町教育委員会
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者	喜界町教育委員会 教育長 晴水 清道
調査等企画者	喜界町教育委員会生涯学習課長 吉本 実 " 課長補佐 岩松 利和
調査等担当者	喜界町教育委員会生涯学習課 埋蔵文化財係長 澄田 直敏 喜界町教育委員会生涯学習課主事 野崎 拓司 " 埋蔵文化財調査員 宮城 良真 " 埋蔵文化財調査員 亀島 慎吾
事務担当者	喜界町教育委員会生涯学習課主査 竹内 功

※1：水洗遺跡は、川寺遺跡に隣接している中世の時期と考える遺跡であったが、平成23年度に範囲・名称変更を行い、川寺遺跡の一部として扱えることとなった。

## 調査指導者

熊本大学教授	木下 尚子
鹿児島女子短期大学教授	竹中 正巳
奄美市立奄美博物館館長	中山 清美
琉球大学教授	池田 榮史
鹿児島県教育庁文化財課 文化財主事	中村 和美
鹿児島県立埋蔵文化財センター 第一調査課長	堂込 秀人
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事	長野 真一
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財研究員	岩永 勇亮

## 鹿児島県立埋蔵文化財センター

第二調査課長	富田 逸郎
鹿児島県立埋蔵文化財センター 第一調査係長	東 和幸
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事	中村 幸一郎
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財主事	有馬 孝一
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財研究員	川口 雅之
鹿児島県立埋蔵文化財センター 文化財研究員	岩永 勇亮

## 平成24年度 本調査

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課 (大島支庁喜界事務所農村整備係)
調査等主体者	喜界町教育委員会
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者	喜界町教育委員会 教育長 晴永 清道
調査等企画者	喜界町教育委員会生涯学習課長 吉本 実 " 課長補佐 岩松 利和
調査等担当者	喜界町教育委員会生涯学習課 埋蔵文化財係長 澄田 直敏 喜界町教育委員会生涯学習課主事 野崎 拓司 " 松原 信之
事務担当者	喜界町教育委員会生涯学習課主査 竹内 功
調査等指導者	東京大学総合研究博物館研究部 放射性炭素年代測定室特別研究員 覚張 隆史 奈良大学教授 坂井 秀弥 早稲田大学非常勤講師 桶泉 岳二 愛媛大学東アジア古代鉄文化 研究センター長 村上 恭通 琉球大学教授 池田 榮史 鹿児島県教育庁文化財課 文化財主事 馬籠 亮道 鹿児島県立埋蔵文化財センター 所長 寺田 仁志 鹿児島県立埋蔵文化財センター 第一調査課長 堂込 秀人

## 平成25年度 整理作業

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課 (大島支庁喜界事務所農村整備係)
調査等主体者	喜界町教育委員会
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者	喜界町教育委員会 教育長 (~1月5日) 晴永 清道 喜界町教育委員会 教育長 (1月6日~) 樋山 泰夫
調査等企画者	喜界町教育委員会生涯学習課長 吉本 実 " 課長補佐 岩松 利和
調査等担当者	喜界町教育委員会生涯学習課 主幹兼埋蔵文化財係長 澄田 直敏 喜界町教育委員会生涯学習課主事 野崎 拓司 " 生涯学習課主事 松原 信之 " 生涯学習課主事 早田 晴樹 " 埋蔵文化財調査員 岩元さつき " 埋蔵文化財調査員 安武 憲史 " 埋蔵文化財調査員 安栖 祐樹 " 埋蔵文化財調査員 樋山 幸平 " 埋蔵文化財調査員 照屋 真澄
事務担当者	喜界町教育委員会生涯学習課 主幹兼埋蔵文化財係長 澄田 直敏
調査等指導者	札幌大学教授 高宮 広土 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構理事 石上 英一 早稲田大学非常勤講師 桶泉 岳二

(独法)国立文化財機構奈良文化財研究所	
都城発掘調査部考古第一研究室長	小池 伸彦
愛媛大学東アジア古代文化	
研究センター長	村上 恭通
西南学院大学教授	高倉 洋彰
熊本大学教授	甲元 眞之
ラ・サール高校教諭	永山 修一
沖縄県教育庁文化財課	
主任専門員	山本 正昭
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
所長	井ノ上秀文
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
第一調査課長	堂込 秀人
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
第一調査係長	東 和幸
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
第二調査係長	大久保浩二
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
文化財研究員	今村 結記

#### 平成26年度 整理作業

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課 (大島支庁喜界事務所農村整備係)
調査等主体者	喜界町教育委員会
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者	
喜界町教育委員会 教育長	積山 泰夫
調査等企画者	
喜界町教育委員会生涯学習課長	岩松 利和
" 課長補佐	中山 佳也
調査等担当者	
喜界町埋蔵文化財センター	
主幹兼埋蔵文化財係長	澄田 直敏
喜界町埋蔵文化財センター主事	野崎 拓司
" 主事	松原 信之
" 主事	早田 晴樹
" 埋蔵文化財調査員	岩元さつき
" 埋蔵文化財調査員	安武 憲史
" 埋蔵文化財調査員	安栖 祐樹
" 埋蔵文化財調査員	黒屋 真澄
事務担当者	
喜界町埋蔵文化財センター	
主幹兼埋蔵文化財係長	澄田 直敏
調査等指導者	
早稲田大学非常勤講師	樋泉 岳二

愛媛大学東アジア古代文化	
研究センター長	村上 恭通
アジア水中考古学研究所	
理事	田中 克子
熊本大学名誉教授	甲本 眞之
鹿児島県教育庁文化財課	
文化財主事	馬龍 亮道
鹿児島県教育庁文化財課	
文化財主事	黒川 忠広
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
第一調査係長	大久保浩二
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
文化財研究員	今村 結記

#### 平成27年度 整理作業

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課 (大島支庁喜界事務所農村整備係)
調査等主体者	喜界町教育委員会
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者	
喜界町教育委員会 教育長	積山 泰夫
調査等企画者	
喜界町教育委員会生涯学習課長	岩松 利和
" 課長補佐	中山 佳也
調査等担当者	
喜界町埋蔵文化財センター	
主幹兼埋蔵文化財係長	澄田 直敏
喜界町埋蔵文化財センター主査	野崎 拓司
" 主事	松原 信之
" 主事	早田 晴樹
" 主事	岩元さつき
" 埋蔵文化財調査員	安武 憲史
" 埋蔵文化財調査員	島崎 達也
" 埋蔵文化財調査員	横手伸太郎
" 埋蔵文化財調査員	奥平 大貴
事務担当者	
喜界町埋蔵文化財センター	
主幹兼埋蔵文化財係長	澄田 直敏
喜界町埋蔵文化財センター主事	松原 信之
調査等指導者	
京都国立博物館名誉館員	久保 智康
元興寺文化財研究所	植田 直見
奈良文化財研究所	
保存修復科学研究室 研究員	田村 朋美
西南学院大学准教授	伊藤 慎二
ラ・サール高校教諭	永山 修一

鹿児島大学埋蔵文化財調査センター	
助教	新里 貴之
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
第一調査係長	大久保浩二
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
文化財研究員	今村 結記
鹿児島県立埋蔵文化財センター	
文化財研究員	眞邊 彩
(公財) 鹿児島県文化振興財団	
埋蔵文化財調査センター	
文化財専門員	岩水 勇亮
沖縄県立埋蔵文化財センター	
主任専門員	山本 正昭
沖縄県立埋蔵文化財センター	
専門員	亀島 慎吾
伊仙町教育委員会 学芸員	新里 亮人
天城町教育委員会社会教育課主事	具志堅 亮

#### 平成 28 年度 整理作業

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課 (大島支庁喜界事務所農村整備係)
調査等主体者	喜界町教育委員会
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者	喜界町教育委員会 教育長 積山 泰夫
調査等企画者	喜界町教育委員会生涯学習課長 岩松 利和 # 課長補佐 中山 佳也
調査等担当者	喜界町埋蔵文化財センター
主幹兼埋蔵文化財係長	澄田 直敏
喜界町埋蔵文化財センター主査	野崎 拓司
# 主事	松原 信之
# 主事	早田 晴樹
# 主事	岩元さつき
# 主事	安武 憲史
# 埋蔵文化財調査員	島崎 達也
# 埋蔵文化財調査員	島袋 未樹
# 埋蔵文化財調査員	安栖 祐樹

#### 事務担当者

喜界町埋蔵文化財センター	
主幹兼埋蔵文化財係長	澄田 直敏
喜界町埋蔵文化財センター主事	松原 信之
調査等指導者	琉球大学教授 池田 榮史

鹿児島県立埋蔵文化財センター	
主事	今村 結記
(公財) 鹿児島県文化振興財団	
埋蔵文化財調査センター	
文化財専門員	岩水 勇亮
沖縄県立埋蔵文化財センター	
専門員	亀島 慎吾
瀬戸内町教育委員会	
瀬戸内町立図書館・郷土館学芸員	冊 丈太郎
天城町教育委員会社会教育課主事	具志堅 亮

#### 平成 29 年度 整理作業・報告書発行

事業主体者	鹿児島県農政部農地整備課 (大島支庁喜界事務所農村整備係)
調査等主体者	喜界町教育委員会
企画・調整	喜界町教育委員会生涯学習課
調査等責任者	喜界町教育委員会 教育長 積山 泰夫
調査等企画者	喜界町教育委員会生涯学習課長 岩松 利和 # 課長補佐 中山 佳也
調査等担当者	喜界町埋蔵文化財センター
埋蔵文化財係長	壽 満夫
喜界町埋蔵文化財センター主査	野崎 拓司
# 主事	松原 信之
# 主事	岩元さつき
# 主事	安武 憲史
# 埋蔵文化財調査員	島袋 未樹
# 埋蔵文化財調査員	安栖 祐樹
事務担当者	喜界町埋蔵文化財センター
埋蔵文化財係長	壽 満夫
喜界町埋蔵文化財センター主事	松原 信之
調査等指導者	鹿児島県立埋蔵文化財センター
主事	今村 結記

### 第3節 崩り遺跡調査の経過

#### 1 確認調査（平成21年度）

平成21年6月～11月まで喜界町教育委員会が調査主体となつて確認調査を実施した。調査は3m×6mのトレンチを基本として実施した。その結果、複数のトレンチで中世と考えられる遺構・遺物を確認し、遺構・遺物の出土状況から約13,806㎡の範囲に遺跡が残存していると判断した。

#### 2 本調査（平成23～24年度）

平成21年度の確認調査の結果を受けて平成23年6月～3月、平成24年4月～3月まで本調査を実施した。

調査では、調査区内に10m×10mのグリッドを任意の角度で設定し実施した（第9図）。グリッドは東側から西側方向にアルファベットのI～Wとし、それに直行する南側から北側方向へ1～31と設定した。発掘調査は、確認調査で得られた資料をもとに、遺構検出面直上まで（一部の遺物包含層が残る部分はその直上まで）重機により除去し、その後、作業員を投入して遺物及び遺構の検出作業を行った。

以下、調査の経過については日誌抄写にて記載する。

#### 平成23年度

- 6月23日 調査開始。機材運搬・伐採などの環境整備を行う。
- 6月24～31日 重機による表土剥ぎ、グリッドの設定、杭打ちなどを行う。
- 7月～8月 下層確認トレンチで層を確認後、包含層掘り下げ、遺構検出などを行う。
- 9月～10月 土坑墓・竪穴状遺構・包含層掘り下げ、遺構の写真撮影、1/20遺構配置図作成、1/10遺構個別図面作成などを行う。
- 9月2～4日 鹿児島女子短期大学教授竹中正巳氏による発掘調査現地指導。
- 9月9～10日 鹿児島女子短期大学教授竹中正巳氏による発掘調査現地指導。
- 10月13～14日 熊本大学教授木下尚子氏による発掘調査現地指導。
- 10月29～30日 奄美市立奄美博物館館長中山清美氏による発掘調査現地指導。
- 11月～12月 竪穴状遺構等の遺構掘り下げ、遺構の写真撮影、1/20遺構配置図作成、1/10遺構個別図面作成などを引き続き行う。
- 11月12日 崩り遺跡現地説明会を行う。
- 11月16日 製鉄関連遺構検出（検出異常な、製鉄関連遺構ではなく通常の土坑と判断していた）。検出写真を撮影後、遺構と判定するために5cm程度の掘り下げ開始。

12月3・4日 琉球大学教授池田榮史氏による発掘調査現地指導。

- 1月～3月 竪穴状遺構・製鉄関連遺構等の遺構掘り下げ、遺構の写真撮影、1/20遺構配置図作成、1/10遺構個別図面作成などを引き続き行う。
- 1月13日 製鉄関連遺構の掘り下げ中、通常で少ない量の鉄滓と焼土面を検出する。遺構の取り扱いに検討が必要と判断し、掘り下げを中断する。
- 2月26日 別件で来島中であつた愛媛大学東アジア古代文化研究センター長村上恭通氏と九州テクノリサーチ・TACセンター大澤正己氏による製鉄関連遺構の実見。製鉄関連遺構であると判断。掘り下げを中止。
- 3月19日 23年度発掘調査最終日。プレハブ等機材撤収。

#### 平成24年度

- 4月3日 調査開始。機材運搬などの環境整備を行う。
- 4月6日～ 竪穴状遺構等遺構・包含層掘り下げ、1/10遺構個別図面作成などを行う。
- 5月～6月 遺構・包含層掘り下げ、遺構の写真撮影、1/20遺構配置図作成、1/10遺構個別図面・土層面図面作成などを行う。
- 5月30日～6月2日 早稲田大学非常勤講師磯泉岳二氏による発掘調査現地指導。
- 6月29・30日 奈良大学教授坂井秀弐氏による発掘調査現地指導。
- 7月～8月 遺構の掘り下げ、1/10遺構個別図面作成、写真撮影などを引き続き行う。気温35℃以上・湿度約70%の猛暑日が続く、作業員の体調管理が非常に難しい期間であつた。
- 7月8～10日 愛媛大学東アジア古代文化研究センター長村上恭通氏による発掘調査現地指導。製鉄関連遺構の取り扱いについて指導をいただく。
- 9月～12月 竪穴状遺構平面図作成、ビット掘り、包含層掘り、1/100コンター図作成などを行う。
- 9月14日 遺跡の空撮を行う。
- 10月18日 町教育委員会と県農政部、県文化振興課との協議により、製鉄関連遺構の範囲を非農用地として保存するため大島支庁宮界事務所長へ申請。
- 12月1・2日 琉球大学教授池田榮史氏による発掘調査現地指導。
- 1月～3月 ビット掘り、包含層掘り、写真撮影、1/20遺構配置図作成、1/10遺構個別図面作成などを行う。
- 3月1日 調査終了。機材撤収を行う。

### 3 整理作業・報告書発行（平成25～29年度）

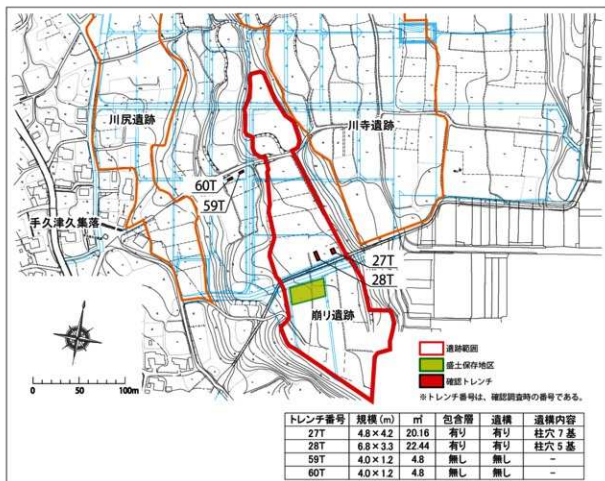
整理作業は、平成25年～29年度に炭化物などの科学分析、出土獣骨分析、土壌サンプルのフローテーション及び出土植物遺体分析、出土遺物の注記・接合・拓本、実測・図面整理・トレースなどの作業を行い、報告書を発行した。



平成23年11月12日現地説明会風景



製鉄関連遺構保存地区活用風景  
製鉄炉復元・製鉄実験操作（平成27年11月14日国民文化祭）



第2図 平成21年度確認調査位置図

## 第II章 遺跡の立地と環境

### 第1節 地理的環境

九州島の南端、薩南半島と台湾の間、1,200kmにわたり弧状に連なり点に在する島々を南西諸島と呼ぶ。

南西諸島は、北から薩南諸島（大隅諸島、吐噶喇列島、奄美群島）と琉球諸島（沖縄諸島、先島諸島）、大東諸島（北大東島（東、北）～沖大東島（西、南））の大きく3つの島嶼群に分けられる（第3図）。喜界島は薩南諸島の奄美群島の中に位置づけられる。

喜界島は、鹿児島本土から南へ380 km、沖繩本島から北へ約330 km、奄美大島から東へ25 kmの北緯28度19分、東経130度線上の太平洋と東シナ海の洋上に浮かぶ島である。1島で1町をなし、北東～南西方向を長軸に14 km、北東部から南西部に向けて次第に島幅を広げ最大幅6.5 km、周囲48.6 km、面積56.9 km<sup>2</sup>の島である。

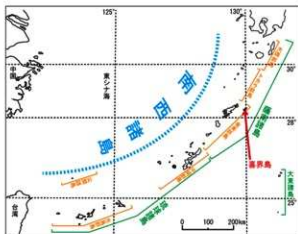
概して平坦な隆起サンゴ礁の島であり、巨視的に見て4段の海岸段丘が形成されている。島内最高所は中央東側にある百之台であり、標高は211mを測る。この百之台を中心に北西側へは緩やかに傾斜し、広い段丘地形が見られる。これに対して南東部には急峻な200mあまりの崖が切り立ち、海岸線に沿ってわずかな平坦地が見られる。

本島の基盤をなしているのは、新生代第三紀鮮新世の島尻層群で、琉球石灰岩や志戸桶層、隆起サンゴ石灰岩、砂丘が1層を形成している。石灰岩の上にはそれが風化したマージと呼ばれる暗赤褐色土壌が堆積し、島の大部分を覆っている。島の大部分が多孔質のサンゴ礁石灰岩に厚く覆われており、河川の発達は乏しく用水のほとんどは地下水や湧水に依存している。また、隣接する奄美大島にはハブが生息するが、喜界島にはハブは生息していない。奄美群島内では他に沖永良部島、与論島にも生息していないが、これらの島はいずれも隆起石灰岩に覆われている標高の低い低島である。

海岸線は概強くなっており、砂浜砂丘が場所を少なく、また、港として利用できる場所も限られている。湾・早町・志戸桶・小野津の4箇所が代表的な港として挙げられ、各港の後背地には砂丘が形成されている。砂丘上には、縄文時代から近世までの遺物が採取でき、古くから人々の生活が営まれていたことが知られることができる。

気候は亜熱帯気候で年平均気温21.9℃と、年間を通じて温暖であり、年間の降水量は1,900 mmに達する。全島にガジュマルをはじめとする亜熱帯性植物が生息し、島の基幹作物であるサトウキビ畑が広がっている。12月後半から2月にかけては冬の季節風が吹きつけ、最大風速が秒速10mを超えることがある。この時期は悪天候が続き、海上交通が途絶えやすい。

崩り遺跡は、喜界島南西部の手久津久集落付近に位置する。



第3図 南西諸島の諸島・群島・列島の名称と範囲  
(安城・割田 2009 第11図を改変)

標高約23mの海岸段丘上に立地し、周辺には、中層遺跡・川寺遺跡・川尻遺跡が広がっている。崩り遺跡から海岸までは約500mの距離がある。

### 第2節 歴史的環境

喜界島における考古学的研究は、戦前は昭和6年の重野豊吉による荒木貝塚の発見に始まり、三宅宗悦による湾貝塚・手久津久貝塚の報告がある。戦後においては、昭和30年代に九学会連合同調査委員会考古学班による分布調査が行われ、荒木農道遺跡、荒木小学校遺跡、湾天牛貝塚、伊美久巖島神社貝塚、七城などが紹介されている。

島内では一番古い遺跡は縄文時代のものであり、大多数の遺跡が古代・中世に属している。また、中世における源氏や平家につながる伝承や地名が数多く残っており、それに関する史跡もいくつかみられる。

以下、島内における主な遺跡について研究史を踏まえながら述べることにする。

#### 1. 縄文時代

島内における縄文時代早期～前期の遺跡としては、総合グラウンド遺跡と赤連遺跡がある。総合グラウンド遺跡では3層の貝層が確認されており、土器や石器が出土している。土器は口縁部に刻目があり、両端の尖った施文具による連続的突文と4～6条の横条線が交互に施された砲弾型の器形をなす大型の深鉢や、4条程度を1単位として押し引き条線が施される砲弾型の小型のものがある。大型土器に付着していた煤を放射性炭素年代測定にかけたところ、約7,000年前の数値が出ている。また、県立喜界高等学校校庭拡張工事に伴って出土した土器は河口貞徳より赤連系土器と命名されている。



つづく縄文時代中期であるが、この時期にあたる遺跡は少なく、喜界島における当該期の様相はよくわかっていない。

縄文時代後期～晩期の遺跡としては、宇宮上層式期の住居跡群が確認されたハング遺跡がある。遺物は面瀬西洞式・喜念Ⅰ式・宇宮上層式などの土器と、石斧・蔽石などの石器がある。また、平成16年には喜界町役場新庁舎工事に伴い、貝付山遺跡の発掘調査が行われ、縄文時代晩期系の土器・石織・黒曜石の剥片などが出土している。

縄文時代の遺跡からは多量の石器が出土しており、その多くが砂岩や花崗岩を石材として使用している。喜界島は隆起サンゴ礁の島で、島内には石器としての使用に耐えうる石材は産出せず、これらの石器や石材は他地域から持ち込まれたものと推察される。

これらの遺跡のほか、縄文時代後期～晩期の遺跡として最近調査が行われている次の遺跡がある。島の南西部に位置する荒木地中央区では、上才遺跡・カシテB遺跡・クマテ遺跡があり、手久津久地区では崩り遺跡(本報告書)と中壇遺跡がある。崩り遺跡を除くいずれの遺跡も未整理のため、現時点では概要にとどめることにするが、次の遺構や遺物が見つかる。

上才遺跡では竪穴状遺構が約20基と屋内炉、土坑などを確認しており、土器は宇宮上層式を主体とし、喜念Ⅰ式・面瀬西洞式が出土している。カシテB遺跡では竪穴状遺構が100基以上と屋外炉、柱穴などを確認している。土器は面瀬西洞式・喜念Ⅰ式・宇宮上層式・大田布式などが出土している。石器では石斧、磨蔽石、石皿・有溝砥石などが出土している。特筆すべき点として長さ約30cmの大型石斧が出土していることが報告される。クマテ遺跡では竪穴状遺構が約15基と廃棄土坑などが確認されている。土器は無文土器を主体とし、わずかに面瀬前庭式・松山式・市来式・面瀬西洞式が出土している。石器では石斧、磨蔽石やチャート製の石織が出土している。

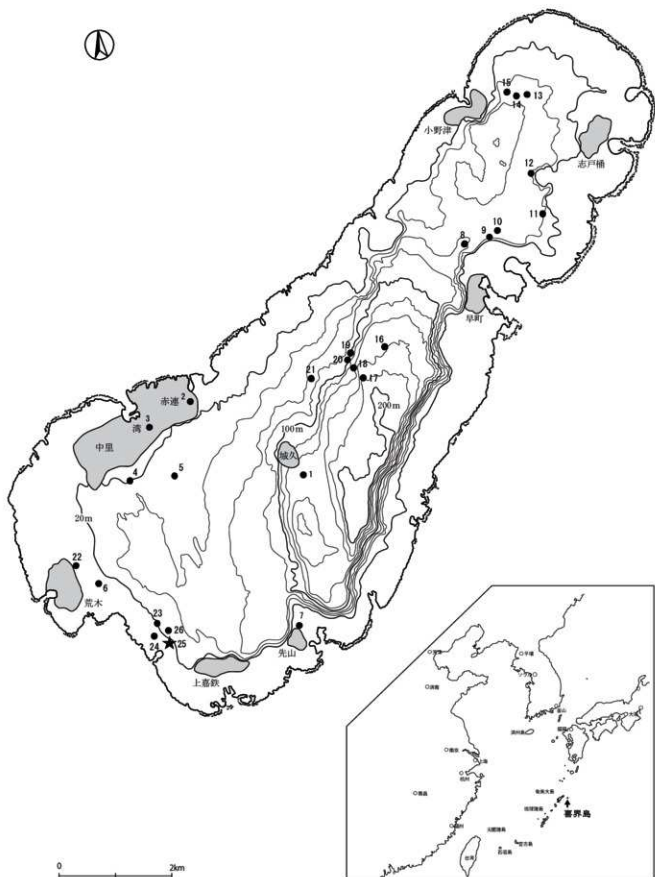
中壇遺跡では平成27年度の調査において竪穴状遺構を約50基確認している。竪穴状遺構は素掘りのものと石組みを伴うものの2種類を確認している。素掘りの竪穴状遺構は高徳系の土器を主体とし、石組みの竪穴状遺構では無文土器が多く出土しているが、仲原式や宇宮上層式も確認されている。

## 2. 弥生～古墳時代併行期

弥生時代の遺跡は、発掘調査は行われていないが、分布調査などで荒木小学校跡などの数遺跡が確認されている。

第2表 主な島内遺跡地名表

番号	遺跡名	所在地	地形	時代	主な遺構・遺物	備考
1	城久遺跡群	喜界町城久ほか	海岸段丘	古代～中世	竪立柱建物跡、土坑墓、伊鉢、土師器、須恵器、越前窯系青磁、布目注連土器、灰釉陶器、白磁、初瀬高麗陶器、新幹高麗陶器、カムイヤキ、滑石製石鏡、青磁、銅製品、鉄製品、輪の冚口、ガラス玉ほか	平成14・15・17・18・19・20年度確認調査、平成14・15・16・17・18・19・20年度本調査
2	赤通	喜界町赤通	海岸段丘	縄文	赤通土器	現喜界高校
3	天天神	喜界町天	海岸段丘	縄文	土器、石器、貝製品、獣骨	
4	総合グラウンド	喜界町南	砂丘	縄文	土器、石器、貝、獣骨	
5	平ク	喜界町南	海岸段丘			崩平により消失した可能性
6	荒木貝塚	喜界町荒木	低地	縄文	石器、貝	
7	先山	喜界町浦原	海岸段丘	縄文～近世	面瀬前庭式・兼久式土器、石器、貝、獣骨	昭和61年度調査
8	平家森	喜界町早町	山頂	中世	楕圓・形状・200×200、礎石	
9	後田	喜界町塩通	海岸段丘			崩平により消失した可能性
10	水口	喜界町塩通	海岸段丘			崩平により消失した可能性
11	堤り	喜界町塩通	海岸段丘	古代～中世	須恵器、カムイヤキ、白磁、青磁、滑石製石鏡、石器、獣骨、	平成8年度調査
12	七城	喜界町志戸崎	台地	中世	楕圓・形状・200×200、礎石	
13	オン畑	喜界町小野津	海岸段丘	古代～近世	竪立柱建物跡、伊鉢、溝状遺構、カムイヤキ、鉄蹄	平成4年度調査
14	巻畑C	喜界町小野津	海岸段丘	古代～中世	土師器、カムイヤキ、滑石製石鏡	平成4年度調査
15	巻畑B	喜界町小野津	海岸段丘	古代～中世	土師器、須恵器、滑石製石鏡、輪の冚口、鉄蹄	平成4年度調査
16	ハンタ	喜界町西目	海岸段丘	縄文	住居跡群、かまど状遺構、宇宮上層式土器、土製品、石器、カムイヤキ、青磁	昭和61年度調査
17	鈴ヶ	喜界町島中	海岸段丘	古墳～中世	青磁、カムイヤキ	平成5年度調査
18	ウ川田	喜界町島中	海岸段丘	縄文～中世	土器、土師器、白磁、青磁、カムイヤキ、滑石製石鏡	平成5年度調査
19	上田	喜界町島中	海岸段丘	縄文～中世	柱穴・土器、青磁、カムイヤキ	平成5年度調査
20	向田	喜界町島中	海岸段丘	縄文～中世	土器、土師器、白磁、青磁、カムイヤキ、滑石製石鏡	平成5年度調査
21	島中B	喜界町島中	海岸段丘	古代～近世	土器、内裏土師器、須恵器、白磁、青磁、輪の冚口、鉄蹄、石器、漆付	昭和63年度調査
22	和草池	喜界町荒木	海岸段丘	縄文～近代	土器、白磁、青磁、鉄製品、輪の冚口、鉄蹄、石器、魚骨、獣骨、漆付、磨障壁	平成18年度調査
23	中壇	喜界町手久津久	海岸段丘	縄文～中世	竪立柱建物跡、土坑、溝状遺構、土器、土師器、須恵器、貝塚、鉄蹄、輪の冚口ほか	平成23・24・26年度本調査
24	川尻	喜界町手久津久	低地	縄文～近世	大塚円形土坑、土坑、溝状遺構、土器、土師器、須恵器、貝塚	平成23・26年度本調査
25	崩り	喜界町手久津久	海岸段丘	縄文～中世	竪穴状建物跡、竪立柱建物跡、土坑墓、土坑、横土跡、土器、白磁、カムイヤキ、石器、鉄製品、鉄蹄、輪の冚口ほか	平成23・24年度本調査
26	川寺	喜界町手久津久	海岸段丘	縄文～中世	竪穴状建物跡、竪立柱建物跡、土坑墓、土坑、横土跡、白磁、青磁、石器、鉄製品、銅製品、鉄蹄、輪の冚口、ガラス玉、琥珀ほか	平成24～26年度本調査



第4図 主な島内遺跡位置図

古墳時代併行期の遺跡には昭和61年に調査が行われ、兼久式土器や貝釜などが出土した先山遺跡などがある。

しかし、この時期については確認されている遺跡が少ないこと、本格的な調査が行われていないこともあり、弥生～古墳時代併行期の喜界島の様相は不明としない。

### 3. 古代・中世

古代・中世の発掘調査が実施された遺跡は、昭和63年に島中B遺跡が、平成4年にオン畑・巻畑B・巻畑C遺跡、平成5年に前ヤ遺跡、平成6年に提り遺跡、平成18年に和早地遺跡などがある。いずれも小規模な調査面積ではあるが、土師器・須恵器・カムイヤキ・龍泉窯系青磁・白磁・滑石製石鍋などが出土している。これらの遺跡からは奄美在地の土器である兼久式土器がほとんど出土していない。

平成14年～20年にかけて調査が行われた城久遺跡（山田中西遺跡・山田半田遺跡・半田口遺跡・小ハネ遺跡・前畑遺跡・大ウツ遺跡・半田遺跡・赤連遺跡）では、450棟を超える掘立柱建物跡や製鉄・鍛冶関連遺構、土坑墓などが見つかった。出土遺物は、越州窯系青磁や白磁、朝鮮系無釉陶器、滑石製石鍋といった島外産の遺物がほとんどである。

城久遺跡は、古代日本国家とのかかわりの中で交易拠点として成立し、古代から中世にかけて奄美地域の交易圏において中心的な役割を果たしていたと評価され、平成29年度に国指定史跡として答申された。

平成21年度からは、県営畑地帯総合整備事業（手久津久地区）に伴う調査を行っており、本報告書の崩り遺跡のほか、川尻遺跡、中畑遺跡、川寺遺跡においてこの時期の掘立柱建物跡や土坑墓などを確認している。これらは、城久遺跡の前後段階に相当する遺跡群であり、喜界島の歴史の変遷を考える上で重要であると考えられる。

### 参考・引用文献

- 安城たつひこ・割田育生 2009 「我が島の広域な地名及びその範囲についての調査研究」『海洋情報部技報』Vol. 27
- 岩元さつき 2016 「喜界町の発掘調査近況-主に縄文時代遺跡について-」『南西諸島の縄文時代後晩期の南北交流』第7回沖縄考古学会・鹿児島県考古学会合同学会研究発表会資料集
- 太田陽子 1978 『琉球列島喜界島の更新世海成段丘』地理学評論
- 澄田直敏・堂込秀人・池畑耕一 2003 「喜界町総合グラウンド遺跡（弓道場）出土の土器」『鹿児島考古』第37号 鹿児島県考古学会
- 町田洋・江波戸照 1969 『南西諸島の総合的研究』平山輝男編 第1編 地理的環境 明治書院
- 貝塚英平ほか編 1984 『4. 西南諸島』『日本の地理』喜界町 2000 『喜界町誌』
- 鹿児島県埋蔵文化財センター 2008 『荒木貝塚・和早地遺跡』鹿児島県埋蔵文化財センター発掘調査報告書（119）
- 喜界町教育委員会 1987 『先山遺跡』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（1）
- 喜界町教育委員会 1987 『ハンタ遺跡』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（2）
- 喜界町教育委員会 1989 『島中B遺跡』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（3）
- 喜界町教育委員会 1987 『島中B遺跡II』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（4）
- 喜界町教育委員会 1993 『オン畑遺跡・巻畑B遺跡・巻畑C遺跡・池ノ底散布地』喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（5）
- 喜界町教育委員会 2015 『城久遺跡群』総括報告書 喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（14）
- 喜界町教育委員会 2015 『中畑遺跡I』畑地帯総合整備事業（担い手育成型）手久津久地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 喜界町埋蔵文化財発掘報告書（15）

## 第三章 調査の方法と成果

### 第1節 調査の概要

#### (1) 発掘調査の方法

平成23年度からの本調査開始にあたり、まず重機によってその一部の表土（I層）を除去し、10m間隔の調査用グリッドを調査区に合わせ任意の方角で設定した。また、プレハブやテント等の設置などの環境整備を実施した。

調査箇所を表土下はマーゼと呼ばれる暗赤褐色土の地山が露出する箇所もあったが、大部分は包含層が残っている状況であった。まず、表土下に広がっていた近世包含層（II層）上面で遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかったためこの層の掘り下げは重複で行い、遺物は一括で取り上げた。以降、包含層ごとに遺構検出を行い、遺構を検出した際は遺構を完掘したのちに人力で包含層の掘り下げを行った。最終的には地山面（IX層）での遺構検出を行い、遺構を完掘した。

検出した遺構に関しては、掘り下げを開始する前に検出状況の写真撮影を行い、半截状況や完掘状況の写真撮影、10分の1個別図や遺構配置図などを作成した。なお、掘立柱建物跡の復元は、調査現場での復元と整理作業段階での図上復元の両方で行った。

南西諸島では初見となる製鉄関連遺構が見つかり、町保有地として保存することとなった場所については、盛土保存を行った。

調査終了後は、設置していたテントや仮設トイレなどを撤収したのち、県農政課へ現場を引き渡した。

#### (2) 発見された遺構・遺物

調査では、主に縄文時代後期～晩期と中世（11世紀末～15世紀前半）の遺構・遺物が発見された。縄文時代の遺構は、堅穴状遺構27基、土坑16基、溝状遺構15基を検出し、土器や石器などの遺物が出土した。

中世の遺構では、掘立柱建物跡41棟、土坑墓2基、土坑15基、溝状遺構1基、竪穴遺構35条、焼土跡9基、石列1基、製鉄関連遺構（溝状遺構1基、土坑1基）などを検出し、遺物は龍泉窯系青磁や白磁、滑石混入土器、滑石製品、輪の羽口、鉄製品、鉄滓などが出土した。

遺跡から出土した遺物は、総計46,929点出土であった。そのうち図化したものは、1,112点である。

堅穴状建物跡や掘立柱建物跡、土坑、溝状遺構、ピットなどから土壌サンプルを計683袋採取した。そのうち、232袋（総量16.32t）をフローテーションによって処理を行った。サンプルからは、タブノキ葉やオオムギなどの炭化種子が検出されている（第IV章第4節参照）。

堅穴状遺構5号、12号14号、及び土坑10号から出土した炭化材は、放射性炭素年代測定と樹種同定を行い、それぞれ $^14\text{C}$ 年代（yrBP） $3940 \pm 20$ 、 $3565 \pm 20$ 、 $3535 \pm 20$ 、 $3215 \pm 20$ の値を得た（第III章第3節(3)参照）。また、土坑墓1号、焼土跡05号、掘立柱建物跡6号（P606）から出土した炭化材も放射性炭素年代測定と樹種同定を行い、それぞれ $^14\text{C}$ 年代（yrBP） $910 \pm 20$ 、 $340 \pm 20$ 、 $990 \pm 30$ の値を得た（第IV章第5節(1)・(2)参照）。

#### (3) 基本層位

出土遺物から大きくI層～IX層に大別し、土色や土質等の違いで細分を行った（第6・7図・第3表）。また、調査区北側、中央部、南側でそれぞれ堆積が異なっていることを確認した。

I層：表土。現在の耕作土である。

II層：近世の層。調査区中央付近に堆積が見られた。

III層：龍泉窯系青磁やピロースタタイプ白磁が出土する中世の層（14～15C）。主に調査区北側に堆積が見られた。

IV層：滑石やカムイキヤキが出土する中世の層（11～12C）。主に調査区中央付近に堆積が見られた。

V層：カムイキヤキや滑石、兼久式土器、面縄西洞式土器、などが出土する層。IV層とVI層の漸移層と考えられる。

VI層：面縄西洞式や大田布式などの尖帯を有する泥質土器が出土する縄文時代後期～晩期の層。

VII層：面縄西洞式などの泥質土器が出土する縄文時代後期～晩期の層。

VIII層：地山、マーゼと呼ばれる石灰岩の風化土。

IX層：島の基岩である琉球石灰岩や韓起サンゴ石灰岩。

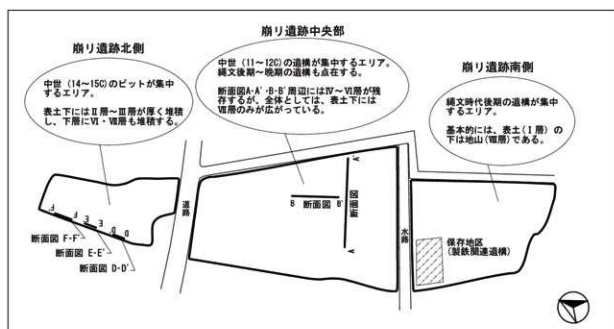
↓	I層	表土
↓	II層	近世
↓	III層	中世（14～15C）
	IV層	中世（11～12C）
	V層	IV～VI層の漸移層
	VI層	縄文（後～晩期）
	VII層	縄文（後～晩期）
	VIII層	マーゼ（地山）
	IX層	基盤岩

第5図 基本層位略図

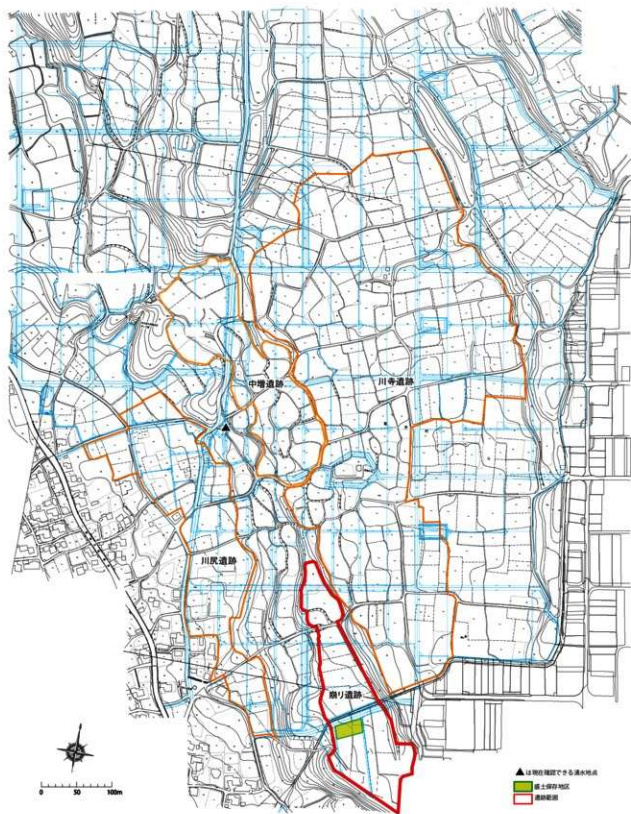


第3表 土層説明

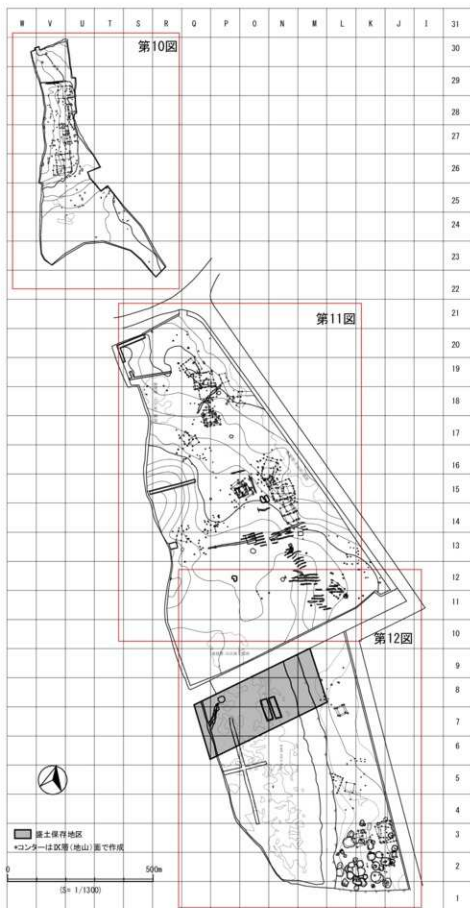
時期	層	土質
現代耕作土	I	暗褐色粘質土 (10YR3/4) に貝片やサンゴ片が混入
近世	II	褐色砂質土 (10YR4/4) に石灰岩の礫が混入
中世 (14～15C)	III	a 暗褐色砂質土 (10YR3/4) に石灰岩の礫が混入
		b 褐色砂質土 (10YR4/6)
		c 黒褐色砂質土 (10YR3/2) に焼土粒や小さな貝片、サンゴ片が混入
		d 暗褐色砂質土 (10YR3/4) に焼土粒や小さな貝片、サンゴ片が混入
		e 暗褐色粘質土 (10YR3/4) に焼土粒や小さな貝片、サンゴ片が混入
		f 黒褐色粘質土 (10YR3/2) に焼土粒や炭化物小片が混入
		g 暗褐色粘質土 (10YR3/3) に焼土粒や小さな貝片、サンゴ片、砂が混入
		i オリーブ褐色砂質土 (10YR3/4)。小さな貝片、サンゴ片が混入する粗い砂
		j 暗褐色粘質土 (10YR3/4) に焼土粒や炭化物、小さな貝片、サンゴ片が混入
		k 黄褐色土
		中世 (11～12)
b 褐色砂質土		
中世～縄文 新移層	V	a 暗赤褐色粘質土 (7.5YR3/3) に褐色土の粒が混入
		b 褐色土
		c 暗褐色粘質土 (10YR3/4) に焼土粒や炭化物が混入
縄文 (後期～晩期)	VI	a 褐色粘質土 (10YR4/6) に焼土小粒・炭化物が混入
		b 黒褐粘質土 (7.5YR3/3) に焼土粒や炭化物小片が混入
		c 褐色粘質土 (10YR4/6)
縄文 (後期～晩期)	VII	a 褐色粘質土 (7.5YR4/3) に明褐色粘質土 (7.5YR3/3) がブロック状に混入し、まだらを呈する
		b 暗赤褐色粘質土 (5YR3/3)
	Ⅷ	マージ (地山)。褐色～明褐色 (7.5YR3/3～7.5YR5/6) を呈する粘質土
	IX	島の基盤岩である琉球石灰岩や隆起サンゴ石灰岩



第7図 崩り遺跡調査区略図



第8図 崩り遺跡範囲



第9図 崩り遺跡調査区全体図





第10図 崩り遺跡北側詳細図



第11図 崩り遺跡中央部詳細図



第12図 崩り遺跡南側詳細図

## 第2節 発見された縄文時代の遺構・遺物

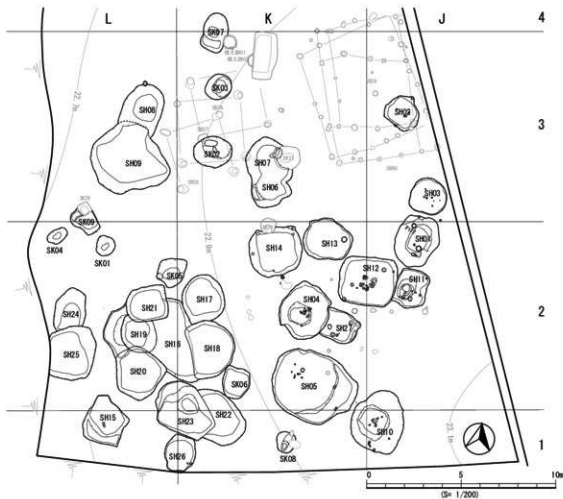
確認された縄文時代の遺構は、竪穴状遺構 27 基、土坑 16 基、溝状遺構 15 基である。これらの遺構のうち、竪穴状遺構と土坑については、調査区の南側 (J・K・L-1・2・3 区) に集中して見つかる傾向があった (第 12 図)。また、土坑と溝状遺構については遺跡中央付近に点在していた (M~R-11~19 区) (第 11 図)。遺構が集中していた南側は、表土下は地山が広がっており、竪穴状遺構や土坑はこの地山面で検出した。遺構が点在していた中央部については、近世~中世の遺構を検出した層 (II 層~V 層) を調査後に掘り下げたのち、縄文時代の遺物包含層である VI 層をさらに掘り下げた VII 層面で検出した。また、さらにその下層である地山面 (VIII 層) でも検出した。

これら遺構からは、縄文時代後期~晩期と考えられる土器 17,859 点、土製品 20 点、石器 678 点、石製品 8 点、未加工の琥珀 1 点、骨製品 1 点が出土した。

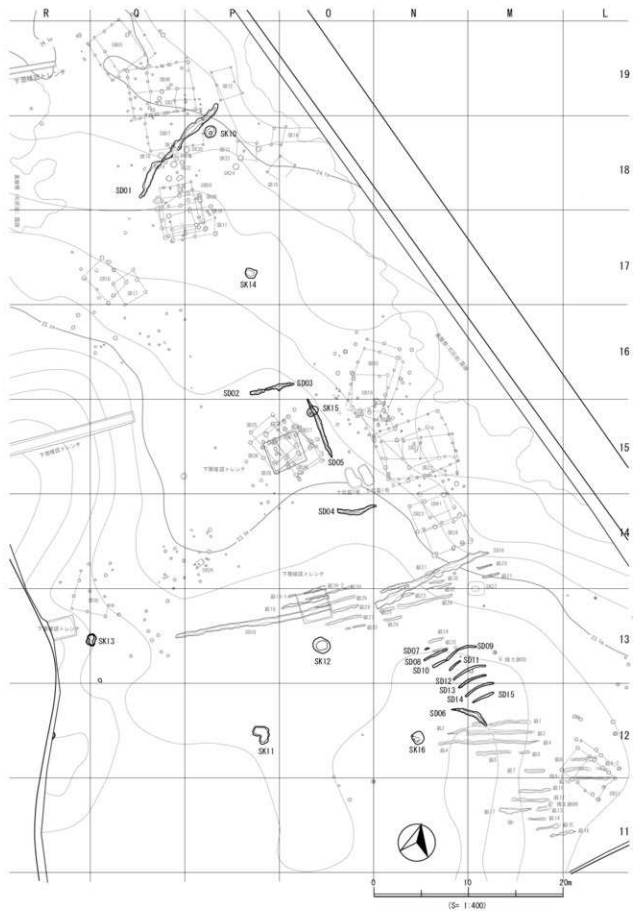
土器と石器については、次に説明する分類方法によって区分した (第 2 節 (1)・(2))。

### (1) 縄文時代の石器の分類

縄文時代の遺構及び包含層から土器と共に石器が 1,133 点、総重量 324.3 kg 出土した。本報告書では、出土した縄文時代の石器を次頁のように分類を行った。石器の石材については第 4 表にまとめた。石材は、喜界島では産出しないとされるものばかりである。



第13図 崩り遺跡南側遺構詳細図



第14図 崩り遺跡中央部遺構詳細図

## 磨石

河原の円礫等を利用した道具で、両平坦面及び側面に磨痕が見られるもの。

## 敲石

河原等の円礫等を使用した道具で敲打痕が見られるもの。

## 磨敲石

磨石と敲石の両方を併せ持つ道具。多くのものが両平坦面中央部に凹みを持つ。

## 円形状石器

ほぼ円形を呈する道具で、片面は平坦な磨面(磨製)で、裏面は敲打によって剥離されているもの。当初は磨敲石の一種としてとらえていたが、同様の特徴を持つ石器が数点出土していることや使用石材が緑色岩に限定されていることから磨敲石とは別に分類した。

## 凹石

大きな範疇では敲石や台石に含まれるが、台石としては不安定な形であり、また、通常の敲石としても局所的な凹みを有する物を総称した。意図的に凹みを形成したものなのか、使用によるものかは不明である。

## 台石

通常の男性が片手で持つことが難しい寸法や重さで、敲打痕や磨痕が観察できる石器。遺構別の集計表では、石皿や砥石、敲石など複合的な用途を持つものについては、「台石系」としてまとめて集計している。

## 石皿

大型の製品で、平滑面や使用による皿状の凹み等が確認できるもの。本遺跡出土の石皿はほとんどが破片であり、敲打具などに転用されている。

## 磨製石鏃

全体あるいは刃部を磨製により形成した鏃。

## 石斧

全体あるいは刃部を磨製により形成した斧。胴部に敲打痕等も観察され2次利用が見られるものもある。

## 砥石

道具等を研いた痕跡(磨痕)が残る道具。溝状の凹みを有する道具を「溝砥石」として分類した。また、敲石の用途を併せ持つものを「敲石・砥石」と分類した。

## スクレイパー状石器

形態や石材に多様性があるが、剥片の縁辺に2次加工を施して刃部としたものを総称した。

## 棒状石製品

形状が棒状で用途が不確定なものを総称した。

## 石製品

装飾具やその可能性のあるもの、また用途不明な石製品を総称した。

## 磨製石器

用途不明の磨製石器を総称した。

## 打製石器

用途不明の打製石器を総称した。

## 不明石器

人為的な加工痕があるが、不明な石器を総称した。

第4表 崩り遺跡出土石器の石材一覧

火成岩	<b>花崗岩</b> : マグマが地下で固結してできる深成岩で、石英などの無色鉱物と黒雲母などの有色鉱物からなる全体的に白っぽく見える石。
	<b>閃緑岩</b> : マグマが地下で固結してできる安山岩質の深成岩で、斜長石などの無色鉱物と角閃石などの有色鉱物からなるまだら色を呈する石。
	<b>安山岩</b> : マグマが地表に噴出してできる火山岩で、斜長石などの無色鉱物や輝石などの有色鉱物の斑晶を多く含む石。一般的に灰色を呈する。
	<b>玄武岩</b> : マグマが地表に噴出してできる火山岩で、一般的に濃い灰色～黒色を呈する石。安山岩ほど顕著ではないが、斑晶が見られる玄武岩を斑状玄武岩と総称した。
火山砕屑岩	<b>黒曜石</b> : 緻密なガラス質の火山岩。九州本土では、佐賀県腰岳産が大きな産地となっている。
	<b>斑岩系</b> : 岩石の種類が不明のもので、斑状組織が見られる岩石を総称した。
	<b>凝灰岩</b> : 火山灰が堆積・固結してできた岩石。
堆積岩	<b>砂石</b> : 噴火の際、マグマの中のがスが抜け出した穴が残ったまま固まった多孔質で流紋岩質の石。
	<b>砂岩</b> : 砂粒と砂粒の間をより細かい泥で埋められた堆積岩。砂の粒子は一般的に丸みを帯び、粒子の大きさにより区分されている。 粗粒砂岩: 1～0.5mm 中粒砂岩: 0.5～0.25mm 細粒砂岩: 0.25～0.13mm
	<b>泥岩</b> : 一般的に灰色～黒色を呈する1/16mm以下の細かな粒子が集まった堆積岩。
	<b>頁岩</b> : 泥岩のうち、堆積面に沿って薄く剥がれる性質が見られる堆積岩。変成作用の度合いにより粘板岩と名称が変わるが、その境が曖昧なため本報告書では一括して頁岩として取り扱った。
	<b>チャート</b> : ほとんどが細粒の石英で構成される透明感のある堆積岩。放散虫の殻など石英質の殻を持つ生物が起源とされる。堆積岩中では最も固い岩石。
変成岩	<b>黒色泥質片岩</b> : 泥岩を起源とした広域変成岩。片理が発達し堆積面に沿って薄く割れやすく、表面が絹状の光沢を有する黒色の変成岩。
	<b>緑色岩</b> : 玄武岩や玄武岩質の凝灰岩を起源とする比較的弱い変成作用をうけた変成岩。緑灰色～深緑色を呈し、以前は輝緑岩と呼ばれることもあった。
	<b>緑色片岩</b> : 玄武岩質の岩石を起源とし、変成作用で片理が発達した緑色を呈する変成岩を総称した。
<b>ホルンフェルス</b> : 接触変成作用を受けた岩石を一般的にホルンフェルスと総称するが、本遺跡で見つかったものはすべて泥岩を起源とする接触変成岩である。	

(2) 縄文時代の土器の分類 (第5・6表)

出土した土器を口縁・口唇形状と文様形態により、I～VII類に分類した(第5・6表)。本報告書分類と現行土器形式の対応は右記の通りである。なお、口唇形状がわからない胴部片についてはこの分類にあてはめず、胴部の文様から押し文系/凹線文系/細沈線文系の3種類に分けた。押し文系は、III-e類・III-d類・IV-a類のいずれかに該当し、凹線文系はIII-e類のIV-b類、沈線文系は、IV-c類に該当する。

- I類…面縄前庭式
- II類…松山式/松山式(在地的)
- III類…市来式/面縄東洞式/嘉徳式
- IV類…面縄東洞式/嘉徳式
- V類…面縄西洞式
- VI類…犬田布式/喜念式
- VII類…仲所式
- VIII類…その他

第5表 土器分類表(1)

大分類	小分類	口縁/口唇	文様	図 (崩り遺跡出土の代表的な土器の実測図・拓本を掲載する。スケール不統一。)
I類	I	外反/丸形	刻み目や連点を施した突帯を貼り付け、その上部、または下部に細沈線文を施す。 胎土：砂質 現行土器形式：面縄前庭式	
II類	II-a	断面三角形/舌状	口唇に刻み目などにより文様を施すもの。 胎土：砂質 現行土器形式：松山式	
	II-b		II-aと同様であるが、胴部にも沈線や2枚貝押し当てなどで文様を施すもの。 胎土：砂質 現行土器形式：松山式(奄美的)	
	II-c		口唇部に、押しきで文様を施すもの。 胎土：砂質 現行土器形式：松山式(奄美的)	
III類	III-a	断面三角形肥厚文様帯/舌状	口縁部を断面三角形に幅広く肥厚させて構成した文様帯に、凹線文と爪型連続文による施文。 胎土：砂質 現行土器形式：市来式	
	III-b		口縁部を断面三角形に幅広く肥厚させて構成した文様帯に、凹線文と押しきによる施文。 胎土：砂質 現行土器形式：市来式/面縄東洞式	
	III-c		口縁部を断面三角形に幅広く肥厚させて構成した文様帯に、押しきによる施文。 胎土：砂質 現行土器形式：面縄東洞式	
	III-d		III-cと同様だが、押しきによる文様が籠目で構成されるもの。 胎土：砂質 現行土器形式：面縄東洞式	
	III-e		III-dと同様だが、籠目文様を凹線で施すもの。 胎土：砂質 現行土器形式：面縄東洞式/嘉徳式	

第6表 土器分類表(2)

大分類	小分類	口唇	文様	図 ( 前リ遺跡出土の代表的な土器の実測図・拓本を掲載する。スケール不統一。)
IV類	IV-a	外反/方形	押しきによる施文。口唇部に連点や刻目文が施されるものもある。 胎土：砂質 現行土器形式： 面縄東洞式	
	IV-b		凹線による施文。口唇部に連点や刻目文が施されるものもある。 胎土：砂質 現行土器形式： 嘉徳Ⅱ式	
	IV-c		細沈線による施文。口唇部に連点や刻目文が施されるものもある。 胎土：砂質 現行土器形式： 嘉徳Ⅱ式	
	IV-d		平行細沈線で区画を施し、その内部を連点・押しきなどにて施文。 胎土：砂質 現行土器形式： 嘉徳ⅠA式	
	IV-e		並行細沈線で区画を施し、その内部を連続爪型文で施文。 胎土：砂質 現行土器形式： 嘉徳ⅠB式	
V類	V-a	直口/丸く方形	連点文等の貼付突帯を施したものの、突帯に文様を施さないものもある。 胎土が砂質のもの： V-a 胎土が泥質のもの： V-a' 現行土器形式： -	
	V-b		刻目・連点貼付突帯と細沈線による施文。 胎土が砂質のもの： V-b 胎土が泥質のもの： V-b' 現行土器形式： 面縄西洞式	
VI類	VI-a	/直口/肥厚丸外形	刻目・連点貼付突帯と細沈線文による施文。 胎土が砂質のもの： VI-a 胎土が泥質のもの： VI-a' 現行土器形式： 犬田布式	
VII類	VII-a	/直口/頸部有内溝	口縁部から胴部にかけてに幅広く肥厚させ頸部を有段にするもの。 胎土が砂質のもの： VII-a 胎土が泥質のもの： VII-a' 現行土器形式： 仲原式	
VIII類	VIII	-	その他。上記分類に当てはまらないもの。 胎土が砂質のもの： VIII 胎土が泥質のもの： VIII' 現行土器形式： -	-



### (3) 竪穴状遺構 (SH)

縄文時代と考えられる竪穴状遺構(以下「SH」)は、27基検出した。平面形状は、円形・楕円形・隅丸長方形・不定形の4種類を確認し、また、床面については、1段掘りと2段掘りの2種類を確認した。検出したSHは、一覧を第7表にまとめることとする。

遺構内・外にピットをいくつか確認したが、ピット埋土が地山の土色と酷似している為、精査したにもかかわらず検出できなかったものがある可能性がある。

出土した遺物は、縄文時代後期～晩期と考えられる土器15,892点、土製品17点、石器603点、石製品8点、骨製品1点である。各SHには個別にカウントした表を作成した。土器の種類は前項による。なお、文様のなかった土器については、胎土によって砂質と泥質に分けて集計している。

SH01, SH12, SH13, SH25 から出土した石器を用い、残存デンプン粒分析を行った。円形や四角形のデンプンが検出されたが、分解が進んでいるものが多く、植物種の同定や石器の用途の検証までは至らなかった。残存デンプン粒分析の詳細については、第三章第3節(1)を参照されたい。

SH05, SH12, SH14 で採取した炭化物を用い、放射性炭素年代測定を実施した。SH05は、<sup>14</sup>C年代 (yrBP) 3,940±20の値を得た。SH12は、調査中に採取したものとフローテーションから出土したタブノキ?の計2点を実施し、それぞれ<sup>14</sup>C年代 (yrBP) 3,565±20と3,380±20の値を得た。SH14の測定値は、<sup>14</sup>C年代 (yrBP) 3,535±20であった。放射性年代年代測定については、同資料を用いて樹種同定も実施した。詳細は、第三章第3節(3)を参照されたい。また、遺構から出土した動物遺体や植物遺体についても第四章(3)・(4)を参照されたい。

以下、SHの詳細を述べることとする。

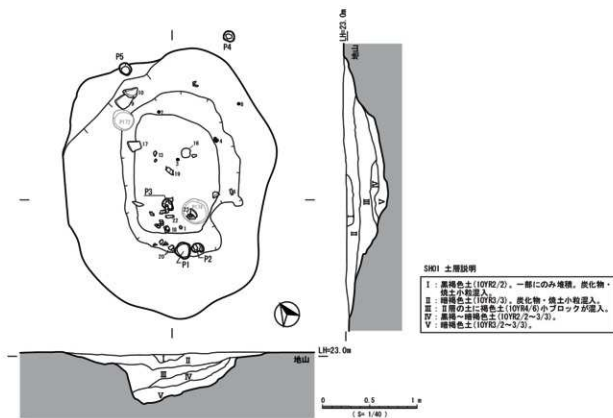
#### 竪穴状遺構1号 (SH01) (第15図・第8・9表)

**検出状況:**J-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他のSHと重複は見られず、単独で検出された。遺構は、中世のピット2基に切られている。

**形状と規模:**短軸2.26m×長軸2.86m×深さ0.44mで楕円形を呈する。床面は2段掘りで、遺構内・外で柱穴と考えられるピットを計5基検出した。ピットの配置に規則性は見られなかった。

第7表 竪穴状遺構(SH)一覧

遺構名	検出区	平面形状	床面形状	短軸(m)	長軸(m)	深さ(m)	備考
SH01	J-2	楕円形	2段	2.26	2.86	0.44	
SH02	J-3	隅丸長方形	1段	1.78	2.94	0.1	
SH03	J-2・3	円形	1段	1.96	2	0.2	
SH04	K-2	円形	2段	2.62	2.82	0.3	
SH05	K-2	楕円形	2段	3.64	4.4	0.58	3,940 ± 20 (yrBP)
SH06	K-3	楕円形	2段	1.8	2.1	0.1	
SH07	K-3	楕円形	1段	1.9	2.26	0.28	
SH08	L-3	楕円形	1段	2.1	(2.22)	0.22	長軸は残存部
SH09	L-3	楕円形	1段	3.9	4.28	0.16	
SH10	J-1・2	楕円形	2段	2.8	3.2	0.16	
SH11	J-2	隅丸長方形	2段	1.62	2.08	0.3	
SH12	J・K-2	隅丸長方形	1段	2.54	3	0.38	3,565 ± 20 (yrBP), 3,380 ± 20 (yrBP)
SH13	K-2	円形	1段	2.16	2.64	0.16	
SH14	K-2	円形	1段	2.56	2.82	0.38	3,535 ± 200 (yrBP)
SH15	L-1	不定形	2段	2.32	2.58	0.47	
SH16	K・L-2	不定形	1段	4.34	4.36	0.34	
SH17	K-2	円形	1段	2.26	2.42	0.46	
SH18	K-2	円形	1段	2.3	3.04	0.36	
SH19	L-2	円形	1段	(1.68)	1.84	0.4	短軸は残存部
SH20	L-2	隅丸長方形	1段	(2.86)	2.72	0.48	短軸は残存部
SH21	L-2	隅丸長方形	1段	1.8	2.2	0.28	
SH22	K-1	楕円形	1段	(1.16)	2.58	0.32	短軸は残存部
SH23	K・L-1	隅丸長方形	2段	2.68	3.1	0.52	
SH24	L-2	楕円形	1段	1.64	(2.4)	0.14	長軸は残存部
SH25	L-2	隅丸長方形	1段	2.42	2.82	0.29	
SH26	K・L-1	楕円形	1段	1.72	2.02	0.3	
SH27	K-2	隅丸長方形	1段	1.6	(1.8)	0.24	長軸は残存部



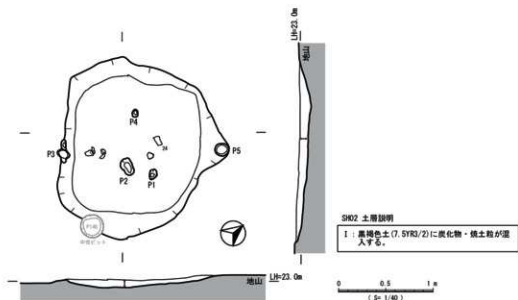
第15図 SH01 実測図

第8表 SH01出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類					IV類					V類			VII	VII'	計				
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'							
SH01	楕円形	2段	内訳	総数	-	-	1	1	1	7	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12		
				I層			1			2			1	1												
				II層				1		2																
				III層					1	2																
				IV層							2															
				V層								1	1													
			床直一括																							
			分類外							押引文系			凹線文系		細線文系			砂質土器		泥質土器		不明		計		
			総数							3			-		-			333		6		1		343		
			I層																	137		2		1		
			II層																	36						
			II・III層																	5		1				
III層								2									81		2							
IV層																	18									
V層								1									8									
床直一括																	7									
																	41		1							

第9表 SH01出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイパー状石器	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	骨製品 (琥珀を除く)	計	
SH01	総計	-	3	-	2	-	-	-	-	4	1	-	2	-	-	-	2	1	-	-	9	90	-	114
	I層		1																			6	25	
	II層		1							1								2				1		
	II・III層		1																1				5	
	II~V層		1																				13	
	III層				1					1		1											1	24
	III~IV層																						1	
	V層										1	1											1	
	床直																						9	
	一括					1								1									12	



第16図 SH02 実測図

第10表 SH02出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類			III類					IV類					V類			壺	壺'	計			
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'									
SH02	隅丸長方形	1段	内訳	I層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
				P2-2							1																	
				P2-5																								
				ピット一括																								
				一括																								
			分類外	押引文								1																
				凹線文																								
				縄文																								
				砂質土器																								
				泥質土器																								
不明																												
計																												
内訳	I層																											
	P2-2																											
	P2-5																											
	ピット一括																											
	一括																											
計																												

第11表 SH02出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石・砥石	磨石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	杖石器	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SH02	総計	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	18	58	-	79
	内訳	1層							1		1										18	42		
	一括										1											16		

地境状況等：V層上面（III層・IV層）より石皿等が出土する状況や堆積状況などから、V層を床面としてとらえた。

出土遺物：砂質土器 348 点、泥質土器 6 点、石器 15 点 (5,044 g)、縄 90 点 (2,194 g) が出土した。このうち、砂質土器 13 点、石器 10 点を実測した。

土器は、IIIe 類が 7 点出土し、IIe 類、IIIa・b 類、IVa・b 類が 1 点ずつ出土している。ただし、II 類と IV 類は、いずれも I 層からの出土であり、II 層以下では出土していない。

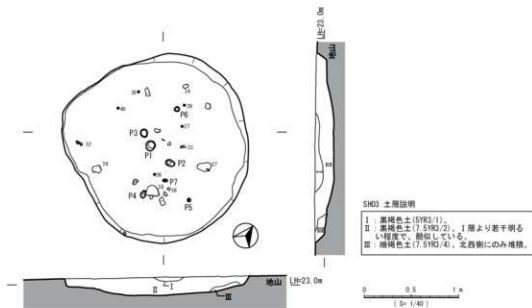
出土した石器のうち、磨石 1 点 (16) と石皿 2 点 (9・17) の残存デンプン粒の分析を行ったが、デンプン粒は検出されなかった。

その他、ブダイ科やニザダイ科などの魚骨とイノシシやクジラ類などの獣骨が出土している。

整穴状遺構 2 号 (SH02) (第 16 図・第 10・11 表)

検出状況：J-3 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の SH と重複は見られず、単独で検出された。遺構は、中世のピット 1 基に切られている。

形状と規模：短軸 1.78m×長軸 2.94m×深さ 0.1m で隅丸長方形を呈する。床面は 1 段掘り、遺構内に柱穴と考えられるピットを計 5 基検出した。ピットの配置に規則性は見られなかった。



第17図 SH03 実測図

第12表 SH03出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類					III類					IV類					V類			VI	VII	計				
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'	c'												
SH03	円形	1段	内訳	総数	-	-	-	3	-	2	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7		
				I層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
				I・II層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
				II層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-
				III層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			一括	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			分類外	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			総数	-	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	2	-	-	1	-	-	-	226	-	12	-	2	-	-	-	253	
			I層	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	2	-	-	-	-	-	-	
			I・II層	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	121	-	8	-	-	-	-	-	-	
II層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	-	-				
III層	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	-	1	-	-	-	-	-	-				
一括	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	63	-	1	-	2	-	-	-	-				

第13表 SH03出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石・砥石	磨石・砥石	円形状石器	凹石	台石系	台石	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	炊石	スライパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(機軸を除く)	骨製品	計
SH03	総計	-	4	-	4	1	-	1	-	-	1	-	10	-	-	-	2	-	-	-	44	184	-	251
	I層	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-
	I・II層	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	26	96	-
	II層	-	-	1	2	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3	4	-
	III層	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	18	-
一括	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	1	-	-	-	-	9	64	-	

**堆積状況等**：他の遺構に比べ堆積が浅く、単一層であることから、遺構上面が耕作などにより掘削された可能性が考えられる。

**出土遺物**：砂質土器 46点、泥質土器 5点、石器 3点 (120g)、礫 58点 (1,679g) が出土した。このうち、砂質土器 1点、石器 1点を実測した。

土器は、埋土からIVc類が2点出土し、遺構内のピットからIIIc類1点と押引文を持つ胴部が出土している。

**竪穴状遺構3号 (SH03) (第17図・第12・13表)**

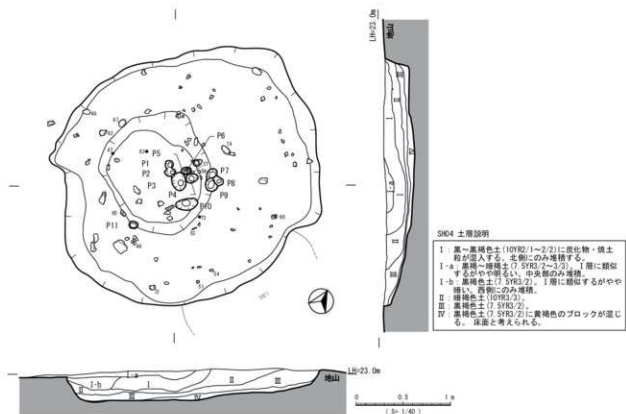
**検出状況**：J-2・3区で検出された。検出面は表土直下の地山面

である。他のSHと重衝は見られず、単独で検出された。

**形状と規模**：短軸 1.96m×長軸 2.00m×深さ 0.2mで円形を呈する。床面は1段掘りで、遺構内・外に柱穴と考えられるピットを計7基検出した。ピットの配置に規則性は見られない。

**堆積状況等**：ピットはII層を掘り下げた後の地山面での検出であった。床面については、踏み固めたというような明瞭な痕跡は検出できなかった。

**出土遺物**：砂質土器 246点、泥質土器 12点、石器 23点 (4,324g)、礫 184点 (1,670g) が出土した。このうち、砂質土器 6点、石器 14点を実測した。



第18図 SH04 実測図

第14表 SH04出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類			III類			IV類					V類			Ⅷ	Ⅷ'	計		
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	b'						
SH04	円形	2段	内訳	総数	-	2	-	-	-	-	2	-	-	6	2	5	2	-	-	-	-	1	1	21	
				I層		1				1					1	2	1								
				I-a層											1										
			II層		1				1																
			III層																						
			床直一括													2	2								
	内訳	分類外	総数							押引文	凹線文	細沈線文	砂質土器	泥質土器	不明								計		
			I層							24	16	22	696	43	-	801									
			I-a層							9	7	9	288	7											
		II層							4	4	3	210	4												
		III層							1	1		15	1												
		床直一括							10	4	10	176	30												

第15表 SH04出土土器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	砥石・砥石	磨石	円形状石器	凹石	台石	石皿	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スライパー	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片 (琥珀を除く)	骨製品	計
SH04	総計	4	1	15	-	2	-	7	5	-	12	-	-	-	-	-	-	-	-	59	365	-	470
	I層	1		7				2			6									22	146		
	I-a層	1	1						1		1											4	
	I-b層	1																					
	II層			6		1		5	1		2									18	106		
	III層																				3	23	
	IV層																					3	
床直	1		2							1	1									9	22		
一括	1					1		2		2										7	61		

土器は、III-a類が3点とIII-c類が2点出土し、IV-b-cも1点ずつ出土している。副産物についても、押引文系土器が10点出土し、凹線文・細沈線文に比べ比率が高い。

その他、モンガラカワハギの鱗が出土した。

聖穴状遺構4号 (SH04) (第18図・第14・15表)

検出状況：K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH27と重複しており、SH04がSH27を切っている(古SH27<SH04新)。

**形状と規模**：短軸2.62m×長軸2.82m×深さ0.3mで円形を呈する。床面は緩やかな2段掘り、遺構内・外の柱穴と考えられるピットを計5基検出した。ピットは中央に集中して見られた。

**堆積状況等**：I層の埋土は、他の層でみられる土に比べ小骨や堆土粒などが多く混入（10～20%程度）しており、堆積状況などから、遺構廃棄後に廃棄土坑として再利用した可能性が考えられる。

伊跡等は確認できなかったが、堆積状況からIV層が床面と考えられる。

なお、整理作業の接合時に、I a層とI層、またI層とII層出土の遺物がそれぞれ接合した。このことから、これらの層が堆積する過程に大きな時期差はないと考える。

**出土遺物**：砂質土器778点、泥質土器44点、石器46点（9,248g）、礫365点（6,033g）が出土した。このうち、砂質土器21点、泥質土器5点、石器10点を実測した。

土器は、IV a類が5点とIV c類が6点出土し、II a類、III類c-d、IV b-d類が1～2点ずつ出土している。胴部については押印文と細沈線文を施したものがほぼ同量出土している。出土土器の多くは、遺構内上層（I層・I a層・II層）からの出土である。

石器については、有溝砥石が12点出土しており、他のSHと比べ多く出土している。

動物遺体に関しては、サメ類の歯、ウツボ科、アオブダイ属、ニザダイなどの魚骨が出土し、植物遺体については堅果類の子葉や皮などが出土した。

#### 堅穴状遺構5号（SH05）（第19図・第16・17表）

**検出状況**：K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他のSHと重複は見られず、単独で検出された。

**形状と規模**：短軸3.64m×長軸4.4m×深さ0.58mで円形を呈する。床面は2段掘り、遺構内・外に柱穴と考えられるピットを計13基検出した。ピットの配置に規則性は見られなかった。遺構は、中世のピット1基に切られている。

**堆積状況等**：I・II層を掘り下げた後のIII層上面で、赤色化した被熱面を確認した。III層堆積後に行われた遺構の2次利用の痕跡と考えられる。

**出土遺物**：砂質土器2,156点、泥質土器125点、石器69点（15,324g）、石製品2点（18,393g）、礫1,529点（8,945g）が出土した。このうち、砂質土器90点、石器32点、石製品2点を実測した。

土器は、IV b類の出土点数が目立つが、II類・III類・IV類も出土している。ただし、遺物のほとんどがI・II層からの出土である。他のSHと比べ、出土遺物の全重量が多い。

動物遺体に関しては、サメ類の歯、ハリセンボン科やフグ科、ブダイ科などの魚骨、植物遺体についてはタブノキの子

葉や堅果皮などが出土した。

Ⅷ層（ドット201）から採取した炭化物の放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。放射性年代測定では、<sup>14</sup>C年代（grBP）3940±20の値と、樹種についてはツツジ属と同定された。

#### 堅穴状遺構6号（SH06）（第20図・第18・19表）

**検出状況**：K-3区で検出された。検出面は表土直下の地山面、SH07と重複関係がある。精査を行ったが、重複関係をつかむことができなかった。

**形状と規模**：短軸1.8m（推定）×長軸2.1m×深さ0.1mで楕円形を呈する。床面は1段掘りである。

**堆積状況等**：他の遺構に比べ遺構が浅いことから、遺構上面が耕作などにより掘削された可能性が考えられる。

**出土遺物**：砂質土器109点、泥質土器5点、石器1点（1,800g）、石製品1点、礫41点（322g）が出土した。このうち、砂質土器6点、石器1点、石製品1点を実測した。なお、SH06かSH07か所属が不明のものはSH06の集計に入っていない。

土器は、II a-b類とIV a-c-d類がそれぞれ1点ずつ出土している。胴部については、押印文系と細沈線文系がほぼ同量出土している。

その他、サメ類の歯、アオブダイ属、ハリセンボン科などの魚骨やイノシシの骨が出土している。

#### 堅穴状遺構7号（SH07）（第20図・第20・21表）

**検出状況**：K-3区で検出された。検出面は表土直下の地山面、SH06と重複関係がある。精査を行ったが、重複関係をつかむことができなかった。また、遺構は、中世の土坑（SK31）に切られている。

**形状と規模**：短軸1.9m（推定）×長軸2.26m×深さ0.28mで楕円形を呈する。床面は2段掘りである。

**堆積状況等**：他の遺構に比べ遺構が浅いことから、遺構上面が耕作などにより掘削された可能性が考えられる。

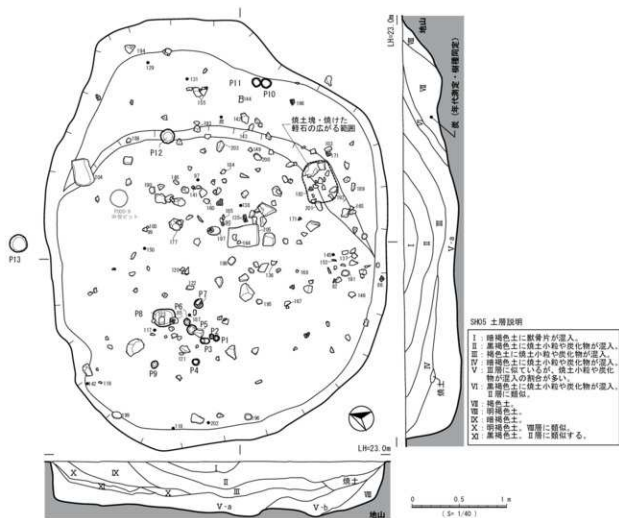
**出土遺物**：砂質土器203点、泥質土器19点、石器7点（3,572g）、礫54点（268g）が出土した。このうち、砂質土器7点、石器7点を実測した。なお、SH06かSH07か所属が不明のものはSH07の集計に入っていない。

土器は、IV d類が3点出土し、その他にIII c類、IV a-b類もそれぞれ1点ずつ出土している。胴部に関しては、細沈線文系土器の比率が高く、押印文系、凹線文系も出土している。

#### 堅穴状遺構8号（SH08）（第21図・第22・23表）

**検出状況**：L-3区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH09と重複関係がある。胴部に関し、伊跡が確認できなかったが、SH09に切られている可能性が高い。

**形状と規模**：短軸2.1m×長軸2.22m（残存部・推定）×深さ0.22mで楕円形を呈する。床面は1段掘りである。



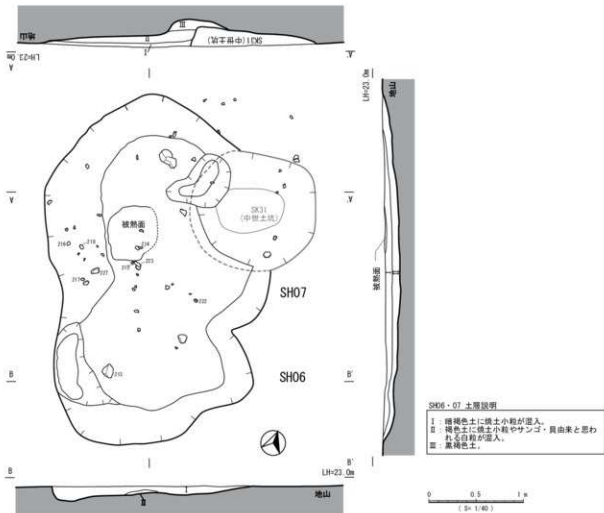
第19図 SH05 実測図

第16表 SH05出土土器集計表

遺構名	平面形状	床形状	分類	I類					II類					III類					IV類					V類					VII	VIII	計
				a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e			
SH05	構内形	2段	内訳	総数	1	5	4	2	2	-	2	1	1	6	19	5	3	-	-	-	-	-	-	-	-	11	-	62			
				I層	1	1					1	1			1	3	2									2					
				II層					2		1				1	3	1														
				III層																											
				V層																											
			分類外					4	2	2	1			1			4	12	2	3							8				
			総数									押引文	凹線文	細沈線文	砂質土器	泥質土器	不明									43		2262			
			I層									23	19	43	737	24															
			II層									8	8	17	237	36															
			III層									7	2	7	89	4															
床直一括									1			5																			
								27		19	50	795	61	43																	

第17表 SH05出土土器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨石・砥石	円形状石器	凹石	台石	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイパー	棒状石器	磨製石器	不明石器	石板	琥珀	切片	礫	骨製品	計	
																							総計
SH05	総計	9	7	-	22	-	2	2	-	6	2	-	17	-	2	-	1	-	21	1529	-	1620	
	I層	2	1	4			1	1					6		1				14	392			
	II層	1		1															1	230			
	III層	1	1	3						1		2								141			
	V層																			1	8		
	一括	5	5	14			2	1		4	2		9		1		1		5	758			



第20図 SH06・SH07 実測図

第18表 SH06出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	Ⅰ類					Ⅱ類					Ⅲ類					Ⅳ類					Ⅴ類			Ⅵ	Ⅶ	計	
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'											
SH06	楕円形	2段	内訳 一括	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	6	
			分類外									押引文	凹線文	細沈線文	砂質土器	泥質土器	不明													
			総数									3				2							98				5			108
			内訳 一括							3				2							98				5					

第19表 SH06出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	砥石	凹石	台石	台石系	台石	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(燧石を除く)	骨製品	計	
SH06	総計	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	41	-	45
	内訳 一括						1									1							2	41		

堆積状況等：他の遺構に比べ遺構が浅く、単一層であることから、遺構上面が耕作などにより掘削された可能性が考えられる。

出土遺物：砂質土器 54 点、泥質土器 2 点、石器 7 点 (919g)、礫 31 点 (1,838g) が出土した。このうち、石器 1 点を実測した。

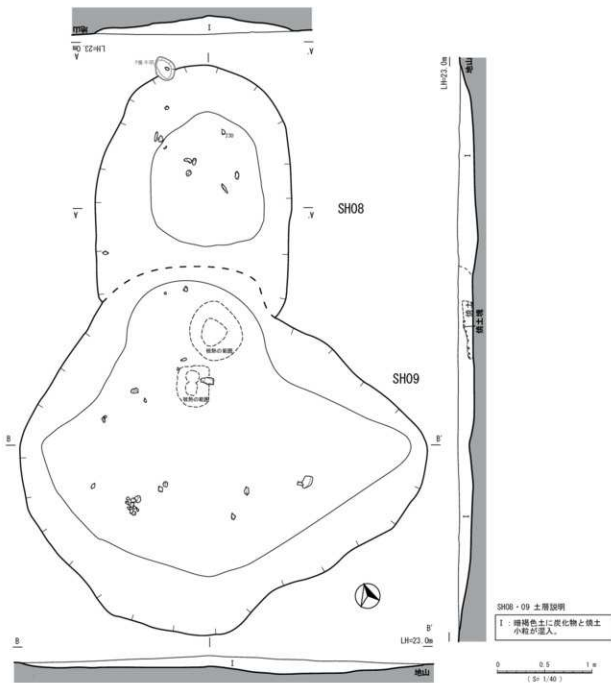
分類可能な土器口縁部は、Ⅱ-a 類 1 点のみ出土した。その

他は無文の砂質土器胴部であった。

その他、ブダイ科などの魚骨やクジラ類の骨が出土した。







第21図 SH08・SH09 実測図

**竪穴状遺構9号 (SH09) (第21図・第24・25表)**

**検出状況**：L-3区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH08と重複関係がある。明確な切り合い関係が確認できなかったが、SH09がSH08を切っている可能性が高い。

**形状と規模**：短軸3.9m(推定)×長軸4.28m×深さ0.16mで楕円形を呈する。床面は1段掘りである。

**堆積状況等**：遺構内北側でI層掘り下り部取、赤色化した被熱面を2カ所検出した。

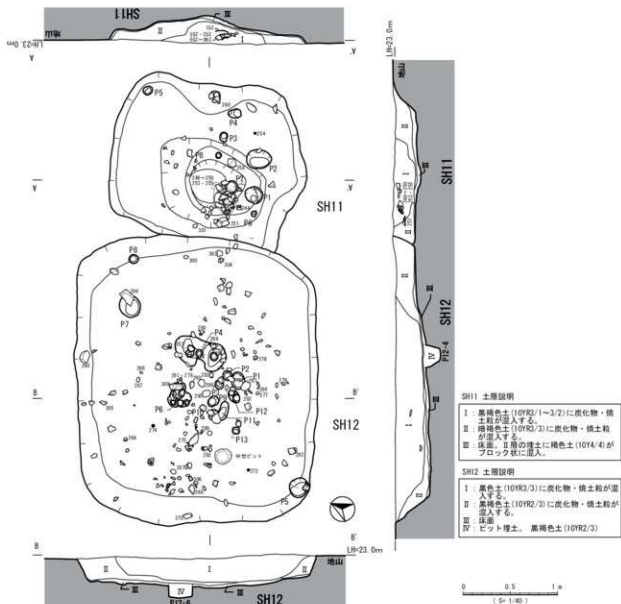
他の遺構に比べ遺構が浅く、単一層であることから、遺構上面が耕作などにより掘削された可能性が考えられる。

**出土遺物**：砂質土器60点、泥質土器2点、石器4点(536g)、礫12点(839g)が出土した。すべて小片であることから、実測はしていない。

土器は、IIa類1点と、胴部片では、押引文系と細丸線文系がそれぞれ1点ずつ出土している。

動物遺体に関しては、サメ類の歯やウツボ科、フダイ科などの魚骨が出土した。植物遺体については堅果皮？などが出土した。





SH11 土層説明

- I : 黒褐色土 (10YR3/1~3/2) に炭化物・焼土粒が混入する。
- II : 暗褐色土 (10YR3/3) に炭化物・焼土粒が混入する。
- III : 赤土。II 層の埋土に褐色土 (10Y4/4) がブロック状に混入。

SH12 土層説明

- I : 黒色土 (10YR3/3) に炭化物・焼土粒が混入する。
- II : 黒褐色土 (10YR2/3) に炭化物・焼土粒が混入する。
- III : 赤土
- IV : ビット埋土。黒褐色土 (10YR2/3)

押引文系の出土の比率が高く、次いで凹線文系、細沈線文系である。

動物遺体に関しては、サメ類・ブダイ類の歯やモンガラカワハギ科の鱗などが出土した。植物遺体についてはシマサルナシや堅果皮などが出土した。

竪穴状遺構 11号 (SH11) (第23図・第28・29表)

**検出状況:** J-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH12と重複しており、SH12に切られている(古SH11<SH12新)。

**形状と規模:** 短軸1.62m(残存部・推定)×長軸2.08m×深さ0.3mで隅丸長方形を呈する。床面は浅い2段掘りで、遺構内に柱穴と考えられるビットを計8基検出した。ビットはIII

層上面で検出されている。ビットの配置に規則性は見られなかった。

**堆積状況等:** ビットがIII層上面で検出されることや堆積状況からIII層が床面と捉えた。

I層の堆積形状は、立ち上がりがしっかりとしており人為的に掘り返された痕跡の可能性が低い。遺構廃棄後の2次利用と考えられる。

**出土遺物:** 砂質土器183点、泥質土器2点、石器10点(2,191g)、薬55点(623g)が出土した。このうち、砂質土器16点、石器4点を実測した。

土器は、IV-b類が8点出土し、III-c類、IV-c-d類が1~2点出土している。遺物は、ほとんどが上層に堆積するI層からの出土である。

第28表 SH11出土石器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類					III類					IV類					V類			Ⅷ	Ⅷ'	計					
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'													
SH11	隅丸長方形	2段	内訳	総数	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	7	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12				
				I層																												
				II層																												
				P11-7																												
				床直一括																												
		分類外																														
		総数																														
		I層																														
		II層																														
		P11-7																														
床直一括																																

第29表 SH11出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石・砥石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石弁	砥石	有溝砥石	状石器	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SH11	総計	-	4	-	2	-	-	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	-	-	13	55	-	78
	I層		4		2																12	39	
	床直一括																				1	3	

第30表 SH12出土石器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類					III類					IV類					V類			Ⅷ	Ⅷ'	計					
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'													
SH12	隅丸長方形	1段	内訳	総数	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	5	3	2	3	-	-	1	-	-	-	19							
				I・II層		2											4	3	2	3												
				I層																												
				II層																												
				P6																												
		P11																														
		P12																														
		床直一括																														
		分類外																														
		総数																														
I層																																
I・II層																																
II層																																
P6																																
P12-11																																
P12																																
床直一括																																

第31表 SH12出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石・砥石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石弁	砥石	有溝砥石	状石器	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SH12	総計	2	15	-	15	1	-	2	1	8	-	1	26	-	1	-	-	-	-	77	402	-	551
	I層	2	13		11				1	7		1	16							26	276		
	I・II層																			4	4		
	II層																				4	20	
	P2																					1	
	P4																						
	P6																						
	P9																						
	床直一括																						
	分類外																						
総数																							
I層																							
I・II層																							
II層																							
P2																							
P4																							
P6																							
P9																							
床直一括																							

動物遺体に関しては、ウツボ科やアオブダイ属、ニザダイ科の魚骨が出土した。植物体についてはシマサルナシや堅果皮?などが出土した。

#### 壁穴状遺構 12号 (SH12) (第23図・第30・31表)

検出状況: J-K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH11と重複関係があり、SH12がSH11を切っている。(古SH11<SH12新)。また、遺構は中世のビット

1基に切られている。

形状と規模: 短軸2.54m×長軸3.0m(推定)×深さ0.38mで隅丸長方形を呈する。床面は1段掘り、遺構内に柱穴と考えられるビットを計13基検出した。ビットの配置に規則性は見られなかった。

堆積状況等: ビットがIII層上面で検出されることからIII層を床面と捉えた。





呈する。床面は1段掘りであり、遺構内に柱穴と考えられるピットを計4基検出した。ピットは、中央付近に集中して検出した。

**堆積状況等**：堆積状況からIV層が床面と考えられる。

**出土遺物**：砂質土器412点、泥質土器101点、石器42点(58,243g)、礫112点(4,960g)が出土した。このうち、砂質土器12点、泥質土器2点、石器20点を実測した。

土器は、IV-c類が2点出土し、II-a類とIV-a類が1点ずつ出土している。また、V類に分類した土器も3点ある。胴部については、細沈文系が出土の比率が高く、押引文系や凹線文系がわずかに出土している。

石器については、遺構中央部より崩り遺跡最大の台石(338)が出土しており、他にも台石や石皿(326・336)など大型の石器が出土している。

出土した石器のうち、石皿1点(326)と磨崖石1点(328)、台石1点(329)、台石・石皿1点(336)の計4点の残存デンプン粒の分析を行ったがデンプン粒は検出されなかった。

動物遺体については、ブダイ科の骨が出土している。また、植物遺体についてはタブノキが出土した。

#### 堅穴状遺構14号(SH14) (第25図・第34・35表)

**検出状況**：K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他のSHと重覆は見られないが、中世の土坑1基(SK28)に切られている。

**形状と規模**：短軸2.56m×長軸2.82m×深さ0.38mで隅丸長方形を呈する。床面は1段掘りであり、遺構内・外に柱穴と考えられるピットを計6基検出した。ピットの配置に規則性は見られなかった。

**堆積状況等**：ピットは、III層を掘り下げた地山面で検出された。地山面では、明瞭な床面の痕跡は検出できなかった。

**出土遺物**：砂質土器538点、泥質土器60点、石器21点(8,456g)、礫182点(2,469g)が出土した。このうち、砂質土器12点、石器14点を実測した。

土器は、IV-b-c-d類と、III-a-c類が出土している。また、V類に分類した土器も2点ある。最下層(III層)からの出土遺物は少量であるが、押引文系土器や細沈文系土器と共に泥質土器も出土している。

動物遺体に関しては、ハリセンボン科、アオブダイ属などの魚骨やクジラ類の骨が出土した。植物遺体については堅果皮などが出土した。

その他、III層の地山直上から採取した炭化物から放射性炭素年代測定と樹種判定を行った。放射性炭素年代測定では、 ${}^{14}\text{C}$ 年代(yrBP)3,535±20の値と、樹種はイヌノキと同定された。

#### 堅穴状遺構15号(SH15) (第26図・第36・37表)

**検出状況**：L-1区で検出された。検出面は表土直下の地山面

である。他のSHと重覆は見られず、単独で検出された。

**形状と規模**：短軸2.32m×長軸2.58m×深さ0.47mで方形に近い不定形を呈する。床面は2段掘りであり、遺構内に柱穴と考えられるピットを計2基検出した。ピットは遺構中央部付近まわって検出された。

**堆積状況等**：ピットは、V層を掘り下げた地山面で検出された。地山面では、踏み固めたというような明瞭な床面の痕跡は検出できなかった。

**出土遺物**：砂質土器490点、泥質土器88点、石器17点(3,466g)、石製品1点、礫205点(9,185g)が出土した。このうち、砂質土器8点、泥質土器1点、石器9点、石製品1点を実測した。

土器は、IV-d類が3点出土し、II-b類とIII-c類が1点ずつ出土している。胴部については、細沈文系土器の比率が高く、押引文系がわずかに出土している。

動物遺体に関しては、ウツボ科、アオブダイ属、ブダイ科、ニザダイ科などの魚骨とクジラ類の骨が出土した。植物遺体については堅果皮などが出土した。

#### 堅穴状遺構16号(SH16) (第27図・第38・39表)

**検出状況**：K-L-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH17~21と重覆関係にあり、SH16はSH17~21に切られている(古SH16<SH17~21筋)。本遺跡中、SHが一番重複する遺構であり、これらの重覆関係を持つSHの埋土が確認している事や各SHの深さ、底面形状が似ている事から、調査中はその新旧関係を判断するのに困難を要した。

**形状と規模**：短軸4.34m×長軸4.36m×深さ0.34mで不定形である。床面は1段掘りである。

**堆積状況等**：地山面で精査を行ったが、ピットは確認できず、また、明瞭な床面の痕跡は検出できなかった。

**出土遺物**：砂質土器94点、土製品1点、石器14点(3,691g)、礫52点(2,368g)が出土した。このうち、砂質土器5点、土製品1点、石器7点を実測した。

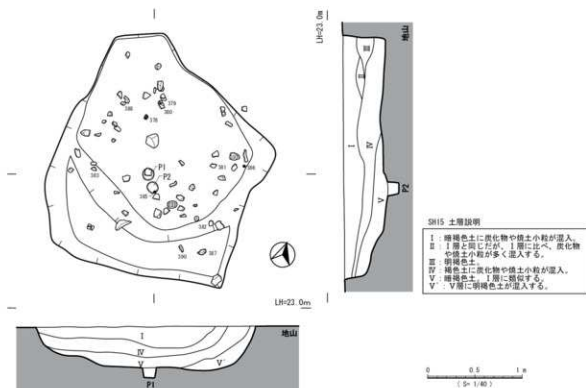
土器は、IV-a類が2点出土したほか、III-a-c類、IV-b類がそれぞれ1点ずつ出土した。胴部については細沈文系と押引文系がほぼ同数出土し、凹線文系はわずかにある。

#### 堅穴状遺構17号(SH17) (第27図・第40・41表)

**検出状況**：K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH16・SH18と重覆関係にあり、SH17は、SH16を切っている。また、SH18に切られている(古SH16<SH17<SH18筋)。

**形状と規模**：短軸2.26m×長軸2.42m(残存部)×深さ0.46mで円形を呈する。床面は1段掘りである。





第26図 SH15 実測図

第36表 SH15出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類					II類					III類					IV類					V類					曜	曜'	計	
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'	曜	曜'											
SH15	不定形	2段	総数	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	6			
			内訳	I層		1																										
			V・VI層一括																													
			分類外							1																						
			総数							2							31							451								572
			I層							1							16							230								47
内訳	V・VI層一括													2							67								9			
														13							154								32			

第37表 SH15出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SH15	総計	3	2	-	1	-	-	-	1	-	-	7	-	1	-	-	2	-	-	15	205	-	238	
	内訳	I層																						
	V・VI層																							
	一括	3	2		1				1			6		1			2			12	94			

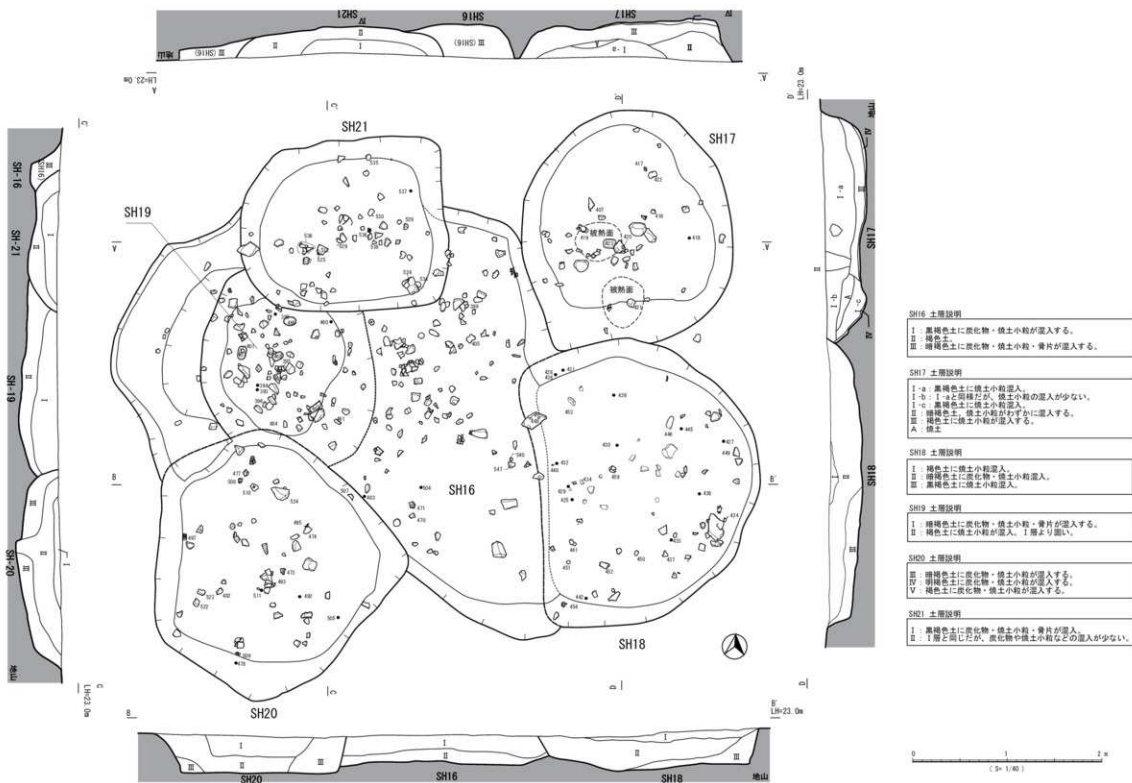
堆積状況等：地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかった。堆積状況からIV層が床面と考えられる。IV層上面では被熱面は確認できなかった。被熱面を確認したのは、上層に堆積するI・a・b層を掘り下りた後のIII層上面であることから、III層がある程度埋まった時点で火を使った何かしらの行為が行われたと考えられ、SH17は2度にわたり利用されたものと考えられる。

出土遺物：砂質土器544点、泥質土器49点、石器15点(2,688g)、棒状石製品1点、礫172点(8,450g)が出土した。このうち、砂質土器7点、泥質土器3点、石器7点、棒状石製

品1点を実測した。

土器は、II・c類が3点出土し、その他II・a類、III・a・c類がそれぞれ1点ずつ出土した。胴部では、凹線文系と細点線文系が同数量出土し、凹線文系がわずかに出土している。ただし、下層であるIII層以下からは押引文系土器のみが出土している。

動物遺体に関しては、サメ類の歯やアオブダイ属やブダイ科の魚骨が出土した。植物遺体については堅果皮?などが出土した。



第27図 SH16~SH21実測図





#### 竪穴遺構 18号 (SH18) (第27図・第42・43表)

**検出状況:** K2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH16・SH17と重複関係にあり、SH18は、SH16・SH17を切っている(古 SH16<SH17<SH18 新)。

SH18の東側部分については、断面ではSH16との切り合いを確認できたが、平面は不明瞭であったため、想定されるラインを太破線で表記した。

**形状と規模:** 短軸約2.3m×長軸3.04m×深さ0.36mで円形を呈する。床面は1段掘りである。

**堆積状況等:** 地山面で精査を行ったが、ビットは確認できなかった。また、明瞭な床面の痕跡は検出できなかった。

**出土遺物:** 砂質土器 489点、泥質土器 99点、土製品 4点、石器 15点 (8,833g)、礫 181点 (1,320g) が出土した。このうち、砂質土器 16点、泥質土器 1点、土製品 4点、石器 15点を実測した。

土器は、IV-d類が16点出土し、その他IVe類以外のIV類が全数出土している。出土遺物の大部分が遺構上部に堆積する1層からの出土である。

動物遺体に関しては、ブダイ科、ニザダイ科、ハリセンボン科などの魚骨とイノシシの骨が出土した。植物遺体は、シマサルナシや堅果皮\*が出土した。

#### 竪穴遺構 19号 (SH19) (第27図・第44・45表)

**検出状況:** L2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH16・SH20・SH21と重複関係にあり、SH16を切っている。また、SH20・SH21に切られている(古 SH16<SH19<SH20<SH21 新)。SH18の西側部分について、断面ではSH16との切り合いを確認できたが、平面は不明瞭であったため、想定されるラインを太破線で表記した。

**形状と規模:** 短軸1.68m(残存部・推定)×長軸1.84m×深さ0.4mで円形を呈する。床面は1段掘りである。

**堆積状況等:** 地山面で精査を行ったが、ビットは確認できなかった。また、明瞭な床面の痕跡は検出できなかった。

**出土遺物:** 砂質土器 184点、泥質土器 7点、石器 16点 (6,243g)、礫 68点 (4,948g) が出土した。このうち、石器 9点を実測した。

分類可能な土器口縁部は出土していないが、胴部は、押引文や縦線文を施したものが出土している。

#### 竪穴遺構 20号 (SH20) (第27図・第46・47表)

**検出状況:** L2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH16・SH19と重複関係にあり、SH20は、この2つを切っている(古 SH16<SH19<SH20 新)。

SH20の北側部分については、断面ではSH19との切り合いを確認できたが、平面は不明瞭であったため、想定されるラインを太破線で表記した。

**形状と規模:** 短軸約2.86m×長軸2.72m×深さ0.48mで隅丸長方形を呈する。床面は1段掘りである。

**堆積状況等:** 地山面で精査を行ったが、ビットは確認できなかった。また、明瞭な床面の痕跡は検出できなかった。

**出土遺物:** 砂質土器 1,073点、泥質土器 153点、土製品 3点、石器 21点 (5,226g)、石製品 1点、礫 385点 (3,946g) が出土した。このうち、砂質土器 30点、泥質土器 1点、土製品 3点、石器 21点、石製品 1点を実測した。

土器は、IV-d類が9点出土し、IV類全般やII-c類、III-c類が1~3点出土した。また、V類に分類した土器も6点ある。胴部については、縦線文系が主体となるが、押引文系や縦線文系も出土している。

石器については、溝研砥石が14点出土している。

#### 竪穴遺構 21号 (SH21) (第27図・第48・49表)

**検出状況:** L2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH16・SH19と重複関係にあり、SH21は、この2つの遺構を切っている(古 SH16<SH19<SH21 新)。

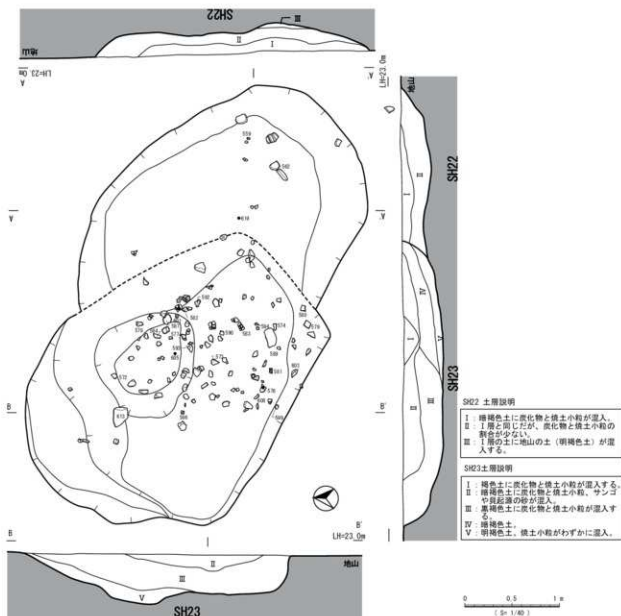
**形状と規模:** 短軸1.8m×長軸2.2m×深さ0.28mで隅丸長方形を呈する。床面は1段掘りである。

**堆積状況等:** 地山面で精査を行ったが、ビットは確認できなかった。また、明瞭な床面の痕跡は検出できなかった。

**出土遺物:** 砂質土器 405点、泥質土器 16点、石器 6点 (1,38g)、石製品 1点、棒状石製品 1点、礫 133点 (863g)、骨製品 1点が出土した。このうち、砂質土器 6点、石器 6点、石製品 1点、棒状石製品 1点、骨製品 1点を実測した。骨製品は装飾品と考えられ、本遺跡ではこの1点のみである。

土器は、IVe類が3点のほか、IV-b類が2点、IV-d類が1点出土している。

動物遺体については、ブダイ科の骨が出土している。植物遺体については、堅果皮\*が出土した。



第28図 SH22・SH23 実測図

竪穴状遺構 22号 (SH22) (第28図・第50・51表)

**検出状況:** K-1区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH23と重複関係にあり、SH23に切られている。

(古SH22<SH23新)。断面ではSH23との切り合いを確認できたが、平面は不明瞭であったため、想定されるラインを太破線で表記している。

**形状と規模:** 短軸1.16m(残存部・推定)×長軸2.58m×深さ0.32mで楕円形を呈する。床面は1段掘りである。

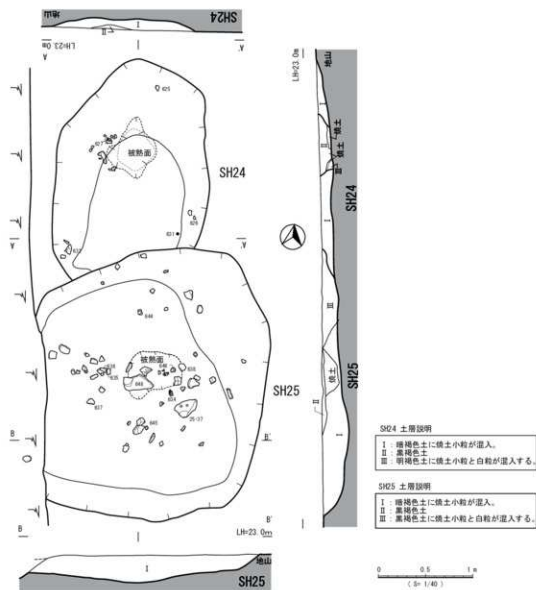
**堆積状況等:** 地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかった。また、明瞭な床面の確認は検出できなかった。

**出土遺物:** 砂質土器418点、泥質土器90点、土製品1点、石器13点(2,802g)、礫100点(2,101g)が出土した。このうち、砂質土器2点、土製品1点、石器6点を実測した。

土器は、IV-a類とIV-d類が1点ずつ出土した。副葬品、細沈線文系の土器の出土比率が高いが、押印文系や仰線文系もわずかに出土している。

動物性遺体は、ブダイ科やニザダイ科などの魚骨が出土した。植物遺体は、シマサルナシや橙果皮が出土した。





第29図 SH24・SH25 実測図

**竪穴状遺構 24号 (SH24) (第29図・第54・55表)**

**検出状況:** L:2 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH25 と重複関係にあり、SH25 に切られている。

(古 SH24 < SH25 新)。

**形状と規模:** 短軸 1.64m × 長軸 2.4m (残存部) × 深さ 0.14m で楕円形を呈する。床面は 1 段掘りである。

**堆積状況等:** 地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかった。また、明瞭な床面の痕跡も検出できなかった。

中央部に掘り込まれていた II 層除去後、赤色化した被熱面を確認した。I 層堆積後に行われた遺構の 2 次利用の痕跡と考えられる。

SH24 は他の遺構に比べ浅ことから、遺構上面が耕作などにより掘削された可能性が考えられる。

**出土遺物:** 砂質土器 201 点、泥質土器 63 点、石器 3 点 (531g)、礫 29 点 (404g) が出土した。このうち、砂質土器 7 点、石器 2 点を実測した。

土器は、IV-d 類が 5 点出土し、III-c 類が 1 点、IV-a 類が 2 点出土している。胴部に関しては、沈線文系の土器のみが出土した。

その他、ウツボ科やブダイ科の骨が出土した。



第54表 SH24出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	Ⅰ類			Ⅱ類			Ⅲ類					Ⅳ類				Ⅴ類			Ⅷ	Ⅷ'	計														
				総数	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'	b''																		
																					内訳				Ⅰ層一括	分類外	総数	Ⅰ層一括	押引文	凹線文	細点線文	砂質土器	泥質土器	不明				
SH24	楕円形	1段	内訳	Ⅰ層一括											1																							
			分類外																																			
			総数																																			
			内訳	Ⅰ層一括																																		
			総計	1																																		
			内訳	Ⅰ層一括	1																																	

第55表 SH24出土土器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	砥石	砥石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石弁	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	鱗片 (琥珀を除く)	骨製品	計	
																										総計
SH24	総計		1	1										1									6	29		38
	内訳		1											1									2	8		
					1																		4	21		

第56表 SH25出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	Ⅰ類			Ⅱ類			Ⅲ類					Ⅳ類				Ⅴ類			Ⅷ	Ⅷ'	計															
				総数	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'	b''																			
																					内訳				Ⅰ層一括	分類外	総数	Ⅰ層一括	押引文	凹線文	細点線文	砂質土器	泥質土器	不明					
SH25	隅丸長方形	1段	内訳	Ⅰ層一括													1	1							2	1													
			分類外																																				
			総数																																				
			内訳	Ⅰ層一括																																			
			総計	1	6	8	1	2	2	1			4											20	39		84												
			内訳	Ⅰ層一括	2		1					2												1	8														
																							9	8															
																							10	23															

第57表 SH25出土土器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	砥石	砥石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石弁	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	鱗片 (琥珀を除く)	骨製品	計	
																										総計
SH25	総計	1	6	8	1	2	2	1				4											20	39		84
	内訳		2		1							2											1	8		
																							9	8		
			1	4	8			2	2	1													10	23		

## 壱穴状遺構 25号 (SH25) (第29図・第56・57表)

**検出状況:** L:2 区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH24と重複関係にあり、SH25は、SH24を切っている。(古 SH24<SH25 節)。

**形状と規模:** 短軸 2.42m×長軸 2.82m×深さ 0.29mで隅丸方形を呈する。床面は 1 段掘りである。

**堆積状況等:** 地山面で精査を行ったが、ピットは確認できなかった。また、明瞭な床面の痕跡も検出できなかった。

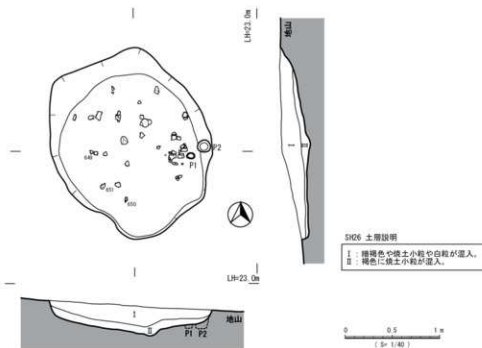
中央部のみに堆積していたⅡ層除去後、炉跡と考えられる被熱も赤色化した掘り込みを確認した。Ⅰ・Ⅲ層堆積後に行われた遺構の 2 次利用の痕跡と考えられる。SH24 と SH25 は、ともに埋没後少し掘り込んで凹みを作り、火を使った何かしらの行為が行われている。

SH25 は他の遺構に比べ堆積が浅いことから、遺構上面が耕作などにより掘削された可能性が考えられる。

**出土遺物:** 砂質土器 145 点、泥質土器 14 点、石器 25 点(11,800 g)、礫 39 点(1,278 g)が出土した。このうち、砂質土器 6 点、泥質土器 2 点、石器 7 点を実測した。

土器は、Ⅳc 類とⅣd 類が 2 点ずつ出土している。また、Ⅶ類に分類したものが 2 点とⅧ' 類に分類したものが 1 点ある。胴部については沈線文系が 11 点、押引文が 1 点のみ出土した。

出土した石器のうち、台石・石皿 2 点(647・648)の残存デンプン粒の分析を行い、647 からデンプン粒が 4 点検出された。損傷のないデンプンは 1 点のみで、植物種までは同定できなかったが、鱗茎・根茎類に由来するものの可能性が高いと分析された。



第30図 SH26 実測図

第58表 SH26出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類			II類					III類					IV類					V類			Ⅷ	Ⅷ'	計							
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'	b''															
SH26	楕円形	1段	総数	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1						
			内訳	一括		1																												
			分類外																															
			総数																															
			内訳	一括																														

第59表 SH26出土土器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SH26	総計	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	2	-	-	1	22	-	31
	内訳	一括	1	1										4					2			1	22		

竪穴状遺構 26号 (SH26) (第30図・第58・59表)

検出状況：K・L・1区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他のSHと重複は見られず、単独で検出された。

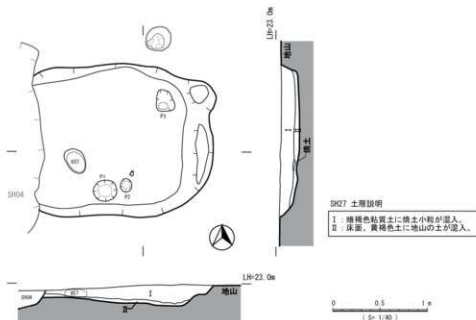
形状と規模：短軸1.72m×長軸2.02m×深さ0.3mで楕円形を呈する。床面は1段掘り、中央部に向かって緩やかに傾斜しており、中央部がややくぼんでいる。遺構内に柱穴と考えられるピットを計2基検出した。ピットは東側にまとまって見ついている。

堆積状況等：ピットは、II層除去後の地山面での検出であった。地山面では踏み固めたというような明確な床面の痕跡は検出できなかった。

出土遺物：砂質土器89点、泥質土器69点、石器8点(1,054g)、縄22点(384g)が出土した。このうち、砂質土器2点、泥質土器2点、石器4点を実測した。

Ⅷ類とⅧ'類に分類したものの以外分類可能な土器口縁部は出土しなかったが、細丸線文系の胴部が数点出土した。

その他、サメ類の歯やアオブダイ属の骨などが出土した。



第31図 SH27 実測図

第60表 SH27出土土器集計表

遺構名	平面形状	床面形状	分類	I類															Ⅴ類	Ⅵ類	計					
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'								
SH27	隅丸長方形	1段	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0		
			内訳 I層																							
			分類外																							
			総数																							
			内訳 I層																							

第61表 SH27出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	SH27															計					
		磨石	敲石	磨石・敲石	円形状石器	凹石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	杖石器	スクレイパー	石製品	棒状石器	不明石器		石核	琥珀	刮片	礫(琥珀を除く)	骨製品
SH27	総計	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	9	-	13
	内訳 I層		1				1												2	9		

竪穴状遺構 27号 (SH27) (第31図・第60・61表)

**検出状況:** K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。SH04と重複しており、SH04に切られている(古SH27<SH04新)。

**形状と規模:** 短軸 1.6m×長軸 1.8m(残存部)×深さ 0.24mで隅丸方形を呈する。遺構の東側にはステップ状の高まりが見られる。床面は1段掘りであり、西側から東側に向かって緩やかに傾斜している。また、遺構内に柱穴と考えられるピットを計3基検出した。ピットの配置に規則性は見られなかった。

**堆積状況等:** II層直上に台石などの石器や赤色化した被熱面が認められることから、II層を床面としてとらえた。なお、ピットはII層を掘り下げた地山面で検出している。

**出土遺物:** 砂質土器3点、泥質土器4点、石器2点(7300g)。

竪 9点(215g)が出土した。このうち、石器1点を実測した。

分類可能な文様を持つ土器は出土しなかったが、わずかに出土している砂質土器や泥質土器は、他のSHで出土しているものと胎土や焼成が同じであることから同時期の遺構と捉えている。

動物遺体に関しては、サメ類やグエイ科の骨が出土した。植物遺体については堅果皮や堅果類子葉?が出土した。

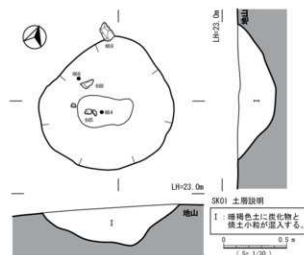
#### (4) 土坑 (SK)

縄文時代と考えられる土坑（以下「SK」）は、16基検出した。出土した遺物は、縄文時代後期～晩期と考えられる土器2,150点、土製品3点、石器68点、未加工の琥珀1点である。

平面形状は、円形・楕円形・方形・不定形の4種類を確認した。廃棄土坑の要素を持つ土坑もあるが、用途不明のものが多い。検出した遺構の一覧を第62表にまとめた。

自然科学分析については、SK10の最下層から採取した炭化物を用い、放射性炭素年代測定と樹種同定を実施した。放射性年代測定については、 $^{14}\text{C}$ 年代 (yrBP) 3,215 $\pm$ 20の値を得た。樹種については、クスノキ科と同定された。

また、SK06のIII層より出土した未加工の琥珀は、産地を同定するためにFT-IR（赤外分光）分析を行った。瑞浪市や奈茂市、高梁市、三次市産の琥珀に近い値を得たが、同定には検討を要する結果を得た。分析結果については第三章第3節(2)を参照されたい。以下、各SKの詳細を述べることにする。



第32図 SK01 実測図

第62表 土坑(SK)一覧

遺構名	検出区	検出面	平面形状	短軸 (m)	長軸 (m)	深さ (m)	備考
SK01	L-3	V層 (地山)	円形	1.04	1.06	0.3	
SK02	K-L-3	V層 (地山)	楕円形	1.6	2.04	0.42	
SK03	K-3	V層 (地山)	円形	1.3	1.4	0.72	
SK04	L-2	V層 (地山)	楕円形	0.71	1.12	0.11	被熱部あり
SK05	K-L-2	V層 (地山)	不定形	1.46	1.5	0.18	2次利用あり
SK06	K-2	V層 (地山)	方形	1.46	1.64	0.36	琥珀出土
SK07	K-3-4	V層 (地山)	楕円形	1.32	2.09	0.33	
SK08	K-1	V層 (地山)	円形	0.98	1.08	0.13	
SK09	L-3	V層 (地山)	不定形	1.26	1.6	0.26	
SK10	P-18	V層 (地山)	円形	1.17	1.31	0.65	3,215 $\pm$ 20 (yrBP) I層は包含層VII-a層
SK11	P-12	V層 (地山)	不定形	1.3	2.05	0.19	I層は包含層VII-a層が堆積
SK12	O-13	V層 (地山)	円形	1.74	1.75	0.78	I層は包含層VII-a層が堆積
SK13	Q-13	V層 (地山)	楕円形	0.9	1.23	0.37	I層は包含層VII-b層が堆積
SK14	P-17	V層 (地山)	円形	1.18	1.27	0.9	I層は包含層VII-a層が堆積
SK15	O-15	V層 (地山)	楕円形	0.95	1.25	0.64	I層は包含層VII-a層が堆積
SK16	N-12	VII-a層	円形	1.21	1.29	0.4	

#### 土坑1号 (SK01) (第32図・第63・64表)

検出状況：L-3区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模：短軸1.04m×長軸1.06m×深さ0.3mで、平面形状は円形を呈する。

堆積状況等：単層である。埋土中から獣骨小片が散在して出土している。

出土遺物：砂質土器96点、泥質土器6点、石器4点(1,355g)、礫16点(404g)が出土した。このうち、砂質土器6点、石器2点を実測した。

土器は、II-a-c類やIII-a類、IV-b類が出土している。

動物遺体については、サメ類の歯やハタ科などの魚骨が出土している。また、植物遺体については、堅果皮？が出土している。

#### 土坑2号 (SK02) (第33図・第65・66表)

検出状況：K-L-3区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

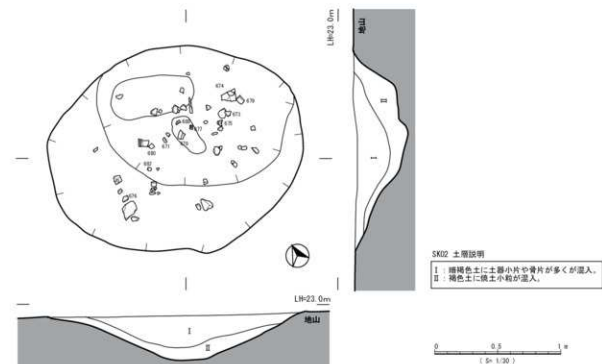
形状と規模：短軸1.6m×長軸2.04m×深さ0.42mで、平面形状は楕円形を呈する。

堆積状況等：土器小片や獣骨小片が散在して出土する。

出土遺物：砂質土器210点、泥質土器1点、石器3点(1,147g)、礫71点(1,394g)が出土した。このうち、砂質土器18点、石器2点を実測した。

土器は、II-a-c類やIII-a-c類が出土している。

動物遺体については、サメ類の歯、ハタ科、フエフキダイ科、アオブダイ属、ブダイ科、モンガラカワハギ科、ハリセンボン科などの魚骨やクジラ類の獣骨が出土している。



第33図 SK02 実測図

第63表 SK01出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	Ⅰ類					Ⅱ類					Ⅲ類					Ⅳ類					Ⅴ類					Ⅷ	Ⅷ'	計				
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	b'											
SK01	円形	桶型	総数	-	5	-	1	1	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	
			内訳	Ⅰ層		5	-	1	1	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
			一括																																
			分類外									押引文				凹線文							細沈線文				砂質土器		泥質土器		不明				計
			総数																					86		6		-				92			
			内訳	Ⅰ層																				74		5									
			一括																				12		1										

第64表 SK01出土土器・骨製品集計表

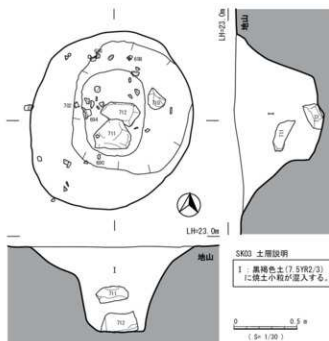
遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイパー状石器	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	礫(琥珀を除く)	骨製品	計
SK01	総計	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	16	-	20
	内訳	Ⅰ層		1		1							1						1			14		
	一括																					2		

第65表 SK02出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	Ⅰ類					Ⅱ類					Ⅲ類					Ⅳ類					Ⅴ類					Ⅷ	Ⅷ'	計				
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	b'																
SK02	楕円形	桶型	総数	-	3	-	3	3	-	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	16								
			内訳	Ⅰ層		3																													
			一括																																
			分類外																																
			総数							9																									
			内訳	Ⅰ層						7																									
			一括							2																									

第66表 SK02出土土器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイパー状石器	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	礫(琥珀を除く)	骨製品	計	
																									総計
SK02	総計	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	71	-	81	
	内訳	Ⅰ層		1		1																7	49		
	一括																						22		



第34図 SK03 実測図



第35図 SK04 実測図

第67表 SK03出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	Ⅲ類															Ⅳ類	Ⅴ類			Ⅷ	Ⅷ'	計			
				I類	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'		b	b'							
SK03	円形	鉢型	総数	-	1	7	2	2	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	19		
			内訳	I層	1	7	2	2	-	1	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	3	
			分類外																									
			総数										6			1		8		267		-			1		263	
			内訳	I層									6			1		8		257								
		一括																10						1				

第68表 SK03出土土器・骨製品集計表

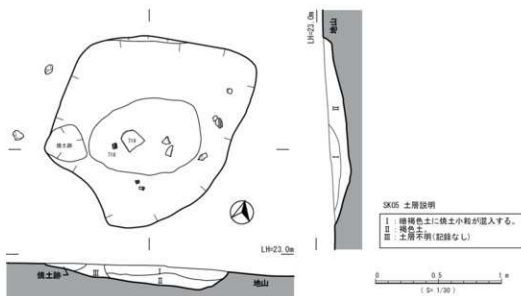
遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片 (琥珀を除く)	骨製品	計	
																									総計
SK03																									
	総計	-	2	-	4	-	1	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14	96	-	123
	内訳	I層	2		2		1	3		3													13	89	
	一括			2																		1	7		

第69表 SK04出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	Ⅲ類															Ⅳ類	Ⅴ類			Ⅷ	Ⅷ'	計		
				I類	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'		b	b'						
SK04	横円形	碗型	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2		
			内訳	I層								1															
			分類外																								
			総数																	11		81		16		-	108
			内訳	I層																11		67		16			
		一括																	14								

第70表 SK04出土土器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片 (琥珀を除く)	骨製品	計	
																									総計
SK04																									
	総計	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	3	25	-	32
	内訳	I層	1		1									1						1		3	16		
	一括																					9			



第36図 SK05 実測図

第71表 SK05出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	I類			II類			III類			IV類			V類			VI	VII	計							
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b				c						
SK05	不定形	瓶型	総数	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	3					
			内訳	I層						1						1												
			内訳	一括						1						1												
			分類外							押引文			凹線文			細沈線文			砂質土器			泥質土器			不明			計
			総数							7			-			2			52			1			-			62
内訳	I層							1									1											
		一括						6									2			51			1					

第72表 SK05出土土器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	磨石	磨石・砥石	磨石・砥石	円形状石器	凹石	台石系	台石	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイパー	石製品	棒状石器	不明石器	石核	琥珀	切片	礫(琥珀を除く)	骨製品	計			
																								総計	I層	II層
SK05	総計	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15	-	16		
	内訳	I層						1															4			
	内訳	一括						1															11			

土坑3号 (SK03) (第34図・第67・68表)

**検出状況:** K-3区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の遺構と重畳は見られず、単独で検出された。

**形状と規模:** 短軸1.3m×長軸1.4m×深さ0.72mで、平面形状は円形を呈する。

**堆積状況等:** 単層である。埋土中から獣骨小片が散在して出土するが、中央部へ落ち込むにつれてその密度が高くなる状況が見られた。

**出土遺物:** 砂質土器301点、石器13点(28,416g)、礫96点(1,338g)が出土した。このうち、砂質土器18点、石器5点を実測した。

土器は、II-b類が7点出土するが、その他のII類やIII-a-c-e類、IV-b類が1~2点ずつ出土している。またVIII類に分類したのも3点ある。

動物遺体については、アナゴ科、ウツガ科、ハタ科、アオ

ブリイ属、ニザダイ科などの魚骨やクジラ類、ウミガメ類、イノシシなどの獣骨が出土している。また、植物遺体については、堅果皮?が出土している。

土坑4号 (SK04) (第35図・第69・70表)

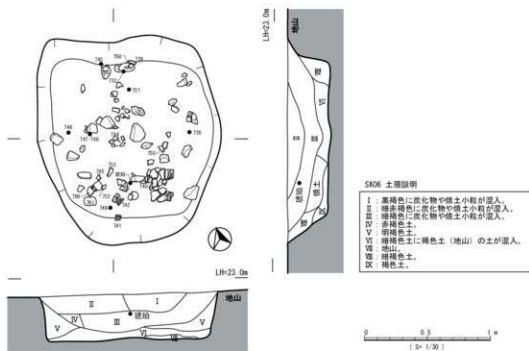
**検出状況:** L-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の遺構と重畳は見られず、単独で検出された。

**形状と規模:** 短軸1.71m×長軸1.12m×深さ0.11mで、平面形状は楕円形を呈する。

**堆積状況等:** 単層である。I層を掘り下げた後、地山面から赤色化した被熱面を1基検出した。

**出土遺物:** 砂質土器94点、泥質土器16点、石器4点(1,215g)、礫25点(239g)が出土した。このうち、砂質土器2点、石器3点を実測した。

土器は、III-c類とVIII類に分類したものが1点ずつ出土した



第37図 SK06 実測図

第73表 SK06出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	I類					II類					III類					IV類					V類			Ⅷ	Ⅷ'	計		
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a	b	b'	Ⅷ	Ⅷ'										
SK06	方形	鉢型	総数	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	3	4	4	-	-	-	-	-	-	-	-	4	1	19		
			内訳	I層		1												2	2										2	1	
			II層																												
			一括				1									1	3	2	2												
			分類外									押引文		凹線文		細沈線文		砂質土器		泥質土器		不明									
			総数									2		4		52		646		36											740
内訳	I層									1		1		13		232		18													
II層															180		9														
一括									1							234		9													

第74表 SK06出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	敲石・砥石	磨敲石	円形状石器	凹石	台石系	台石	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	スクレイパー	石製品	棒状石器製品	棒状石器製品	不明石器	石板	琥珀	剥片	（琥珀を除く）	骨製品	計	
																									総計
SK06	内訳	総計	1	1	-	2	-	1	1	-	2	-	-	12	-	-	-	-	4	-	1	21	212	-	258
		I層													1							6	54		
		II層													1				1			7	74		
		III層																				1			
		一括	1	1		2		1	1		2				10					3			8	84	

ほか、細沈線文を持つ銅部も出土している。

動物遺体については、サメ類の歯やアオブダイ属などの魚骨が出土している。また、植物遺体については、堅果類子葉？や堅果皮？が出土している。

#### 土坑5号 (SK05) (第36図・第71・72表)

**検出状況:** K・L-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

**形状と規模:** 短軸1.46m×長軸1.5m×深さ0.18mで、平面形状は不定形を呈する。

**堆積状況等:** 被熱面がIII層上面で検出されていることから、III層が埋まった後に再度掘り込まれ、遺構の2次利用がされ

ている可能性がある。

他の土坑に比べ浅いことから、上部が耕作等で削平された可能性がある。遺構の用途は不明である。

**出土遺物:** 砂質土器64点、泥質土器1点、石器2点(1,781g)、籾15点(440g)が出土した。このうち、砂質土器2点、石器2点を実測した。

土器は、IIIe類が2点とIV-d類が1点出土している。また、押引文や細沈線文が施された土器銅部が出土した。



#### 土坑6号 (SK06) (第37図・第73・74表)

**検出状況:** K-2区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

**形状と規模:** 短軸1.46m×長軸1.64m×深さ0.36mで、平面形状は方形を呈する。

**堆積状況等:** I層～III層の埋土中から獣骨小片や土器小片が散在する状況である。

III層を掘り下げた面で赤色化した被熱面を検出しており、土坑がある程度埋まった時点で、何かしら火を使用する行為がなされたと考えられる。

**出土遺物:** 砂質土器722点、泥質土器37点、石器24点(5,949g)、未加工の琥珀1点、礫212点(4,345g)が出土した。このうち、砂質土器24点、石器15点を実測した。

土器は、IV-b-e類の出土比率が高いが、II-a-c類、III-e類、IV-a類なども出土している。また、VIII類に分類したものが4点、VII類が1点ある。

動物遺体については、ブダイ科、アオブダイ属、ハリセンボン科などの魚骨やイノシシなどの獣骨が出土している。また、植物遺体については、堅果皮?が出土している。

III層出土の琥珀は、FTIR(赤外分光)分析を行い、瑞浪市や安曇市、高梁市、三次市産の琥珀に近い値を得たが、同定するための標準資料がない少量産地や未発見の産地、あるいは消滅した産地である可能性も否定できないとの結果を得た。

#### 土坑7号 (SK07) (第38図・第75～77表)

**検出状況:** K-3・4区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。中世の焼土跡(焼土跡01号)に切られている。

**形状と規模:** 短軸1.32m×長軸2.09m×深さ0.33mで、平面形状は楕円形を呈する。

**堆積状況等:** 土器片や貝殻片がまぎらって出土する状況みられる。遺構は浅く、上部は耕作などで削平された可能性が考えられる。

**出土遺物:** 砂質土器184点、土製品2点、石器3点(4,773g)、礫93点(1,992g)が出土した。このうち、砂質土器4点、土製品2点、石器3点を実測した。

土器は、I類とIV-b類が1点ずつ出土している。また、VIII類に分類したものが2点ある。また、押引文や細線文、細沈線文が施された土器胴部も出土している。

動物遺体については、メジロサメ科の歯、ウツボ科、ハタ科、アオブダイ属、ブダイ科、ニザダイ科などの魚骨やウミガメ類、イノシシなどの獣骨が出土している。

自然遺物としての貝は、マガキガイやタカラガイ、イガレインなどが出土している。

#### 土坑8号 (SK08) (第39図・第78・79表)

**検出状況:** K-1区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。中世のピット1基に切られている。

**形状と規模:** 短軸0.98m×長軸1.08m×深さ0.13mで、平面形状は円形を呈する。

**堆積状況等:** 単層である。検出時に焼土塊の溜りが見られたが、被熱による赤色化や硬化は検出されなかったため、焼土塊が流し込んで堆積したものと判断した。

埋土からの出土遺物は少なく、遺構の用途の特定には至らなかった。

**出土遺物:** 砂質土器28点、泥質土器5点、石器1点(2,350g)、礫21点(47g)が出土したが、実測を行わなかった。

分類可能な土器口縁部は出土していないが、押引文や細沈線文を施した胴部が出土している。

#### 土坑9号 (SK09) (第40図・第80・81表)

**検出状況:** L-3区で検出された。検出面は表土直下の地山面である。遺構北側は、土坑(SK29)に切られている。

**形状と規模:** 短軸1.26m×長軸1.6m×深さ0.26mで、平面形状は長方形に近いが不定形である。北側はステップ状で2段になっている。

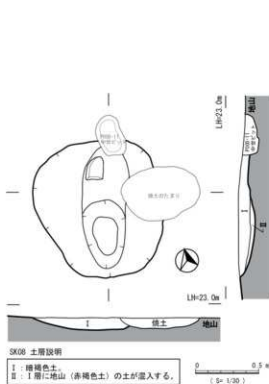
**堆積状況等:** 2層の堆積層を確認したが、いずれの層も遺物は少量であった。

**出土遺物:** 砂質土器69点、泥質土器20点、石器5点(616g)、礫32点(624g)が出土した。このうち、砂質土器2点、石器1点を実測した。

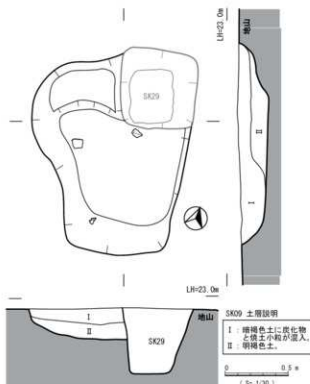
土器は、IV-d類2点と、細沈線文系の土器胴部が出土している。

動物遺体については、サメ類の歯などの魚骨が出土している。また、植物遺体については、堅果皮?が出土している。





第39図 SK08 実測図



第40図 SK09 実測図

第78表 SK08出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	Ⅱ類															Ⅴ類	Ⅵ	Ⅶ	計							
				I類	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'					b	b'					
SK08	円形	碗型	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0					
			内訳	一括																									
			分類外	押引文																			凹線文	細沈線文	砂質土器	泥質土器	不明	計	
			総数	1																			-	4	23	5	-	33	
			内訳	一括																			1		4	23	5		

第79表 SK08出土石器・骨製品集計表

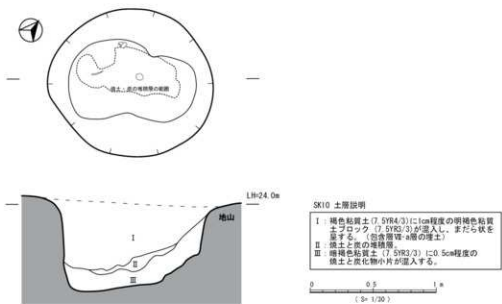
遺構名	器種	磨石	敲石・砥石	磨石	円形状石器	凹石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計		
																							総計	内訳
SK08	総計	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	21	-	26		
	内訳	一括																					4	21

第80表 SK09出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	Ⅱ類															Ⅴ類	Ⅵ	Ⅶ	計						
				I類	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'					b	b'				
SK09	不定形	碗型	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	2					
			内訳	I層																								
			分類外	押引文																			凹線文	細沈線文	砂質土器	泥質土器	不明	計
			総数	-																			-	12	55	20	-	87
			内訳	I層																			12	55	20			

第81表 SK09出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石・砥石	磨石	円形状石器	凹石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計					
																							総計	内訳			
SK09	総計	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	32	-	40					
	内訳	I層																					1	4		3	32



第41図 SK10 実測図

第82表 SK10出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	I類					II類					III類					IV類					V類			Ⅷ	Ⅷ'	計			
				a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b	b'													
SK10	円形	鉢型	総数	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	4				
			内訳	III層	1																											
			一括	2																						1						
			分類外																													
			総数																								27		69		96	
内訳	III層																															
一括																																

第83表 SK10出土土器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	磁石	磨石・磁石	磨石・磁石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石製品	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	礫	骨製品	計
SK10	総計	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	43	-	44
	内訳 一括									1													43		

土坑10号 (SK10) (第41図・第82・83表)  
**検出状況:** P-18区で検出された。検出面はVII-a層を掘り下げた後の地山面である。遺構内に堆積する1層は包含層VII-a層の土であり、当初「地山面の窪地」と捉えていた。しかし、中層より赤色化した被熱面が検出され、形状も人為的だと判断し、遺構として扱うこととした。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

**形状と規模:** 短軸1.17m×長軸1.31m×深さ0.65mで、平面形状は円形を呈する。

**堆積状況等:** II層は焼土と炭の堆積であり、その最下面では赤色化した被熱面も検出された。III層堆積後に何かしら火を使用する作業が土坑内で行われていたようである。

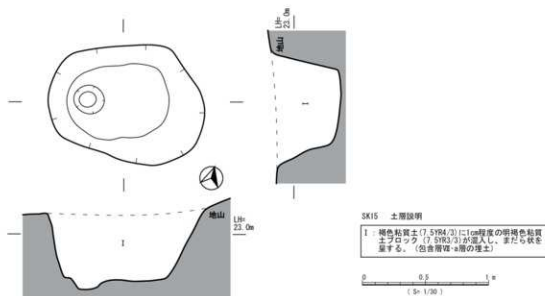
**出土遺物:** 砂質土器3点、泥質土器28点、石器1点(222g)、礫43点(1.016g)が出土した。このうち、砂質土器3点、石器1点を実測した。分類可能な土器は縁部は、I類が3点

とV-b'類が1点であるが、泥質土器胴部も出土している。III層より採取した炭化物を用い、放射性炭素年代測定と樹種同定を行った。放射性年代測定は、<sup>14</sup>C年代(±1σ)3,215±20の値を得た。樹種同定については、クスノキ科と同定された。









第46図 SK15 実測図

第92表 SK15出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	I類			II類			III類			IV類			V類			Ⅷ	Ⅷ'	計			
				a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c						
SK15	楕円形	鉢型	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0		
			内訳 一括																					
			分類外						押引文		凹線文		細沈線文		砂質土器		泥質土器		不明				計	
			総数						-		-		-		-		-						0	
			内訳 一括																					

第93表 SK15出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	磨石・砥石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	状石器	スクレイパー	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	剥片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SK15	総計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	2
	内訳 一括																					2		

土坑14号 (SK14) (第45図・第90・91表)

**検出状況:** P-17区で検出された。検出面はVII-a層を掘り下げた後の地山面である。遺構内に堆積するI層は包含層VII-a層の土であり、当初は「地山面の産地」と捉えていた。しかし、中層より埋土が変わることや、形状も人為的だと判断し、遺構として扱うこととした。他の遺構と切合いは見られず、単独で検出された。

**形状と規模:** 短軸1.18m×長軸1.27m×深さ0.9mで、平面形状は円形を呈する。

**堆積状況等:** 堆積するI層は包含層VII-a層の土である。II層以下は、遺物はわずかに出土する。

**出土遺物:** 砂質土器1点、泥質土器3点、石器2点(228g)、礫14点(2,845g)が出土した。このうち、砂質土器1点、石器2点を実測した。

分類可能な土器口縁部や文様を持つ土器胴部などは出土しなかったが、Ⅷ類に分類したものが1点ある。

土坑15号 (SK15) (第46図・第92・93表)

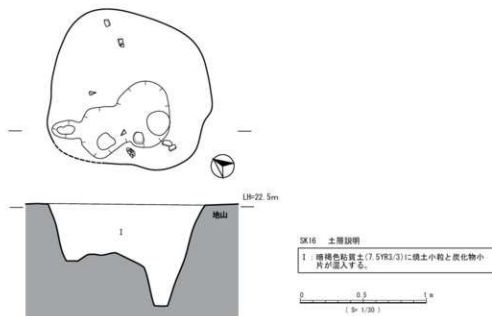
**検出状況:** O-15区で検出された。検出面はVII-a層を掘り下げた後の地山面である。SK14と同様に遺構内に堆積するI層は包含層VII-a層の土である。当初は「地山面の産地」と捉えていたが、形状が人為的だと判断し、遺構として扱うこととした。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

**形状と規模:** 短軸0.95m×長軸1.25m×深さ0.64mで、平面形状は楕円形を呈する。

**堆積状況等:** 単層である。遺物は礫が出土するのみで、遺構の用途の特定には至らなかった。

**出土遺物:** 礫2点(2g)が出土したのみで、実測は行っていない。





第47図 SK16 実測図

第94表 SK16出土土器集計表

遺構名	平面形状	断面形状	分類	I類															VII		計	
				II類			III類					IV類					V類		VII	VIII	計	
			総数	a	b	c	a	b	c	d	e	a	b	c	d	e	a'	b'	2	5	7	
SK16	円形	不定形	内訳	I層																	4	
				一括																		
			分類外	押引文 凹線文 細沈線文 砂質土器 泥質土器																2	1	
			総数																			
内訳	I層	一括																	3	68		

第95表 SK16出土石器・骨製品集計表

遺構名	器種	磨石	敲石	磨石・敲石	磨石・石	円形状石器	凹石	台石	台石系	石皿	石斧	砥石	有溝砥石	杵石	石製品	棒状石器	磨製石器	不明石器	石核	琥珀	刮片	(琥珀を除く)	骨製品	計
SK16	総計	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	6
	内訳	I層			1					1														
	一括									1													3	

土坑16号(SK16) (第47図・第94・95表)

**検出状況**：N-12区で検出された。検出面はVI-b層を掘り下げた後のVII-a層上面である。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

**形状と規模**：短軸1.21m×長軸1.29m×深さ0.4mで、平面形状は円形を呈するが、断面形状は不定形である。

**堆積状況等**：単層である。遺物はI層の上部に集中する。

**出土遺物**：泥質土器10点、石器3点(1,363g)、礫3点(314g)が出土した。このうち、泥質土器5点、石器3点を実測した。

土器は、V-b'類が2点出土したほか、VII'類に分類したものが5点ある。また、泥質土器胴部が出土している。

### (5) 溝状遺構 (SD)

縄文時代と考えられる溝状遺構（以下「SD」）は、15条検出した。すべてVI-b層を掘り下げた後のVII-a層上面で検出している。出土した遺物はわずかであったが、土器37点と石器7点が出土した。時代を特定できるような文様が施された土器は出土しなかったが、遺構の検出状況から、縄文時代晩期の遺物と考えられる。

長さや幅は遺構によって異なっているが、深さは0.1m以下のものがほとんどである。検出した遺構の一覧を第96表にまとめた。

SD01・SD03・SD04・SD06から採取した埋土サンプルを用い、フローテーションを行ったが、植物遺体や動物遺体は検出されなかった。

### 溝状遺構1号 (SD01) (第48図)

検出状況：P・Q-18区で検出された。遺構は、中世のピット5基と土坑(SK17)1基に切られている。

形状と規模：最大幅0.75m×長さ12.84m×最大深度0.07mを測る。

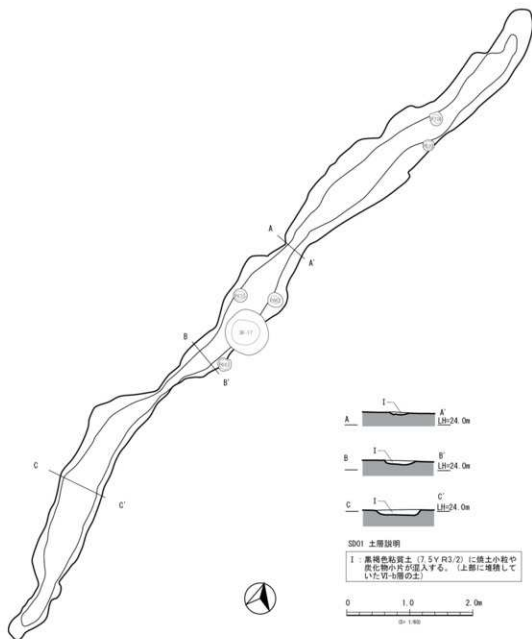
堆積状況等：単層である。

出土遺物：砂質土器36点、石器6点(77g)、礫21点(55g)が出土した。このうち、石器2点を実測した。

出土土器は全て小片の砂質土器であった。石器に関しては、石核片4点と磨石1点、敲石1点が出土した。

### 溝状遺構2号 (SD02) (第49図)

検出状況：O-16区で検出された。他の遺構と重複は見られず、



第48図 SD01 実測図

単独で検出された。SD-3と同軸上にあり、隣接していることから一連の遺構の可能性がある。

**形状と規模:**最大幅0.4m×長さ1.6m×最大深度0.07mを測る。

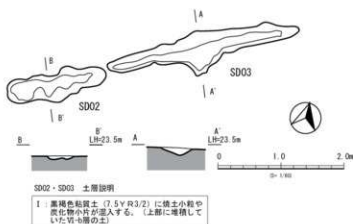
**堆積状況等:**単層である。

**出土遺物:**遺物は出土しなかった。

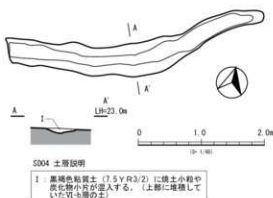
#### 溝状遺構3号 (SD03) (第49図)

**検出状況:**O-P-16区で検出された。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。SD-2と同軸上にあり、隣接していることから一連の遺構の可能性がある。

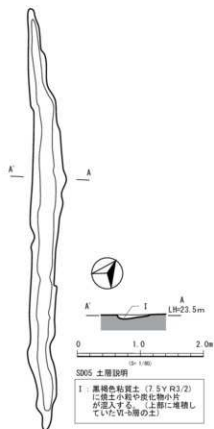
**形状と規模:**最大幅0.3m×長さ3.1m×最大深度0.15mを測る。



第49図 SD02・SD03 実測図



第50図 SD04 実測図



第51図 SD05 実測図

第96表 溝状遺構(SD)一覧

遺構名	検出区	検出面	最大幅 (m)	長さ (m)	最大深度 (m)	備考
SD01	P-Q-18	VII-a	0.75	12.84	0.07	
SD02	O-16	VII-a	0.4	1.6	0.07	
SD03	O-P-16	VII-a	0.3	3.1	0.15	
SD04	O-14	VII-a	0.45	4.1	0.07	
SD05	O-15	VII-a	0.4	6.7	0.1	
SD06	M-12	VII-a	0.45	4.1	0.07	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD07	M-13	VII-a	0.15	0.45	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD08	M-13	VII-a	0.22	2.7	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD09	M-13	VII-a	0.2	3.5	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD10	M-13	VII-a	0.25	1.55	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD11	M-13	VII-a	0.2	1.55	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD12	M-13	VII-a	0.25	3.7	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD13	N-13	VII-a	0.2	3.25	0.05	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD14	N-12	VII-a	0.2	3.3	-	埋土は包含層VI-b層が堆積
SD15	N-12	VII-a	0.25	2.5	-	埋土は包含層VI-b層が堆積

堆積状況等：単層である。

出土遺物：土器・石器は出土せず、縄が1点出土したのみであった。

#### 溝状遺構 4号 (SD04) (第50図)

検出状況：O-14区で検出された。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模：最大幅0.45m×長さ4.1m×最大深度0.07mを測る。

堆積状況等：単層である。

出土遺物：遺物は出土しなかった。

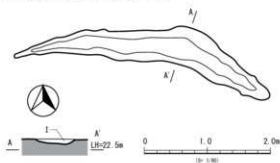
#### 溝状遺構 5号 (SD05) (第51図)

検出状況：O-15区で検出された。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模：最大幅0.4m×長さ6.7m×最大深度0.1mを測る。

堆積状況等：単層である。

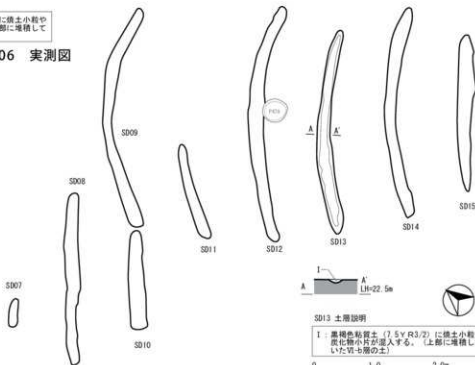
出土遺物：遺物は出土しなかった。



#### SD06 土層説明

I：黒褐色粘質土 (7.5V R3/2) に粘土小粒や炭化物小片が混入する。(上部に堆積していたVt層の土)

第52図 SD06 実測図



#### SD13 土層説明

I：黒褐色粘質土 (7.5V R3/2) に粘土小粒や炭化物小片が混入する。(上部に堆積していたVt層の土)

第53図 SD07～SD15 実測図

#### 溝状遺構 6号 (SD06) (第52図)

検出状況：M-12区で検出された。他の遺構と重複は見られず、単独で検出された。

形状と規模：最大幅0.45m×長さ4.1m×最大深度0.07mを測る。

堆積状況等：単層である。

出土遺物：砂質土器1点、石器1点 (97g) が出土した。このうち、石器1点を実測した。

土器は、無文の砂質土器小片であり、石器は磨礫石である。

#### 溝状遺構 7号～15号 (SD07～SD15) (第53図)

検出状況：M-N-12-13区で検出された。隣接して検出した、形状や軸方向、堆積状況が似ている9条の溝を一連の遺構として扱った。堆積は非常に浅く、自然堆積である可能性もある。

SD-12が中世のビット1基に切られているが、その他の遺構に重複は見られず、それぞれが単独で検出された。

形状と規模：概ね、最大幅0.2m×長さ3.0m×最大深度0.05mを測る。それぞれの詳細は第53図を参照のこと。

堆積状況等：単層である。SD13のみ断面図を作成したが、いずれも堆積状況は同じであった。

出土遺物：遺物は出土しなかった。

#### (6) 堅穴状遺構 (SH) 出土遺物

ここでは、SHからの出土遺物をまとめて紹介する。SHからは、遺物は24,268点出土し、そのうち炭化したものは661点である。以下、遺構ごとに遺物の観察を記述する。また、遺物観察表一覧は末尾に一括して掲載することとする。

#### SH01 (第54・55図・第97表)

##### I層 (1・2)

1は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が2面あり、合計4条の溝が観察できる。2は中粒砂岩を石材とする砥石である。全面に砥打痕が見られる。

##### II層 (3~10)

3・4はIIIc類土器である。5・6は砂質土器の平底底部である。7は頁岩を石材とする打製石器である。剥片を利用したと考えられる石器で、厚さが4mmと薄く、実測図下側の側面はナイフのように鋭く、細かな剥離が見られる。使用による剥離が、加工によるものかの判断はできなかった。ナイフやスクレイパー的な用途の可能性はある。8は頁岩を石材とする磨製の石製品である。厚さが4mmと薄く、四角に近い形状をしているが、側面3面に加工痕がないことから完形ではないと考えられる。擦痕が観察でき石製品と判断したが、本来の形状や用途は不明である。9は珉岩系の石材を使用した石皿である。この石器を用い、残存デンプン粒分析を行った。10は粗粒砂岩を石材とする砥石である。全面に砥打痕が見られる。

##### III層 (11~17)

11・12はIIIc類土器である。13~15は砂質土器の底部である。13・14は平底で、15は尖底である。16は中粒砂岩を石材とする磨製砥石である。この石器を用い、残存デンプン粒分析を行った。17は中粒砂岩を石材とする石皿である。この石器を用い、残存デンプン粒分析を行った。

##### V層 (18~22)

18はIIIb類土器である。内面にオサエによる器面調整が見られる。19はIIIc類土器である。内面には貝殻条痕が見られる。20・21は砂質土器の胴部である。20の外面には擦痕。21の内・外面にはオサエとケズリの器面調整が見られる。22は頁岩を石材とした磨製石斧である。石材の特性上、層状にはがけやすくなっており、検出した時点で状態は悪かった。

##### P174 (23)

23は軽石を石材とする有溝砥石である。1条の溝が観察できる。

#### SH02 (第56図・第97表)

##### I層 (24)

24は細粒砂岩を石材とする砥石である。長方形を呈する。

##### P5 (25)

25はIIIc類土器である。

#### SH03 (第57・58図・第97表)

##### I層 (26・27)

26は緑色岩を石材とする磨製石斧である。基部のみ残存する。27は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。1条の溝が観察される。

##### I・II層 (28~31)

28~31は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。28は使用面が3面あり、合計3条の溝がある。29は全面が使用されており、合計15条の溝がある。30は使用面が2面あり、合計2条の溝がある。31は使用面が3面あり、合計3条の溝がある。

##### II層 (32~39)

32はIIIc類土器である。33はIV-b類土器である。34はIVc類土器である。口唇部に連点が施されている。35・36は砂質土器の平底底部である。35の胎土には金色の雲母が混入する。37は粗粒砂岩を石材とする磨製砥石である。38は中粒砂岩を石材とする台石である。39は緑色岩を石材とする円形砥石器である。

##### III層 (40)

40はIIIc類土器である。

遺構内一括取りトナリ (41~45)

41は中粒砂岩製の磨製砥石である。半分が欠損している。42は泥岩を石材とする磨製石器である。片側を刃部のように整形し、スクレイパーのような形状を持つ。完形でないため本来の形状や用途は不明である。43~45は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。43は使用面が1面あり、3条の溝が観察できる。44は使用面が3面あり、合計9条の溝が観察できる。45は使用面が3面あり、合計4条の溝が観察できる。

#### SH04 (第59・60図・第97表)

##### I・A層 (46~48)

46はIVa類土器である。口唇部に連点が施されている。47は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が2面あり、合計2条の溝がある。48は細粒閃緑岩を石材とする磨製石斧である。基部のみが残存する。

##### I層 (49~67)

49はIIa類土器である。内・外面に貝殻条痕が観察できる。50はIIIc類土器である。51は押引文系の土器胴部である。52~56はIVa類土器である。52~54は口唇部に連点が施されている。53は波状口縁である。57はIV-b類土器である。口唇部に刻目が施されている。58・59はIVc類土器である。60はIV類の砂質土器である。口縁部の下部に貝付突帯を施し疑似肥厚をさせている。肥厚部及びその下部に細い楕形の工具で押引文を施す。波状口縁である。61はIV類の泥質土器

頸部である。粘土紐を輪状に貼り付け、凹線で文様を施している。壺の裝飾部と考えられる。62・63は砂質土器の平底底部である。62は胎土に金色の雲母が混入する。64～66は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。64は使用面が1面あり、2条の溝が十字に走っている。65は使用面が3面あり、合計19条の溝がある。66は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。67は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。

#### II層 (68～72)

68はII-a類土器である。内・外面に貝殻条痕が観察できる。69はIII-c類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。70は細沈文系土器の胴部である。71は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が3面あり、合計6条の溝がある。72は緑色岩を石材とする磨礫石である。大部分が使用により剥離している。

床面直上 (73・74)

73は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。1条の溝がある。74は緑色岩を石材とする磨礫石である。側面に細かな磨礫痕が見られる。

遺構内一括取り上げ (75～81)

75・76はIV-c類土器である。75は口唇部に鋸歯状の文様が施されている。59は波状口縁である。77・78はIV-d類土器である。口唇部に連点が施されている。79～81は砂質土器の平底底部である。

### SH05 (第61～68図・第98・99表)

#### I層 (82～104)

82はI類土器である。内面に貝殻条痕が見られる。83はII-a類土器である。口唇部に縦状に粘土紐を貼り付け突起を作り、その部分に細沈文で施文している。84はIII-c類土器である。内面に貝殻条痕が観察できる。85はIII-d類土器である。86はIV-a類土器である。87～89はIV-b類土器である。90は凹線文系土器の胴部である。91・92はIV-c類土器である。91は波状口縁である。92は口唇部に連点が施されている。93・94は、VIII類の砂質土器である。93は胴部に羽状文を施した胴部である。胎土は粗く、他の土器と比べ器壁が厚い。94は、二重口縁形の壺と考えられる口縁部である。口縁・口唇に細かな押し引きで籠目文様を施している。いづれも文様の一部として貫通した穴が数が数か所見られ、胎土に金色の雲母が混入する。VIII類に分類したが、口縁の断面形状や施文方法はIV-a類である。95は砂質土器の平底底部である。96～101は有溝砥石である。101は軽石製であるが、それ以外は中粒砂岩製である。96は、有溝砥石の中で大きめの石材であるが、使用面は1面で、1条のみ溝がある。97は使用面が3面あり、合計6条の溝がある。98は使用面が3面あり、合計5条の溝がある。99は使用面が2面あり、合計5条の溝がある。100・101は使用面が1面あり、1条の溝が確認できる。102はたまた

型に形成した磨製の石製品である。上部は欠損しているが、貫通孔が1点施されている。裝飾品の可能性がある。石材は頁岩である。103は中粒砂岩を石材とする磨礫石である。104は中粒砂岩を石材とする石皿である。

#### II層 (105～115)

105はIII-a類土器である。106は押し文系土器の胴部である。107は、凹線文を有する砂質土器胴部である。胎土に金色の雲母が混入する。108はIV-a類土器である。口唇部及び口縁外面に角状の工具で押し文を施してある。器壁は他の物より厚く胎土は粗い。109～111はIV-b類土器である。111は胎土に金色の雲母が混入している。112は凹線文系土器の胴部である。113はIV-c類土器である。113は胎土に金色の雲母が混入する。114・115は砂質土器の平底底部である。

#### III層 (116～123)

116・117はII-b類土器である。116は内面の口縁部に沿って連点が施され、その下には貝殻条痕が見られる。117は外面に2条の沈線文が施されている。118はIV-b類土器である。119はVIII類に分類した砂質土器である。波状文を外面に施し、胎土に金色の雲母が混入する。120は砂質土器の平底底部である。立ちあがり部分がきれいに欠けており、円盤状土製品の製作途中のもの可能性もある。121・122は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。121は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。122は使用面が1面あり、2条の溝がある。また、その裏面は磨度を伴って平滑面となっている。通常の砥石としても使用されていたと考えられる。123は中粒砂岩を石材とする凹石である。

遺構内一括取り上げ (124～205)

124～127はII-a類土器である。124は外面に、126は内・外面に貝殻条痕が見られる。128・129はII-b類土器である。128は外面に沈線文、内面に口縁部に沿って連点が施され、貝殻条痕が観察できる。129は外面に細沈文を組み合わせた形状の文様を施し、内面に口縁に沿って凹線文を1条施している。また、口唇部には斜め平行に刻み目文を施している。胎土には金色の雲母が混入している。130・131はII-c類土器である。130は舟形壺の可能性もある。131は波状口縁であり、口唇部に粘土紐を縦状に貼り付けて肥厚させ、その部分及び口唇、口縁に押し文を施している。内面には、口縁に沿って連点が施されている。132はIII-a類土器である。胎土に金色の雲母が混入している。波状口縁である。133はIII-c類土器である。内面に貝殻条痕が観察できる。134～136はIII-e類土器の胴部である。134は胎土に金色の雲母が混入する。137～140はIV-a類土器である。137は口唇部に連点文を施している。胴部の押し文は、連点文に近い。138は波状口縁である。141～149はIV-b類土器である。141は波状口縁である。144・145の内面にはオサエによる調整が観察できる。150・151はIV-c類土器である。150は胎土に金色の雲母が混入す

る。152~154はIV-d類土器である。153・154は口唇部に連点が施されている。152の胎土に金色の雲母が混入する。155・156は押引文を施した砂質土器胴部である。157~167は凹線文を有する砂質土器胴部である。168は細沈線文を有する砂質土器胴部である。胎土に金色の雲母が混入する。169~176は、VIII類の砂質土器である。169は外面に凹線を施している。口縁は丸みを帯び、波状口縁である。胎土に金色の雲母が混入する。170は口縁部に半月状の施文具で2条の連点を施した口縁部である。口縁は丸みを帯び、器壁は薄くしっかりとしている。171・172は、二重口縁形の壺と考えられる口縁部である。口縁・口唇に細かな押引きで龍目文様を施している。いずれも文様の一部として貫通した穴が数か所見られ、胎土に金色の雲母が混入する。VIII類に分類したが、口縁の断面形状や施文方法はIV-a類である。173は深鉢の口縁裝飾部分と考えられる口縁突起部である。肥厚させた口縁部に押引文を施している。VIII類に分類したが、口縁の断面形状や施文方法はII-c類に近い。174は格子目状の連点と凹線文で施文された胴部である。波状口縁と考えられる。胎土は粗く、金色の雲母が混入している。175は胴部に羽状文を施した胴部である。胎土は粗く、他の土器と比べ器壁が厚い。176は外面に凹線文が2条施されている胴部である。177~183は砂質土器の平底底部である。177は底径が8.9cmを測る。182は立ちあがり部分がきれいに欠けており、円盤状土製品の製作途中のもの可能性もある。184~190は有溝砥石である。184は軽石製であるが、それ以外は中粒砂岩製である。184は使用面が1面あり、2条の溝が観察できる。185は使用面が1面あり、平行した2条の溝が見られる。186は使用面が3面あり、合計4条の溝が確認できる。小さな石材を有効活用している。187は使用面が3面あり、合計9条の溝がある。いずれの使用面も平滑面となっており、通常の砥石としても利用していたと考えられる。188は使用面が2面あり、合計5条の溝がある。189は使用面が1面あり、1条の溝がある。190は1条の溝があり、溝のある面の裏側は中央に敲打痕や擦痕が見られる。磨砥石としても使用されたと考えられる。191・192は中粒砂岩を石材とする砥石である。191は全面に敲打痕があり、球形を呈する。193・194は中粒砂岩を石材とする凹石である。195~200は磨砥石である。石材は、195が緑色岩で、196が緑色片岩、197が玄武岩起源の変成岩、198が粗粒砂岩、199が燧石閃緑岩、200が粗粒砂岩である。201・202は緑色岩を石材とする磨製石斧である。201は両端に刃部を作っている。202は基部のみ残存する。203・204は中粒砂岩を石材とする石皿である。203は敲打痕も観察される。204は完形と考えられる。上面中央付近に比較的浅い敲打痕と、端に蓋状の凹みが1か所ある。裏面中央部にも同様の凹みがあり、凹みの深さは8mm程度である。205は中粒砂岩を石材とする、用途不明の大型の石製品である。

形状は石皿に似るが、全面に敲打する形成痕が残る。

#### SH06 (第69図・第99表)

遺構内一括取り上げ (206~213)

206はII-a類土器である。口唇部に文様はみられない。207はII-b類土器である。口唇部に沈線と連点が施され、外面には浅い沈線が見られる。208はIV-a類土器である。口唇部が欠損している。209はIV-e類土器である。口唇部に連点が施されている。210はIV-d類土器である。平行沈線による区画内に凹線に近い押引きが施されている。211は、VIII類の砂質土器である。口唇部から内・外面口縁部に斜め平行沈線を施している。212は、頁岩を石材とする小型の磨製石製品である。涙状の形をしており、厚さは8mmである。表面には整形時の細かな擦痕が見られる。213は中粒砂岩を石材とする台石である。全体に敲打痕が観察できる。

#### SH07 (第70図・第99表)

I層 (214~223)

214はIII-c類土器である。215・216はIV-d類土器である。216は胎土に金色の雲母が混入している。217は凹線文系の土器胴部である。218は砂質土器の平底底部である。立ち上がり部分がきれいに欠けており、円盤状土製品に加工する途中の可能性ある。219~221は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。219は小さい石材ながら4面を使用しており、合計5条の溝が確認できる。220は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。221は使用面が3面あり、計10条の溝がある。222はホルンボウルを石材とする石核である。223は粗粒砂岩を石材とする砥石である。

II層 (224)

224はIV-d類土器である。波状口縁で、胎土に金色の雲母が混入している。

遺構内一括取り上げ (225~227)

225はIV-a類土器である。半月状の工具による押引文がやや浅く施されている。226は中粒砂岩を石材とする台石である。227は緑色岩を石材とする磨製石斧である。側面には敲打痕が見られ、大部分が破壊している。

#### SH06・SH07一括取り上げ (第71図・第99表)

228はII-a類土器である。229は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。全面を使用しており、合計11条の溝がある。

#### SH08 (第72図・第99表)

230は頁岩を石材とする磨製石器である。実測図下側を刃部のように整形している。ナイフなどの用途が考えられる。

I層から出土した。

### SH08・SH09一括取り上げ (第73図・第99表)

231はⅡc類土器である。232はⅢc類土器である。233・234はⅣ類の砂質土器である。233は、口縁部がすこし丸みを帯びた三角型に近い形状で、口唇部から口縁内面にかけてに斜め平行細線文、外面に破線のような文様を沈線で施している。234は、口縁が丸みを帯びた形状で、外面に縦位と横位の凹線を組み合わせた文様を施す。器壁は4mmと薄いが、胎土は緻密でしっかりとしている。

### SH10 (第74・75図・第99・100表)

#### 遺構内一括取り上げ (235)

235はⅣ類の砂質土器である。口縁部外面を細線文で網目状の文様を施した器体である。口縁断面形状は舌状である。

#### I層 (236~240)

236・237はⅢ-d類土器である。幅の広い丸型の工具で浅く押し引文が施されている。238はⅣ類の砂質土器である。口唇部に又状の連点文を施し、外面には口縁と並行する細い突帯を1条貼り付けその両端に連点文を施している。口縁の断面形状は丸形で、他の土器に比べ器壁が厚みである。239・240は緑色岩を石材とする磨礫石である。

#### 床面直上出土 (241)

241は粗粒砂岩を石材とする礫石である。両平坦面中央付近にくぼみが見られる。また、敲打痕は他のものより深く、かなり使い込まれた製品と考えられる。

#### P3 (242・243)

242は中粒砂岩を石材とする凹石である。敲打による局部的な凹みが3か所あり、磨痕を伴う平滑面が2面確認できる。台石や石皿として使用するには不安定な形状である。243は中粒砂岩を石材とする台石・石皿である。片面は敲打による局部的な凹みがあり、裏面は緩やかな皿状の平滑面と敲打痕が観察される。

### SH11 (第76・77図・第100表)

#### I層 (244~259)

244はⅢc類土器である。245~250はⅣb類土器である。凹線による文様は、籠目状や鋸歯状のものなど様々であるが、すべて口唇に連点を施している。また、246・250は、胎土に金色の雲母が混入する。251・252はⅣc類土器である。251は内面にオサエによる調整が見られる。253はⅣ-d類土器である。波状口縁で口唇部に連点を施している。254・255は、凹線文系の砂質土器胴部である。胎土に金色の雲母が混入する。255は、外面に、内面にオサエによる調整が見られる。256・257は砂質土器の平底底部である。底径は、256が8.2cm、257が4.6cmを測る。258は中粒砂岩を石材とする礫石である。259は緑色岩を石材とする磨礫石である。両平坦面よりも側面の方に敲打痕が集中している。

#### II層 (260)

260は砂質土器の平底底部である。底径は7.6cmを測る。内面にはオサエによる調整が観察できる。

#### 遺構内一括取り上げ (261~263)

261はⅣ-d類土器である。262・263は中粒砂岩を石材とする有溝礫石である。262は使用面が1面で、1条の溝が確認できる。溝は浅く、かすかに見える程度である。263は全面に溝が観察され、合計18条の溝がある。

### SH12 (第78~81図・第100表)

#### I層 (264~297)

264・265はⅡa類土器である。265の外面には貝殻条痕が残る。266~269はⅣa類土器である。口唇部には連点や刻み目が施され、266は内面の口縁部にも連点による施文が見られる。267の押し引文は細い工具を用いている。268は連点に近い押し引文である。269は凹線に近い押し引文であり、胎土には金色の雲母が混入している。270はⅣ-b類土器である。凹線による羽状の文様が施されている。271・272はⅣ-c類土器である。273はⅣ-d類土器である。波状口縁で、胎土に金色の雲母が混入する。274は押し引文系の土器胴部である。275・276はⅣ類の砂質土器である。275は口縁部周囲に連点文を施している。口縁の断面形状は丸形で、胎土には金色の雲母が混入する。波状口縁である。276は、二重口縁系の壺などの疑似口縁部と考えられる。粘土を貼り付けて肥厚させた部分に凹線による文様を施している。277~284は平底底部である。284は泥質土器であるが、それ以外は砂質土器である。282は胴部外面にはオサエ、内面にはオサエによる器面調整が観察できる。283の底径は5.8cmに復元できる。284は底径が6.5cmを測り、内面はオサエによる器面調整が観察できる。285~294は中粒砂岩を石材とする有溝礫石である。285は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。286は使用面が2面あり、合計2条の溝がある。287は使用面が1面で、合計2条の溝が観察できる。288は使用面が1面で、1条の溝が観察できる。289は使用面が3面あり、深さや大きさが様々な溝が合計8条観察できる。290は2面に合計3条の溝がある。また、溝のない面のうち1面は磨痕を伴う平滑面であり、通常の礫石としても使用されていたと考えられる。291は使用面が4面あり、幅や深さが様々な7条の溝が観察できる。292は全面に溝があり、合計で25条の溝がある。293は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。294は使用面が4面あり、合計11条の溝がある。295~297は磨礫石である。297は安山岩製であるが、その他は粗粒砂岩製である。これらの石器を用い、残存デンプン粒分析を行った。



## II層 (298・299)

298・299 は中粒砂岩を石材とする台石である。

### 床面直上 (300~310)

300・301 は砂質土器の平底底部である。302~306 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。302 は小片であるが、1 条の溝がある。303 は使用面が 3 面あり、合計 7 条の溝がある。304 は 3 面に合計 10 条の溝がある。そのうちの 1 面は溝とともに磨痕を伴う平滑面であり、通常の砥石としても使用されていたと考えられる。305 は 2 面に合計 7 条の溝がある。また、溝のない面のうち、1 面は敲打痕がみられ、敲石としても使用されていたと考えられる。306 は 3 面に合計 4 条の溝が確認できる。また、平滑面が 2 面あり、通常の砥石としても使用されていたと考えられる。307 は緑色岩を石材とする円形石器である。308・309 は粗粒砂岩を石材とする磨敲石である。309 の石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。310 は泥岩を石材とする磨製の小型石製品である。石斧のような形状をしており、全面に磨痕が観察できる。

### 遺構内一括取り上げ (311~313)

311 はⅦ類の砂質土器である。311 は、口縁外面に直線的な凹線文によって龍目文様を施している。また、口縁部に沿って一定の間隔で、貫通した小さな穴を開けている。Ⅲc 類土器に近いが、口縁の断面形状が舌状で肥厚も見られないことからⅦ類に分類した。312・313 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。312 は 3 面に合計 11 条の溝がある。313 は 2 面に合計 6 条の溝が観察できる。

## SH13 (第 82~86 図・第 100・101 表)

### II層 (314~331)

314 はⅣc 類土器である。315~317 は細紋線文系の土器胴部である。317 は内面にナデ・オサエによる器面調整が残る。

318~320 はⅦ類の砂質土器である。318 は連点文が施された胴部である。肥厚により段差をつけ文様帯とし、連点で埋めている。319 は外面に細紋線文で文様を施した土器である。文様は、横位の平行線を数本施し、その間を 3 本 1 組の斜め平行沈線で施文している。口縁部の断面形状は舌状である。320 は口縁部直下に細紋線文を複数施し、その下部を連点文で文様を施した土器である。321 は泥質土器の平底底部である。322~324 は中粒砂岩の有溝砥石である。322 は使用面が 1 面だが、2 条の溝がある。323・324 はそれぞれ 1 条ずつ溝がある。325 は細粒緑岩を石材とする磨製石斧の基部である。側面は細かな敲打痕が見られる。326 は中粒砂岩を石材とする石皿である。この石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。327・328 は粗粒砂岩を石材とする磨敲石である。328 の石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。329~331 は粗粒砂岩を石材とする台石である。329 は両平坦面に敲打痕が観察できる。この石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。

331 は、両面に平滑面も見られることから石皿としても使用されたと考えられる。

### 床面直上 (332~337)

332 は凹線文系の土器胴部である。器壁の厚みや断面形状からⅣb 類の可能性が高い。333 は泥質土器胴部である。外面にナデ・オサエによる調整が見られる。文様は見られない。334・335 は磨敲石である。334 は、粗粒砂岩製で溝輪状を呈しており、平坦部には磨痕が残る。335 は緑色岩製で、側面に細かな敲打痕が見られる。336・337 は台石である。336 は中粒砂岩製で、石皿としても使用されている。この石器を用い、残存デンブン粒分析を行った。337 は、崩り跡跡で出土した最大の石器であるが、磨痕や敲打痕がわずかに観察される程度である。石材は粗粒砂岩である。

### P1 (338・339)

338 はⅣc 類土器である。339 は中粒砂岩製の有溝砥石である。1 条の溝が観察できる。

### 遺構内一括取り上げ (340~347)

340 はⅡa 類土器である。341 はⅣa 類土器である。波状口縁である。342 は細紋線文系の土器胴部である。343~345 は中粒砂岩の有溝砥石である。343・344 はそれぞれ 1 条ずつ溝が観察できる。345 は使用面が 2 面あり、2 条ずつ溝がある。346・347 は中粒砂岩を石材とする石皿である。

## SH14 (第 87・88 図・第 101 表)

### I層 (348~353)

348 はⅣb 類土器である。348 と後述の 370 は、接合しないが胎土や施文が同じであり、同一個体の可能性が高い。349 は細紋線文系の土器である。断面形状や文様からⅣc 類土器の可能性が高い。350 は押引文系の土器である。細い輪状の工具で施文している。351 は砂質土器胴部である。内面にはオサエによる調整が見られる。壺と考えられるが、遺物の天・地の判断が難しく、後述する 419 のような径の小さな深鉢の可能性もある。353 は粗粒砂岩製の磨敲石である。352 は砂質土器の平底底部である。

### II層 (354~366)

354 はⅢa 類土器である。波状口縁である。355 はⅣb 類土器である。356 はⅦ類の砂質土器である。口縁部外面に押引きで文様が施され、器壁は薄くしっかりしている。形状から二重口縁系の壺の可能性も考えられる。357~363 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。357 は使用面が 2 面あり、合計 2 条の溝がある。358 は使用面が 1 面であるが、合計 3 条の溝が観察される。また、溝のない面のうち 1 面が平滑面であり、通常の砥石としても使用されていたと考えられる。359 は使用面が 1 面あり、合計 2 条の溝がある。360 は 1 条の溝が観察できる。溝のない面のうち 1 面は平滑面で、通常の砥石としても使用されていたと考えられる。361 は使用面

が3面あり、合計6条の溝がある。362は1条の溝がある。363は使用面が3面あり、合計6条の溝がある。364は緑色岩を石材とする磨礫石である。半分が欠損している。365は中粒砂岩を石材とする礫石である。石皿からの転用と考えられる。366は中粒砂岩を石材とする台石である。

### Ⅲ層 (367・368)

367はⅢ類の砂質土器である。片口土器口縁部の取っ手部分と考えられる。口縁部に縦に粘土紐を貼り付けて波状にし、細い棒状の工具を用いて押し引きで施文している。取っ手部分の施文は、中央部の押し文を最後に施している。内面は、口縁に沿って連点文が施されている。368は中粒砂岩を石材とする台石である。

### Ⅱ・Ⅲ層一括取り上げ (369)

369はⅢc類土器である。

### 遺構内一括取り上げ (370~373)

370はIVb類土器である。348と胎土や施文が同じであり、接合しないか同一個体の可能性が高い。371はIVc類土器である。波状口縁で、口唇部に連点文が施されている。372・373は中粒砂岩を石材とする有溝礫石である。372は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。373は4面に合計5条の溝がある。

## SH15 (第89・90図・第101表)

### I層 (374~377)

374はⅡb類土器である。外面に沈線文が見られる。375はIVd類土器である。376はⅢ類の砂質土器である。細沈線による網目状に文様を施している。胎土は緻密で器壁は薄く、しっかりとしている。377は中粒砂岩を石材とする有溝礫石である。使用面は1面であるが、合計3条の溝がある。

### 遺構内一括取り上げ (378~392)

378はⅢc類土器である。379・380はIVd類土器である。381は細沈線で網目文を施した砂質土器胴部である。細沈線による網目文は、VI類土器の口縁部から胴部にかけての文様帯下部に施されていることが多く、これらもIV類土器に相当する土器の可能性が高い。382・383は平底底部である。382は砂質土器で、383は泥質土器である。384~389は中粒砂岩を石材とする有溝礫石である。384は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。385は使用面が2面あり、合計2条の溝がある。386は溝が1条ある。また、溝のない面のうち1面は平滑面で、通常の礫石としても使用されていたと考えられる。387は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。388は3面に合計5条の溝がある。また、溝のない面のうち1面は敲打痕があり、礫石としても利用されている。389は1条の溝がある。390はホルンフェルス石を石材とした磨礫石製品である。楕円形に近い形状で、厚さは約1.2cmを測る。全面に擦痕が観察され、よく磨かれている。貫通した穴が一つある

が、人為的な感じはなく自然石の穴を利用した可能性が高い。穴の周囲は一部欠損している。391は安山岩を石材とする磨礫石である。両平坦面中央部に敲打によるわずかな凹みが見られる。392は中粒砂岩を石材とする凹石である。

## SH16 (第91図・第101・102表)

### I層 (393~405)

393はⅢa類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。394はⅢc類土器である。395はIVa類土器である。口唇部に連点文が施されている。396はIVb類土器である。口唇部に連点文が施されている。397は中粒砂岩を石材とする有溝礫石である。使用面が3面あり、合計4条の溝がある。398は中粒砂岩を石材とする礫石である。

### 遺構内一括取り上げ (399~405)

399はIVa類土器である。口唇部に連点文が施されている。400は円盤状土製品である。砂質土器の底部からの転用と考えられる。401~403は中粒砂岩を石材とする有溝礫石である。401は使用面が2面あり、合計3条の溝が観察できる。402は使用面が2面あり、合計7条の溝がある。403は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。404は中粒砂岩を石材とする礫石である。405は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。全面に敲打痕があり、かなり使い込まれた製品と考えられる。

## SH17 (第92・93図・第102表)

### I層 (406~410)

406はⅡc類土器である。内・外面に貝殻条痕が見られる。407はⅢdの泥質土器である。細沈線文を施した壺形土器胴部と考えられる。文様的にはIVc類やVb類であるが、IVc類に相当する泥質土器が他に出土していないことや突帯などもないことから細分類ができず、今回はⅢd類に分類した。408は中粒砂岩を石材とする有溝礫石である。使用面は3面あり、合計8条の溝がある。小さな石材を最大限に利用している。409は斑岩系の石を石材とする台石である。全面に敲打痕が見られ、局所的な凹みや平滑面も伴った石器である。礫石や礫石としても利用されたと考えられる。410は中粒砂岩を石材とする棒状の磨礫石製品である。角に丸みを持たせた四角柱に整形しているが、完形ではないため、本来の形状や用途は不明である。

### I・II層 (411~415)

411・412はⅡc類土器である。411は外面に2条の押し文がみられる。412は口縁部の裝飾部分と考えられ、口唇部に粘土紐を縦線に張り付けて波状にしている。413はⅢa類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。414・415は中粒砂岩を石材とする有溝礫石である。414は使用面が1面だが合計4条の溝がある。415は2面に合計3条の溝がある。床面直上(416・417)

416 はⅡ-a 類土器である。内・外面ともに貝殻条痕が見られる。417 はⅢ類の砂質土器である。貼り付け粘土で立体的に縞目を作り、その部に細かな押引きによって施文している。壺の頸部の裝飾部分の可能性が高い。

遺構内一括取り上げ (418~423)

418 はⅢ-c 類土器である。419 はⅣⅠの泥質土器である。小型の深鉢で、口縁付近に柳状の細い道具で連点に近い押引文を施している。断面形状や文様構成はⅣ-a 系であるが、押引文を持つ泥質土器が他に出土していないことからⅣ類に分類した。420 は泥質土器の平底底部～胴部である。残存する部分に施文は見られない。421 は中粒砂岩製の凹石である。両平坦面に敲打による凹みがある。422・423 は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。両平坦面に敲打による凹みがある。

#### SH18 (第94~96図・第102表)

I層 (424~448)

424 はⅣ-a 類土器である。425 はⅣ-b 類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。426~429 はⅣ-c 類土器である。426 は波状口縁で、鋸歯状の文様が施されている。428 は内面に貝殻条痕が見られる。430~435 はⅣ-d 類土器である。430~434 は口唇部に連点が施されている。435 は波状口縁部の一部分の可能性が考えられるが、器種などは定かでない。436~438 は土器の平底底部である。436・437 は胎土が砂質で、438 は泥質である。439 は円盤状土製品である。砂質土器の胴部を加工したものと考えられる。440~442 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は1面であるが、440 は2条、441 は3条、442 は4条の溝がある。443・444 は緑色岩を石材とする円形状石器である。445 は中粒砂岩を石材とする磨礫石である。446 は緑色岩を石材とする磨礫石斧である。基部には、打ち欠いた平坦面が見られ、柄などを固定しやすいように加工した可能性がある。447 は軽石を加工した石製品である。中央部分が大きく凹み、器のような形状を呈しているが、用途は不明である。448 は台石と石皿の両方の特徴を持つ石器である。上面・側面の2面に蓋状を呈する凹みが2か所見られる。凹みの深さはそれぞれであるが、1.2cm程度である。使用によるものか、意図的なものかは不明である。それぞれの面に平滑面がある。

II層 (449)

449 は緑色岩を石材とする磨礫石斧である。側面に敲打による剥離があり、刃部は欠損している。

床面直上(450~453)

450 はⅣ-c 類土器である。胎土には金色の雲母が混入する。451 は円盤状土製品である。泥質土器の胴部を加工したものと考えられる。452 は緑色岩を石材とする磨礫石斧である。刃部が欠損している。453 は緑色岩を石材とする磨礫石である。

遺構内一括取り上げ (454~459)

454 はⅣ-c 類土器である。455・456 は円盤状土製品である。土器の胴部を加工したものと考えられる。455 はⅣ-d 類の砂質土器、456 はⅣ-c 類などの細粒線文を有する砂質土器を加工したものと考えられる。457 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は2面で、合計4条の溝がある。458・459 は磨礫石である。石材は、458 が緑色岩で459 が中粒砂岩である。

#### SH19 (第97・98図・第102表)

遺構内一括取り上げ (460~468)

460~463 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。460 は使用面が2面あり、合計4条の溝がある。461 は使用面が2面あり、合計2条の溝がある。462 は使用面が1面であるが、合計4条の溝がある。463 は使用面が2面あり、合計2条の溝がある。464 は中粒砂岩を石材とする砥石である。465 は中粒砂岩を石材とする凹石である。3面を使用しており、それぞれ中央部に凹みがある。466~468 は磨礫石である。466 は粗粒砂岩製で、たまご型に近い形を呈しており、全面に敲打痕が見られる。467 は緑色岩製で、敲打痕は各面の中央付近に集中している。468 は中粒砂岩製である。

#### SH20 (第99~101図・第102・103表)

I層 (469~491)

469・470 はⅣ-b 類土器である。469 の口唇部文様は、Ⅳ-b 類土器の大部分を占める連点ではなく、1条の沈線が施されている。470 の口唇部には連点が施されている。471・472 はⅣ-d 類土器である。472 は波状口縁である。473 はⅣ-c 類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。474・475 は細粒線文で鋸歯文が施された胴部である。Ⅳ類土器の文様帯下部に施された鋸歯文の可能性が高い。476~478 は土器の平底底部である。胎土は、476・477 が砂質で、478 が泥質である。479~481 は円盤状土製品である。479 は泥質土器の胴部を加工したものと考えられる。480 は細粒線文と押引文を組み合わせた文様があり、Ⅳ-d 類土器胴部を加工したものと考えられる。481 は砂質土器の底部を加工したものと考えられる。中央部に凹みを作っている。482~487 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。482 は使用面が2面あり、合計2条の溝がある。溝のない1面は平滑面となっており、砥石として使用したと考えられる。483 は使用面が4面あり、幅や深さが様々な溝が合計34条ある。484 は使用面が4面あり、合計6条の溝がある。485 は全面を使用しており、合計11条の溝がある。486 は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。487 は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。488・489 は緑色岩を石材とする磨礫石である。490 は緑色岩を石材とする円形状石器である。側面には細かな敲打痕が見られる。491 は中粒

砂岩を石材とした角の丸い三角錐状の石製品である。用途は不明である。

#### II層 (492~496)

492・493は押引文系の土器胴部である。断面形状から、492はIIIc類に、493はIV-a類該当する土器の可能性が高い。494はⅧ類の砂質土器である。細紋線により鋸歯状の文様を施した土器である。口縁の断面形状は舌状であり、波状口縁である。器壁は薄くしっかりとしており、胎土に金色の雲母が混入している。495は砂質土器の平底底部である。496は中粒砂岩を石材とする凹石である。2面の中央部に凹みが見られ、側面には敲打痕が全体的に観察される。

#### III層 (497)

497はIV-d類土器である。

#### IV層 (498~501)

498はIV-b類土器である。波状口縁である。499・500はⅧ類の砂質土器である。499は押引文を施した土器である。口縁部は丸みを帯び、器壁は薄くしっかりとしている。壺の可能性が高い。500は土器注口部の可能性があるが、不明の土器である。口唇部と考えられる部分に爪型の文様や連点を施している。501は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が2面あり、合計9条の溝がある。

#### 遺構内一括取り上げ (502~524)

502はII-b類土器である。内・外面に2枚貝を押し当てたような文様が施されている。503はIV-a類土器と分類したが、外面に施された押引文は連点に近い。口唇部には連点が施されている。504はIV-c類土器である。通常と同様土器に比べ、器壁が厚い。505~509はIV-d類土器である。505・506は波状口縁であり、胎土に金色の雲母が混入している。508は口唇部に連点が施されている。509は胎土に金色の雲母が混入している。510・511は細紋線で鋸歯文が施された胴部である。IV類土器の文様帯下部に施された鋸歯文の可能性が高い。512~514はⅧ類の砂質土器である。512は口縁部を断面三角形に肥厚させた文様帯に四角い工具で口縁に沿って横位に連点を施した深鉢である。口縁形状としてはⅢ類土器であるが、文様構成に違いが見られる事から今回はⅧ類に分類した。513は細紋線により鋸歯状の文様を施した土器である。口縁の断面形状は舌状である。器壁は薄くしっかりとしており、胎土に金色の雲母が混入している。波状口縁である。514は壺型土器の裝飾部と考えられる。口唇部から口縁にかけて縦位に粘土を貼り付け凸状を作っている。また、口唇部及び口縁付近に、短い縦線を組み合わせた施文している。515~521は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。515は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。516は使用面が3面あり、合計3条の溝がある。517は使用面が3面あり、合計3条の溝がある。518は1条の溝がある。溝のある面の裏側に磨痕があり、緩やかな皿状の凹みとすることから、石皿からの転用と考え

られる。519は使用面が4面あり、合計5条の溝がある。520は使用面が4面あり、合計11条の溝がある。521は使用面が3面あり、合計5条の溝がある。522は中粒砂岩を石材とする砥石である。523は中粒砂岩を石材とする砥石である。524は台石と石皿の特徴を併せ持つ中粒砂岩製の石器である。敲打によってきたと考えられる小さな凹みや、磨痕を伴った平滑面がある。

#### SH21 (第102・103図・第103表)

##### 1層 (525~533)

525~527はIV-c類土器である。525は口唇部に斜位の平行沈線文が施されている。526・527は波状口縁で、口唇部には連点文が施されている。接合はしないが、胎土や文様が同じであることから同一の個体の可能性が高い。528は緑色岩を石材とする円形状石器である。529は緑色岩を石材とする磨製の棒状石製品である。全体的に丸みを帯びている。側面には細かな敲打痕が見られる。530・531は粗粒砂岩を石材とする磨砥石である。532は中粒砂岩を石材とする石皿である。533は台石と石皿の両方の特徴を持つ細粒砂岩製の石器である。敲打痕が各面に見られるほか、2面は皿状の緩やかな凹みとなっている。

##### II層 (534)

534は安山岩を石材とする磨砥石である。

##### 床面直上(535)

535は泥岩を石材とする石製品である。中央に貫通した穴が2つあいているが、自然のものを利用したのか、穿ったものなのか半断ができなかった。外面には磨痕や敲打による剥離が観察されるが、用途不明である。

##### 遺構内一括取り上げ (536~539)

536・537はIV-b類土器である。536は口唇部に押引文が1条施してある。

538は細紋線で鋸歯状の文様を施した砂質土器胴部である。IV類土器の文様帯下部に施された鋸歯文の可能性が高い。539は骨製品である。表面を研磨し、中央に貫通した穴が1つあけられている。裝飾品と考えられる。獣骨であるが種の同定はできなかった。

#### SH16~21一括取り上げ (第104図・第103表)

##### 遺構内一括取り上げ (540~553)

540~546は円盤状土製品である。540~543は泥質土器胴部を、544・545は砂質土器胴部を加工した製品と考えられる。546は細紋線文と連点文を組み合わせた文様があり、IV-d類土器を加工した製品と考えられる。547は緑色岩を石材とする円形状石製品である。548~551は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。548は使用面が4面あり、合計7条の溝がある。549は幅が広く深い溝が1条あり、溝の反対側の面を平

滑面で、砥石として使用したと考えられる。550 は使用面が 2 面あり、合計 3 条の溝がある。551 は使用面が 3 面あり、合計 3 条の溝がある。552・553 は泥岩を石材とする磨製石製品である。552 は丸みを帯びた四角形を呈する。553 は石斧のような形状を呈し、刃部も作られている。

#### SH22 (第 105 図・第 103 表)

I 層 (554~558)

554 は押引文系土器胴部である。断面形状から、IV-a 類あるいは IV-d 類土器の可能性が高い。555 は砂質土器の平底底部である。556~558 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。556・557 は使用面が 2 面あり、合計 2 条の溝がある。558 は 1 条の溝が観察される。

遺構内一括取り上げ (559~562)

559 は土製品である。片面は凹線文で文様を施し、裏面は 1 か所突起を作っており、全体としてスタンプのような形状である。完形であるが、用途は不明である。

560 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。1 条の溝が観察される。561 は粗粒砂岩を石材とする磨製石である。562 は台石と石皿の特徴を併せ持つ中粒砂岩製の石器である。上下 2 面と側面 1 面に使用痕がある。

#### SH23 (第 106~108 図・第 104 表)

I 層 (563~570)

563・564 は IV-d 類土器である。563 は波状口縁である。565・566 は細沈線文系の土器である。567・568 は、VIII 類の砂質土器である。567 は、口縁の断面形状は丸形で、口唇部に縦位の刻み目を施している。外面には貝殻条痕が観察される。568 は胴部に施された肥厚部分に細沈線と連点文様を施している。また、その下部に羽状に近い文様を細沈線文で施している。壺の可能性もある。569 は砂質土器の平底底部である。570 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。570 は使用面が 4 面あり、合計 8 条の溝がある。

II 層 (571~573)

571・572 は IV-d 類土器である。波状口縁である。573 は緑色岩を石材とする磨製石斧である。基部のみが残存する。裏面は大部分が壊れている。

遺構内一括取り上げ (574~613)

574・575 は IV-a 類土器である。波状口縁で、口唇部に連点を施している。576・577 は IV-c 類土器である。いずれも波状口縁である。578~587 は IV-d 類土器である。578 は口唇部に連点が施されている。581 は波状口縁である。586 は胎土に金色の雲母が混入する。587 は細沈線による磨製石と押引きに近い連点文が残る胴部である。588 は細沈線文系の土器である。胎土に金色の雲母が混入する。589・590 は細沈線によって磨製石を施した砂質土器胴部である。IV 類土器の文様帯

下部に施された磨製石の可能性が高い。591・592 は VIII 類の泥質土器である。591 は胴部に取り付けられる取っ手のような形を呈しているが、張り付けられているわけではなく、意図的にこの形状にしている。部立や全体形状は不明であり、また、土製品の一部の可能性もある。592 は縦位に粘土を張り付けた壺の取っ手の部分である。593~600 は砂質土器の平底底部である。600 は底径が 6.0cm を測る。601~605 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。601 は使用面が 4 面あり、合計 7 条の溝がある。602・603 は 1 条の溝がある。604 は使用面が 1 面あり、合計 2 条の溝がある。605 は使用面が 2 面あり、合計 2 条の溝がある。606 は粗粒砂岩を石材とする磨製石である。大部分が欠損している。607 は粗粒砂岩を石材とするスクレイパー状石器である。608 は頁岩を石材とする磨製石器である。縦長のナイフのような形状をしている。厚さは 0.5cm と薄い。609・610 は磨製石である。石材は、609 が粗粒砂岩で、610 が中粒砂岩である。いずれも両平直面に浅い凹みがある。611 は中粒砂岩を石材とする台石である。612 は中粒砂岩を石材とする砥石である。613 は黒色泥質片岩の礫である。人為的な加工は見られない。石器等に加工する前の原礫と考えられる。

#### SH22・SH23 一括取り上げ (第 109 図・第 104 表)

I 層 (614~621)

614 は押引文系の土器である。615 は凹線文系の土器である。616~619 は IV-d 類土器である。617~619 の口唇部には連点が施されている。618 は波状口縁である。620 は細沈線で磨製石を施した砂質土器胴部である。IV 類土器の文様帯下部に施された磨製石の可能性が高い。621 は砂質土器の平底底部である。

遺構内一括取り上げ (622~624)

622 は III-c 類土器である。623 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が 4 面あり、合計 6 条の溝がある。624 は中粒砂岩を石材とする石皿である。両平直面中央付近にわずかに磨打痕が見られる。

#### SH24 (第 110 図・第 104 表)

I 層 (625~632)

625 は押引文系の土器である。連点に近い押引文を施し、下部には磨製石が観察できる。IV-a 類土器に相当する可能性が高い。626 は IV-a 類土器である。627~629 は IV-d 類土器である。627・628 は波状口縁である。630・631 は細沈線文で磨製石を施した砂質土器胴部である。IV 類土器の文様帯下部に施された磨製石の可能性が高い。632 は安山岩を石材とする砥石である。

遺構内一括取り上げ (633)

633 は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。1 条の溝があ

る。

#### SH25 (第111～112図・第104・105表)

I層 (634～638)

634はIV-d類土器である。635は細沈線文系の土器胴部である。断面形状や文様構成からIV-c類土器の可能性が高い。636は細沈線で鋸歯文を施した砂質土器胴部である。IV類土器の文様帯下部に施された鋸歯文の可能性が高い。胎土には金色の雲母が混入する。637は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。1面のみを使用しており、合計3条の溝がある。638は緑色岩を石材とする円形状石器である。

遺構内一括取り上げ (639～648)

639はIV-d類土器である。波状口縁である。640は細沈線で鋸歯文を施した砂質土器胴部である。IV類土器の文様帯下部に施された鋸歯文の可能性が高い。641はⅧ類の泥質土器である。壺や鉢などの口縁裝飾部と考えられる。波状に突起させた部分の内面・外面・口唇部と考えられる部分に、三角形を呈する小さな連点を施している。642は泥質土器の一部と考えられるが、部位などが不明のものである。鍋などに取り付ける横位の耳のような形状をしている。643は砂質土器の平底底部である。644は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である3面を使用しており、合計8条の溝がある。

645・646は中粒砂岩を石材とする磨礫石である。645は中粒砂岩製で、646は粗粒砂岩製である。647・648は台石と石皿の両方の特徴を持つ中粒砂岩製の石器である。いずれも盃状を呈する凹みが数か所見られる。凹みの深さはそれぞれであるが、おおよそ1.1cmで、深いものは1.6cm程度ある。これらの石器を用い、残存デンプン粒分析を行った。

#### SH26 (第113図・第105表)

遺構内一括取り上げ (649～656)

649はII-b類土器である。口唇部に1条の沈線を施し、外面には口縁部沿って連点を施す。その他のII類土器に比べ胎土が緻密でしっかりとしている。650はⅧ類の泥質土器である。舟形口縁を持つ壺の一部と考えられる。651・652は平底底部である。胎土は、651が砂質で、652が泥質である。653～655は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。653は使用面が2面あり、合計2条の溝がある。654・655は使用面が3面あり、合計3条の溝がある。656は粗粒砂岩を石材とする礫石である。

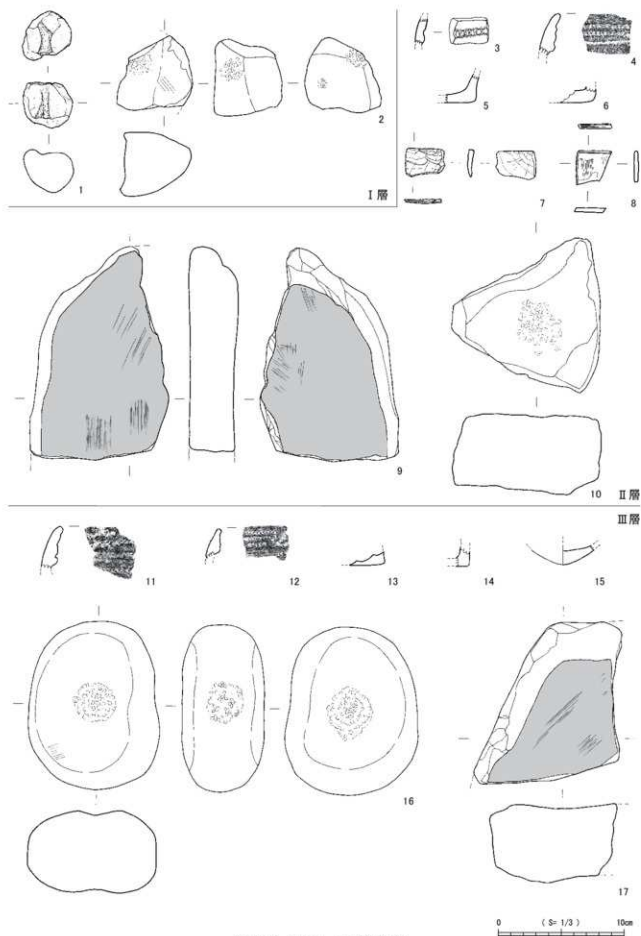
#### SH27 (第114図・第105表)

I層 (657)

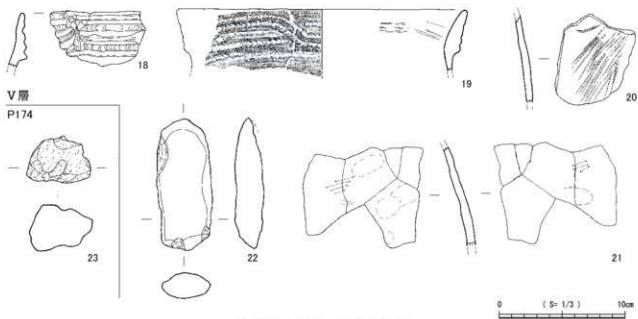
657は粗粒砂岩を石材とする台石である。

#### SH一括取り上げ (第115図・第105表)

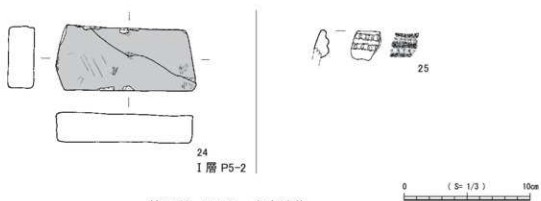
658はIV-b類土器である。貫通した穴が1つあけられている。659は泥質土器の平底底部である。内・外面にオサエによる調整が見られる。660は中粒砂岩を石材とする磨礫石である。全面に敲打痕が見られ、両平端面は凹んでいる。661はホルンフェルスを石材とする磨製の石製品である。四角い形状を呈し、中は空洞である。空間は人為的な痕跡は見られず、自然石を利用したものと考えられる。外面には磨痕が観察されるが、用途は不明である。



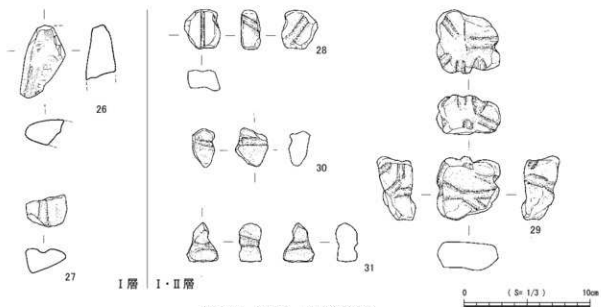
第54図 SH01 出土遺物(1)



第55図 SH01 出土遺物(2)

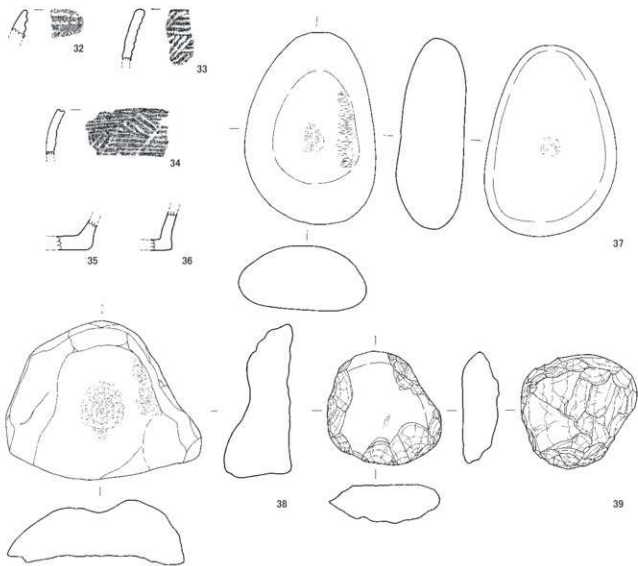


第56図 SH02 出土遺物

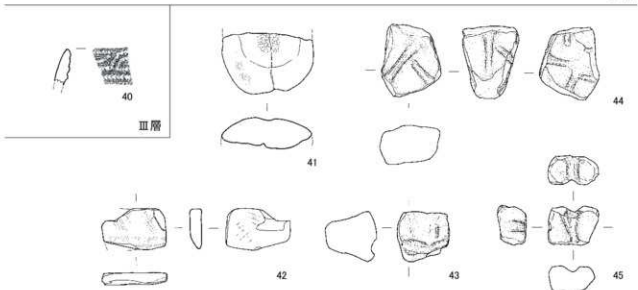


第57図 SH03 出土遺物(1)





II層

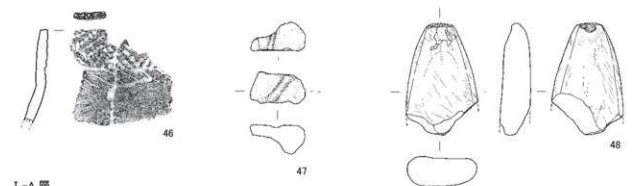


III層

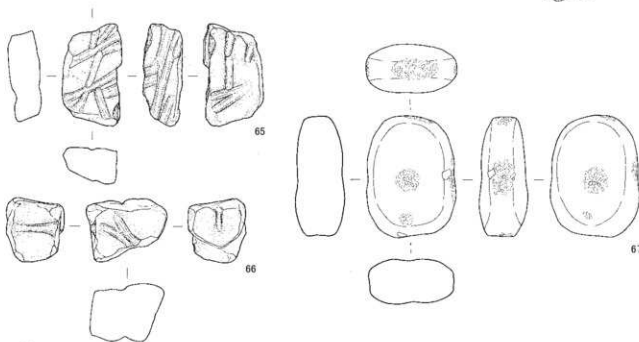
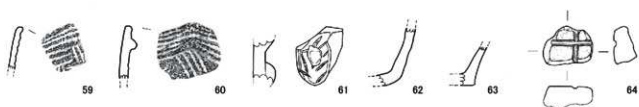
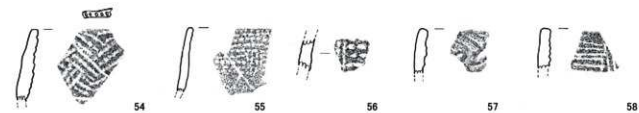
遺構内一括

0 (S= 1/3) 10cm

第58図 SH03 出土遺物(2)



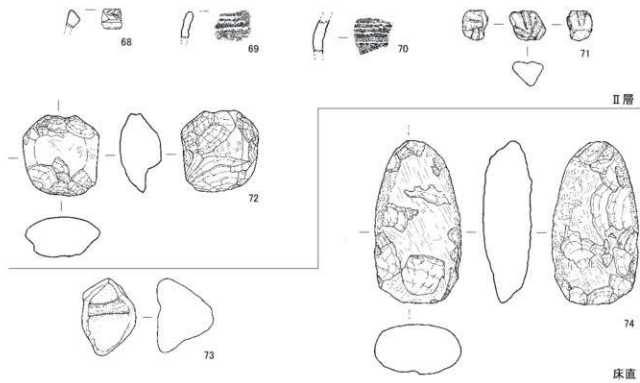
I-A層



I層

0 (S: 1/3) 10cm

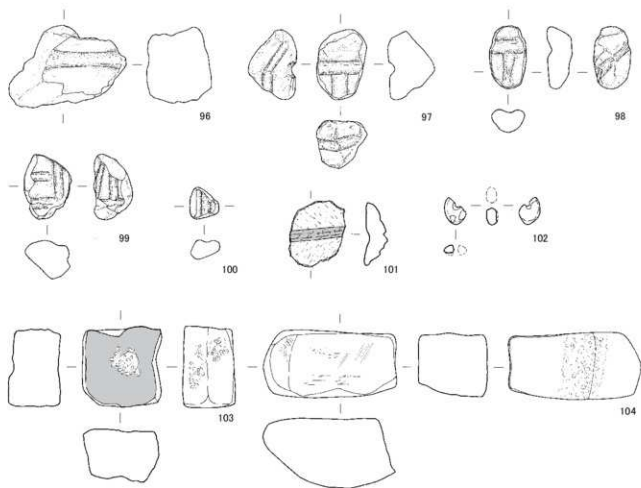
第59圖 SH04 出土遺物(1)



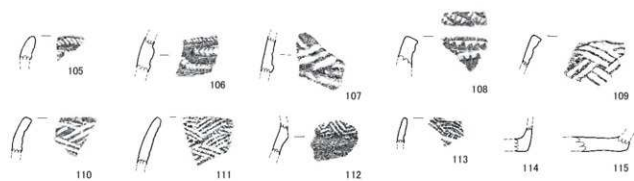
第60図 SH04 出土遺物(2)



第61図 SH05 出土遺物(1)



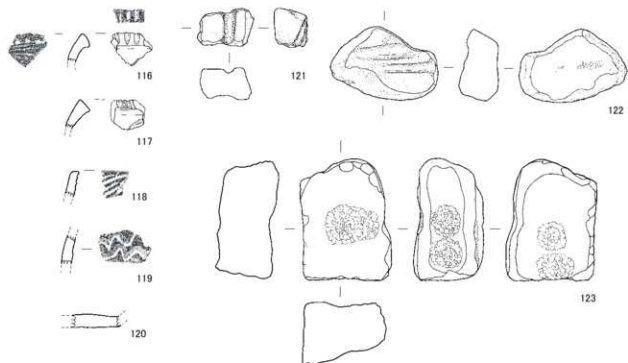
I層



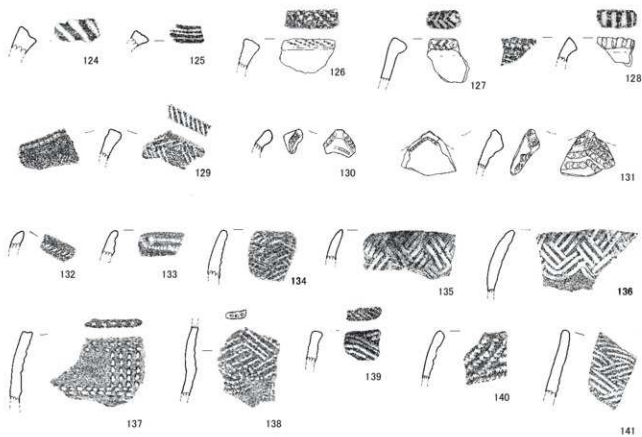
II層

第62図 SH05 出土遺物(2)

0 (S=1/3) 10cm



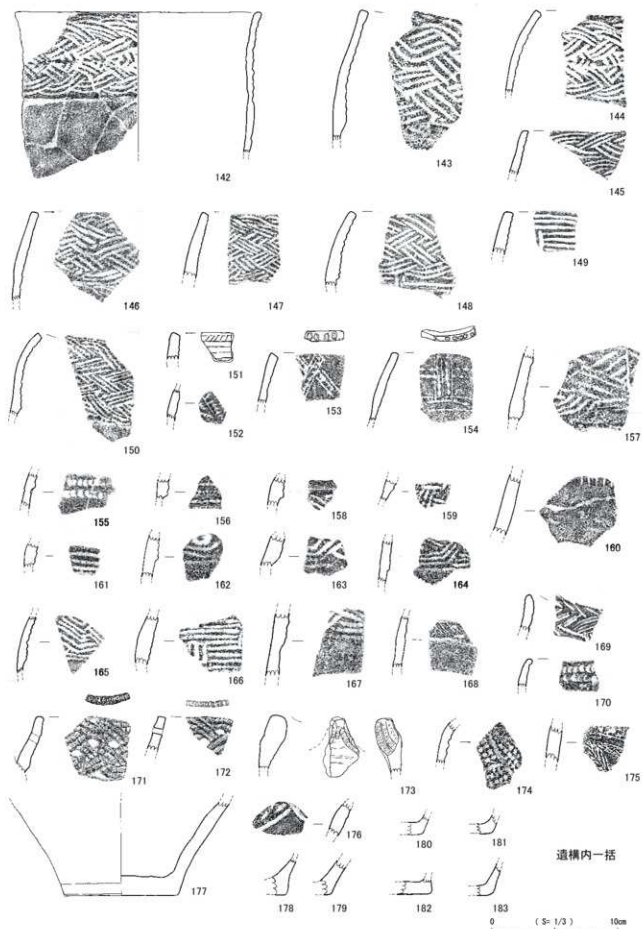
Ⅲ層



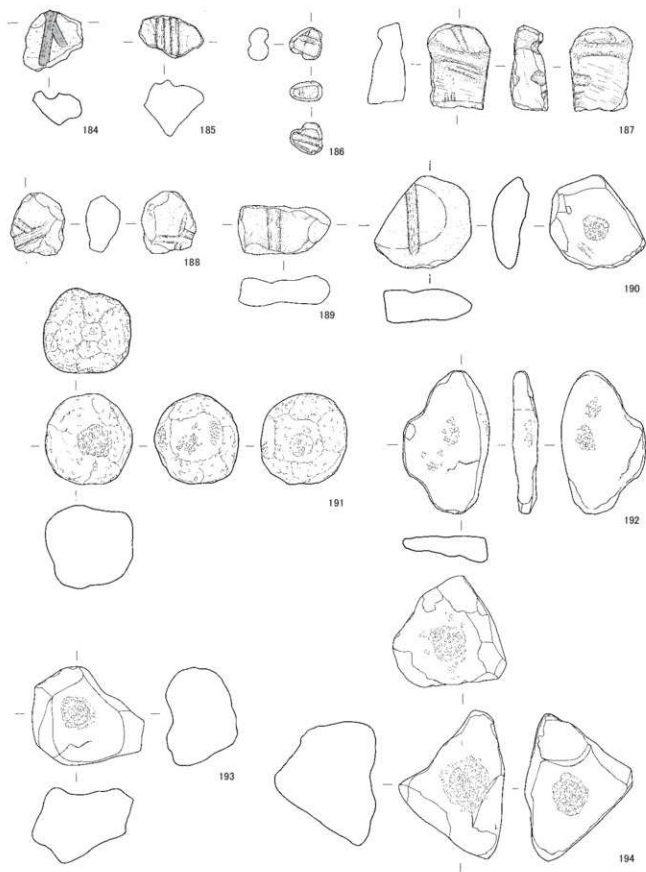
遺構内一括

0 (S=1/3) 10cm

第63図 SH05 出土遺物(3)



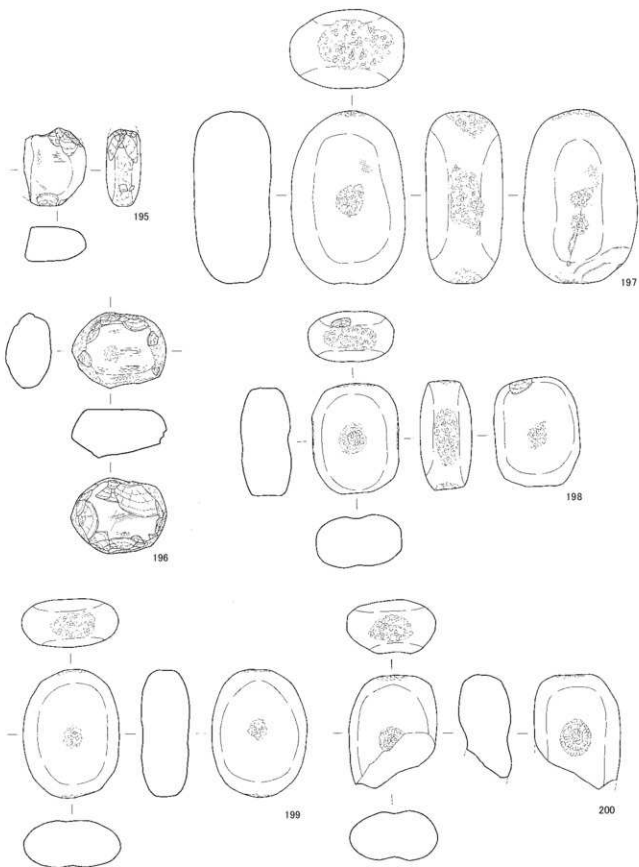
第64図 SH05 出土遺物(4)



遺構内一括

0 (S= 1/3) 10cm

第65図 SH05 出土遺物(5)

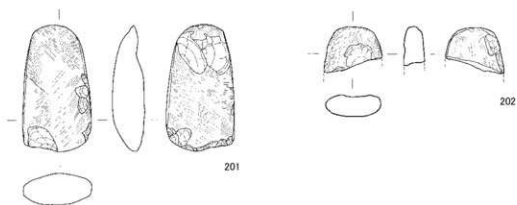


遺構内一括

第66図 SH05 出土遺物(6)

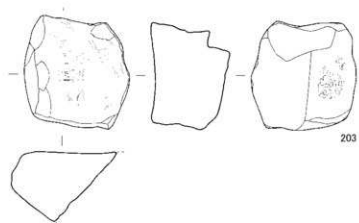
0 (S: 1/3) 10cm



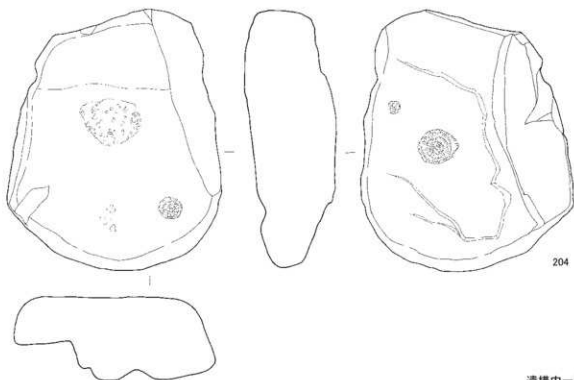
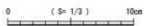


201

202

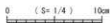


203

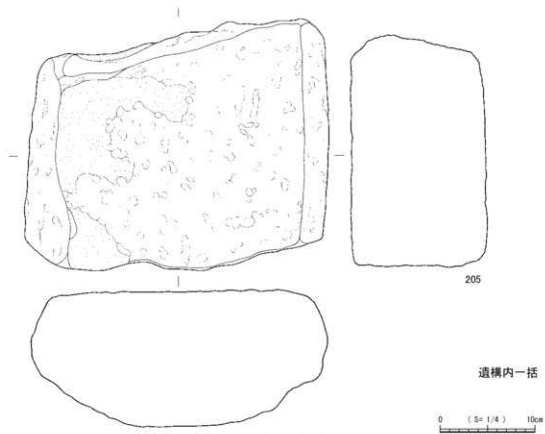


204

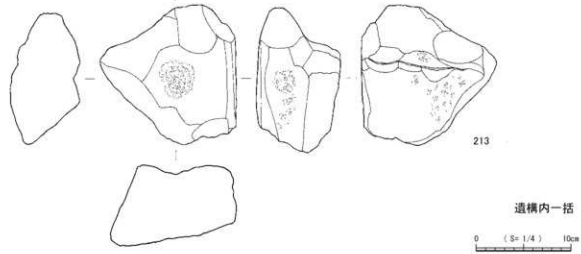
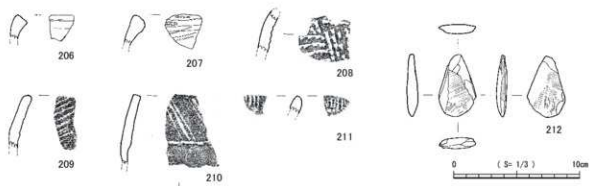
遺構内一括



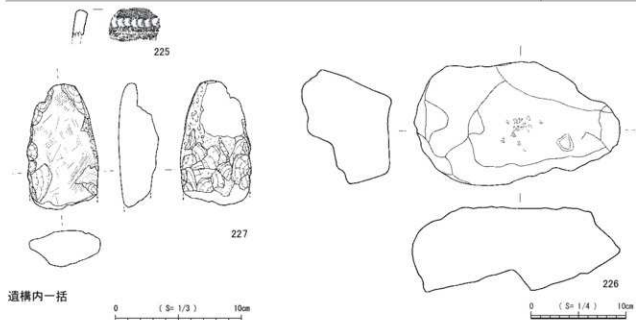
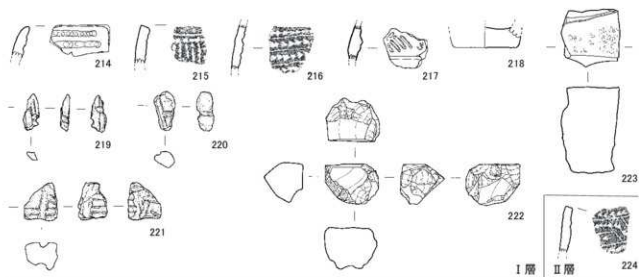
第67図 SH05 出土遺物(7)



第68図 SH05 出土遺物(8)



第69図 SH06 出土遺物

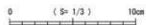


遺構内一括

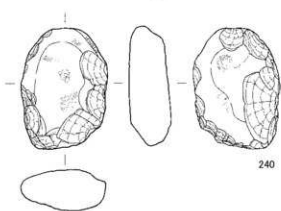
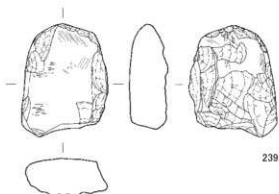
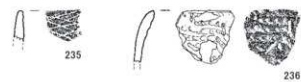
第70図 SH07 出土遺物



遺構内一括

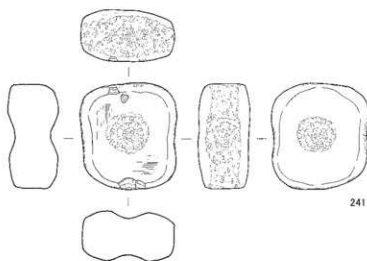


第71図 SH06-SH07 出土遺物

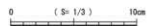


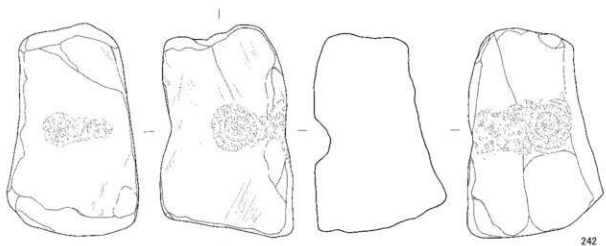
I層

床直

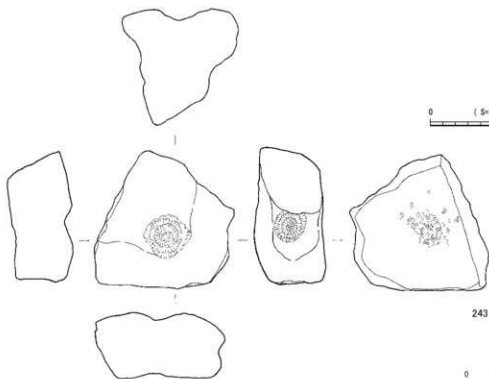


第74図 SH10 出土遺物(1)





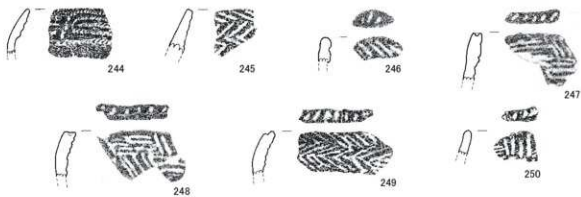
242



243

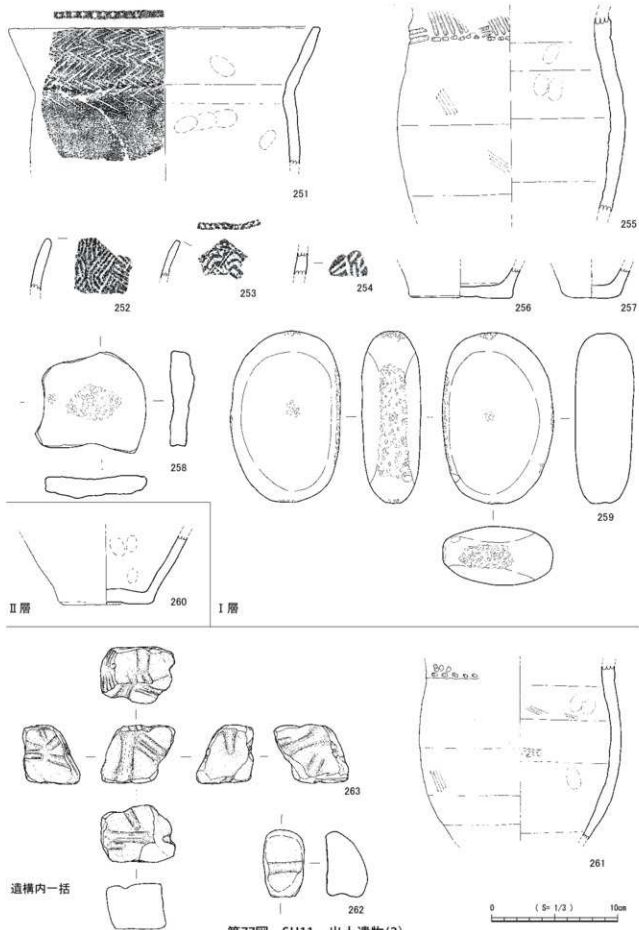
P3

第75図 SH10 出土遺物(2)

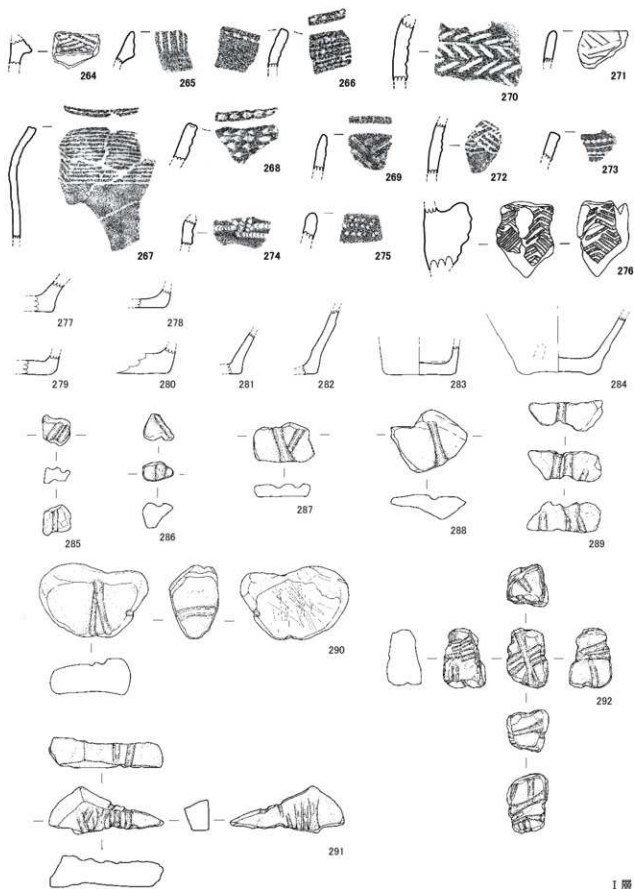


I層

第76図 SH11 出土遺物(1)



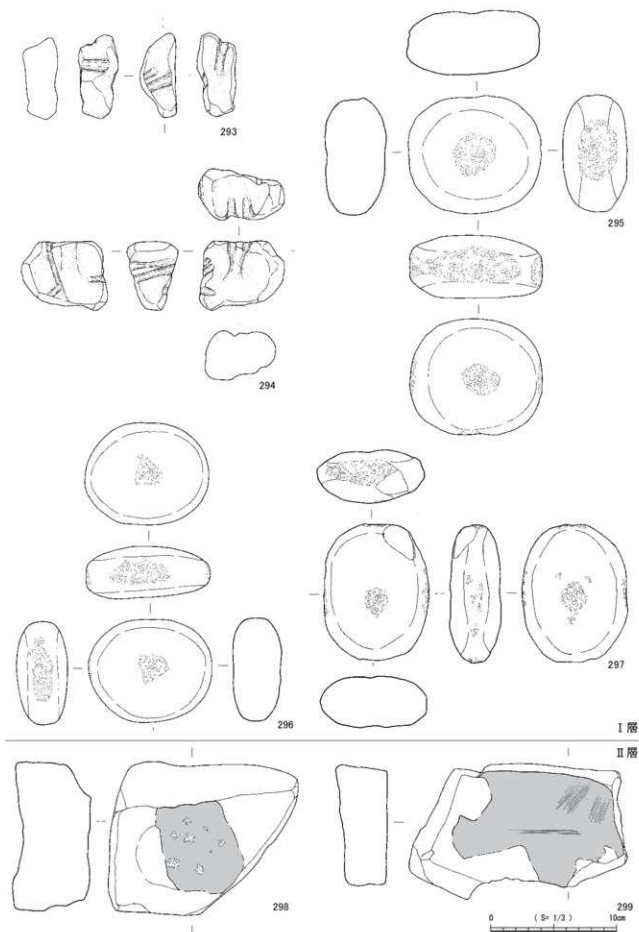
第77図 SH11 出土遺物(2)



I 層

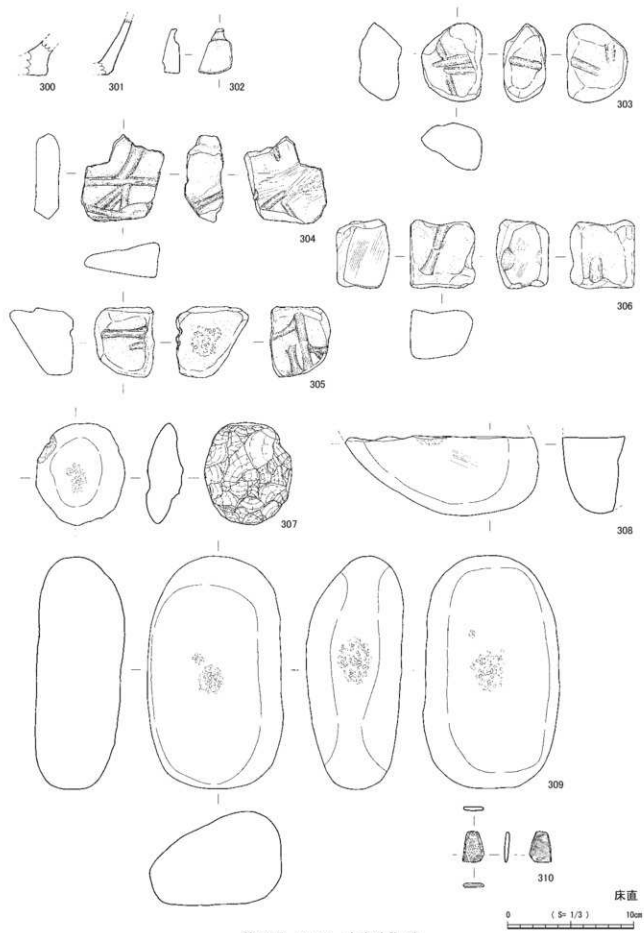
0 (5= 1/3) 10cm

第78圖 SH12 出土遺物(1)

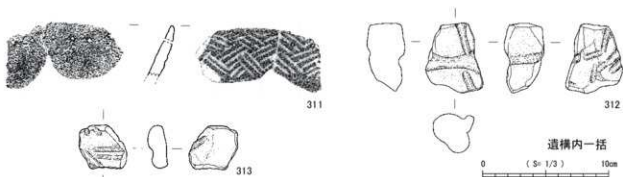


第79図 SH12 出土遺物(2)

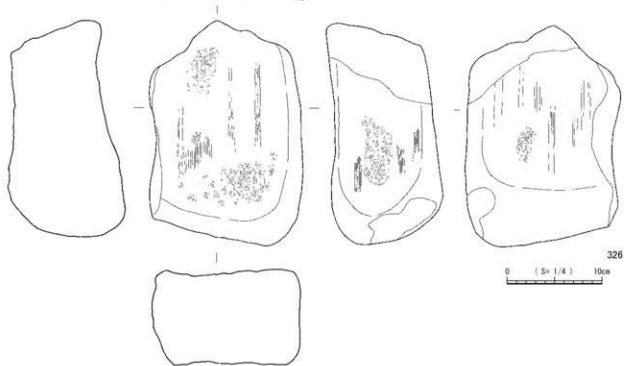
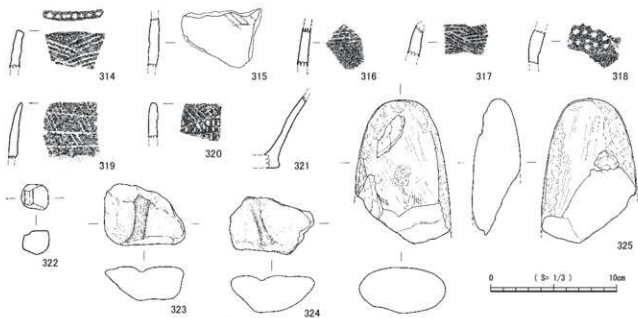




第80図 SH12 出土遺物(3)

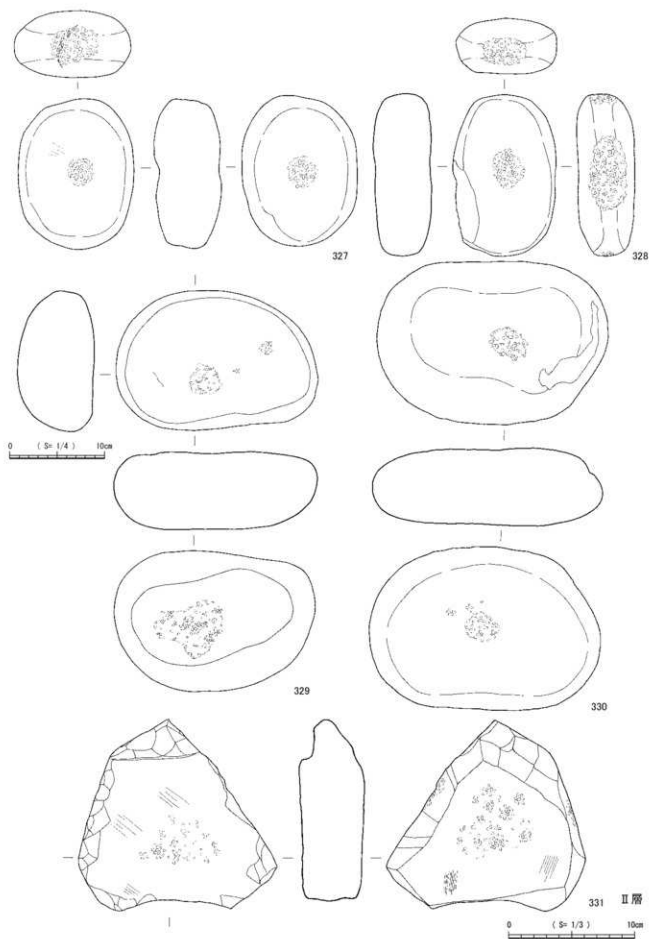


第81図 SH12 出土遺物(4)



第82図 SH13 出土遺物(1)

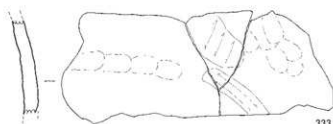
II 層



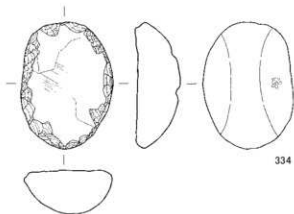
第83圖 SH13 出土遺物(2)



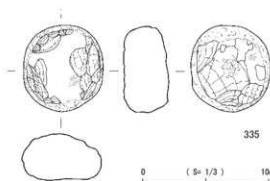
332



333

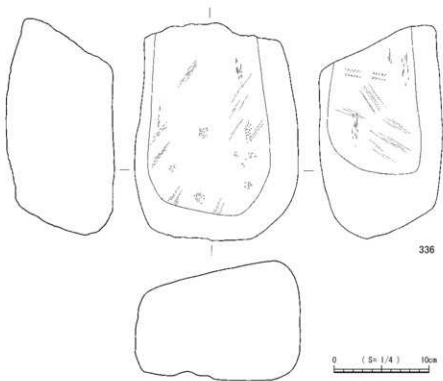


334



335

0 (5=1/3) 10cm

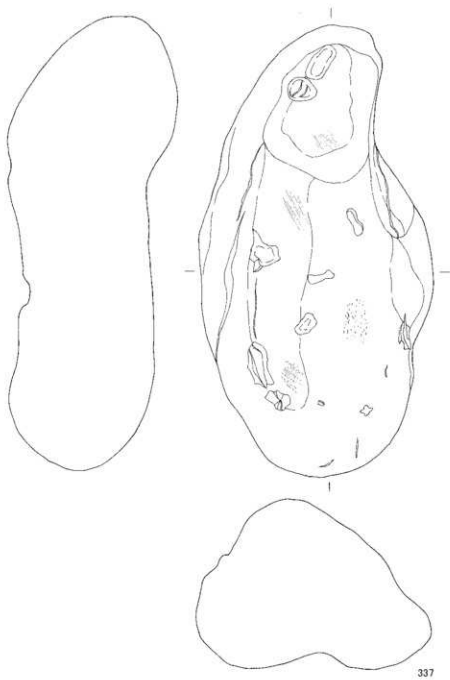


336

0 (5=1/4) 10cm

床直

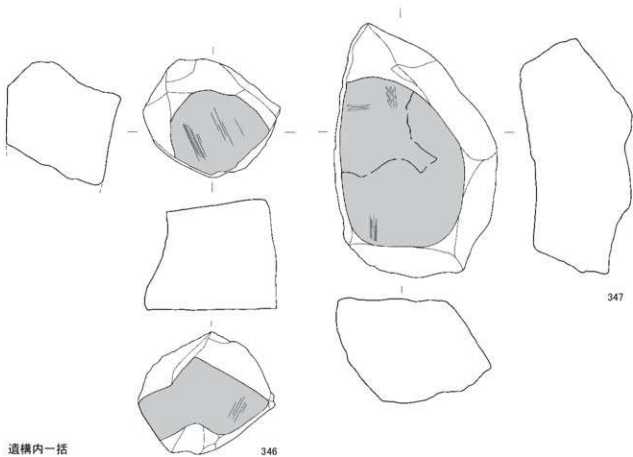
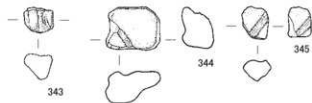
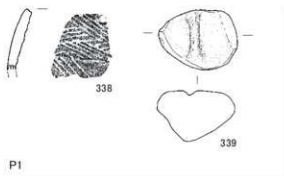
第84図 SH13 出土遺物(3)



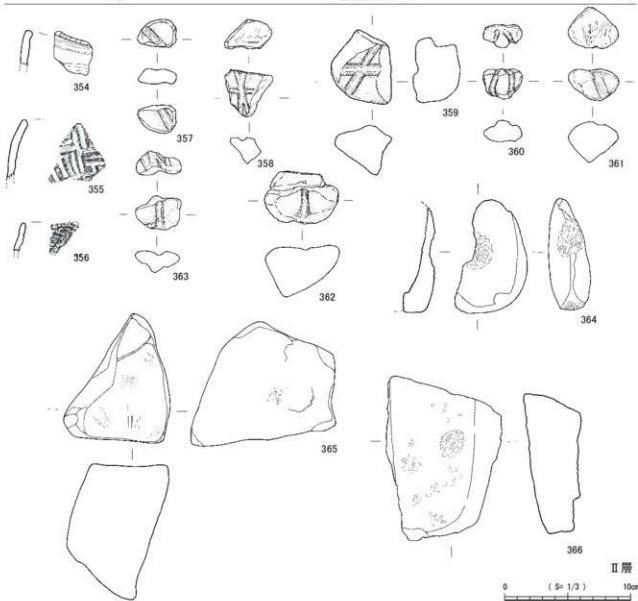
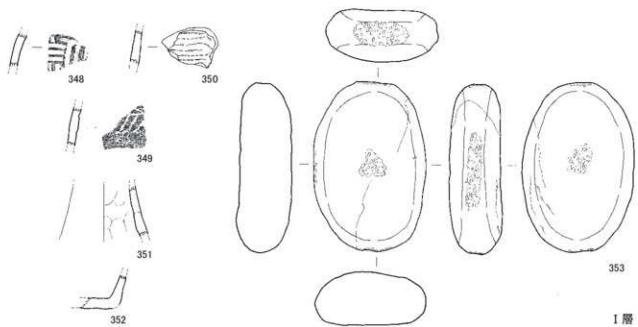
床直

0 (5=1/4) 10cm

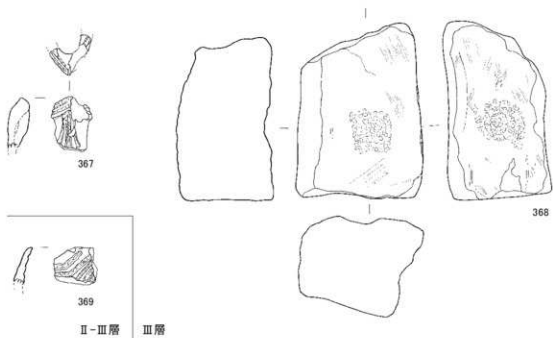
第85図 SH13 出土遺物(4)



第86図 SH13 出土遺物(5)

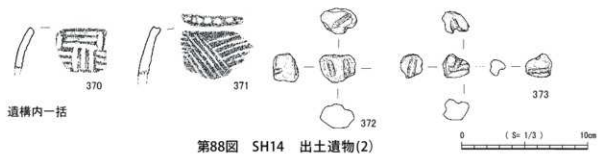


第87圖 SH14 出土遺物(1)



II-III層

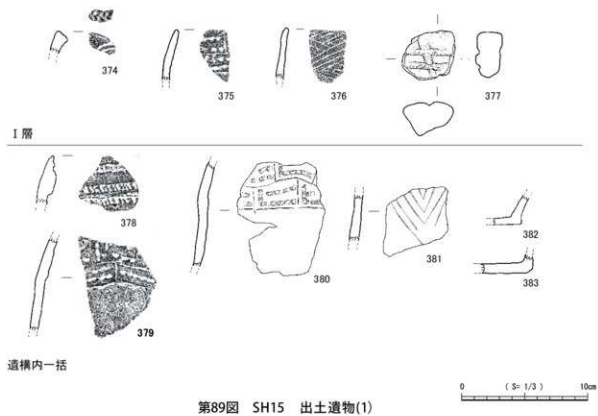
III層



遺構内一括

第88図 SH14 出土遺物(2)

0 (S= 1/3) 10cm



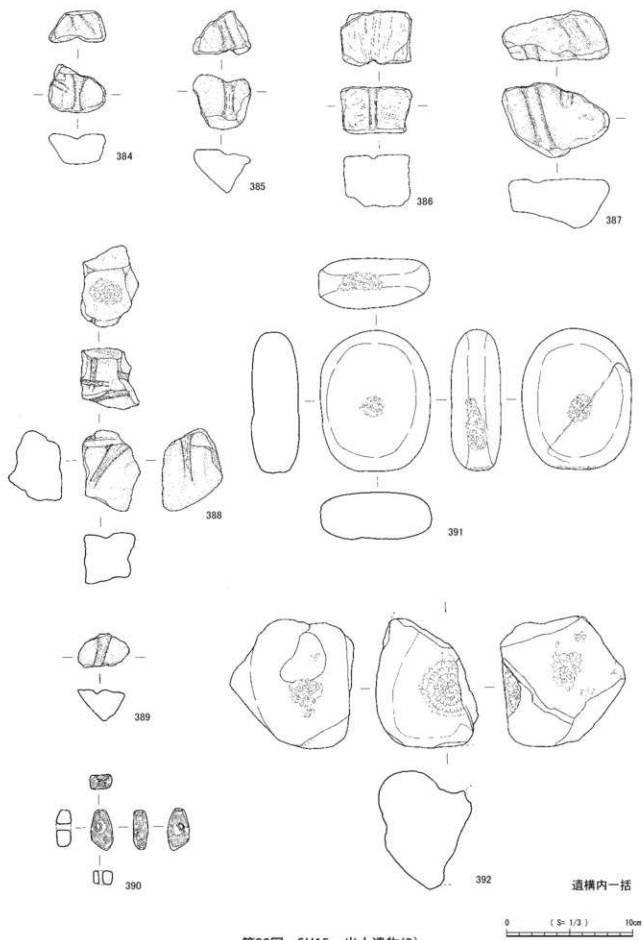
I層

遺構内一括

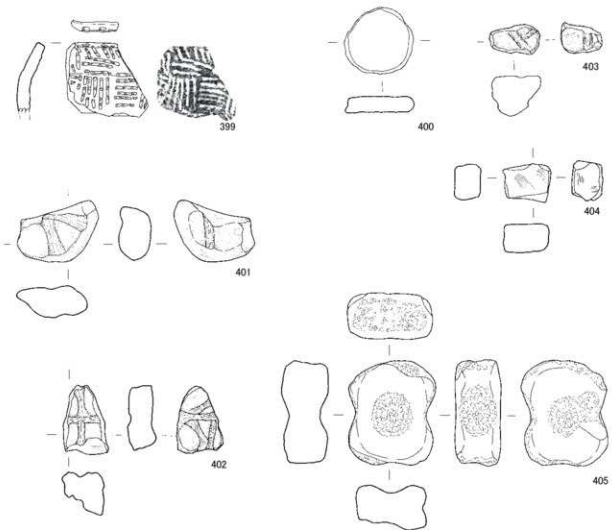
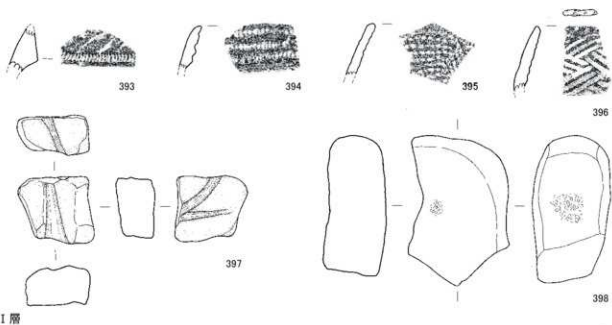
第89図 SH15 出土遺物(1)

0 (S= 1/3) 10cm





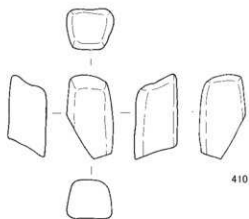
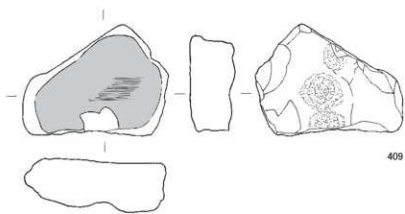
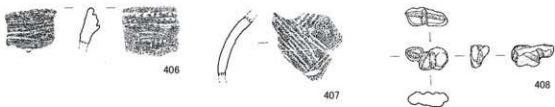
第90図 SH15 出土遺物(2)



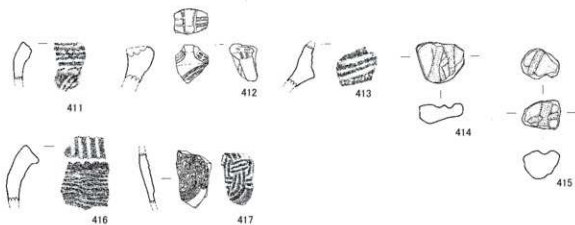
遺構内一括

第91圖 SH16 出土遺物

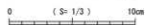
0 (S: 1/3) 10cm



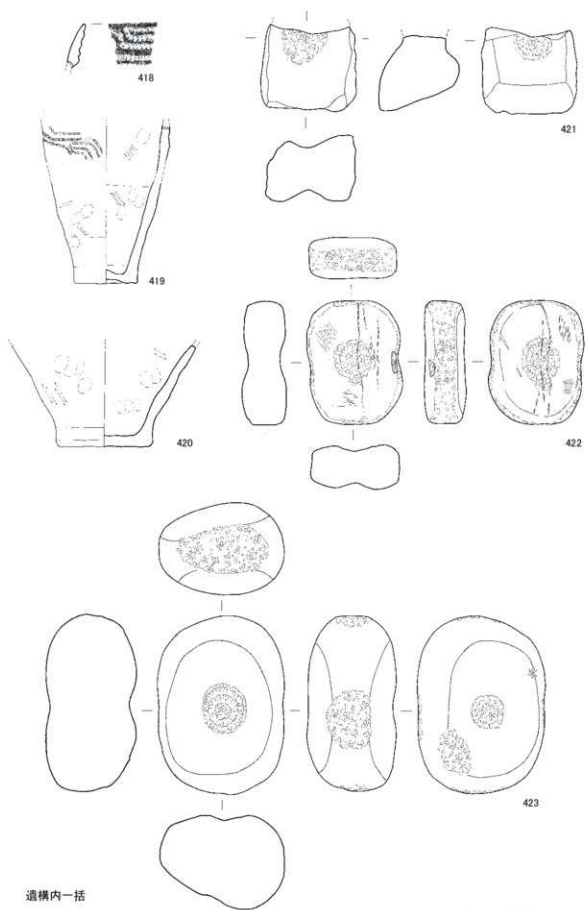
I 層



I・II 層



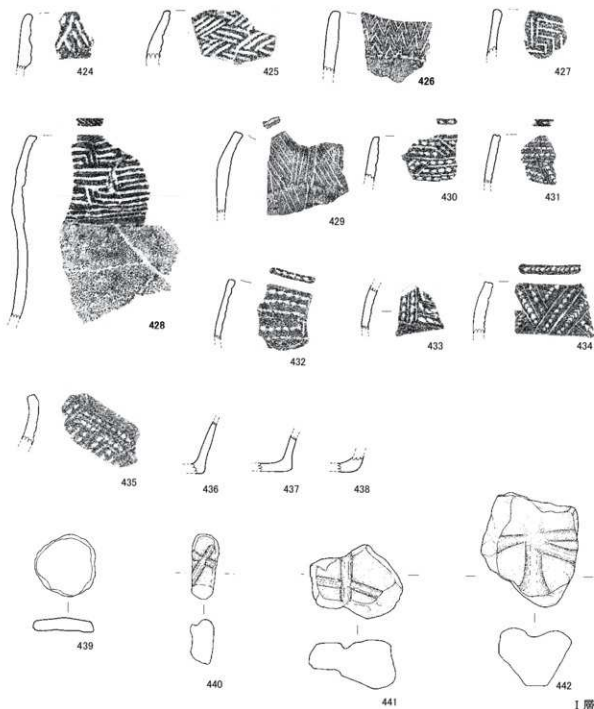
第92図 SH17 出土遺物(1)



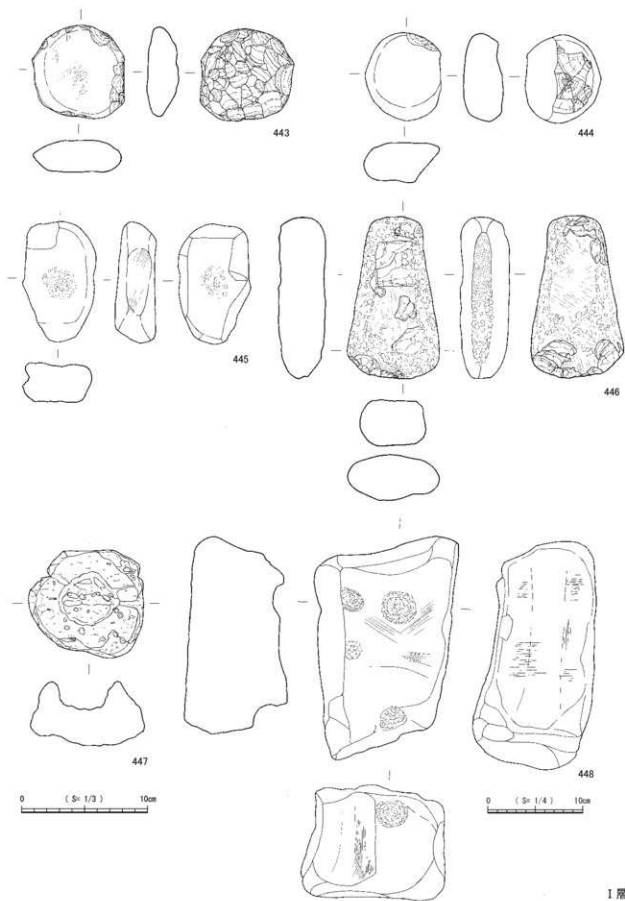
這構内一括

第93図 SH17 出土遺物(2)

0 (S: 1/3) 10cm

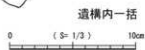
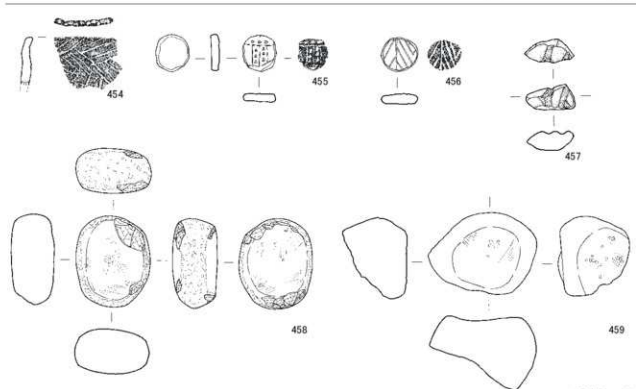
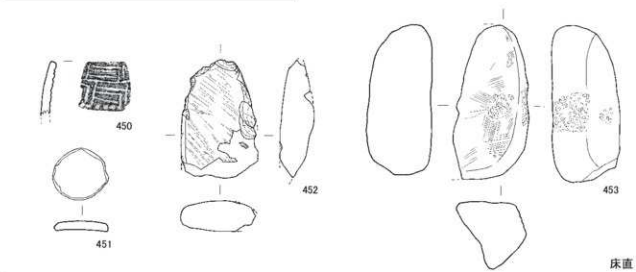
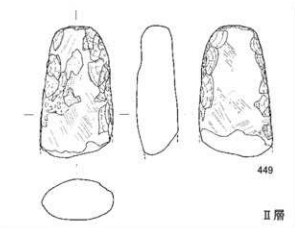


第94図 SH18 出土遺物(1)

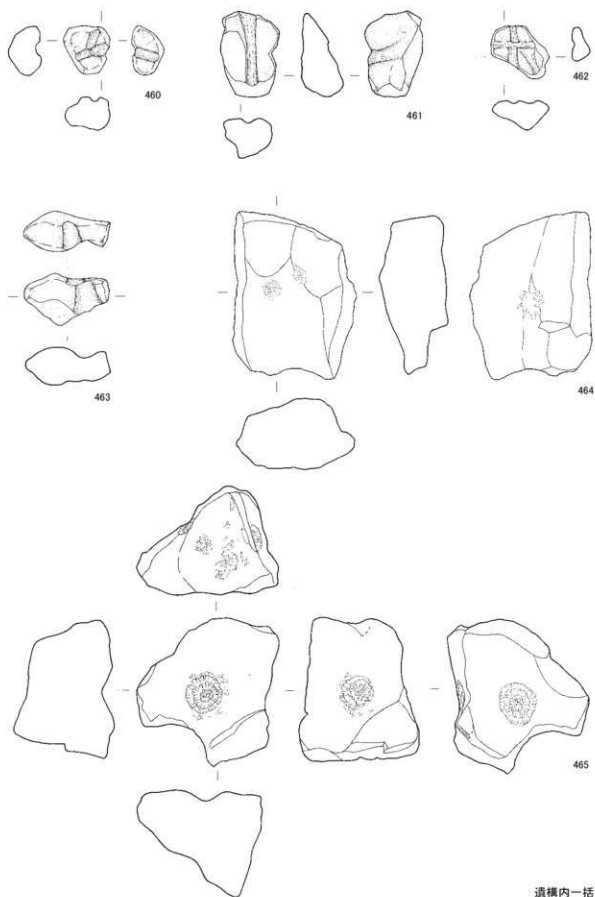


1層

第95図 SH18 出土遺物(2)



第96図 SH18 出土遺物(3)

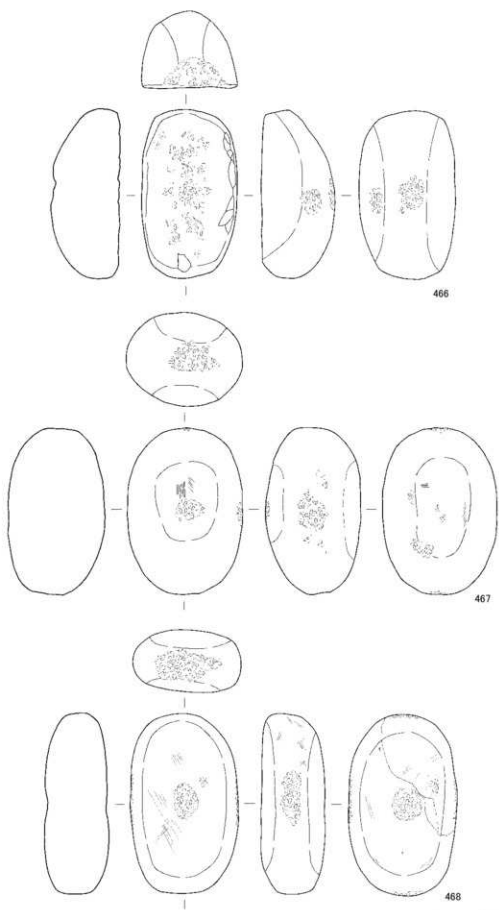


第97図 SH19 出土遺物(1)

遺構内一括  
(S: 1/3)

0 10cm

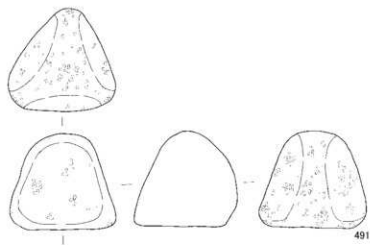
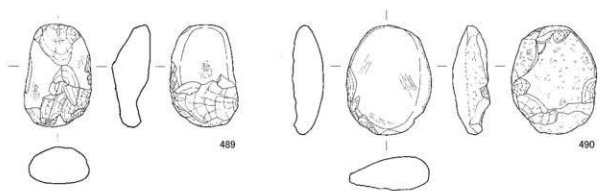




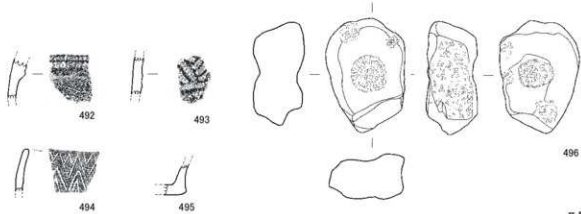
第98図 SH19 出土遺物(2)



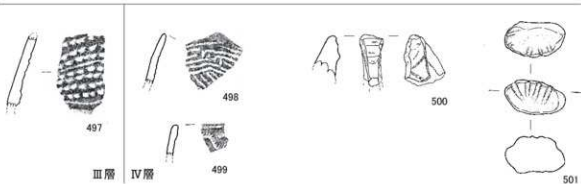
第99図 SH20 出土遺物(1)



I 層

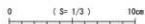


II 層



III 層

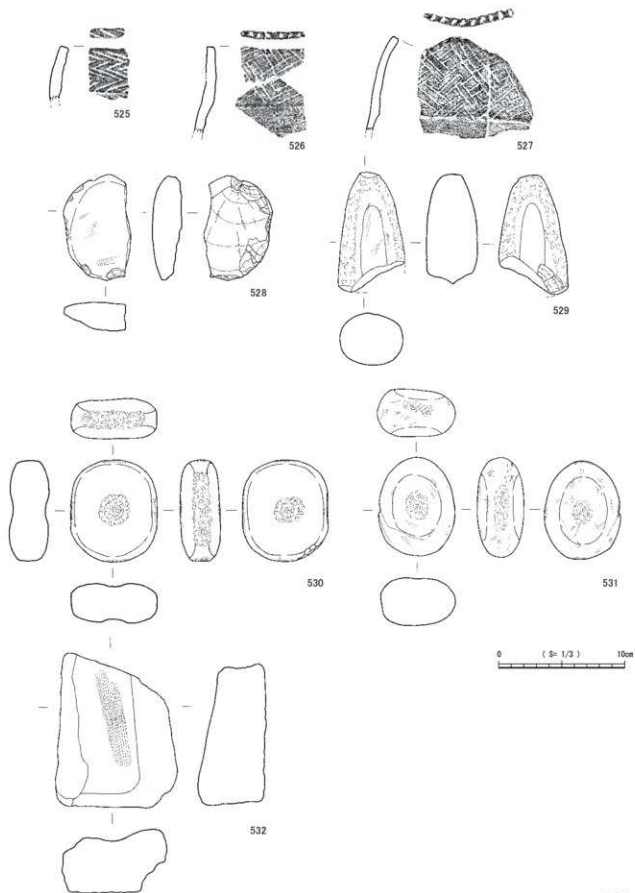
IV 層



第100図 SH20 出土遺物(2)

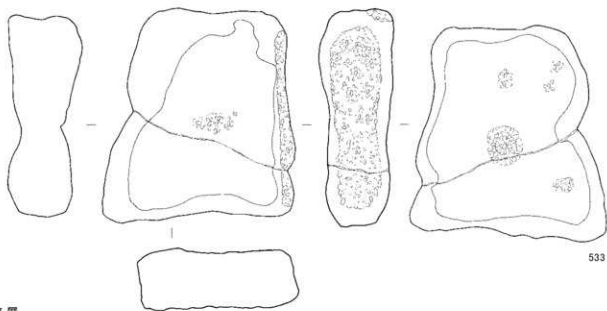


第101図 SH20 出土遺物(3)



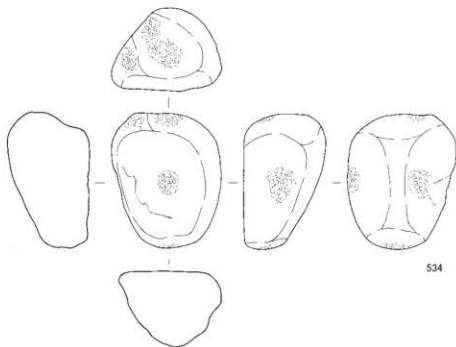
I 層

第102図 SH21 出土遺物(1)



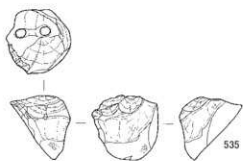
533

I 層



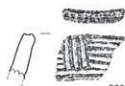
534

II 層



535

床直



536



537



538

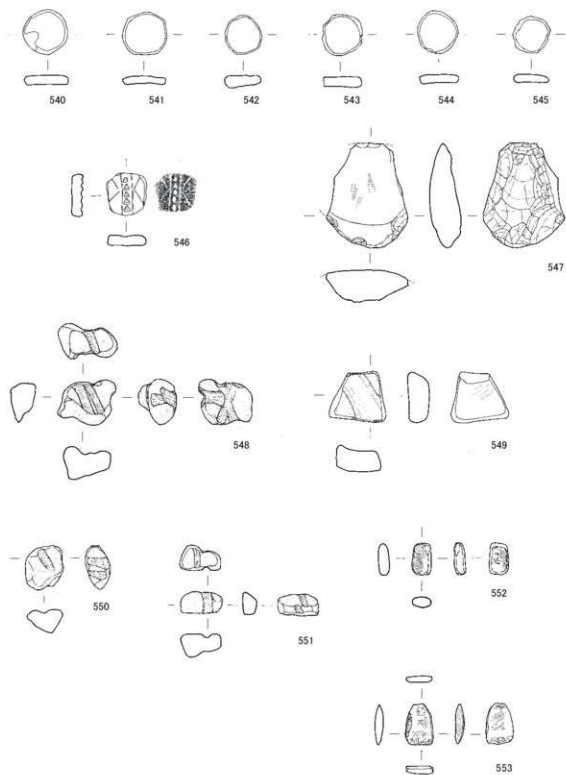


539

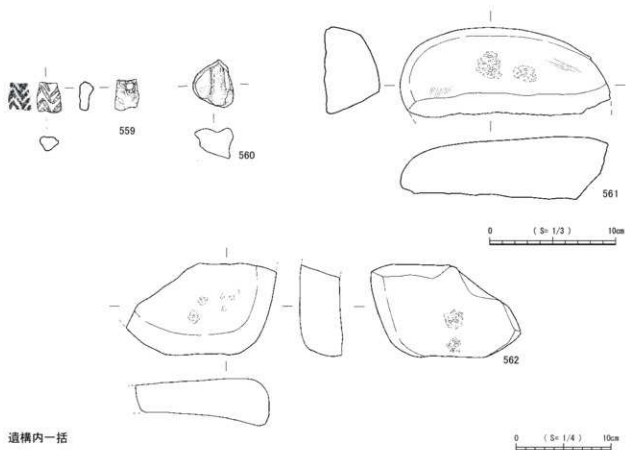
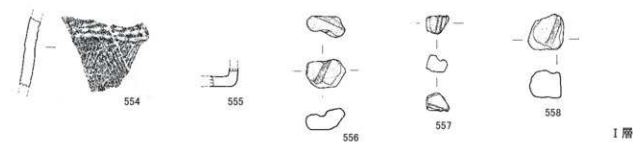
遺構内一括

0 (S: 1/3) 10cm

第103図 SH21 出土遺物(2)



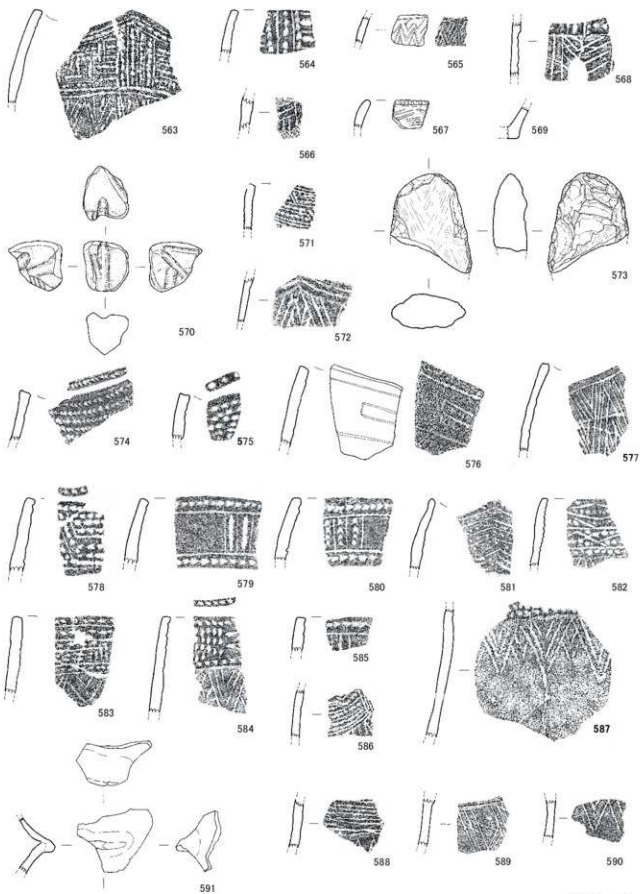
第104図 SH16~SH21 出土遺物



遺構内一括

第105図 SH22 出土遺物



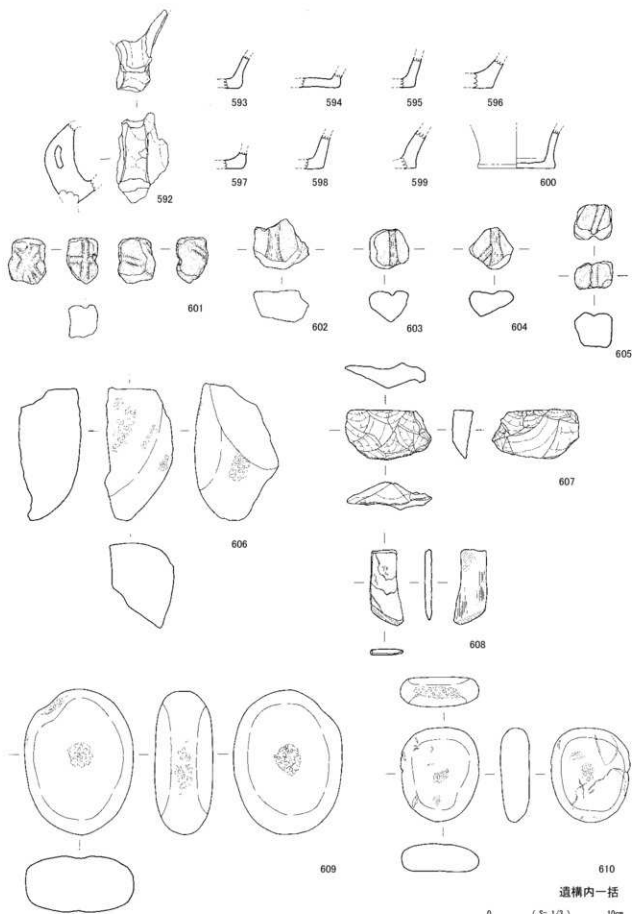


遺構内一括

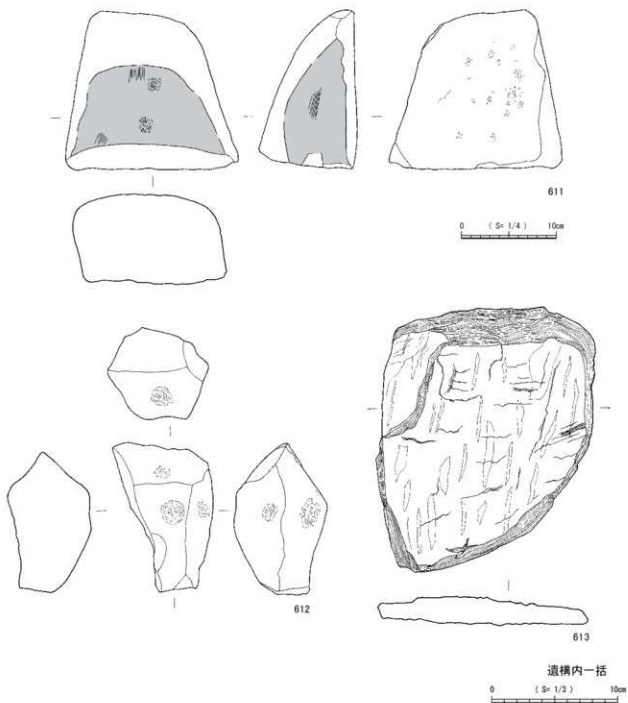
(S= 1/3)

10cm

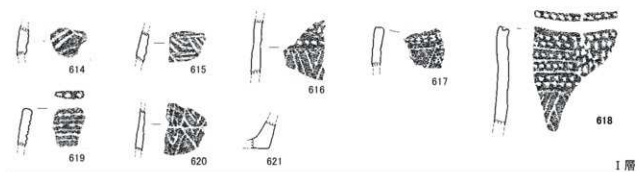
第106図 SH23 出土遺物(1)



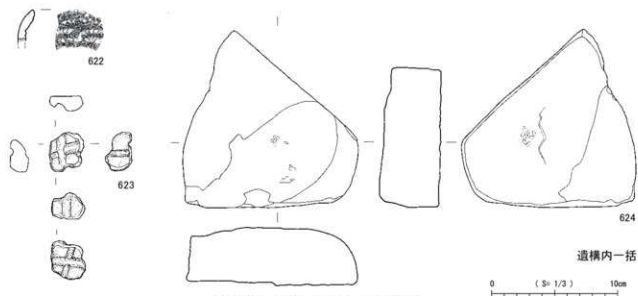
第107図 SH23 出土遺物(2)



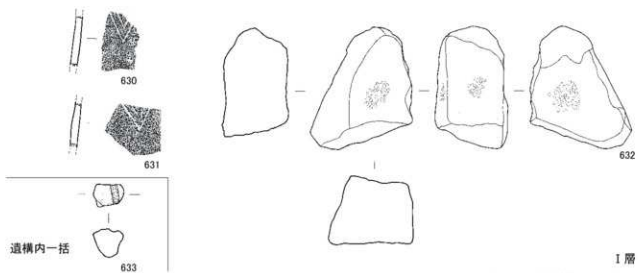
第108図 SH23 出土遺物(3)



I 層

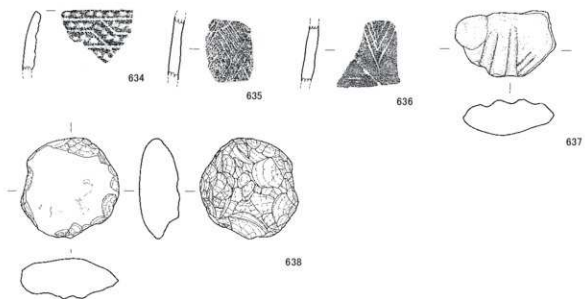


第109図 SH22・SH23 出土遺物

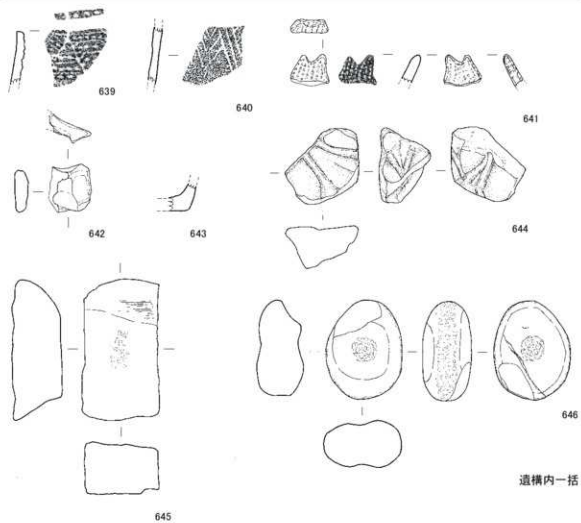


第110図 SH24 出土遺物

I 層

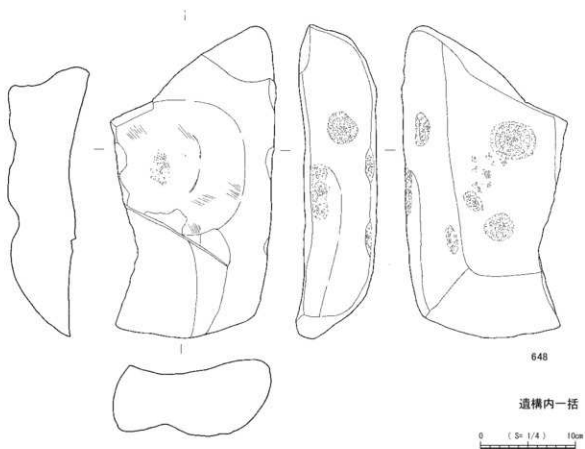
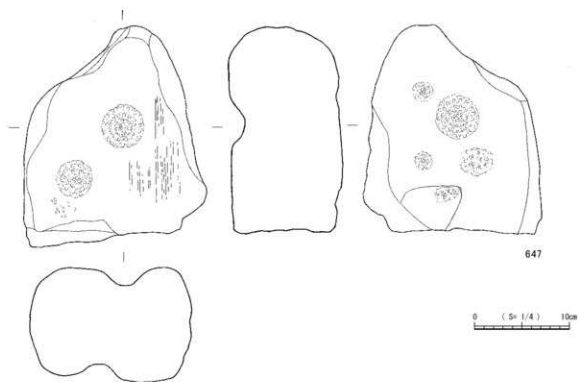


I 層

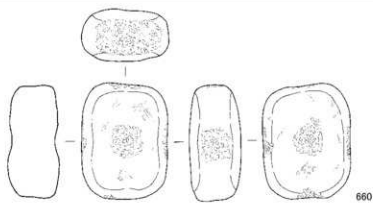
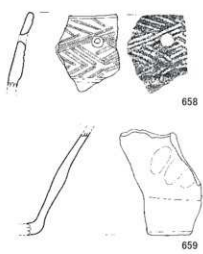
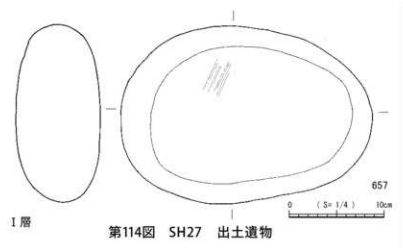
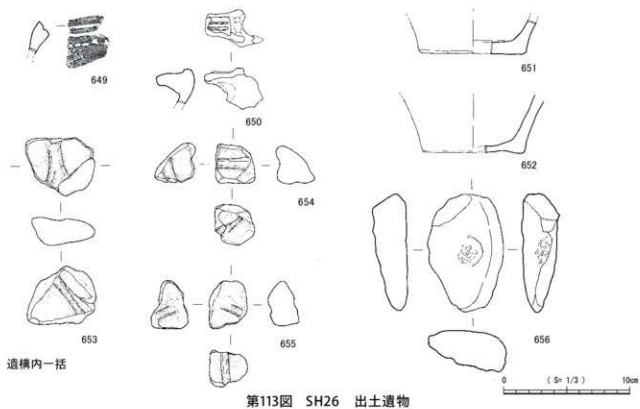


0 (5= 1/3) 10cm

第111圖 SH25 出土遺物(1)



第112図 SH25 出土遺物(2)



第115図 SH一括 出土遺物

## (7) 土坑 (SK) 出土遺物

ここでは、SKからの出土遺物をまとめて紹介する。SKからは、遺物は3,327点出土し、そのうち図化したものは137点である。以下、遺構ごとに遺物の観察を記述する。

### SK01 (第116図・第105表)

I層 (662~669)

662~666はⅡ-a類土器である。662は内面に、663~664・666は内・外面ともに貝殻条痕が観察できる。667はⅡ-c類土器である。668は中粒砂岩を石材とする凹石である。669は中粒砂岩を石材とする磨石である。

### SK02 (第117図・第105表)

I層 (670~682)

670~672はⅡ-a類土器である。口唇部には斜め平行の深くはっきりとした刻目文が施されている。671は内・外面に貝殻条痕が見られる。673はⅢ-a類土器である。674~679はⅢ-c類土器である。680は砂質土器の平底底部である。681は中粒砂岩を石材とする磨石である。平坦面1面のみ使用痕がある。682は中粒砂岩を石材とする凹石である。

遺構内一括取り上げ (683~689)

683~685はⅡ-c類土器である。683は口唇部に縦位の粘土紐を貼り付け波状にしている。外面には貝殻条痕が見られる。685は壺の口縁部である。686・687はⅢ-a類土器である。688はⅤ類土器である。粘土紐を輪状に貼り付け、その内部を細かな押引文で施文している。壺の胴部装飾部と考えられる。689は砂質土器の平底底部である。

### SK03 (第118~119図・第105表)

I層 (690~712)

690はⅡ-a類土器の深鉢である。外面にはナデ、内面には貝殻条痕が観察できる。691~697はⅡ-b類土器である。692の内面には貝殻条痕が観察できる。外面は沈線に近い縦線押引文が施されている。693は内・外面に貝殻条痕が観察できる。695は口唇部に鋸歯状の文様、外面にひし形状の文様を沈線で施している。内面には貝殻条痕が見られる。壺と考えられるが、他の同類の土器に比べ丁寧な作られている。696・697は口唇部及び口縁部に深い刻目文が施されている。Ⅱ-b類に分類したが、胴部に深い刻目文が施されている土器はこの2点のみである。698はⅢ-a類土器の深鉢である。699・700はⅢ-c類土器の深鉢である。701は凹線文が施された口縁付近と考えられる砂質土器胴部である。わずかに肥厚させた文様帯に縦位の凹線文を連続して文様を施している。702~704はⅤ類の砂質土器である。702は縦沈線を平行に引いて区画した内部に、短い横沈線を連続して文様を施した胴部である。器壁は薄く、しっかりとしており、他の沈線文系土

器に比べ胎土が異質であることからⅤ類に分類した。703は口縁端を肥厚させ、細沈線で文様を施した土器である。沈線は不規則に施されている。また、口唇部には基点が施されている。Ⅳ-c類に近いが、口縁の形状や施文が異なることから今回はⅤ類に分類した。704は口縁近くを「く」の字に外湾させた形状を持ち、口唇から口縁内面にかけて斜め平行沈線、内面には横位の2条の沈線文を施している。外面には沈線を平行に引き区画した中に沈線で破線を施している。文様構成はⅣ-d類土器に似るが、口縁の断面形状は丸形で、器壁は厚くぼつぼつしており他のⅣ-d類とは異なることからⅤ類に分類した。705・706は砂質土器の平底底部である。707は砂質土器の平底底部である。内・外面にクメによる器面調整がみられる。708は粗粒砂岩を石材とする磨石である。709は中粒砂岩を石材とする凹石である。710~712は中粒砂岩を石材とする台石である。

### SK04 (第120図・第105表)

I層 (713~717)

713はⅢ-c類土器の壺である。深めに施された押引文は凹線に近い。714はⅣ-c類土器である。器壁は薄く、口唇の断面形状は丸形に近い。715は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は1面で1条の溝がある。716は中粒砂岩を石材とする磨石である。半分が欠損している。717は中粒砂岩を石材とする磨石である。各面の中央部に磨石痕が集中している。

### SK05 (第121図・第105表)

I層 (718)

718はⅢ-c類土器の深鉢である。内面には貝殻条痕が観察できる。

II層 (719)

719は中粒砂岩を石材とする台石である。側面にも磨石痕が観察される。大きさや重さから台石と分類した。

遺構内一括取り上げ (720・721)

720はⅢ-c類土器の深鉢である。721は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は2面あり、合計2条の溝がある。

### SK06 (第122~124図・第106表)

I層 (722~726)

722はⅡ-a類土器である。723はⅣ-c類土器である。724は凹線文系土器の胴部である。籠目状の文様を施している。725は砂質土器の平底底部である。726は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面が2面あり、合計4条の溝がある。



## II層 (727~737)

727・728はIV-b類土器である。727は口唇部に刻み目、外面に凹線による龍目状の文様を施している。内面は、斜位の平行沈線が外面の施文範囲と同じ高さまで施され、それより下部は貝殻条痕が観察できる。729はIV-c類土器である。730・731は凹線文系の砂質土器の胴部である。732・733は細沈線文が施された砂質土器胴部である。733の細沈線文は凹線に近い。734・735はⅧ類の砂質土器である。734は、外面に凹線文を組み合わせて、鋸歯文を施している。口縁の断面形状は舌状である。735は、口縁裝飾部と考えられる丸みを帯びた突起部である。突起は粘土をつまみあげて整形しており、外面に短い凹線が数条見られる。736はⅧ'類の泥質土器の胴部である。凹線文を組み合わせて文様を構成するが、残存部においては文様の規則性は見られない。凹線文を施した泥質土器は他に出土しておらず、今回はⅧ'類に分類した。

737は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。使用面は3面あり、合計5条の溝がある。

遺構内一括取り上げ (738~762)

738はII-c類土器である。内・外面に貝殻条痕が見られる。739はIII-e類土器である。内面にオサエによる調整が見られる。740はIV-b類土器である。口唇部に連点文が施され、内・外面に凹線文が施されている。内面の文様は幾何学的で、その下部には貝殻条痕が見られる。741~743はIV-a類土器である。742は口唇部に連点文が施されている。743は縦位に押し引文が施されている。744はIV-b類土器である。鋸歯状の文様を施している。文様は胴部から口縁部に向かって施している。また、胎土には金色の雲母が混入している。745・746はIV-c類土器である。746は波状口縁である。747は沈線文が施された砂質土器胴部である。沈線紋は凹線に近い。748はⅧ類の砂質土器である。文様帯最下部に薄い粘土紐を貼り付け肥厚させ、鋸歯文を施している。749は砂質土器の平底底部である。750~759は中粒砂岩を石材とする有溝砥石である。750は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。751は使用面が3面あり、合計4条の溝がある。752は使用面が1面あり、3条の溝がある。753は使用面が4面あり、合計6条の溝がある。754は使用面が4面あり、合計8条の溝がある。755は使用面が2面あり、合計5条の溝がある。756は、1条の溝がある。757は使用面が2面あり、合計3条の溝がある。758は使用面が1面だけだが、5条の溝がある。759は使用面が2面あり、合計4条の溝がある。760・761は磨礫石である。石材は、760が中粒砂岩で、761が粗粒砂岩である。761は各面の中央部をよく使用しており、凹んでいる。762は中粒砂岩を石材とする石皿である。

## SK07 (第125・126図・第106表)

I層 (763~771)

763はI類土器の胴部である。横位に張り付けた突帯に細かな刻み目を施している。また、その下にも斜めに取り付けられた同様の突帯が一部だけ残っている。764はIV-b類土器である。口唇には、縦位と横位を組み合わせた細沈線文が施されている。内面にオサエによる調整が観察できる。

765・766はⅧ類土器である。いずれも口縁部の裝飾部と考えられる。765は縦位に粘土紐を貼り付けて輪を作った後、口縁部とその下に突帯を貼り付けている。突帯には細かな刻み目が施されている。壺型土器の一部と考えられる。766は口縁部に縦位に粘土紐を貼り付け口縁部を波状にし、口唇部、口縁外面に押し引文や連点で施したものである。深鉢型土器の一部と考えられる。767・768は円盤状土製品である。767は砂質土器の平底底部からの転用と考えられる。768は沈線文が施されており、IV-c類などの沈線を持つ砂質土器胴部からの転用品と考えられる。769は中粒砂岩を石材とする凹石である。2か所に凹みが見られる。770は緑色岩を石材とする円形石器である。771は安山岩を石材とする台石である。側面にも磨打痕が観察される。

## SK09 (第127図・第106表)

I層 (772~774)

772・773はIV-d類土器の胴部である。胎土に金色の雲母が混入する。772は内面にナデ・オサエによる調整が観察できる。凹面沈線文下部には鋸歯文が施されている。774は頁岩を石材とする礫石である。

## SK10 (第128図・第106表)

III層 (775)

775はI類土器である。胎土に金色の雲母が混入する。

遺構内一括取り上げ (776~778)

776~777はI類土器である。776は胎土に金色の雲母が混入する。778は中粒砂岩を石材とする石皿である。

## SK11 (第129図・第106表)

I層 (779~781)

779は泥質土器の胴部である。磨滅して明瞭ではないが、肥厚部分に刻み目が残る。Ⅷ類の可能性が高い。780は皿の形状をした泥質土器である。残存部に文様は施されていない。781は泥質土器の平底底部である。

## SK12 (第130図・第106表)

I層 (782・783)

782はV-a'類土器である。壺と考えられる。783は緑色岩を石材とする円形石器である。

### SK13 (第131図・第106表)

I層 (784)

784はV-a'類土器である。

遺構内一括取り上げ (785~787)

785はV-a'類土器である。786はV-b'類土器である。刻目突帯を2条貼り付け、その間に細沈線文で鋸歯文を施す。内面にナデとオサエによる調整が見られる。787は泥質土器の平底底部である。

### SK14 (第132図・第106表)

遺構内一括取り上げ (788~790)

788はⅡ類の砂質土器である。土器の注口部分と考えられる。胎土に金色の雲母が混入する。789はチャートを石材とする石核である。790は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。

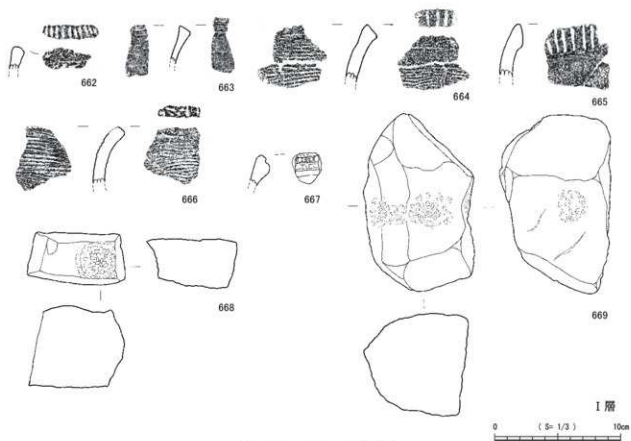
### SK16 (第133図・第106表)

I層 (791~796)

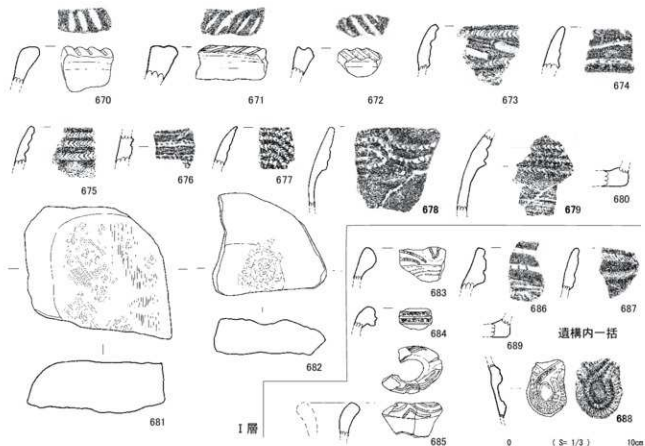
791~793はⅢ類の泥質土器である。791・792は残存部には文様が見られず、無文と考えられる。793は、口縁部に横位の突帯を1条貼り付け、その下部に横位の取っ手を取り付けた土器である。突帯は、太さの強弱を一定の間隔でつけている。794は泥質土器の平底底部である。崩り遺跡で出土している他の泥質土器底部に比べ、薄手である。795は粗粒砂岩を石材とする磨礫石である。796は頁岩を石材とする石斧である。側面には敲打による剥離が見られる。

遺構内一括取り上げ (797・798)

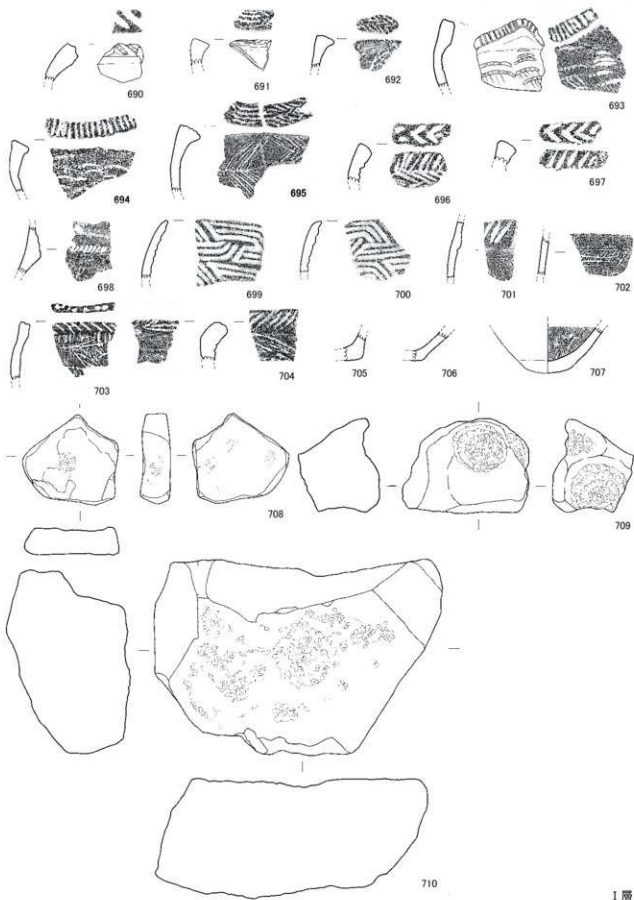
797は斜め平行沈線文が見られる泥質土器である。文様は磨滅しており明瞭ではないが、V-bやVI-a類の可能性がある。798は緑色岩を石材とする磨礫石斧である。刃部のみが残存する。



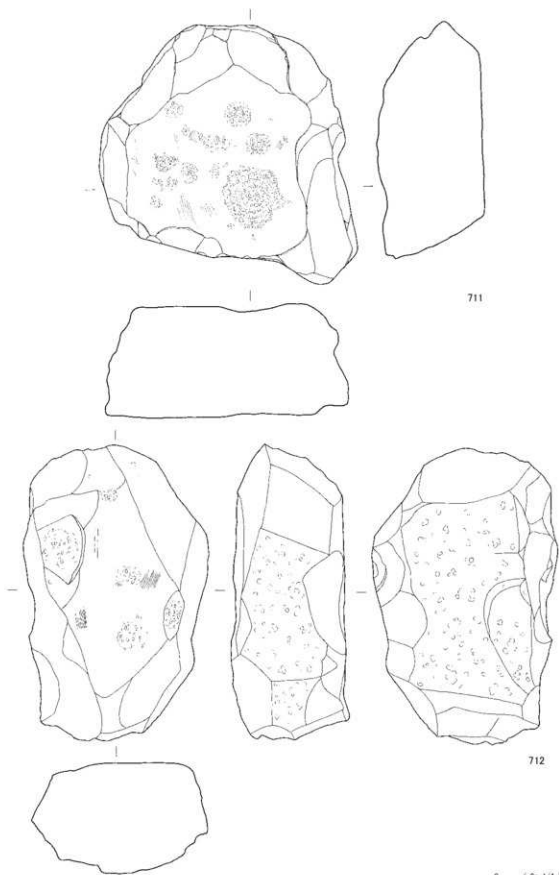
第116圖 SK01 出土遺物



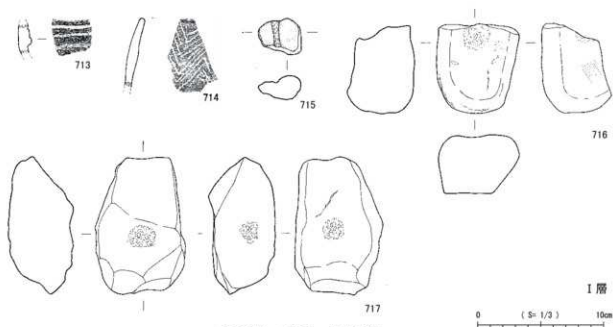
第117圖 SK02 出土遺物



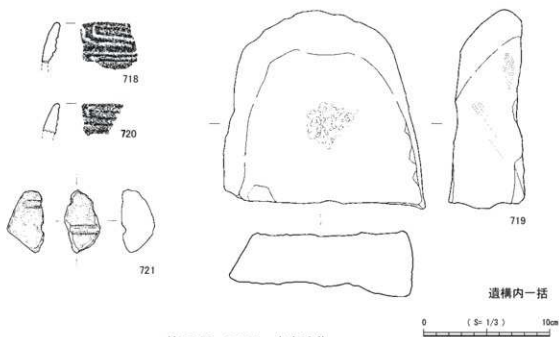
第118図 SK03 出土遺物(1)



第119図 SK03 出土遺物(2)



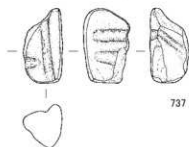
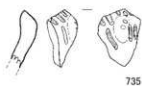
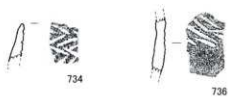
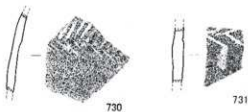
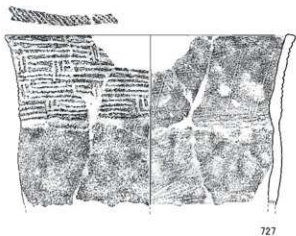
第120図 SK04 出土遺物



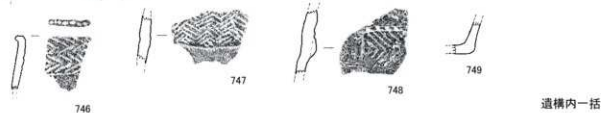
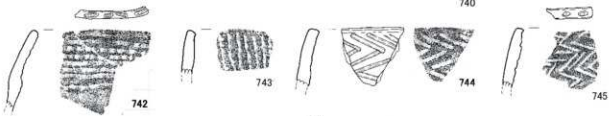
第121図 SK05 出土遺物



I 層



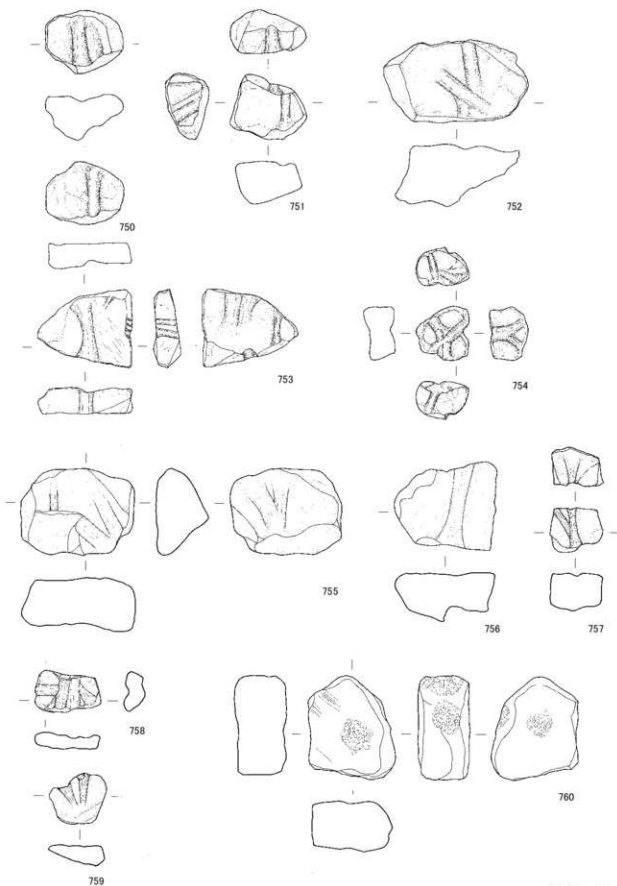
II 層



遺構内一括

(S=1/3) 10cm

第122図 SK06 出土遺物(1)

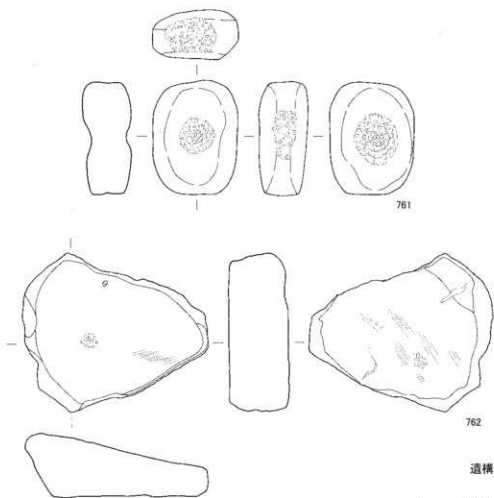


遺構内一括

0 (5: 1/3) 10cm

第123図 SK06 出土遺物(2)

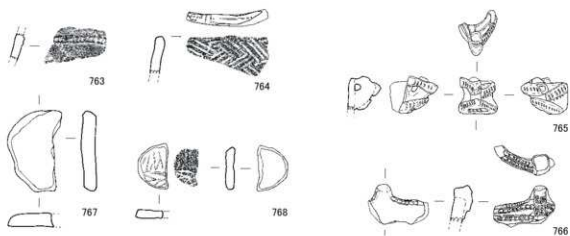




第124図 SK06 出土遺物(3)

遺構内一括

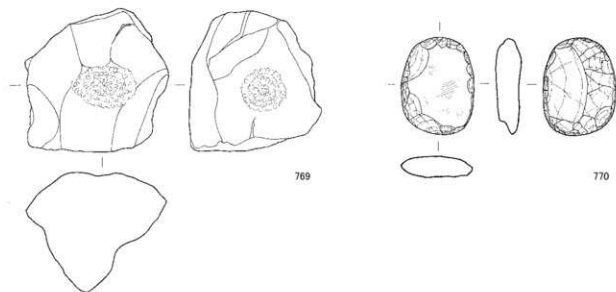
0 (S= 1/3) 10cm



第125図 SK07 出土遺物(1)

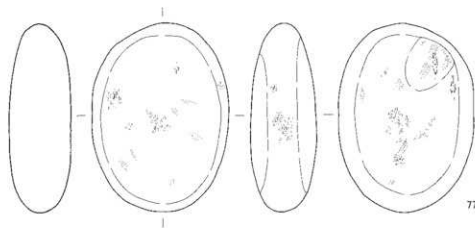
I層

0 (S= 1/3) 10cm



769

770

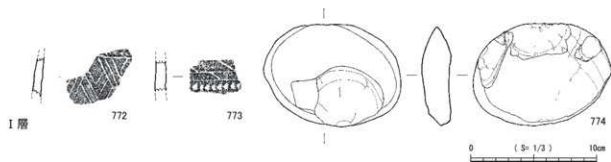


771

I層

0 (S= 1/3) 10cm

第126図 SK07 出土遺物(2)



I層

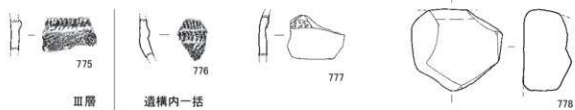
772

773

774

0 (S= 1/3) 10cm

第127図 SK09 出土遺物



III層

遺構内一括

775

776

777

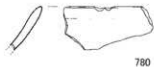
778

0 (S= 1/3) 10cm

第128図 SK10 出土遺物



779

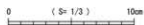


780



781

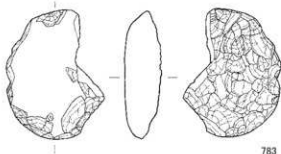
I 層



第129図 SK11 出土遺物

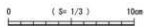


782



783

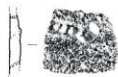
I 層



第130図 SK12 出土遺物



784



785

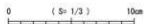


786

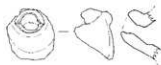


787

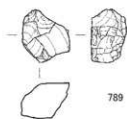
I 層 遺構内一括



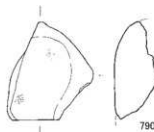
第131図 SK13 出土遺物



788

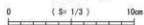


789

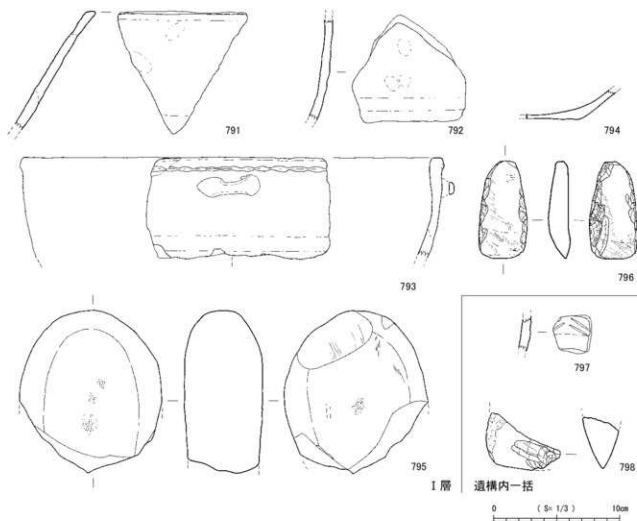


790

遺構内一括



第132図 SK14 出土遺物



第133図 SK16 出土遺物

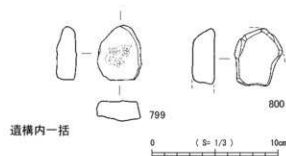
(8) 溝状遺構 (SD) 出土遺物

ここでは、SDからの出土遺物をまとめて紹介する。SDからは、遺物は79点出土し、そのうち図化したものは3点である。以下、遺構ごとに遺物の観察を記述する。

SD01 (第134図・第106表)

I層 (799・800)

799は中粒砂岩を石材とする敲石である。800は中粒砂岩を石材とする砥石である。

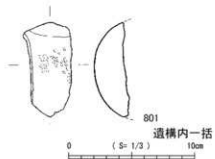


第134図 SD01 出土遺物

SD06 (第135図・第106表)

遺構内一括取り上げ (801)

801は斑状玄武岩を石材とする磨敲石である。大部分が欠損している。



第135図 SD06 出土遺物

第97表 崩り遺跡出土土物観察表(1)

埋蔵 層号	遺構名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値 (cm)			文様・図類		重量 (g)	備考	検出No.	
								口径 最大径	底径 最小径	高さ 最大径	(外)	(内)				
1	SH01	J-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.5)	(3.4)	(3.3)	-	-	54	2面に計4条の溝。	第54回	
2	SH01	J-2	I層	石函	磁石	中粒砂岩	-	(5.6)	(6.0)	(6.0)	-	-	224	-		
3	SH01	J-2	II層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	胴	-	-	-	-	-	-	-		
4	SH01	J-2	II層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
5	SH01	J-2	II層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
6	SH01	J-2	II層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
7	SH01	J-2	II層	石函	打製石器	貫石	-	(2.8)	(2.8)	(0.4)	-	-	4	-		
8	SH01	J-2	II層	石函	磨製石器	貫石	-	(2.2)	(3.2)	(0.4)	-	-	3	-		
9	SH01	J-2	II層	石函	石函	磁石	-	(16.8)	(10.8)	(3.9)	-	-	1095	残存デンプン粒分析 (KZR-SRP6)。		
10	SH01	J-2	II層	石函	磁石	粗粒砂岩	-	(11.2)	(12.3)	(6.5)	-	-	1046	-		
11	SH01	J-2	III層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
12	SH01	J-2	III層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
13	SH01	J-2	III層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
14	SH01	J-2	III層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
15	SH01	J-2	III層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
16	SH01	J-2	III層	石函	磨製石	中粒砂岩	-	(13.4)	(10.4)	(6.6)	-	-	1448	残存デンプン粒分析 (KZR-SRP4)。		
17	SH01	J-2	III層	石函	石函	中粒砂岩	-	(12.7)	(11.5)	(6.2)	-	-	1032	残存デンプン粒分析 (KZR-SRP6)。		
18	SH01	J-2	V層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	オサエ		
19	SH01	J-2	V層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	貝殻乗堀		
20	SH01	J-2	V層	砂質土器	器?	-	胴	-	-	-	-	-	-	磨痕		
21	SH01	J-2	V層	砂質土器	器?	-	胴	-	-	-	-	-	-	オサエ・ナデ		
22	SH01	J-2	V層	石函	磨製石斧	貫石	-	(10.3)	(4.2)	(2.2)	-	-	122	-		
23	SH01	J-2	P174	石函	有溝磁石	貫石	-	(3.8)	(5.1)	(3.6)	-	-	23	-		
24	SH02	J-3	I層	石函	磁石	粗粒砂岩	-	(11.0)	(5.0)	(2.4)	-	-	262	-		
25	SH02	J-3	P5-2	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
26	SH03	J-2-3	I層	石函	磨製石斧	緑色岩	-	(6.2)	(3.6)	(2.4)	-	-	43	基部のみ残存。		
27	SH03	J-2-3	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.2)	(3.4)	(1.9)	-	-	21	1条の溝。		
28	SH03	J-2-3	I-II層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.1)	(2.9)	(1.6)	-	-	15	3面に計5条の溝。		
29	SH03	J-2-3	I-II層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.7)	(5.0)	(3.1)	-	-	83	全面に計15条の溝。		
30	SH03	J-2-3	I-II層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.1)	(2.8)	(1.8)	-	-	4	2面に計2条の溝。		
31	SH03	J-2-3	I-II層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.1)	(1.7)	(2.1)	-	-	15	3面に計3条の溝。		
32	SH03	J-2-3	II層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
33	SH03	J-2-3	II層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
34	SH03	J-2-3	II層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
35	SH03	J-2-3	II層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
36	SH03	J-2-3	II層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
37	SH03	J-2-3	II層	石函	磨製石	粗粒砂岩	-	(15.1)	(10.4)	(5.2)	-	-	1164	-		
38	SH03	J-2-3	II層	石函	磁石	中粒砂岩	-	(12.5)	(15.5)	(5.3)	-	-	1098	-		
39	SH03	J-2-3	II層	石函	打製石器	緑色岩	-	(8.9)	(8.9)	(2.9)	-	-	34	-		
40	SH03	J-2-3	II層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
41	SH03	J-2-3	-	石函	磨製石	中粒砂岩	-	(4.9)	(7.3)	(2.5)	-	-	99	-		
42	SH03	J-2-3	-	石函	磨製石	源石	-	(3.3)	(5.1)	(1.0)	-	-	21	-		
43	SH03	J-2-3	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.0)	(4.0)	(4.3)	-	-	81	1面に計3条の溝。		
44	SH03	J-2-3	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(5.7)	(4.4)	(4.4)	-	-	127	3面に計2条の溝。		
45	SH03	J-2-3	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.7)	(3.9)	(2.2)	-	-	34	3面に計4条の溝。		
46	SH04	K-2	I-A層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
47	SH04	K-2	I-A層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.5)	(4.4)	(2.3)	-	-	19	2面に計2条の溝。		
48	SH04	K-2	I-A層	石函	磨製石斧	粗粒砂岩	-	(8.8)	(5.7)	(2.5)	-	-	183	基部のみ残存。		
49	SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	貝殻乗堀		
50	SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
51	SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	押し交系	-	-	-	-	-	-	-	-		
52	SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
53	SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
54	SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
55	SH04	K-2	I層	砂質土器	鉢?	Ⅲ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
56	SH04	K-2	I層	砂質土器	-	Ⅲ-a	胴	-	-	-	-	-	-	-		
57	SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
58	SH04	K-2	I層	砂質土器	鉢?	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
59	SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
60	SH04	K-2	I層	砂質土器	鉢?	Ⅲ	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
61	SH04	K-2	I層	砂質土器	器?	Ⅲ	胴	-	-	-	-	-	-	-		
62	SH04	K-2	I層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
63	SH04	K-2	I層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
64	SH04	K-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.1)	(3.9)	(1.8)	-	-	24	1面に計2条の溝。		
65	SH04	K-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(8.1)	(4.6)	(3.0)	-	-	120	3面に計19条の溝。		
66	SH04	K-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.7)	(6.4)	(4.6)	-	-	157	3面に計4条の溝。		
67	SH04	K-2	I層	石函	磨製石	粗粒砂岩	-	(9.6)	(7.0)	(3.8)	-	-	418	-		
68	SH04	K-2	II層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	貝殻乗堀		
69	SH04	K-2	II層	砂質土器	小土壺	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
70	SH04	K-2	I層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
71	SH04	K-2	I層	砂質土器	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.4)	(2.3)	(2.0)	-	-	13	胎土に金首母混入。		
72	SH04	K-2	II層	石函	磨製石	緑色岩	-	(6.4)	(6.0)	(3.2)	-	-	161	大部分が剥離している。		
73	SH04	K-2	II層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.3)	(6.1)	(4.4)	-	-	103	1面に計1条の溝。		
74	SH04	K-2	II層	石函	磨製石斧	緑色岩	-	(12.8)	(6.8)	(4.0)	-	-	556	-		
75	SH04	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
76	SH04	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
77	SH04	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅲ-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
78	SH04	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅲ-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
79	SH04	K-2	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
80	SH04	K-2	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
81	SH04	K-2	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		

第98表 崩り遺跡出土土物観察表(2)

用器番号	遺構名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値 (cm)			文様・彫刻		重量 (g)	備考	埋戻No.
								口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	(外)	(内)			
82	SH05	K-2	1層	砂質土器	壺	I	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
83	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
84	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
85	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	III-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
86	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
87	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
88	SH05	K-2	1層	砂質土器	壺?	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
89	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
90	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	印線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
91	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
92	SH05	K-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
93	SH05	K-2	1層	砂質土器	壺?	壺	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
94	SH05	K-2	1層	砂質土器	-	壺	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
95	SH05	K-2	1層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
96	SH05	K-2	1層	石函	有溝結石	中粒砂礫	-	(9.3)	(6.0)	(5.0)	-	-	284	1面に計1条の溝。	-
97	SH05	K-2	1層	石函	有溝結石	中粒砂礫	-	(3.7)	(5.4)	(3.7)	-	-	76	3面に計6条の溝。	-
98	SH05	K-2	1層	石函	有溝結石	中粒砂礫	-	(5.0)	(2.9)	(2.3)	-	-	34	3面に計5条の溝。	-
99	SH05	K-2	1層	石函	有溝結石	中粒砂礫	-	(5.1)	(3.8)	(3.1)	-	-	53	2面に計5条の溝。	-
100	SH05	K-2	1層	石函	有溝結石	中粒砂礫	-	(2.5)	(2.3)	(1.5)	-	-	9	1面に計1条の溝。	-
101	SH05	K-2	1層	石函	有溝結石	粗石	-	(4.3)	(5.3)	(1.7)	-	-	10	1条の溝。	-
102	SH05	K-2	1層	石製品	陶器品?	貫筒	-	(2.1)	(1.7)	(0.9)	-	-	3	-	-
103	SH05	K-2	1層	石函	結石	中粒砂礫	-	(6.4)	(6.2)	(4.2)	-	-	284	-	-
104	SH05	K-2	1層	石函	結石	中粒砂礫	-	(5.2)	(10.5)	(5.4)	-	-	488	-	-
105	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	III-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
106	SH05	K-2	2層	砂質土器	-	押引文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
107	SH05	K-2	2層	砂質土器	-	印線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
108	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
109	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
110	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
111	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
112	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	印線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
113	SH05	K-2	2層	砂質土器	小穴深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
114	SH05	K-2	2層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
115	SH05	K-2	2層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
116	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
117	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
118	SH05	K-2	2層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
119	SH05	K-2	2層	砂質土器	-	壺	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
120	SH05	K-2	2層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
121	SH05	K-2	2層	石函	有溝結石	中粒砂礫	-	(3.0)	(3.8)	(2.5)	-	-	42	3面に計4条の溝。	-
122	SH05	K-2	2層	石函	有溝結石	中粒砂礫	-	(8.5)	(5.3)	(3.9)	-	-	187	1面に計2条の溝。平溝あり。	-
123	SH05	K-2	2層	石函	凹石	中粒砂礫	-	(9.4)	(7.2)	(4.6)	-	-	509	-	-
124	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
125	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
126	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
127	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
128	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
129	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
130	SH05	K-2	-	砂質土器	舟形壺?	II-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
131	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
132	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	III-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
133	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
134	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	III-e	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
135	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	III-e	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
136	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	III-e	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
137	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
138	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
139	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
140	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
141	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
142	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	19.5	-	-	-	-	-	-	-
143	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
144	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
145	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
146	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
147	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
148	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
149	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
150	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
151	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
152	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
153	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
154	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
155	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	印線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
156	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	押引文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
157	SH05	K-2	-	砂質土器	-	押引文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
158	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	印線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
159	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	印線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
160	SH05	K-2	-	砂質土器	-	印線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
161	SH05	K-2	-	砂質土器	-	印線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-

第99表 崩り遺跡出土遺物観察表(3)

埋蔵 番号	遺構名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値 (cm)			文様・図案		重量 (g)	備考	検出 No.
								L1 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	(外)	(内)			
162	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縁文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
163	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縁文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
164	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縁文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
165	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縁文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
166	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縁文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
167	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	凹縁文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
168	SH05	K-2	-	砂質土器	小型深鉢?	縁沈文系?	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
169	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	■	口縁	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁。胎土に金管母器入。
170	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
171	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	口縁	-	-	-	-	-	-	-	二重口縁か?胎土に金管母器入。
172	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	口縁	-	-	-	-	-	-	-	二重口縁か?胎土に金管母器入。
173	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢?	■	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
174	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
175	SH05	K-2	-	砂質土器	深鉢	■	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
176	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
177	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	平底	-	8.7	-	-	-	-	-	-
178	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
179	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
180	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
181	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
182	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
183	SH05	K-2	-	砂質土器	-	■	平底	-	-	-	-	-	-	-	内腹径土製品未成品?
184	SH05	K-2	-	石蔵	有溝磁石	磨石	-	(4.9)	(4.7)	(2.6)	-	-	17	-	-
185	SH05	K-2	-	石蔵	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.4)	(5.1)	(4.4)	-	-	61	-	1面に計2条の溝。
186	SH05	K-2	-	石蔵	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.6)	(2.6)	(1.6)	-	-	107	-	3面に計4条の溝。
187	SH05	K-2	-	石蔵	有溝磁石	中粒砂岩	-	(6.6)	(5.0)	(2.8)	-	-	133	-	3面に計9条の溝。平直溝あり。
188	SH05	K-2	-	石蔵	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.9)	(4.3)	(2.7)	-	-	67	-	2面に計5条の溝。
189	SH05	K-2	-	石蔵	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.9)	(7.3)	(2.4)	-	-	85	-	1面に計1条の溝。
190	SH05	K-2	-	石蔵	有溝磁石	中粒砂岩	-	(7.3)	(7.7)	(2.4)	-	-	183	-	1条の溝。磨打痕あり。
191	SH05	K-2	-	石蔵	磨石?	中粒砂岩	-	(7.2)	(7.0)	(6.8)	-	-	430	-	-
192	SH05	K-2	-	石蔵	磨石	中粒砂岩	-	(11.2)	(6.8)	(1.6)	-	-	141	-	-
193	SH05	K-2	-	石蔵	凹石	中粒砂岩	-	(7.8)	(8.9)	(6.0)	-	-	435	-	-
194	SH05	K-2	-	石蔵	凹石	中粒砂岩	-	(11.6)	(8.7)	(8.2)	-	-	580	-	-
195	SH05	K-2	-	石蔵	磨磁石	緑色岩	-	(6.3)	(4.8)	(2.8)	-	-	166	-	-
196	SH05	K-2	-	石蔵	磨磁石	緑色片岩	-	(7.5)	(6.0)	(3.9)	-	-	243	-	-
197	SH05	K-2	-	石蔵	磨磁石	玄武岩系	-	(15.5)	(9.2)	(6.2)	-	-	1245	-	靱い変成作用が見られる石材。
198	SH05	K-2	-	石蔵	磨磁石	粗粒砂岩	-	(8.6)	(6.8)	(4.0)	-	-	414	-	-
199	SH05	K-2	-	石蔵	磨磁石	細粒閃緑岩	-	(10.0)	(7.6)	(3.8)	-	-	542	-	-
200	SH05	K-2	-	石蔵	磨磁石	粗粒砂岩	-	(8.9)	(7.0)	(3.9)	-	-	347	-	-
201	SH05	K-2	-	石蔵	磨磁石片	緑色岩	-	(10.0)	(5.4)	(2.5)	-	-	224	-	双刀石片。
202	SH05	K-2	-	石蔵	磨磁石片	緑色岩	-	(3.6)	(4.6)	(1.7)	-	-	39	-	基部のみ残存。
203	SH05	K-2	-	石蔵	石皿	中粒砂岩	-	(8.9)	(8.4)	(6.3)	-	-	469	-	-
204	SH05	K-2	-	石蔵	石皿	中粒砂岩	-	(27.7)	(22.5)	(10.1)	-	-	7440	-	蓋状の凹み2つ。
205	SH05	K-2	-	石製品	不明	中粒砂岩	-	(26.4)	(32.2)	(14.6)	-	-	18390	-	全体に粗粒のみの磨打痕がみられる。
206	SH06	K-3	-	砂質土器	深鉢?	■-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
207	SH06	K-3	-	砂質土器	深鉢	■-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
208	SH06	K-3	-	砂質土器	深鉢	■-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
209	SH06	K-3	-	砂質土器	深鉢	■-c	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
210	SH06	K-3	-	砂質土器	深鉢	■-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
211	SH06	K-3	-	砂質土器	-	■	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
212	SH06	K-3	-	小安石製品	不明	貫岩	-	(5.0)	(2.9)	(0.8)	-	-	12	-	-
213	SH06	K-3	-	石蔵	砕石	中粒砂岩	-	(14.7)	(14.4)	(8.5)	-	-	1800	-	-
214	SH07	K-3	I層	砂質土器	深鉢	■-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
215	SH07	K-3	I層	砂質土器	深鉢	■-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
216	SH07	K-3	I層	砂質土器	-	■-d	胴	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金管母器入。
217	SH07	K-3	I層	砂質土器	深鉢	凹縁文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
218	SH07	K-3	I層	砂質土器	-	■	平底	-	5.2	-	-	-	-	-	内腹径土製品未成品品。
219	SH07	K-3	I層	石蔵	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.9)	(1.2)	(0.7)	-	-	2	-	4面に計5条の溝。
220	SH07	K-3	I層	石蔵	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.0)	(2.8)	(2.2)	-	-	116	-	3面に計10条の溝。
221	SH07	K-3	I層	石蔵	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.1)	(1.7)	(1.2)	-	-	6	-	2面に計3条の溝。
222	SH07	K-3	I層	石蔵	石枕	インフェリス	-	(3.2)	(4.2)	(3.0)	-	-	61	-	-
223	SH07	K-3	I層	石蔵	磨石	粗粒砂岩	-	(4.6)	(4.4)	(6.7)	-	-	210	-	-
224	SH07	K-3	II層	砂質土器	深鉢	■-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁。胎土に金管母器入。
225	SH07	K-3	-	砂質土器	-	■-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
226	SH07	K-3	-	石蔵	砕石	中粒砂岩	-	(21.8)	(13.3)	(9.2)	-	-	3090	-	-
227	SH07	K-3	-	石蔵	磨磁石片	緑色岩	-	(9.8)	(5.5)	(3.2)	-	-	248	-	-
228	SH08-08	K-3	-	砂質土器	深鉢	■-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
229	SH08-08	K-3	-	石蔵	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.0)	(4.0)	(2.4)	-	-	30	-	全面使用。計11条の溝。
230	SH08	L-3	I層	石蔵	磨製石器	磨石	-	(4.3)	(4.0)	(0.9)	-	-	16	-	ナイブ型?
231	SH08-08	L-3	I層	砂質土器	深鉢?	■-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
232	SH08-08	L-3	I層	砂質土器	深鉢	■-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
233	SH08-08	L-3	I層	砂質土器	深鉢	■	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
234	SH08-08	L-3	I層	砂質土器	小安の鉢?	■	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
235	SH10	J-1-2	I層	砂質土器	深鉢	■	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
236	SH10	J-1-2	I層	砂質土器	深鉢	■-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
237	SH10	J-1-2	I層	砂質土器	深鉢	■-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
238	SH10	J-1-2	I層	砂質土器	深鉢?	■	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
239	SH10	J-1-2	I層	石蔵	磨磁石	緑色岩	-	(8.6)	(6.3)	(2.8)	-	-	293	-	-
240	SH10	J-1-2	I層	石蔵	磨磁石	緑色岩	-	(9.4)	(6.6)	(3.2)	-	-	319	-	-
241	SH10	J-1-2	床面	石蔵	磨磁石	粗粒砂岩	-	(8.3)	(7.7)	(4.1)	-	-	451	-	-

第100表 崩り遺跡出土遺物観察表(4)

用取 番号	遺構名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値 (cm)			文様・彫刻		重量 (g)	備考	検出No.
								口径	底径	高さ	(外)	(内)			
242	SH10	J-1-2	P3	石函	砂石	中砂砂土	-	(16.7)	(10.6)	(9.0)	-	-	2250		
243	SH10	J-1-2	P3	石函	砂石・石函	中砂砂土	-	(14.3)	(14.2)	(6.5)	-	-	2010		第75号
244	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-		
245	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-		
246	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	粘土に金貨母器混入。	
247	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-		
248	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-		
249	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-		
250	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	粘土に金貨母器混入。	
251	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-c	口縁	24.5	-	-	-	-	オサエ		
252	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-		
253	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
254	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	朝鮮文系	胴	-	-	-	-	-	-		
255	SH11	J-2	1層	砂質土	深鉢	朝鮮文系	胴	-	-	-	ナデ	オサエ	-	粘土に金貨母器混入。	
256	SH11	J-2	1層	砂質土	-	-	平底	-	8.2	-	-	-	-		
257	SH11	J-2	1層	砂質土	-	-	平底	-	4.6	-	-	-	-		
258	SH11	J-2	1層	石函	砂石・砂石	中砂砂土	-	(8.0)	(8.3)	(1.2)	-	-	160		
259	SH11	J-2	1層	石函	磨蝕石	緑色石	-	(13.5)	(8.8)	(4.7)	-	-	1020		
260	SH11	J-2	2層	砂質土	-	-	平底	-	7.6	-	-	-	オサエ		
261	SH11	J-2	2層	砂質土	深鉢	Ⅳ-d	口縁	-	-	-	ナデ	オサエ・溝	-	波状口縁。	
262	SH11	J-2	2層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(3.2)	(5.3)	(2.3)	-	-	82	1条の溝。	
263	SH11	J-2	2層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(4.4)	(4.3)	(4.2)	-	-	139	全面に計18条の溝。	
264	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅲ-b	口縁	-	-	-	-	-	-		
265	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅲ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	貝殻片混入。	
266	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
267	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-a	口縁	-	-	-	-	-	-		
268	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢?	Ⅳ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	粘土に金貨母器混入。	
269	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢?	Ⅳ-a	口縁	-	-	-	-	-	-		
270	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-b	胴	-	-	-	-	-	-		
271	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-		
272	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-c	胴	-	-	-	-	-	-		
273	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢	Ⅳ-d	口縁	-	-	-	-	-	-	波状口縁。 粘土に金貨母器混入。	
274	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢?	押引文系	胴	-	-	-	-	-	-	粘土に金貨母器混入?	
275	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢?	甕	口縁	-	-	-	-	-	-	二重口縁系か?	
276	SH12	J-K-2	1層	砂質土	深鉢?	甕	口縁	-	-	-	-	-	-		
277	SH12	J-K-2	1層	砂質土	-	-	平底	-	-	-	-	-	-		
278	SH12	J-K-2	1層	砂質土	-	-	平底	-	-	-	-	-	-		
279	SH12	J-K-2	1層	砂質土	-	-	平底	-	-	-	-	-	-		
280	SH12	J-K-2	1層	砂質土	-	-	平底	-	-	-	-	-	-		
281	SH12	J-K-2	1層	砂質土	-	-	平底	-	-	-	-	-	-		
282	SH12	J-K-2	1層	砂質土	-	-	平底	-	-	-	ケズリ	オサエ	-		
283	SH12	J-K-2	1層	砂質土	-	-	平底	-	5.8	-	-	-	-		
284	SH12	J-K-2	1層	泥質土	-	-	平底	-	6.5	-	-	-	オサエ		
285	SH12	J-K-2	1層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(2.5)	(2.2)	(1.3)	-	-	7	2面に計3条の溝。	
286	SH12	J-K-2	1層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(1.6)	(2.4)	(2.1)	-	-	7	2面に計2条の溝。	
287	SH12	J-K-2	1層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(3.2)	(4.8)	(1.8)	-	-	21	1面に計2条の溝。	
288	SH12	J-K-2	1層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(5.0)	(6.0)	(1.9)	-	-	44	1面に計1条の溝。	
289	SH12	J-K-2	1層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(2.4)	(5.8)	(2.4)	-	-	33	3面に計8条の溝。	
290	SH12	J-K-2	1層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(5.5)	(8.4)	(3.8)	-	-	223	2面に計3条の溝。平溝混在あり。	
291	SH12	J-K-2	1層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(3.8)	(9.2)	(2.5)	-	-	60	4面に計7条の溝。	
292	SH12	J-K-2	1層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(3.1)	(4.6)	(2.8)	-	-	58	3面に計25条の溝。	
293	SH12	J-K-2	1層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(6.6)	(3.1)	(2.9)	-	-	59	3面に計4条の溝。	
294	SH12	J-K-2	1層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(5.5)	(6.8)	(4.0)	-	-	164	4面に計11条の溝。	
295	SH12	J-K-2	1層	石函	磨蝕石	粗砂砂土	-	(10.4)	(9.2)	(5.0)	-	-	786	残存デンプン分析(KZr-SRP2)。	
296	SH12	J-K-2	1層	石函	磨蝕石	粗砂砂土	-	(9.7)	(8.1)	(4.1)	-	-	502	残存デンプン分析(KZr-SRP3)。	
297	SH12	J-K-2	1層	石函	磨蝕石	安山岩	-	(10.8)	(8.3)	(4.1)	-	-	635	残存デンプン分析(KZr-SRP5)。	
298	SH12	J-K-2	2層	石函	砂石	中砂砂土	-	(14.8)	(12.0)	(6.0)	-	-	1721		
299	SH12	J-K-2	2層	石函	砂石	中砂砂土	-	(10.7)	(17.2)	(5.3)	-	-	1275		
300	SH12	J-K-2	2層	砂質土	-	-	平底	-	-	-	-	-	-		
301	SH12	J-K-2	2層	砂質土	-	-	平底	-	-	-	-	-	-		
302	SH12	J-K-2	2層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(3.5)	(2.6)	(1.3)	-	-	13	1条の溝。	
303	SH12	J-K-2	2層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(6.1)	(4.8)	(3.7)	-	-	119	3面に計7条の溝。	
304	SH12	J-K-2	2層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(6.6)	(6.1)	(2.8)	-	-	109	3面に計10条の溝。平溝混在あり。	
305	SH12	J-K-2	2層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(5.4)	(4.3)	(5.4)	-	-	163	2面に計7条の溝。平溝混在あり。	
306	SH12	J-K-2	2層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(5.4)	(5.1)	(4.2)	-	-	161	3面に計4条の溝。平溝混在あり。	
307	SH12	J-K-2	2層	石函	円形状石	緑色石	-	(8.1)	(7.1)	(2.7)	-	-	227		
308	SH12	J-K-2	2層	石函	磨蝕石	粗砂砂土	-	(15.3)	(6.2)	(5.0)	-	-	550		
309	SH12	J-K-2	2層	石函	磨蝕石	粗砂砂土	-	(18.4)	(10.5)	(7.5)	-	-	1110	残存デンプン分析(KZr-SRP1)。	
310	SH12	J-K-2	2層	小石	小石	泥	-	(2.4)	(1.7)	(0.3)	-	-	2		
311	SH12	J-K-2	2層	砂質土	深鉢	Ⅲ	口縁	-	-	-	-	-	-		
312	SH12	J-K-2	2層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(5.5)	(4.5)	(3.1)	-	-	70	3面に計11条の溝。	
313	SH12	J-K-2	2層	石函	有溝磁石	中砂砂土	-	(3.5)	(3.4)	(1.5)	-	-	23	2面に計6条の溝。	
314	SH13	K-2	2層	砂質土	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-		
315	SH13	K-2	2層	砂質土	深鉢	縄文文系	胴	-	-	-	-	-	-		
316	SH13	K-2	2層	砂質土	深鉢	縄文文系	胴	-	-	-	-	-	-		
317	SH13	K-2	2層	砂質土	深鉢	縄文文系	胴	-	-	-	-	-	-	ナデ・オサエ	
318	SH13	K-2	2層	砂質土	深鉢	Ⅴ	口縁	-	-	-	-	-	-		
319	SH13	K-2	2層	砂質土	深鉢	Ⅴ	口縁	-	-	-	-	-	-		
320	SH13	K-2	2層	砂質土	深鉢	Ⅴ	口縁	-	-	-	-	-	-		
321	SH13	K-2	2層	泥質土	-	-	平底	-	-	-	-	-	-		



第101表 崩り遺跡出土遺物観察表(5)

接取 番号	遺物名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値 (cm)			文様・形態		重量 (g)	備考	検出No.	
								口径	底径	高さ	(外)	(内)				
322	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(1.7)	(2.2)	(1.9)	-	-	10	1面に計2条の溝。	第82回	
323	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.9)	(6.3)	(2.8)	-	-	99	1条の溝。		
324	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.2)	(6.6)	(3.1)	-	-	99	1条の溝。		
325	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	磨蝕石片	粗粒砂岩	-	(11.3)	(7.4)	(3.7)	-	-	429	-		
326	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	石皿	中粒砂岩	-	(23.7)	(16.4)	(12.4)	-	-	6510	残存デンプン粒分析(KZ9-SRP13)。		
327	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	磨蝕石	粗粒砂岩	-	(11.8)	(9.1)	(4.9)	-	-	906	-		
328	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	磨蝕石	粗粒砂岩	-	(12.7)	(8.0)	(4.5)	-	-	772	残存デンプン粒分析(KZ8-SRP6)。		
329	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	砂石	粗粒砂岩	-	(21.3)	(14.9)	(8.2)	-	-	4160	残存デンプン粒分析(KZ8-SRP7)。		
330	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	砂石	粗粒砂岩	-	(18.2)	(12.9)	(6.2)	-	-	2300	-		
331	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	砂石・石皿	粗粒砂岩	-	(15.3)	(15.7)	(5.0)	-	-	1529	-		
332	SH13	K-2	Ⅱ層	砂質土器	深鉢	凹線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	第84回	
333	SH13	K-2	Ⅱ層	定置土器	深鉢	凹線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-		
334	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	磨蝕石	粗粒砂岩	-	(7.2)	(10.0)	(3.4)	-	-	333	-		
335	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	石皿	緑色岩	-	(6.8)	(6.3)	(3.6)	-	-	278	-		
336	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	砂石・石皿	中粒砂岩	-	(22.7)	(17.3)	(11.2)	-	-	7440	残存デンプン粒分析(KZ9-SRP12)。		
337	SH13	K-2	Ⅱ層	石函	砂石	粗粒砂岩	-	(48.1)	(25.0)	(18.0)	-	-	25000	-		
338	SH13	K-2	PI	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
339	SH13	K-2	P1	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.7)	(6.2)	(4.0)	-	-	120	1条の溝。		
340	SH13	K-2	-	砂質土器	深鉢	II-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
341	SH13	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		波状口縁。
342	SH13	K-2	-	砂質土器	深鉢	縄文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	第86回	
343	SH13	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.0)	(2.3)	(1.8)	-	-	8	1条の溝。		
344	SH13	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.4)	(4.3)	(2.3)	-	-	39	1条の溝。		
345	SH13	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.5)	(2.2)	(1.2)	-	-	10	2面に2条の溝。		
346	SH13	K-2	-	石函	石皿	中粒砂岩	-	(10.7)	(9.0)	(9.0)	-	-	971	-		
347	SH13	K-2	-	石函	石皿	中粒砂岩	-	(19.9)	(12.8)	(8.8)	-	-	2620	-		
348	SH14	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-b	胴	-	-	-	-	-	-	-		
349	SH14	K-2	I層	砂質土器	深鉢	縄文系	胴	-	-	-	-	-	-	-		
350	SH14	K-2	I層	砂質土器	深鉢	押引文系	胴	-	-	-	-	-	-	-		
351	SH14	K-2	I層	砂質土器	蓋	-	胴	-	-	-	-	-	-	-		
352	SH14	K-2	I層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
353	SH14	K-2	I層	石函	磨蝕石	粗粒砂岩	-	(13.3)	(8.8)	(4.3)	-	-	820	-		
354	SH14	K-2	Ⅱ層	砂質土器	深鉢?	III-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
355	SH14	K-2	Ⅱ層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
356	SH14	K-2	Ⅱ層	砂質土器	深鉢	III	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
357	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.1)	(2.2)	(1.2)	-	-	15	2面に3条溝か? 粘土に倉倉母混入。		
358	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.6)	(3.5)	(2.2)	-	-	25	1面に計3条の溝。平滑面あり。		
359	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(5.9)	(4.8)	(4.0)	-	-	91	1面に計2条の溝。		
360	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.6)	(4.0)	(3.3)	-	-	31	1面に計1条の溝。平滑面あり。		
361	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.2)	(3.1)	(1.7)	-	-	15	3面に計6条の溝。		
362	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.0)	(5.8)	(3.9)	-	-	102	1面に計1条の溝。		
363	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.8)	(3.6)	(1.9)	-	-	13	3面に計3条の溝。		
364	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	磨蝕石	緑色岩	-	(9.9)	(5.5)	(3.4)	-	-	177	-		
365	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	磨石	中粒砂岩	-	(10.2)	(8.4)	(10.7)	-	-	819	石函から転用。		
366	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	砂石	中粒砂岩	-	(13.0)	(9.1)	(5.7)	-	-	740	-		
367	SH14	K-2	Ⅱ層	砂質土器	砂石	中粒砂岩	胴部	-	-	-	-	-	-	-	片口土器。	
368	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	砂石	中粒砂岩	-	(13.7)	(9.8)	(7.5)	-	-	1596	-		
369	SH14	K-2	Ⅱ層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	第88回	
370	SH14	K-2	Ⅱ層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
371	SH14	K-2	Ⅱ層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
372	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.2)	(2.7)	(2.0)	-	-	13	3面に計4条の溝。		
373	SH14	K-2	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(1.6)	(2.1)	(1.7)	-	-	6	4面に計5条の溝。		
374	SH15	L-1	I層	砂質土器	深鉢?	II-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
375	SH15	L-1	I層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-		波状口縁。
376	SH15	L-1	I層	砂質土器	深鉢	III	口縁	-	-	-	-	-	-	-		-
377	SH15	L-1	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.0)	(4.2)	(2.7)	-	-	44	1面に計3条の溝。		
378	SH15	L-1	I層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		第89回
379	SH15	L-1	I層	砂質土器	深鉢	IV-d	胴	-	-	-	-	-	-	-		
380	SH15	L-1	I層	石函	磨蝕石	砂岩	胴	-	-	-	-	-	-	-		
381	SH15	L-1	I層	砂質土器	深鉢	波線文系	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
382	SH15	L-1	I層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
383	SH15	L-1	I層	定置土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
384	SH15	L-1	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.9)	(4.5)	(2.4)	-	-	39	3面に計4条の溝。		
385	SH15	L-1	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.1)	(4.5)	(3.0)	-	-	64	2面に計2条の溝。		
386	SH15	L-1	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.6)	(5.3)	(4.2)	-	-	138	1面に計1条の溝。平滑面あり。		
387	SH15	L-1	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(5.6)	(8.3)	(3.8)	-	-	179	2面に計3条の溝。		
388	SH15	L-1	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.5)	(6.4)	(4.1)	-	-	146	3面に計5条の溝と1面に磨打面。		
389	SH15	L-1	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.6)	(4.0)	(2.4)	-	-	22	1条の溝。		
390	SH15	L-1	I層	石製品	不明	糸ノエリス	-	(3.1)	(1.7)	(1.2)	-	-	9	-		
391	SH15	L-1	I層	石函	磨蝕石	砂岩	胴部	-	-	-	-	-	-	-	716	
392	SH15	L-1	I層	石函	砂石	中粒砂岩	-	(10.1)	(8.1)	(9.4)	-	-	741	-		
393	SH16	K-2	I層	砂質土器	深鉢	III-a	胴部	-	-	-	-	-	-	-	粘土に倉倉母混入。	
394	SH16	K-1-2	I層	砂質土器	深鉢	III-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
395	SH16	K-1-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁。	
396	SH16	K-1-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
397	SH16	K-1-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(5.3)	(6.0)	(3.1)	-	-	136	3面に計4条の溝。		
398	SH16	K-1-2	I層	石函	磨石	中粒砂岩	-	(11.8)	(7.9)	(6.5)	-	-	748	-		
399	SH16	K-1-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	オサエ。	
400	SH16	K-1-2	I層	土製品	内蓋土製品	砂質	-	(5.3)	(5.5)	(1.2)	-	-	46	-		
401	SH16	K-1-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.9)	(6.4)	(2.6)	-	-	80	2面に計3条の溝。		

第102表 崩り遺跡出土遺物観察表(6)

用器 番号	遺構名	出土区	層位	分類 L1	分類 L2	分類 L3	部位	計測値 (cm)			文様・彫刻		重量 (g)	備考	埋戻 No.	
								口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	(外)	(内)				
402	SH16	K-L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(5.5)	(3.5)	(2.3)	-	-	60	2面に計2本の溝。	第91区	
403	SH16	K-L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.2)	(3.9)	(3.2)	-	-	30	2面に計3本の溝。		
404	SH16	K-L-2	-	石函	磁石	中粒砂岩	-	(3.0)	(3.8)	(2.2)	-	-	40	-		
405	SH16	K-L-2	-	石函	磨盤石	粗粒砂岩	-	(8.3)	(6.7)	(3.5)	-	-	340	-		
406	SH17	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	-	-	第92区
407	SH17	K-2	I	土製品	瓦葺土器	蓋?	甕	胴	-	-	-	-	-	-	-	
408	SH17	K-2	I	土製品	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(1.8)	(3.3)	(1.2)	-	-	6	3面に計6本の溝。	
409	SH17	K-2	I	土製品	石函	磁石	中粒砂岩	-	(8.7)	(11.7)	(4.2)	-	-	495	-	
410	SH17	K-2	I	土製品	石製品	棒状石製品	磨石系	-	(6.7)	(3.7)	(3.0)	-	-	105	-	
411	SH17	K-2	I	Ⅱ層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
412	SH17	K-2	I	Ⅱ層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
413	SH17	K-2	I	Ⅱ層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
414	SH17	K-2	I	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.4)	(3.7)	(1.5)	-	-	20	1面に計4本の溝。	
415	SH17	K-2	I	Ⅱ層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.2)	(3.0)	(2.2)	-	-	15	2面に計3本の溝。	
416	SH17	K-2	床底	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅱ-e	口縁	-	-	-	貝殻条痕	貝殻条痕	-	-	
417	SH17	K-2	床底	土製品	砂質土器	蓋?	甕	胴	-	-	-	-	-	-	-	
418	SH17	K-2	-	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
419	SH17	K-2	-	土製品	瓦葺土器	深鉢	甕	胴-平底	-	(6.2)	-	-	-	-	-	
420	SH17	K-2	-	土製品	瓦葺土器	深鉢	甕	胴-平底	7.2	-	-	-	-	-	-	
421	SH17	K-2	-	石函	磁石	中粒砂岩	-	(6.8)	(7.6)	(5.2)	-	-	443	-	第93区	
422	SH17	K-2	-	石函	磨盤石	粗粒砂岩	-	(9.8)	(7.5)	(3.5)	-	-	-	-		-
423	SH17	K-2	-	石函	磨盤石	粗粒砂岩	-	(14.0)	(10.1)	(7.4)	-	-	1644	-		-
424	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-a	口縁	-	-	-	-	-	-		-
425	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-		-
426	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-		-
427	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-		-
428	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-		-
429	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-		-
430	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-d	口縁	-	-	-	-	-	-		-
431	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-d	平底	-	-	-	-	-	-		-
432	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-d	口縁	-	-	-	-	-	-		-
433	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
434	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
435	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	-	Ⅳ-d	-	-	-	-	-	-	-	-	
436	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	9	-	
437	SH18	K-2	I	土製品	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	
438	SH18	K-2	I	土製品	瓦葺土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	
439	SH18	K-2	I	土製品	土製品	片割状土製品	砂質	-	(5.0)	(4.8)	(1.0)	-	-	28	-	第94区
440	SH18	K-2	I	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.2)	(5.1)	(3.5)	-	-	45	1面に計2本の溝。		
441	SH18	K-2	I	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(5.9)	(7.3)	(3.9)	-	-	145	1面に計2本の溝。		
442	SH18	K-2	I	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(9.0)	(7.7)	(4.5)	-	-	357	1面に計4本の溝。		
443	SH18	K-2	I	石函	片割状石函	緑色岩	-	(7.3)	(7.3)	(2.5)	-	-	217	-		
444	SH18	K-2	I	石函	片割状石函	緑色岩	-	(7.0)	(6.0)	(3.1)	-	-	209	-		
445	SH18	K-2	I	石函	中粒砂岩	中粒砂岩	-	(9.4)	(5.7)	(3.2)	-	-	237	-		
446	SH18	K-2	I	石函	磨盤石	緑色岩	-	(12.7)	(7.3)	(3.7)	-	-	588	-		
447	SH18	K-2	I	石函	不明	緑石	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
448	SH18	K-2	I	土製品	石函	磁石	中粒砂岩	-	(15.0)	(24.0)	(10.8)	-	-	5610	中車駒の形みをつくる。用途不明。	
449	SH18	K-2	Ⅱ層	石函	磨盤石	片割状石函	緑色岩	-	(10.3)	(5.6)	(3.3)	-	-	310	蓋状の形み2か所。	
450	SH18	K-2	床底	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
451	SH18	K-2	床底	土製品	片割状土製品	瓦葺	-	(4.5)	(4.1)	(0.7)	-	-	-	-	-	
452	SH18	K-2	床底	土製品	磨盤石	片割状石函	緑色岩	-	(9.3)	(6.0)	(2.6)	-	-	225	-	
453	SH18	K-2	床底	土製品	磨盤石	片割状石函	緑色岩	-	(12.3)	(5.7)	(5.1)	-	-	509	-	
454	SH18	K-2	-	土製品	砂質土器	小穴深鉢?	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
455	SH18	K-2	-	土製品	片割状土製品	砂質	-	(2.9)	(2.8)	(0.6)	-	-	6	-	第95区	
456	SH18	K-2	-	土製品	片割状土製品	砂質	-	(2.7)	(2.9)	(0.8)	-	-	7	胎土に金雲母混入。		
457	SH18	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(1.9)	(3.9)	(1.5)	-	-	14	2面に計4本の溝。		
458	SH18	K-2	-	石函	磨盤石	中粒砂岩	-	(7.2)	(5.9)	(3.3)	-	-	247	-		
459	SH18	K-2	-	石函	磨盤石	中粒砂岩	-	(6.5)	(6.7)	(5.7)	-	-	337	-		
460	SH19	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.8)	(4.7)	(2.5)	-	-	33	2面に計2本の溝。		
461	SH19	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(6.8)	(4.6)	(3.2)	-	-	88	2面に計2本の溝。		
462	SH19	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.0)	(4.5)	(2.3)	-	-	3.2	1面に計4本の溝。		
463	SH19	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.1)	(6.7)	(3.0)	-	-	72	2面に計2本の溝。		
464	SH19	L-2	-	石函	磁石	中粒砂岩	-	(12.8)	(9.5)	(5.6)	-	-	847	-		
465	SH19	L-2	-	石函	磁石	中粒砂岩	-	(11.7)	(11.1)	(8.2)	-	-	1014	-		
466	SH19	L-2	-	石函	磨盤石	粗粒砂岩	-	(13.1)	(9.0)	(7.7)	-	-	1502	-		
467	SH19	L-2	-	石函	磨盤石	粗粒砂岩	-	(14.2)	(8.5)	(5.1)	-	-	1101	-		
468	SH19	L-2	-	石函	磨盤石	中粒砂岩	-	(13.3)	(7.6)	(5.9)	-	-	879	-		
469	SH20	L-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
470	SH20	L-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
471	SH20	L-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
472	SH20	L-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	
473	SH20	L-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	Ⅳ-e	胴	-	-	-	-	-	-	-	
474	SH20	L-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	磁沈物文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	
475	SH20	L-2	I	土製品	砂質土器	深鉢	磁沈物文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	
476	SH20	L-2	I	土製品	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	
477	SH20	L-2	I	土製品	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	
478	SH20	L-2	I	土製品	瓦葺土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	
479	SH20	L-2	I	土製品	片割状土製品	瓦葺	-	(2.8)	(2.8)	(0.8)	-	-	5	-	第96区	
480	SH20	L-2	I	土製品	片割状土製品	砂質	-	(2.8)	(2.7)	(0.7)	-	-	6	-		
481	SH20	L-2	I	土製品	片割状土製品	砂質	-	(6.1)	(6.0)	(1.5)	-	-	61	-		

第103表 崩り遺跡出土遺物観察表(7)

埋藏番号	遺構名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値 (cm)			文様・図柄		重量 (g)	備考	検出No.	
								上径	底径	高さ	(外)	(内)				
482	SH20	L-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(6.2)	(4.9)	(2.8)	-	-	92	2面に計2条の溝。	第99回	
483	SH20	L-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(6.5)	(3.9)	(4.1)	-	-	88	4面に計34条の溝。		
484	SH20	L-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(6.2)	(3.6)	(3.2)	-	-	64	4面に計6条の溝。		
485	SH20	L-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(5.8)	(3.6)	(3.0)	-	-	88	全面に計11条の溝。		
486	SH20	L-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.5)	(2.9)	(1.8)	-	-	9	3面に計4条の溝。		
487	SH20	L-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	口縁	(1.2)	(1.8)	(0.7)	-	-	2	2面に計3条の溝。		
488	SH20	L-2	I層	石函	磨蝕石	緑色岩	-	(6.8)	(4.8)	(3.0)	-	-	165	-		
489	SH20	L-2	I層	石函	磨蝕石	緑色岩	-	(8.2)	(5.3)	(3.0)	-	-	179	-		
490	SH20	L-2	I層	石函	尹形状石函	緑色岩	-	(8.6)	(6.7)	(2.0)	-	-	214	-		
491	SH20	L-2	I層	石製品	不明	中粒砂岩	-	(7.6)	(8.3)	(7.8)	-	-	576	-		
492	SH20	L-2	II層	砂質土器	深鉢	押引文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	第100回	
493	SH20	L-2	II層	砂質土器	深鉢	押引文系	胴	-	-	-	-	-	-	-		
494	SH20	L-2	II層	砂質土器	深鉢?	甕	口縁	-	-	-	-	-	-	-		波状口縁。胎土に金言母混入。
495	SH20	L-2	II層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		-
496	SH20	L-2	II層	石函	砂石	中粒砂岩	-	(9.0)	(6.5)	(3.5)	-	-	279	-		
497	SH20	L-2	II層	砂質土器	深鉢	IV-d	胴	-	-	-	-	-	-	-		-
498	SH20	L-2	II層	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-		波状口縁。
499	SH20	L-2	II層	砂質土器	甕?	甕	口縁	-	-	-	-	-	-	-		-
500	SH20	L-2	II層	砂質土器	特殊壺?	甕	注口?	-	-	-	-	-	-	-		-
501	SH20	L-2	II層	砂質土器	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.7)	(4.7)	(2.9)	-	-	37	2面に計9条の溝。		
502	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	第101回	
503	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
504	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
505	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-		波状口縁。胎土に金言母混入。
506	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-		波状口縁。胎土に金言母混入。
507	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢?	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-		-
508	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-		-
509	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	胴	-	-	-	-	-	-	-		胎土に金言母混入。
510	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	繩文線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-		-
511	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	繩文線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-		-
512	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	甕	口縁	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁。胎土に金言母混入。	
513	SH20	L-2	-	砂質土器	深鉢	甕	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
514	SH20	L-2	-	砂質土器	-	-	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	
515	SH20	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.3)	(2.2)	(1.2)	-	-	5	2面に計3条の溝。		
516	SH20	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(1.8)	(1.8)	(1.9)	-	-	5	3面に計3条の溝。		
517	SH20	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(1.8)	(1.8)	(1.9)	-	-	5	3面に計3条の溝。		
518	SH20	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.8)	(3.0)	(1.3)	-	-	12	1条の溝。石函からの転用か。		
519	SH20	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.9)	(2.1)	(1.4)	-	-	9	4面に計5条の溝。		
520	SH20	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.6)	(6.6)	(3.6)	-	-	72	4面に計11条の溝。		
521	SH20	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.2)	(4.7)	(2.6)	-	-	46	3面に計5条の溝。		
522	SH20	L-2	-	石函	磁石	中粒砂岩	-	(6.2)	(7.0)	(2.1)	-	-	148	-		
523	SH20	L-2	-	石函	磁石	中粒砂岩	-	(6.0)	(8.5)	(2.9)	-	-	216	-		
524	SH20	L-2	-	石函	砂石・石函	中粒砂岩	-	16.6	17.7	12.2	-	-	3500	-		
525	SH21	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	第102回	
526	SH21	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
527	SH21	K-2	I層	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
528	SH21	K-2	I層	石函	尹形状石函	緑色岩	-	(8.2)	(5.3)	(2.3)	-	-	145	-		
529	SH21	K-2	I層	石製品	棒状石製品	緑色岩	-	(9.5)	(6.2)	(4.1)	-	-	298	-		
530	SH21	K-2	I層	石函	磨蝕石	粗粒砂岩	-	(7.9)	(6.8)	(3.1)	-	-	280	-		
531	SH21	K-2	I層	石函	磨蝕石	粗粒砂岩	-	(7.7)	(6.0)	(3.7)	-	-	250	-		
532	SH21	K-2	I層	石函	石函	中粒砂岩	-	(12.0)	(9.5)	(4.9)	-	-	806	-		
533	SH21	K-2	I層	石函	砂石・石函	粗粒砂岩	-	(16.6)	(15.2)	(5.8)	-	-	1695	-		
534	SH21	K-2	II層	石函	磨蝕石	安山岩	-	(10.5)	(8.7)	(5.7)	-	-	789	-		
535	SH21	K-2	床面	石製品	不明	泥岩	-	(5.0)	(4.6)	(5.2)	-	-	88	-		
536	SH21	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	第103回	
537	SH21	K-2	-	砂質土器	深鉢	IV-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-		
538	SH21	K-2	-	砂質土器	深鉢	繩文線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-		-
539	SH21	K-2	-	骨製品	灰製品?	磨石	-	(2.8)	(1.2)	(0.4)	-	-	1	-		
540	SH16-20	K-2	-	土製品	円筒状土製品	泥質	-	(3.1)	(3.6)	(0.7)	-	-	2	1条の溝。平滑面あり。		
541	SH16-20	K-2	-	土製品	円筒状土製品	泥質	-	(3.3)	(3.5)	(0.7)	-	-	8	2面に計3条の溝。		
542	SH16-20	K-2	-	土製品	円筒状土製品	泥質	-	(3.1)	(2.9)	(1.0)	-	-	7	-		
543	SH16-20	K-2	-	土製品	円筒状土製品	泥質	-	(3.4)	(3.2)	(0.7)	-	-	9	-		
544	SH16-20	K-1,2	-	土製品	円筒状土製品	砂質	-	(3.4)	(3.3)	(0.7)	-	-	7	-		
545	SH16-20	K-2	-	土製品	円筒状土製品	砂質	-	(2.9)	(3.0)	(0.6)	-	-	7	-		
546	SH16-20	K-2	-	土製品	円筒状土製品	砂質	-	(3.4)	(3.3)	(0.8)	-	-	11	-		
547	SH16-20	K-2	-	石函	尹形状石函	緑色岩	-	(8.2)	(6.5)	(2.5)	-	-	171	-		
548	SH16-20	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.5)	(4.5)	(2.6)	-	-	38	4面に計7条の溝。		
549	SH16-20	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.0)	(4.7)	(1.8)	-	-	44	1条の溝。平滑面あり。		
550	SH16-20	K-1,2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.5)	(3.0)	(1.8)	-	-	19	2面に計3条の溝。		
551	SH16-20	L-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(1.8)	(3.3)	(1.9)	-	-	12	3面に計3条の溝。		
552	SH16-21	K-1,2	-	石製品	不明	泥岩	-	(2.4)	(1.5)	(1.9)	-	-	6	-		
553	SH16-21	K-1	-	石製品	石所状	泥岩	-	(3.3)	(3.2)	(0.7)	-	-	4	-		
554	SH22	K-2	I層	砂質土器	深鉢	押引文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	第105回	
555	SH22	K-1	I層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-		
556	SH22	K-1	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.3)	(3.1)	(1.3)	-	-	13	2面に計2条の溝。		
557	SH22	K-1	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(1.5)	(1.8)	(1.3)	-	-	4	2面に計3条の溝。		
558	SH22	K-1	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(2.7)	(2.8)	(2.2)	-	-	19	1条の溝。		
559	SH22	K-1	-	土製品	不明	砂質	-	(2.3)	(2.0)	(1.0)	-	-	4	-		
560	SH22	K-1	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.8)	(3.2)	(2.4)	-	-	30	1条の溝。		
561	SH22	K-1	-	石函	磨蝕石	粗粒砂岩	-	(16.5)	(6.8)	(4.2)	-	-	739	-		
562	SH22	K-1	-	石函	砂石・石函	中粒砂岩	-	(9.8)	(15.8)	(5.0)	-	-	931	-		

第104表 崩り遺跡出土遺物観察表(8)

用器 番号	遺構名	出土区	層位	分類 L1	分類 L2	分類 L3	部位	計測値 (cm)			文様・彫刻		重量 (g)	備考	埋没No.	
								口径 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	(外)	(内)				
563	SH23	K・L-1	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
564	SH23	K・L-1	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
565	SH23	K・L-1	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
566	SH23	K・L-1	1層	砂質土器	-	縄文様文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
567	SH23	K・L-1	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
568	SH23	K・L-1	1層	砂質土器	蓋?	甕	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
569	SH23	K・L-1	1層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-
570	SH23	K・L-1	1層	石器	有溝砥石	中粒砂研	-	(4.0)	(3.6)	(4.3)	-	-	-	55	4面に計6条の溝。	-
571	SH23	K・L-1	2層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
572	SH23	K・L-1	2層	砂質土器	深鉢	IV-d	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
573	SH23	K・L-1	2層	石器	磨削石片	緑色岩	-	(7.9)	(5.8)	(2.7)	-	-	-	132	基部のみ、 波状口縁。	-
574	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
575	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
576	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
577	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
578	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
579	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
580	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
581	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
582	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
583	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
584	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
585	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
586	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-d	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
587	SH23	K・L-1	-	砂質土器	深鉢	IV-d	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
588	SH23	K・L-1	-	砂質土器	-	縄文様文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
589	SH23	K・L-1	-	砂質土器	-	縄文様文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
590	SH23	K・L-1	-	砂質土器	-	縄文様文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
591	SH23	L-2	-	灰質土器	不明	甕	取っ手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
592	SH23	K・L-1	-	灰質土器	片口?	甕	取っ手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
593	SH23	K・L-1	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-
594	SH23	K・L-1	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-
595	SH23	K・L-1	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-
596	SH23	K・L-1	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-
597	SH23	K・L-1	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-
598	SH23	K・L-1	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-
599	SH23	K・L-1	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-	-
600	SH23	K・L-1	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	6.0	-	-	-	-	-	-
601	SH23	K・L-1	-	石器	有溝砥石	中粒砂研	-	(3.5)	(2.1)	(2.9)	-	-	-	30	4面に計7条の溝。	-
602	SH23	K・L-1	-	石器	有溝砥石	中粒砂研	-	(4.0)	(4.4)	(2.6)	-	-	-	45	1条の溝。	-
603	SH23	K・L-1	-	石器	有溝砥石	中粒砂研	-	(3.1)	(3.0)	(12.4)	-	-	-	25	1条の溝。	-
604	SH23	K・L-1	-	石器	有溝砥石	中粒砂研	-	(3.3)	(3.6)	(2.1)	-	-	-	23	1面に計2条の溝。	-
605	SH23	K・L-1	-	石器	有溝砥石	中粒砂研	-	(2.8)	(3.0)	(3.7)	-	-	-	19	2面に計2条の溝。	-
606	SH23	K・L-1	-	石器	磨削石	粗粒砂研	-	(10.3)	(5.3)	(6.6)	-	-	-	340	-	-
607	SH23	K・L-1	-	石器	スレレバー	粗粒砂研	-	(3.8)	(6.7)	(2.2)	-	-	-	46	-	-
608	SH23	K・L-1	-	石器	磨削石	貫石	-	(6.0)	(2.6)	(6.5)	-	-	-	9	-	-
609	SH23	K・L-1	-	石器	磨削石	粗粒砂研	-	(11.4)	(8.6)	(4.6)	-	-	-	696	-	-
610	SH23	K・L-1	-	石器	磨削石	中粒砂研	-	(7.3)	(6.2)	(2.2)	-	-	-	169	-	-
611	SH23	K・L-1	-	石器	砂石	中粒砂研	-	(16.8)	(18.3)	(10.2)	-	-	-	3920	-	-
612	SH23	K・L-1	-	石器	磨石	中粒砂研	-	(11.7)	(8.0)	(6.5)	-	-	-	580	-	-
613	SH23	K・L-1	-	磨礫	-	黒色中粒砂研	-	(21.0)	(16.8)	(2.1)	-	-	-	1091	-	-
614	SH23	K1-2	1層	砂質土器	深鉢?	押引文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
615	SH23	K1-2	1層	砂質土器	深鉢?	凹線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
616	SH23	K1-2	1層	砂質土器	-	IV-d	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
617	SH23	K1-2	1層	砂質土器	深鉢?	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
618	SH23	K1-2	1層	砂質土器	深鉢?	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
619	SH23	K・L-1	1層	砂質土器	深鉢?	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
620	SH23	K1-2	1層	砂質土器	深鉢	縄文様文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
621	SH23	K1-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
622	SH23	K1-2	1層	砂質土器	深鉢	甕-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
623	SH23	K1-2	1層	石器	有溝砥石	中粒砂研	-	(2.7)	(2.8)	(1.9)	-	-	-	17	4面に計6条の溝。	-
624	SH23	K1-2	1層	石器	砥石	中粒砂研	-	(13.8)	(13.9)	(4.8)	-	-	-	1273	-	-
625	SH24	L-2	1層	砂質土器	深鉢	押引文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
626	SH24	L-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
627	SH24	L-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
628	SH24	L-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
629	SH24	L-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
630	SH24	L-2	1層	砂質土器	深鉢	縄文様文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
631	SH24	L-2	1層	砂質土器	深鉢	縄文様文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
632	SH24	L-2	1層	石器	砥石	砂山	-	(9.6)	(8.0)	(5.0)	-	-	-	486	-	-
633	SH24	L-2	1層	石器	有溝砥石	中粒砂研	-	(2.1)	(2.4)	(2.2)	-	-	-	11	1条の溝。	-
634	SH25	L-2	1層	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
635	SH25	L-2	1層	砂質土器	深鉢	縄文様文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
636	SH25	L-2	1層	砂質土器	深鉢	縄文様文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
637	SH25	L-2	1層	砂質土器	有溝砥石	中粒砂研	-	(5.3)	(8.0)	(2.7)	-	-	-	122	1面に計3条の溝。	-
638	SH25	L-2	1層	石器	円形片石	緑色岩	-	(7.8)	(7.9)	(3.3)	-	-	-	258	-	-
639	SH25	L-2	-	砂質土器	深鉢	IV-d	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-	-
640	SH25	L-2	-	砂質土器	深鉢	縄文様文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-	-
641	SH25	L-2	-	灰質土器	-	甕	取っ手	-	-	-	-	-	-	-	-	-
642	SH25	L-2	-	灰質土器	-	-	取っ手	-	-	-	-	-	-	-	-	-

第105表 崩り遺跡出土遺物観察表(9)

埋蔵 番号	遺物名	出土区	層位	分類L1	分類L2	分類L3	部位	計測値 (cm)			文様・図案		重量 (g)	備考	検出 年
								L1層 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	(外)	(内)			
643	SH25	L-2	-	砂質土器	深鉢?	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
644	SH25	L-2	-	石函	有溝底石	中粒砂質	-	(5.9)	(5.8)	(4.1)	-	-	11	3面に計3本の溝。	第111回
645	SH25	L-2	-	石函	磨盤石	中粒砂質	-	(6.2)	(11.2)	(3.9)	-	-	455	-	-
646	SH25	L-2	-	石函	磨盤石	粗粒砂質	-	(7.8)	(6.1)	(3.7)	-	-	247	-	-
647	SH25	L-2	-	石函	砂石・石皿	中粒砂質	-	(23.4)	(19.3)	(12.0)	-	-	7740	残存デンプン粒分析(KZ8-5RP11)。	第112回
648	SH25	L-2	-	石函	砂石・石皿	中粒砂質	-	(33.2)	(17.4)	(8.2)	-	-	6080	残存デンプン粒分析(KZ8-5RP10)。	-
649	SH26	K-L-2	-	砂質土器	深鉢?	Ⅱ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
650	SH26	K-L-2	-	泥質土器	壺?	Ⅲ	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
651	SH26	K-L-2	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	8.5	-	-	-	-	-
652	SH26	K-L-2	-	泥質土器	-	-	平底	-	-	8.2	-	-	-	-	-
653	SH26	K-L-2	-	石函	有溝底石	中粒砂質	-	(4.6)	(5.4)	(2.3)	-	-	63	2面に計2本の溝。	第113回
654	SH26	K-L-2	-	石函	有溝底石	中粒砂質	-	(3.1)	(3.1)	(3.2)	-	-	30	3面に計3本の溝。	-
655	SH26	K-L-2	-	石函	有溝底石	中粒砂質	-	(2.9)	(3.8)	(2.9)	-	-	29	3面に計3本の溝。	-
656	SH26	K-L-2	-	石函	磨石	粗粒砂質	-	(9.3)	(6.0)	(3.1)	-	-	193	-	-
657	SH27	K-2	1層	石函	砂石	粗粒砂質	-	(26.5)	(18.8)	(8.9)	-	-	6990	-	第114回
658	SH	-	-	砂質土器	深鉢	Ⅱ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
659	SH	L-1	-	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
660	SH	-	-	石函	磨盤石	中粒砂質	-	(9.2)	(6.7)	(3.8)	-	-	444	-	第115回
661	SH	-	-	石函	不明	コンクリェス	-	(4.7)	(2.8)	(1.7)	-	-	29	-	-
662	SK01	L-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	貝殻乗面	-	-
663	SK01	L-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	貝殻乗面	-	-
664	SK01	L-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	貝殻乗面	-	-
665	SK01	L-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	貝殻乗面	-	-
666	SK01	L-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	貝殻乗面	貝殻乗面	-
667	SK01	L-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
668	SK01	L-3	1層	石函	砂石	中粒砂質	-	(4.2)	(7.9)	(6.6)	-	-	353	-	-
669	SK01	L-3	1層	石函	磨石	中粒砂質	-	(14.0)	(8.9)	(7.9)	-	-	1280	-	-
670	SK02	L-K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
671	SK02	L-K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	貝殻乗面	貝殻乗面	-
672	SK02	L-K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
673	SK02	L-K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
674	SK02	L-K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
675	SK02	L-K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
676	SK02	L-K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
677	SK02	L-K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
678	SK02	L-K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
679	SK02	L-K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅲ-c	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
680	SK02	L-K-3	1層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
681	SK02	L-K-3	1層	石函	磨盤石	中粒砂質	-	(10.4)	(8.4)	(4.7)	-	-	797	-	-
682	SK02	L-K-3	1層	石函	砂石	中粒砂質	-	(9.0)	(8.2)	(4.7)	-	-	289	-	-
683	SK02	L-K-3	-	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	貝殻乗面	-	-
684	SK02	L-K-3	-	砂質土器	-	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
685	SK02	L-K-3	-	砂質土器	壺	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
686	SK02	L-K-3	-	砂質土器	深鉢	Ⅲ-a	口縁	-	-	-	-	-	貝殻乗面	-	-
687	SK02	L-K-3	-	砂質土器	深鉢	Ⅲ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
688	SK02	L-K-3	-	砂質土器	壺?	Ⅲ	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
689	SK02	L-K-3	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
690	SK03	K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	ナデ	貝殻乗面	-
691	SK03	K-3	1層	砂質土器	壺	Ⅱ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
692	SK03	K-3	1層	砂質土器	壺	Ⅱ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
693	SK03	K-3	1層	砂質土器	壺	Ⅱ-b	口縁	-	-	-	-	-	貝殻乗面	貝殻乗面	-
694	SK03	K-3	1層	砂質土器	壺	Ⅱ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
695	SK03	K-3	1層	砂質土器	壺	Ⅱ-b	口縁	-	-	-	-	-	貝殻乗面	-	-
696	SK03	K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
697	SK03	K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
698	SK03	K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
699	SK03	K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
700	SK03	K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
701	SK03	K-3	1層	砂質土器	壺?	口縁交差	-	-	-	-	-	-	-	-	-
702	SK03	K-3	1層	砂質土器	-	Ⅲ	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
703	SK03	K-3	1層	砂質土器	壺	Ⅲ	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
704	SK03	K-3	1層	砂質土器	深鉢	Ⅲ	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
705	SK03	K-3	1層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
706	SK03	K-3	1層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
707	SK03	K-3	1層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
708	SK03	K-3	1層	石函	磨盤石	粗粒砂質	-	(7.2)	(7.6)	(2.4)	-	-	154	-	-
709	SK03	K-3	1層	石函	砂石	中粒砂質	-	(7.4)	(10.0)	(7.3)	-	-	563	-	-
710	SK03	K-3	1層	石函	砂石	中粒砂質	-	(22.5)	(15.4)	(9.7)	-	-	4460	-	-
711	SK03	K-3	1層	石函	砂石	中粒砂質	-	(27.3)	(27.3)	(11.2)	-	-	11650	-	-
712	SK03	K-3	1層	石函	砂石	中粒砂質	-	(31.2)	(19.6)	(12.2)	-	-	10600	-	-
713	SK04	L-2	1層	砂質土器	壺?	Ⅱ-c	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
714	SK04	L-2	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
715	SK04	L-2	1層	石函	有溝底石	中粒砂質	-	(2.8)	(3.4)	(1.8)	-	-	17	1面に計1本の溝。	第120回
716	SK04	L-2	1層	石函	磨盤石	中粒砂質	-	(7.0)	(6.5)	(5.3)	-	-	349	-	-
717	SK04	L-2	1層	石函	磨石	中粒砂質	-	(10.7)	(7.3)	(5.2)	-	-	504	-	-
718	SK05	K-L-2	1層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	貝殻乗面	-	-
719	SK05	K-L-2	1層	石函	砂石	中粒砂質	-	(15.1)	(11.6)	(5.2)	-	-	1750	-	-
720	SK05	K-L-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
721	SK05	K-L-2	-	石函	有溝底石	中粒砂質	-	(2.5)	(4.8)	(2.7)	-	-	31	2面に計2本の溝。	-

第106表 崩り遺跡出土遺物観察表(10)

用器 番号	遺構名	出土区	層位	分類 L1	分類 L2	分類 L3	部位	計測値 (cm)			文様・調整		重量 (g)	備考	所属 No.
								口縁 最大径	底径 最大径	高さ 最大径	(外)	(内)			
722	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	Ⅱ-a	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
723	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
724	SK06	K-2	I層	砂質土器	深鉢	凹縁文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
725	SK06	K-2	I層	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
726	SK06	K-2	I層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.2)	(3.6)	(2.0)	-	-	28	2面に計4条の溝。	-
727	SK06	K-2	II層	砂質土器	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
728	SK06	K-2	II層	砂質土器	深鉢	Ⅳ-b	口縁	23.0	-	-	-	-	-	貝殻乗面	-
729	SK06	K-2	II層	砂質土器	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
730	SK06	K-2	II層	砂質土器	-	-	凹縁文系	胴	-	-	-	-	-	-	-
731	SK06	K-2	II層	砂質土器	-	-	凹縁文系	胴	-	-	-	-	-	-	-
732	SK06	K-2	II層	砂質土器	深鉢	縄文線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
733	SK06	K-2	II層	砂質土器	深鉢	縄文線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
734	SK06	K-2	II層	砂質土器	深鉢	Ⅳ	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
735	SK06	K-2	II層	砂質土器	深鉢?	Ⅳ	口縁?	-	-	-	-	-	-	-	-
736	SK06	K-2	II層	泥質土器	-	-	Ⅳ	胴	-	-	-	-	-	-	-
737	SK06	K-2	II層	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.9)	(3.6)	(3.5)	-	-	68	3面に計5条の溝。	-
738	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅱ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	貝殻乗面	-
739	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅲ-e	口縁	-	-	-	-	-	-	オヤ工	-
740	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	貝殻乗面	-
741	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅳ-e	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
742	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅳ-e	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
743	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
744	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
745	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金燐母混入。
746	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅳ-c	口縁	-	-	-	-	-	-	-	波状口縁。
747	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	縄文線文系	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
748	SK06	K-2	-	砂質土器	深鉢	Ⅳ	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
749	SK06	K-2	-	砂質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
750	SK06	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.9)	(6.1)	(3.3)	-	-	108	2面に計3条の溝。	-
751	SK06	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(5.2)	(6.1)	(3.5)	-	-	107	3面に計4条の溝。	-
752	SK06	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(6.6)	(11.4)	(4.9)	-	-	447	1面に計3条の溝。	-
753	SK06	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(6.2)	(7.4)	(2.1)	-	-	83	4面に計6条の溝。	-
754	SK06	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.0)	(4.2)	(3.0)	-	-	55	4面に計6条の溝。	-
755	SK06	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(6.7)	(9.0)	(4.2)	-	-	348	2面に計5条の溝。	-
756	SK06	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(7.0)	(8.0)	(3.7)	-	-	248	1面に計1条の溝。	-
757	SK06	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.4)	(4.0)	(3.0)	-	-	50	2面に計3条の溝。	-
758	SK06	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(3.2)	(5.2)	(1.6)	-	-	28	1面に計5条の溝。	-
759	SK06	K-2	-	石函	有溝磁石	中粒砂岩	-	(4.0)	(4.5)	(1.6)	-	-	28	2面に計4条の溝。	-
760	SK06	K-2	-	石函	磨盤石	中粒砂岩	-	(7.8)	(6.9)	(3.9)	-	-	336	-	-
761	SK06	K-2	-	石函	磨盤石	粗粒砂岩	-	(9.0)	(6.7)	(4.0)	-	-	413	-	-
762	SK06	K-2	-	石函	石皿	中粒砂岩	-	(12.7)	(14.7)	(5.2)	-	-	1063	-	-
763	SK07	K-3-4	I層	砂質土器	盃?	I	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
764	SK07	K-3-4	I層	砂質土器	深鉢	Ⅳ-b	口縁	-	-	-	-	-	-	オヤ工	-
765	SK07	K-3-4	I層	砂質土器	盃?	Ⅳ	口縁?	-	-	-	-	-	-	-	口縁付近に鉄粉跡あり
766	SK07	K-3-4	I層	砂質土器	深鉢	Ⅳ	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
767	SK07	K-3-4	I層	土製品	内股守土製品	砂質	-	(6.5)	(4.3)	(1.1)	-	-	32	-	-
768	SK07	K-3-4	I層	土製品	内股守土製品	砂質	-	(3.5)	(2.3)	(0.6)	-	-	7	-	-
769	SK07	K-3-4	I層	石函	円形状石函	中粒砂岩	-	(11.4)	(11.1)	(9.4)	-	-	1451	-	-
770	SK07	K-3-4	I層	石函	円形状石函	緑色岩	-	(7.7)	(5.7)	(2.0)	-	-	112	-	-
771	SK07	K-3-4	I層	石函	円形状石函	安山岩	-	(20.0)	(14.5)	(5.8)	-	-	3210	-	-
772	SK09	L-3	I層	砂質土器	深鉢	Ⅳ-d	胴	-	-	-	-	-	-	ナデ・オヤ工	胎土に金燐母混入。
773	SK09	L-3	I層	砂質土器	深鉢	Ⅳ-d	胴	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金燐母混入。
774	SK09	L-3	I層	石函	磨石	頁岩	-	(8.1)	(10.8)	(2.3)	-	-	353	-	-
775	SK10	P-18	II層	砂質土器	盃?	I	胴	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金燐母混入。
776	SK10	P-18	II層	砂質土器	盃?	I	胴	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金燐母混入。
777	SK10	P-18	II層	砂質土器	-	-	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
778	SK10	P-18	II層	石函	石皿	中粒砂岩	-	(6.5)	(7.0)	(3.3)	-	-	222	-	-
779	SK11	P-12	I層	泥質土器	-	V-b?	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
780	SK11	P-12	I層	泥質土器	盃?	-	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
781	SK11	P-12	I層	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
782	SK12	O-13	I層	泥質土器	盃	V-a'	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
783	SK12	O-13	I層	石函	円形状石函	緑色岩	-	(10.5)	(7.1)	(3.1)	-	-	280	-	-
784	SK13	Q-13	I層	泥質土器	盃?	V-a'	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
785	SK13	Q-13	I層	泥質土器	盃?	V-a'	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
786	SK13	Q-13	I層	泥質土器	深鉢	V-b'	口縁	-	-	-	-	-	-	-	ナデ・オヤ工
787	SK13	Q-13	I層	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
788	SK14	P-17	-	砂質土器	注口土器	Ⅳ	注口	-	-	-	-	-	-	-	胎土に金燐母混入。
789	SK14	P-17	-	石函	磨石	チャート	-	(4.2)	(3.8)	(2.8)	-	-	47	-	-
790	SK14	P-17	-	石函	磨盤石	粗粒砂岩	-	(8.7)	(6.6)	(3.3)	-	-	181	-	-
791	SK16	N-12	I層	泥質土器	深鉢?	Ⅳ	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
792	SK16	N-12	I層	泥質土器	盃・盃	Ⅳ	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
793	SK16	N-12	I層	泥質土器	盃?	Ⅳ	口縁	-	-	-	-	-	-	-	-
794	SK16	N-12	I層	泥質土器	-	-	平底	-	-	-	-	-	-	-	-
795	SK16	N-12	I層	石函	磨盤石	粗粒砂岩	-	(12.7)	(11.3)	(6.7)	-	-	1231	-	-
796	SK16	N-12	I層	石函	磨盤石弁	頁岩	-	(7.6)	(3.7)	(1.3)	-	-	68	-	-
797	SK16	N-12	-	泥質土器	-	-	胴	-	-	-	-	-	-	-	-
798	SK16	N-12	-	石函	磨盤石弁	緑色岩	-	(4.4)	(5.9)	(2.3)	-	-	64	-	-
799	SO01	P-Q-18	I層	石函	磨石	中粒砂岩	-	(4.3)	(3.4)	(1.6)	-	-	31	-	-
800	SO01	P-Q-18	I層	石函	磨石	中粒砂岩	-	(4.5)	(3.8)	(1.8)	-	-	39	-	-
801	SO06	M-12	I層	石函	磨盤石	斑状玄武岩	-	(3.7)	(7.5)	(2.4)	-	-	97	-	-

### 第3節 縄文時代の自然科学分析

#### (1) 崩り遺跡から出土した石器の残存デンプン粒分析

国立歴史民俗博物館 渋谷綾子

崩り遺跡出土の石器13点を対象として、残存デンプン粒の検出を試みた。結果として、4点の石器から合計8個の残存デンプン粒を検出した。それぞれの石器における検出量自体が1個から4個と非常に少ないため、これらのデンプン粒の検出をもって石器の用途を植物の加工具と提示することは非常に困難である。特に検出した残存デンプン粒のうち2個は円形で偏光十字の形状も明確に確認されたが、他の6個は分解・損傷が進んで原形を識別することができなかった。どの試料においても、植物繊維や細胞組織の微細な断片などの植物性物質は極めて少ないため、遺跡土壌からのデンプン粒の混入の可能性は低い。本結果だけでは石器の用途の判断は困難である。

後期旧石器時代の石器〔渋谷, 2011a, 2011b〕、縄文時代の石皿や磨石類の分析事例〔渋谷, 2009, 2010a, 2010b, 2012, 2013, 2014〕においても、使用痕があるにもかかわらず、残存デンプン粒が検出されなかった事例は存在する。今回の分析で残存デンプン粒が検出されなかった石器についてはこれらの事例のように、①石器製作など植物加工以外に使用された可能性、②植物加工に使用されたが、デンプン粒自体は遺存しなかった可能性、という2通りの解釈が提示でき、③出土後の整理作業を経て試料採取の時点までに付着物が失われた可能性も考えられる。

残存デンプン粒の検出量の少なから、崩り遺跡の石器の用途を残存デンプン粒の検出にもとづいて検証するという当初の目的は達せられなかったが、崩り遺跡の石器の用途を考える上で、また今後残存デンプン粒の研究を進める上で、本分析の結果は重要な事実である。そこで以下、分析試料の採取ならびに顕微鏡観察の方法を述べるとともに、検出されたデンプン粒の形態学的特徴を記すことで本分析の報告とする。

分析対象とした石器は磨石・破石6点、台石1点、石皿3点、台石・石皿3点である(第136-137図, 第107表)。台石・石皿3点のうち2点(ID648・ID647)は出土後洗浄されないまま保管されており、他はすべて水洗されていた。資料観察と分析試料の採取は世界埋蔵文化財センターで行った。この際、試料の採取時は異物の混入を避けるため、白衣の着衣や資料ごとの手洗い等、採取条件に留意した。さらに、プレパラートの作製と顕微鏡観察は国立歴史民俗博物館の第1室準備室で行った。

試料の採取では Fullagar [2006] が提案した方法を参照し、使用痕の有無にかかわらず、石器の全面から採取した。マイクロピペットにチップをはめて精製水を吸入し、採取する対

象に注入、洗浄しながら試料が16 $\mu$ m以上(複数枚のプレパラートを作製する必要)になるまで吸引した。1資料につき試料を2箇所採取した。この方法は他の石器の分析事例〔渋谷, 2010a, 2010b, 2011a, 2011b, 2012, 2013, 2014〕でも採用している。採取した試料はすべて、現生デンプン粒標本〔渋谷, 2006, 2010c〕と同じ方法でプレパラートを作製し、試料を遠心後(13000rpm・1分)、8 $\mu$ lをスライド封入剤(グリセロール・ゼラチン)8 $\mu$ lで封入し、1試料につき2枚作製した。このとき、スライドグラスやカバーガラス、スライド封入剤の汚染の有無を確認するため、試料を入れずにブランクスライドを毎回作製した。次に光学顕微鏡(Olympus BX53-33Z, 簡易偏光装置付)を用いて、接眼レンズを10倍、対物レンズを10~40倍、総合倍率100~400倍の視野条件で観察し、写真記録を行った。

顕微鏡観察の結果、ID295の磨破石2の磨面から円形のデンプン粒1個と分解デンプン粒1個、ID297の磨破石5から分解デンプン粒1個、ID326の石皿1から分解デンプン粒1個、ID647の台石・石皿3については、使用痕が確認できない部位から分解デンプン粒2個と四角形のデンプン粒1個、磨面から損傷デンプン粒1個を検出した(第108表)。磨破石2の円形のデンプン粒は長径22.75 $\mu$ m・短径22.63 $\mu$ mのほぼ正円形をなし、偏光十字(十字状の暗線)は粒子のほぼ中央で垂直に交わるが、やや幅広くなっているため、形成核(偏光十字の交差箇所、ヘソ hilum)の位置は不明瞭である(第136図)。円形のデンプン粒をもつ植物種は非常に多いため、デンプン粒の形態だけではどの植物種に該当するか判断することはできなかった。そのため、植物種については不明とする。台石・石皿3の四角形のデンプン粒(第137図:2a・2b)は、偏光十字の交差のしかたを基準として縦18.22 $\mu$ m・横18.05 $\mu$ mの丸みをおびた形であり、偏光十字は粒子の中央で垂直に交わるが、交差箇所が少くぼんでおり、不明瞭である。さらに、このデンプン粒は細胞組織に包含されている。アミロプラストと呼ばれる細胞内構造体の中や植物組織に包含された状態のデンプン粒は鱗茎・根茎類に由来する可能性があり、植物種については不明だが、このデンプン粒も鱗茎・根茎類に由来する可能性が高いデンプン粒であると指摘できる。

分解・損傷デンプン粒については、偏光十字が消失、粒子も膨張して外縁が損傷したもので、十字の暗線の幅が拡大し、形成核の位置が不明瞭なものが確認された。磨破石2と台石・石皿3からは分解デンプン粒と無傷のデンプン粒の両方が検

出されている(第108表)。デンプン粒の残留条件を考えると、これらのデンプン粒は石器での磨り潰し作業の際に植物のセルロースと部分的に損壊され、土壌での埋没中にその壊れた部位から酵素反応が進んで原形の識別ができなくなったこと、一方の無傷のデンプン粒はセルロースに、いもま守られる形で損傷を受けずに石器に残留したこと、つまり、デンプン粒が損壊した植物とそうでない植物の両方が礫石や石皿で磨り潰されたという可能性を考えることができる。

これに関連して、考古資料の分析結果と実験用石皿で磨り潰した植物のデンプン粒を比較検討した報告[Liu et al., 2013]がある。実験結果によると、加工作業中にデンプン粒が損壊する植物種と、損壊せずに無傷のままの植物種が存在するという。この結果を参照すると、磨石2については、(1)種類のみの磨り潰し、(2)2種類以上の磨り潰し(ただし、他の植物のデンプン粒は損傷した)、という2つの可能性を示しているといえる。台石・石皿3については、同じ使用痕の確認されない箇位の試料から検出された分解デンプン粒と無傷のデンプン粒はコンタミネーションの可能性がある。今回の分析では未洗浄の状態を試料を採取し、水洗後の試料を採取しなかったため、検出したデンプン粒が土壌に由来する可能性は否定できない。もしこれらが加工対象物の残滓であるならば、デンプン粒が損傷した植物と壊れなかった植物の加工に用いられた石器であると用途を提示することができるだろう。

今回検出された残存デンプン粒は検出量自体が非常に少なく、無傷のデンプン粒2個だけで石器の用途を検証することは非常に難しい。今回分析した資料以外の他の石器を分析するなど、本分析の結果とあわせてさまざまな角度から崩り遺跡の石器の用途が検討されれば、同遺跡における植物利用活動を明らかにすることができるかと考える。

本稿は2013年7月に資料調査・分析を行い、2014年3月に分析結果を報告したものである。本稿を執筆するにあたり、青森町埋蔵文化財センターの方がたをはじめ、下記の方がたに多くのご教示やご協力をいただいた。末筆ながら記して深く感謝申し上げます(敬称略)。

Sheahan Bestel, Richard Fullagar, 上條信彦,  
工藤雄一郎, 林竜馬, 植林啓介, Peter J. Matthews, 中村大,  
西田泰民, 瀬口眞司, Robin Torrence, 近江具塚研究會,  
国立歴史民俗博物館。

## 引用文献

- Fullagar, R. 2006. Starch on artifacts. *Ancient starch research* (Torrence, R. & Barton, H. eds.). 177-203. Left Coast Press, INC., Walnut Creek.
- Liu, L., Bestel, S., Shi, J., Song, Y. & Chen, X. 2013. Paleolithic human exploitation of plant foods during the last glacial maximum in North China. *Proceedings of the National Academy of Science (PNAS)* 1-6.
- 渋谷綾子. 2006. 日本の現存植物を用いた参照デンプン標本 新潟県立歴史博物館研究紀要 No. 7: 7-16.
- 渋谷綾子. 2009. 旧石器時代および縄文時代の石器残存デンプンの分析的研究. まなぶ: 吉田学記念文化財科学研究所成基金研究論文誌 No. 2: 169-201.
- 渋谷綾子. 2010a. 高山寺貝塚, 溝ノ口, 市脇, 下芳美, 丁の町・妙寺遺跡から出土した縄文時代石器の残存デンプン粒分析. 和歌山市立博物館研究紀要 No. 25: 105-117.
- 渋谷綾子. 2010b. 石器残存デンプンからみた三内丸山遺跡の植物利用の変遷. 「特別史跡三内丸山遺跡年報」13 (青森県教育庁文化財保護課三内丸山遺跡対策室編). 79-88. 青森県教育委員会, 青森.
- 渋谷綾子. 2010c. 日本列島における現生デンプン粒標本と日本考古学研究への応用—残存デンプン粒の形態分類をめざして. 植生史研究 18 (1): 13-27.
- 渋谷綾子. 2011a. 鹿児島県西多羅ヶ追遺跡から出土した石器の残存デンプン粒と後期旧石器時代前半期における遺跡内の植物利用. 広島大学総合博物館研究報告 No. 3: 73-88.
- 渋谷綾子. 2011b. 飛田給北遺跡から出土した石器の残存デンプン粒分析. 「調布市飛田給北遺跡 第9地点」(比田井民子・田中純男・杉原重夫・渋谷綾子・上條朝宏・武笠多恵子編). 東京都埋蔵文化財センター調査報告第250集. 192-203. 財団法人東京都スポーツ文化事業団・東京都埋蔵文化財センター, 多摩市.
- 渋谷綾子. 2012. 鹿児島県水迫遺跡出土石器の残存デンプン粒と縄文時代草創期・早期における植物利用. 植生史研究 21 (2): 55-66.
- 渋谷綾子. 2013. 井出上ノ原遺跡出土の石器の残存デンプン分析結果. 「井出上ノ原遺跡—2006・2007年度発掘調査—」(中央大学文学部考古学研究室編). 中央大学文学部考古学研究室調査報告書 1. 64-71. 中央大学文学部考古学研究室, 東京.
- 渋谷綾子. 2014. 縄文土器付着植物遺体と石器の残存デンプン粒分析からみた東京都下宅部遺跡の植物利用. 国立歴史民俗博物館研究報告 187: 357-386.



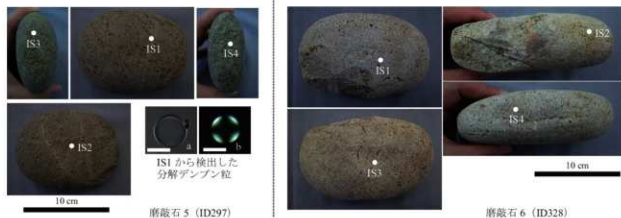
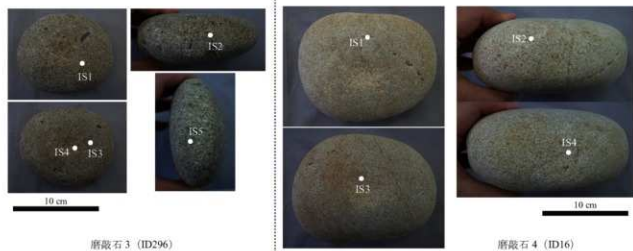
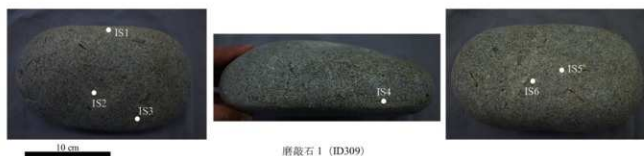
第 107 表 石器の分析試料と残存デンプン粒の検出個数  
(IS：第 1 次試料，使用痕の識別は筆者自身の観察による)

分析番号	石器	ID (実測番号)	遺構等	グリッド	層位	ドット	採取 部位	使用痕 の種類	検出個数
KZR-SRP1	磨敲石 1	309	SH-12	J-K-2	床直	197	IS1	無	0
							IS2	敲打痕	0
							IS3	磨面	0
							IS4	磨面	0
							IS5	敲打痕	0
							IS6	磨面	0
KZR-SRP2	磨敲石 2	295	SH-12	J-K-2	I	188	IS1	敲打痕	0
							IS2	磨面	0
							IS3	敲打痕	0
							IS4	敲打痕	0
							IS5	磨面	2
							IS6	敲打痕	0
KZR-SRP3	磨敲石 3	296	SH-12	J-K-2	I	189	IS1	磨面	0
							IS2	無	0
							IS3	磨面	0
							IS4	敲打痕	0
							IS5	敲打痕	0
KZR-SRP4	磨敲石 4	16	SH-01	J-2	V	62	IS1	磨面	0
							IS2	無	0
							IS3	敲打痕	0
							IS4	敲打痕	0
KZR-SRP5	磨敲石 5	297	SH-12	J-K-2	I	79	IS1	磨面	1
							IS2	敲打痕	0
							IS3	敲打痕	0
							IS4	敲打痕	0
KZR-SRP6	磨敲石 6	328	SH-13	K-2	II	95	IS1	磨面	0
							IS2	無	0
							IS3	敲打痕	0
							IS4	敲打痕	0
KZR-SRP7	台石 1	329	SH-13	K-2	II	104	IS1	磨面	0
							IS2	磨面	0
							IS3	磨面	0
							IS4	磨面	0
KZR-SRP13	石皿 1	326	SH-13	K-2	II	101	IS1	敲打痕	1
							IS2	磨面	0
							IS3	磨面	0
							IS4	磨面	0
							IS5	磨面	0
							IS6	磨面	0
KZR-SRP8	石皿 2	9	SH-01	J-2	II	60	IS1	磨面	0
							IS2	磨面	0
							IS3	磨面	0
							IS4	磨面	0
KZR-SRP9	石皿 3	17	SH-01	J-2	III	61	IS1	磨面	0
							IS2	磨面	0
							IS3	無	0
KZR-SRP12	台石・石皿 1	336	SH-13	K-2	床直	119	IS1	磨面	0
							IS2	磨面	0
							IS3	無	0
							IS4	無	0
							IS5	無	0
							IS6	無	0
KZR-SRP10	台石・石皿 2 (未洗浄)	648	SH-25	L-2	-	46	IS1	磨面	0
							IS2	磨面	0
							IS3	磨面	0
							IS4	無	0
KZR-SRP11	台石・石皿 3 (未洗浄)	647	SH-25	L-2	-	37	IS1	無	3
							IS2	磨面	0
							IS3	磨面	1
							IS4	敲打痕	0
							IS5	無	0

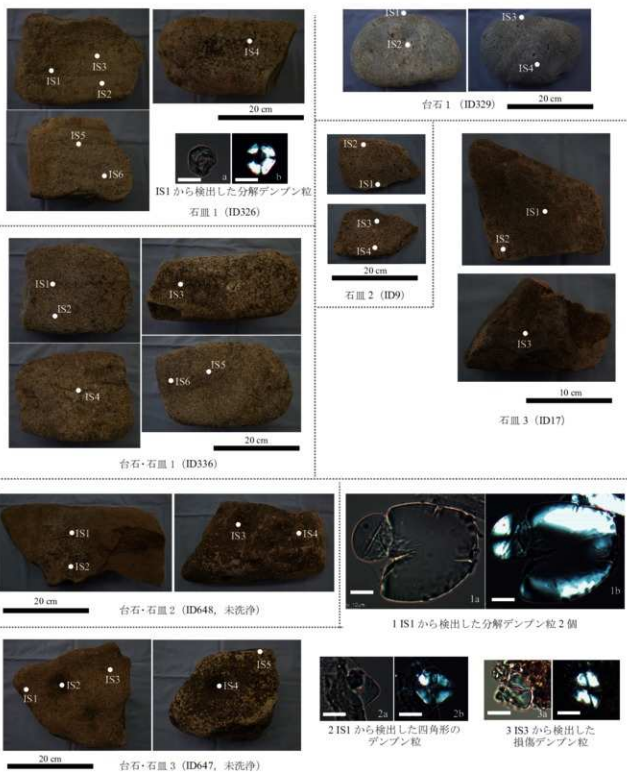
第 108 表 石器から検出した残存デンプン粒 (単位:個)

分析した 石器	円形主体			半円・三角・ 四角形			多角形			D	計
	AI	AII	AIII	BI	BII	BIII	CI	CII	CIII		
磨砕石 1											0
磨砕石 2			1							1	2
磨砕石 3											0
磨砕石 4											0
磨砕石 5										1	1
磨砕石 6											0
台石											0
石皿 1										1	1
石皿 2											0
石皿 3											0
台石・石皿 1											0
台石・石皿 2 (未洗)											0
台石・石皿 3 (未洗)						1				3	4
計	0	0	1	0	1	0	0	0	0	6	8

※ A: 円形・いびつな円形・楕円形, B: 半円形・三角形・四角形, C: 多角形, D: 分解して原形の識別が困難なもの. I: 10  $\mu$ m 未満, II: 10~20  $\mu$ m, III: 20  $\mu$ m 以上



第 136 図 分析した磨り遺跡の石器と検出された残存デンブレン粒。白丸は試料採取箇所、IS：第 1 次試料、残存デンブレン粒写真のスケールバーは 10 $\mu$ m を示す。デンブレン粒の写真はすべて 400 倍；a：開放ニコル、b：直交ニコルで撮影。



第 137 図 分析した崩り遺跡の石器と検出された残存デンプン粒。白丸は試料採取箇所、IS：第 1 次試料、残存デンプン粒写真のスケールバーは 10 $\mu$ m を示す。デンプン粒の写真はすべて 400 倍。a：開放ニコル、b：直交ニコルで撮影。

## (2) 崩り遺跡出土遺物の科学分析

(公財)元興寺文化財研究所

### 1. はじめに

琥珀と思われる樹脂類遺物は第138図に示したように、細片に割れた状態で表面はかなり劣化が進み粉状化しているように見られたが、破断面は比較的透明度が高く健全な状態であると観察された。まず、この遺物が琥珀かあるいは半化石樹脂(コパール樹脂)かそれ以外のものであるかをフーリエ変換赤外分光により確認した。琥珀であることがわかれば琥珀の主な産出地から採取した地質学的標準資料(以下標準琥珀)の分析結果と比較することによって産地推定を行うことが可能となる。そこで今回、フーリエ変換赤外分光、熱分析によりこれらの資料の科学分析を行ったのでその結果を報告する。

さらに、24年度に分析した川寺遺跡出土遺物<sup>1)</sup>、25年度に分析した川尻遺跡出土遺物、26年度に分析した川寺・中増遺跡出土遺物さらに27年度に分析した上才遺跡出土遺物とも比較した。



第138図 分析資料

### 2. 分析試料

分析試料は小破片から比較的健全であると見られる部分を採取し分析に用いた。

同様に標準琥珀として、久慈市、いわき市、鏡子市、瑞浪市から産出した資料から分析試料を採取し、同様の条件・方法で分析し、結果を比較した。さらに近年採取・分析された標準資料(奈良町、高粱市、三次市産)についても同様に比較した<sup>2)</sup>。

### 3. 分析方法および条件

分析装置は全反射フーリエ変換赤外分光(以下ATR-FTIR)光度計(SENSIR TECHNOLOGIES製

TravelIR)と熱分析(以下TGA・DTA)装置(株式会社製作所製DTG-60)を使用した。

ATR-FTIRでは、試料に赤外線を照射することにより得られる分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物の種類を同定することができる。主に有機物の分子構造を解析する手段として用いられることが多く、琥珀を形成する樹脂の種類すなわち植物の種類によって分子構造が異なると考えられる。そのため、産地によってスペクトルに差が生じ、それを利用して産地推定に応用されてきた<sup>3)4)</sup>。

TGA・DTAは試料を加熱し、得られる質量変化から酸化や熱分解などの現象を知ることができる熱量測定(TGA)と、試料の融解などの状態の変化や化学反応の温度を知ることができる示差熱分析(DTA)があり、これらから試料の熱に対する挙動を調べることができる。

ATR-FTIR測定は破片から極微量(約0.1~0.3mg)の試料を採取しそのまま測定部に置き、検出器にDLATGSを用い、分解能 $4\text{cm}^{-1}$ で測定した。また、TGA・DTAは試料の破片(約1mg)をアルミニウムセルに入れ、200ml/分の流量の窒素ガスを流しながら $10^\circ\text{C}/\text{分}$ で昇温させ、その時の重量変化と熱量変化を測定した。

### 4. 結果および考察

ATR-FTIRとTGA・DTAは有機化合物の分子構造を反映するため、劣化によりその構造が変化すると、本来のスペクトルや挙動とは異なる結果となる場合がある。特に劣化が激しいと、ATR-FTIRでは全体的に吸収はブロードとなり特徴的な吸収が消失し、新たに異なった位置にピークが表れることがある。また、TGA・DTAは低温から重量減少が始まり、分解温度も低温化する。そのため琥珀であるかどうかの判断および産地推定は、できるだけ健全な部分を選んで分析を行った。

その結果、ATR-FTIRによる2回の分析でいずれもほぼ同じ位置に吸収ピークを示し、スペクトルの $3500\sim 2800\text{cm}^{-1}$ 、 $1500\sim 800\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収位置や強度より琥珀やコパール樹脂のような樹脂類の有機物であることが確認できた(第139図)。なお、今回もできるだけ健全な部分から試料を採取して分析を実施したが $3500\text{cm}^{-1}$ および $1000\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収が強いことと、 $1700\text{cm}^{-1}$ 付近の吸収がブロードであることなどから劣

化が進行している可能性が高いと思われた。次に指紋領域と呼ばれる有機化合物を同定する際の目安となる  $1300\sim 750\text{cm}^{-1}$  付近のスペクトルの吸収位置および強度と、産地の判別している標準琥珀から得られたスペクトルと比較し、産地推定を試みた(第139・140・141図)。本資料は劣化の影響であると推測しているが、指紋領域内の  $1000\text{cm}^{-1}$  付近の吸収強度が増加し、産地を判断するための目安となる吸収の一部が隠れてしまい確認できなかった。しかし、国内の主産地である久慈市、いわき市、銚子市、瑞浪市、また近年確認された奈義町、高梁市、三次市産のスペクトルと比較した結果、 $1250\sim 850\text{cm}^{-1}$  付近の吸収位置と強度が瑞浪市、奈義町、高梁市、三次市と比較的に近いスペクトルであることがわかった。さらに近隣に位置する川寺遺跡、川尻遺跡、中増遺跡、上才遺跡と比較した結果、ほぼ近似したスペクトルが得られ、これら全ての遺物は同一の分子構造を持つものであると推測された(第141図)。以上の結果と、これまで発表された文献を参考し、外国産、および国内産の分析結果もあわせて検討したが瑞浪市、奈義町、高梁市、三次市産以外のスペクトルと近似する結果は確認できなかった。今回報告した瑞浪市産を含め奈義町、高梁市、三次市産と同様の分子構造を持つと推定される琥珀は同じ地質年代の地層中に存在し、由来する植物が同じであると考えられる。この地層は国内の各地で確認され、まだ琥珀が発見されていない産地や現在では消滅し確認できない産地の存在も考えられ、今回分析した産地のいずれの産地であるかを特定できなかった。

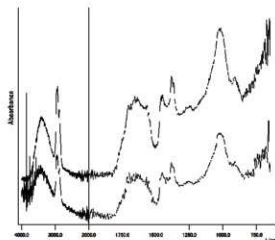
次に、TGA・DTAの結果は標準琥珀と比較した結果、久慈市・いわき市・銚子市産の琥珀より低い温度で分解し、半化石樹脂(コパール樹脂)の分解温度や挙動に類似していることがわかった(第142・143図)。また、この結果はATR-FTIRと同様に瑞浪市、奈義町、高梁市、三次市産琥珀および喜界町内の遺跡出土遺物と非常に良く似たものであった(第144・145図)。これらの地域の地層は全て前・中紀中新世に属し、年代的にはかなり新しいため、高分子化が進んでいないコパール樹脂とよく似た性質を持つと考えられる。また、これらの琥珀は有機溶媒(アセトン、エタノールなど)にほぼ溶解し、性質から分類するとコパールに近いと考えられるが、国内では琥珀と認識されており、出土品では古墳時代の琥珀製品が瑞浪産であるとの分析結果も報告されている<sup>9)</sup>。以上の結果よりこれら喜界町内の5遺跡出土遺物の分子構造は同じである可能性が高いと考えられた。

以上、ATR-FTIR、TGA・DTAの結果より今回の分析対象遺物は、現時点では瑞浪市、奈義町、高梁市、三次市産と同じ分子構造をもつと推定した。ただ、これまで瑞浪市以外の産地の報告例がなく産地推定は瑞浪市産の琥珀と同じ分子構造を持つと報告してきたが、今後は瑞浪市も含め同じ地質時代に含まれる琥珀であれば同様の結果が得られる可能性が高く、それらの中のいずれの産地であるかを特定することは非常に難しくなったと考えられる。

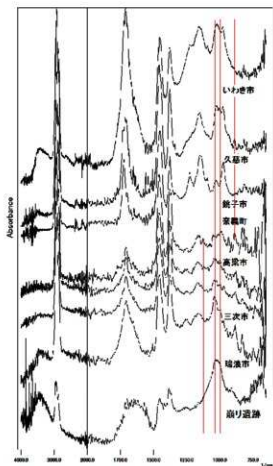
## 5. さいごに

出土琥珀は劣化状態が様々でそれによってATR-FTIRやTGA・DTAによる分析結果が異なることがある。今回の分析資料は劣化が進行しておりATR-FTIRでは吸収位置や強度が幾分異なった結果となったが、TGA・DTAの結果と合わせて瑞浪市、奈義町、高梁市、三次市産琥珀と同じ分子構造を持つ可能性が高いことが確認できた。これまで分析した喜界町内出土遺物は全て同じ分子構造を持つと推定でき、今回報告した産地のいずれか、あるいはこれらと同じ年代の琥珀が含まれる地層が存在する地域が産地である可能性が高い結果となった。

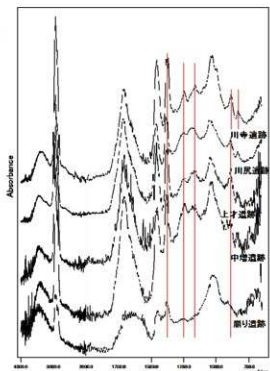
主産地の標準琥珀については様々な分析方法による多くの基礎データが揃っており、比較検討できる環境は整ってきた。一方、少量産地は科学分析がほとんど行なわれていないことも多く、今回の資料もそういった地域やまだ発見されていない琥珀産地、あるいはすでに消滅した産地である可能性は否定できない。今後、分析が実施されていない産地の琥珀については基礎データを収集し、さらにこれまでに行ってきた分析方法以外に新たな方法も導入することで産地の特定に繋げていきたい。



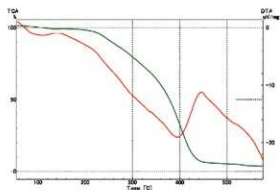
第139図 分析対象遺物の赤外吸収スペクトル



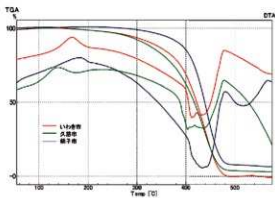
第 140 図 標準琥珀と分析対象遺物の赤外吸収スペクトル



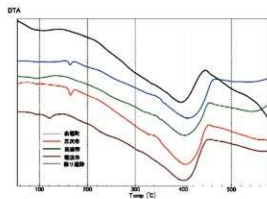
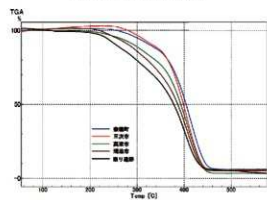
第 141 図 喜界町出土遺物の赤外吸収スペクトル



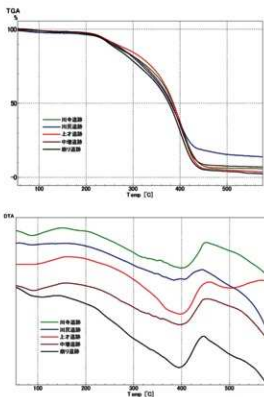
第 142 図 分析対象遺物の熱分析



第 143 図 標準琥珀の熱分析



第 144 図 標準琥珀と分析対象遺物の熱分析  
(上:TGA 下:DTA)



第145図 喜界町内遺跡出土遺物の熱分析  
(上:TGA 下:DTA)

#### 参考文献

- 1) 植田直見、渡邊綾子、澄田直敏、日本文化財科学会第31回大会講演要旨集、214(2014)
- 2) 水村直人、植田直見、青谷上寺地遺跡出土の琥珀、青谷上寺地遺跡出土調査報告書 11 石器(2)、170(2016)
- 3) 室賀照子、赤外吸収スペクトルによる琥珀の産地分析、考古学と自然科学、第9号、59(1976)
- 4) 植田直見、鏡子産琥珀の赤外分光分析、こはく、第4号、15(2002)
- 5) 植田直見、いわき地方産琥珀の科学分析、こはく、第5号、13(2004)
- 6) 室賀照子、奈良県曽我遺跡および御坊山古墳出土琥珀の産地同定(第1報)、研究紀要、由良大和古代文化研究協会、第1集、111(1988)

(文責) 植田直見



### (3)放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ

伊藤 茂・安昭炫・佐藤正教・廣田正史・山形秀樹

小林紘一・Zaur Lomtadize・小林克也

#### 1. はじめに

鹿児島県大島郡喜界町の手久津久集落付近に位置する、崩り遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法 (AMS 法) による放射性炭素年代測定を行った。なお、同一試料を用いて樹種同定が行われている (樹種同定の項参照)。

#### 2. 試料と方法

試料は、J・K-2 区の SH12 から 1 点 (サンプル①: PLD-29671)、K-2 区の SH14 から 1 点、(サンプル②: PLD-29672)、K-2 区の SH05 から 1 点 (サンプル③: PLD-29673)、P-18 区の SK10 から 1 点 (サンプル④: PLD-29674) の、計 4 点の出土炭化材である。いずれの試料でも、最終形成年輪は残っていないかった。時期については、SH12、SH14、SH05 は縄文時代後期頃と考えられ、SK10 は縄文時代後期～晩期頃と考えられている。測定試料の情報、調製データは第 109 表のとおりである。

試料は調製後、加速器質量分析計 (パレオ・ラボ、コンパクト AMS:NEC 製 1.5SDH) を用いて測定した。得られた  $^{14}\text{C}$  濃度について同位体分別効果の補正を行った後、 $^{14}\text{C}$  年代、暦年代を算出した。

#### 3. 結果

第 110 表に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比 ( $\delta^{13}\text{C}$ )、同位体分別効果の補正を行って

暦年較正に用いた年代値と較正によって得られた年代範囲、慣用に従って年代値と誤差を丸めて表示した  $^{14}\text{C}$  年代を、第 146 図に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は下 1 桁を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}\text{C}$  年代は AD1950 年を基点にして何年前かを示した年代である。 $^{14}\text{C}$  年代 (yrBP) の算出には、 $^{14}\text{C}$  の半減期として Libby の半減期 5568 年を使用した。また、付記した  $^{14}\text{C}$  年代誤差 ( $\pm 1\sigma$ ) は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の  $^{14}\text{C}$  年代がその  $^{14}\text{C}$  年代誤差内に入る確率が 68.2%であることを示す。

なお、暦年較正の詳細は以下のとおりである。

暦年較正とは、大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された  $^{14}\text{C}$  年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度の変動、および半減期の違い ( $^{14}\text{C}$  の半減期 5730  $\pm$  40 年) を較正して、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}\text{C}$  年代の暦年較正には OxCal 4.2 (較正曲線データ: IntCal13) を使用した。なお、 $1\sigma$  暦年代範囲は、OxCal の確率法を使用して算出された  $^{14}\text{C}$  年代誤差に相当する 68.2% 信頼限界の暦年代範囲であり、同様に  $2\sigma$  暦年代範囲は 95.4% 信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年

第 109 表 測定試料および処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理
PLD-29671	調査区: J・K-2 区 遺構: SH12 層位: 床面 試料 No.: サンプル①	種類: 炭化材 (ツツジ属) 試料の性状: 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-29672	調査区: K-2 区 遺構: SH14 層位: 床面 試料 No.: サンプル② その他: ドット No.74	種類: 炭化材 (イスノキ) 試料の性状: 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-29673	調査区: K-2 区 遺構: SH05 層位: VII 層 試料 No.: サンプル③ その他: ドット No.201	種類: 炭化材 (ツツジ属) 試料の性状: 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)
PLD-29674	調査区: P-18 区 遺構: SK10 層位: III 層 試料 No.: サンプル④	種類: 炭化材 (クスノキ科) 試料の性状: 部位不明 状態: dry	超音波洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸: 1.2N, 水酸化ナトリウム: 1.0N, 塩酸: 1.2N)

代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年校正曲線を示す。

#### 4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正および暦年校正を行った。なお、暦年代と縄文土器との対応については、小林(2008)、工藤(2012)、前迫(2008)、水之江(2008)を参照した。

SH12のサンプル①(PLD-29671)は、<sup>14</sup>C年代が3565±20 <sup>14</sup>C BP、2σ暦年代範囲(確率95.4%)が2011-2000 cal BC(1.4%)、1977-1877 cal BC(90.8%)、1840-1826 cal BC(2.3%)、1792-1785 cal BC(0.9%)であった。またSH14のサンプル②(PLD-29672)は、<sup>14</sup>C年代が3535±20 <sup>14</sup>C BP、2σ暦年代範囲が1937-1864 cal BC(50.7%)および1850-1773 cal BC(44.7%)であった。これは、縄文時代後期前葉～中葉に相当する。SH12、SH13は縄文時代後期と考えられており、測定結果と整合的であった。

SH05の試料No.3(PLD-29673)は、<sup>14</sup>C年代が3940±20 <sup>14</sup>C BP、2σ暦年代範囲が2557-2537 cal BC(2.7%)および2491-2343 cal BC(92.7%)であった。これらは、縄文時代後期初頭に相当する。SH05は縄文時代後期と考えられており、測定結果と整合的であった。

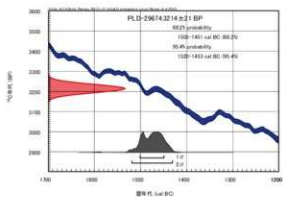
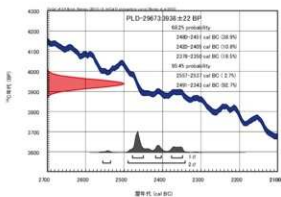
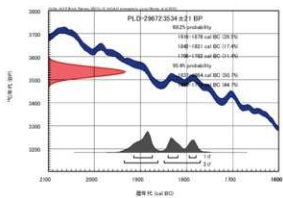
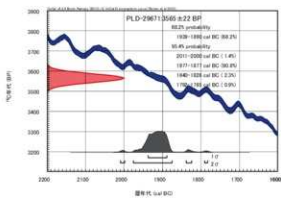
SK10の試料No.4(PLD-29674)は、<sup>14</sup>C年代が3215±20 <sup>14</sup>C BP、2σ暦年代範囲が1520-1433 cal BC(95.4%)であった。これは、縄文時代後期後葉に相当する。SK10は縄文時代後期～晩期以前と考えられていたが、測定によって縄文時代後期後葉であると、時期の絞り込みができた。

#### 参考文献

- Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. *Radiocarbon*, 51(1), 337-360.
- 工藤雄一郎(2012) 旧石器・縄文時代の環境文化史. 373p, 新泉社.
- 小林謙一(2008) 縄文時代の暦年代. 小杉 康・谷口康浩・西田泰民・水ノ江和同・矢野健一編「縄文時代の考古学2 歴史のものさし」: 257-269, 同成社.
- 前迫亮一(2008) 市来式土器. 小林達雄編「総覧 縄文土器」: 674-681, アム・プロモーション.
- 水之江和同(2008) 九州磨消縄文系土器. 小林達雄編「総覧 縄文土器」: 666-673, アム・プロモーション.
- 中村俊夫(2000) 放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の<sup>14</sup>C年代編集委員会編「日本先史時代の<sup>14</sup>C年代」: 3-20, 日本第四紀学会.
- Reimer, P. J., Bard, E., Bayliss, A., Beck, J. W., Blackwell, P. G., Bronk Ramsey, C., Buck, C. E., Cheng, H., Edwards, R. L., Friedrich, M., Grootes, P. M., Guilderson, T. P., Hafflidason, H., Hajdas, I., Hatte, C., Heaton, T. J., Hoffmann, D. L., Hogg, A. G., Hughen, K. A., Kaiser, K. F., Kromer, B., Manning, S. W., Niu, M., Reimer, R. W., Richards, D. A., Scott, E. M., Southon, J. R., Staff, R. A., Turney, C. S. M., and van der Plicht, J. (2013) IntCal13 and Marine13 Radiocarbon Age Calibration Curves 0-50,000 Years cal BP. *Radiocarbon*, 55(4), 1869-1887.

第110表 放射性炭素年代測定および暦年校正の結果

測定番号	δ <sup>14</sup> C (‰)	暦年校正用年代 (yrBP ± 1σ)	<sup>14</sup> C年代 (yrBP ± 1σ)	<sup>14</sup> C年代を暦年代に校正した年代範囲	
				1σ暦年代範囲	2σ暦年代範囲
PLD-29671 SH12 サンプル①	-26.65 ± 0.17	3565 ± 22	3565 ± 20	1939-1890 cal BC (68.2%)	2011-2000 cal BC (1.4%) 1977-1877 cal BC (90.8%) 1840-1826 cal BC (2.3%) 1792-1785 cal BC (0.9%)
PLD-29672 SH14 サンプル②	-26.70 ± 0.16	3534 ± 21	3535 ± 20	1916-1876 cal BC (39.5%) 1842-1821 cal BC (17.4%) 1796-1782 cal BC (11.4%)	1937-1864 cal BC (50.7%) 1850-1773 cal BC (44.7%)
PLD-29673 SH05 サンプル③	-27.01 ± 0.19	3938 ± 22	3940 ± 20	2480-2451 cal BC (38.9%) 2420-2405 cal BC (10.8%) 2378-2350 cal BC (18.5%)	2557-2537 cal BC (2.7%) 2491-2343 cal BC (92.7%)
PLD-29674 SK10 サンプル④	-27.58 ± 0.19	3214 ± 21	3215 ± 20	1503-1451 cal BC (68.2%)	1520-1433 cal BC (95.4%)



第 146 圖 曆年校正結果

## 崩り遺跡出土炭化材の樹種同定

小林克也 (パレオ・ラボ)

### 1. はじめに

喜界島西南部の河岸段丘上に立地する崩り遺跡から出土した炭化材の樹種同定を行った。なお、同一試料を用いて放射性炭素年代測定が行われている(放射性炭素年代測定の項参照)。

### 2. 試料と方法

試料は、J・K-2区のSH12(サンプル①)、K-2区のSH14(サンプル②)とSH05(サンプル③)、P-18区の土坑であるSK10(サンプル④)から出土した炭化材計4点である。時期については、サンプル③は縄文時代後期初頭、サンプル①と②は縄文時代後期前葉～中葉、サンプル④は縄文時代後期後葉であった。

炭化材の樹種同定では、まず試料を乾燥させ、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柀目)について、カミソリと手で割断面を作製し、整形して試料台にカーボンテープで固定した。その後イオンスパックにて金蒸着を施し、走査型電子顕微鏡(日本電子(株)製 JSM-5900LV)にて検鏡および写真撮影を行なった。

### 3. 結果

同定の結果、広葉樹のツツジ属が2点、クスノキ科とイソノキが各1点みられた。同定結果を表1に示す。

次に、同定された材の特徴を記載し、第147図に走査型電子顕微鏡写真を示す。

#### (1)クスノキ科 *Lauraceae* 第147図 1a-1c(No.4)

小型の道管が単独ないし2～3個複合し、やや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は周周状となる。道管は単穿孔を有する。放射組織は同径で、1～2列となる。木部組織については、油細胞が認められる。

クスノキ科にはニッケイ属やタブノキ属、クロモジ属などがあり、暖帯を中心に分布する。主に常緑性の高木または低木である。

#### (2)イソノキ *Distylium racemosum* Siebold et Zucc. マンサク科 第147図 2a-2c(No.2)

小型の道管がほぼ単独でやや密に散在する散孔材である。軸方向柔組織は1～3列程度の帯状となる。道管は単穿孔を有

する。放射組織は上下端1～3列が方形ないし立方となる異径で、1～2列となる。放射組織の単列部と多列部は、同じ大きさになる。

イソノキは本州の東海や南近畿、山陽の本州南部、四国、九州などの温帯中南部に分布する、常緑高木の広葉樹である。材は非常に重硬で強度が大きく、切削加工等が困難で割れにくい。

#### (3)ツツジ属 *Rhododendron* ツツジ科 第147図 3a-3c(No.1)

小型の道管がほぼ単独で密に散在する散孔材である。道管は10～20段程度の階段穿孔孔となり、内腔にはらせん肥厚がみられる。放射組織は上下端1～4列が直立する異径で、幅1～5列となる。単列の放射組織は、レンズ状になる。

ツツジ属にはヤマツツジやサツキなどがあり、代表的なヤマツツジは北海道南部、本州、四国、九州に生育する、高さ1～5mになる半落葉低木の広葉樹である。材は堅くて緻密で、ねばり強い。

### 4. 考察

SH12の炭化材とSH05の炭化材は、共にツツジ属であった。またSH14の炭化材は、イソノキであった。いずれも焼けた建築材や燃料材の残渣であったと考えられるが、詳細は不明である。イソノキとツツジ属は、ともに堅硬な樹種であるが、燃料材としては顕著には利用されていない(伊東<sup>1)</sup>、2011)。堅硬な樹種を伐採利用していたと考えられる。

土坑であるSK10の用途不明の炭化材は、クスノキ科であった。クスノキ科は軽軟～やや硬、材質の幅が広い樹種であるが、現在でも器具材や建築材のほか、薪炭材としても利用される樹種である(平井, 1996)。

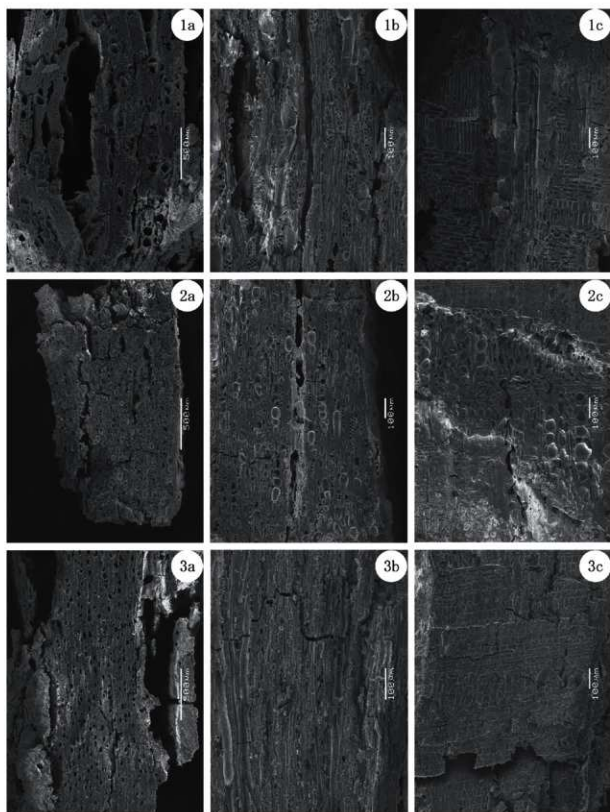
またクスノキ科とイソノキ、ツツジ属は、いずれも遺跡周辺に普遍的に生育する樹種である(平井, 1996)。よってこれらの樹種は、遺跡周辺に生育していた樹種を伐採利用していた可能性が考えられる。

#### 引用・参考文献

平井信二(1996)木の百科科一解説編一。642p, 朝倉書店。  
伊東隆夫・佐野三三・安部 久・内海泰弘・山口和穂(2011)日本有用樹木誌, 238p, 海青社。

第111表 出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料 No.	取上 No.	地区	遺構	層位	樹種	木取り	年代測定番号
サンプル①	-	J・K-2区	SH12	床面	ツツジ属	割れ	PLD-29671
サンプル②	74	K-2区	SH14	床面	イソノキ	割れ	PLD-29672
サンプル③	201	K-2区	SH05	Ⅴ層	ツツジ属	割れ	PLD-29673
サンプル④	-	P-18区	SK10	Ⅲ層	クスノキ科	割れ	PLD-29674



第147図 崩り遺跡出土炭化材の走査型電子顕微鏡写真

1a-1c. クスノキ科 (No. 4)、2a-2c. イスノキ (No. 2)、3a-3c. ツツジ属 (No. 1)

a: 横断面、b: 接線断面、c: 放射断面

